# 宮崎学園短期大学

# シラバス 2024



# 宮崎学園短期大学　シラバス2024　目次


## １．ディプロマポリシー　　ページ

（１）　全学DP　1
（２）　保育科DP　2
（３）　現代ビジネス科DP　3

## ２．学科DP～科目対応表

（１）　保育科　4
（２）　現代ビジネス科　5

## ３．シラバス

（１）一般教育科目

か　化学　7
き　キャリアガイダンスⅠ　8
き　キャリアガイダンスⅡ　9
き　教育学Ⅰ　10
け　健康の科学　11
こ　コミュニケーション英語Ⅰａ＜現代ビジネス科＞　12
こ　コミュニケーション英語Ⅰａ＜保育科＞　13
こ　コミュニケーション英語Ⅰｂ＜現代ビジネス科＞　14
こ　コミュニケーション英語Ⅰｂ＜保育科＞　15
し　自然災害と防災　16
し　社会心理学　18
し　障がいと社会　19
じ　情報処理概論Ⅰ　21
じ　情報処理概論Ⅱ　24
じ　情報処理概論A　26
じ　情報処理概論B　28
し　心理学概論　30
し　生涯学習概論　31
す　数学　32
せ　生物学　33
た　体育実技　34
に　人間の研究（勤労）　35
に　人間の研究（礼節）　37
に　日本国憲法　39
ぶ　文学　41
ま　学びのステップ　42

り　倫理学　44

（２）保育科

お　おもちゃと絵本Ⅰ　46
お　おもちゃと絵本Ⅱ　47
お　音楽鑑賞法　48
お　音楽理論　49
お　音楽療法演習　50
お　音楽療法概論　51
お　音楽療法実習　52
お　音楽療法実践　53
お　音楽療法総合演習　54
が　合唱Ⅰ　55
き　器楽Ⅰ　56
き　器楽Ⅱ　57
き　器楽Ⅲ　58
き　器楽Ⅳ　59
き　器楽活用法　60
き　教育課程論　61
き　教育原理　62
き　教育実習　64
き　教育実習前後指導　65
き　教育心理学　67
き　教育方法と技術　68
き　教職概論　70
こ　こども音楽療育演習　72
こ　こども音楽療育概論　73
こ　こども音楽療育実習　74
こ　子どもと絵本Ⅰ　75
こ　子どもと絵本Ⅱ　77
こ　子どもと環境　79
こ　子どもと健康　81
こ　子どもと言葉　83
こ　子どもと人間関係　85
こ　子どもと表現（音楽）Ⅰ　86
こ　子どもと表現（音楽）Ⅱ　87
こ　子どもと表現（造形）Ⅰ　88
こ　子どもと表現（造形）Ⅱ　89

こ　子どもの健康と安全　91
こ　子どもの食と栄養Ⅰ　92
こ　子どもの食と栄養Ⅱ　93
こ　子どもの保健　94
こ　子ども家庭支援の心理学　95
こ　子ども家庭支援論　96
こ　子ども家庭福祉　97
こ　子育て支援　98
し　社会的養護Ⅰ　99
し　社会的養護Ⅱ　100
し　社会福祉論　102
し　障がいのある子どもと保育　104
し　身体表現及び即興演奏法　106
せ　声楽　107
と　特別支援教育Ⅰ　108
と　特別支援教育Ⅱ　110
に　乳児保育Ⅰ　112
に　乳児保育Ⅱ　113
は　発達障がい児支援実習　114
ほ　保育・教職実践演習（幼稚園）　115
ほ　保育の心理学　116
ほ　保育原理　117
ほ　保育実習Ⅰa　118
ほ　保育実習Ⅰb　119
ほ　保育実習Ⅱ　120
ほ　保育実習Ⅲ　121
ほ　保育実習指導Ⅰ　122
ほ　保育実習指導Ⅱ　123
ほ　保育者論　124
ほ　保育内容「環境」の指導法　126
ほ　保育内容「健康」の指導法　127
ほ　保育内容「言葉」の指導法　129
ほ　保育内容「人間関係」の指導法　131
ほ　保育内容「表現」の指導法Ⅰ　132
ほ　保育内容「表現」の指導法Ⅱ　133
ほ　保育内容総論　135
よ　幼児教育相談　137

（3）現代ビジネス科


い　医科診療報酬請求実務Ⅰ　139
い　医科診療報酬請求実務Ⅱ　141
い　医科診療報酬請求実務Ⅲ　143
い　医科診療報酬請求論Ⅰ　145
い　医科診療報酬請求論Ⅱ　146
い　医事コンピューターⅠ　147
い　医事コンピューターⅡ　148
い　医事コンピューターⅢ　149
い　医療関係法規Ⅰ　150
い　医療関係法規Ⅱ　151
い　医療機関実習Ⅰ　152
い　医療機関実習Ⅱ　153
い　医療情報学　154
い　医療秘書学概論　155
い　医療秘書実務Ⅰ　156
い　医療秘書実務Ⅱ　157
い　医療マネジメント論　158
い　医療用語Ⅰ　159
い　医療用語Ⅱ　160
か　介護報酬請求演習　162
か　解剖生理学Ⅰ　163
か　解剖生理学Ⅱ　164
か　看護概論　165
か　患者論と医の倫理　166
き　企業実習Ⅰ　168
き　企業実習Ⅱ　169
き　企業実習Ⅲ　170
き　企業実習Ⅳ　171
き　企業実習Ⅴ　172
き　企業簿記Ⅰａ　173
き　企業簿記Ⅰｂ　174
き　企業簿記Ⅱａ　175
き　企業簿記Ⅱｂ　176
き　基礎経済　177
け　経営学総論　178
け　健康と疾病　179
げ　現代ビジネス論　180

こ　こどもと絵本Ⅰ　181
こ　こどもと絵本Ⅱ　183
こ　コミュニケーションデザイン演習Ⅰ　185
こ　コミュニケーションデザイン演習Ⅱ　186
こ　コンピュータ会計Ⅰ　187
じ　実践ビジネス演習Ⅰ　188
じ　実践ビジネス演習Ⅱ　190
じ　児童サービス論　192
じ　情報機器利用プレゼンテーション演習　194
じ　情報サービス演習Ⅰ　195
じ　情報サービス演習Ⅱ　196
じ　情報サービス論　197
じ　情報資源組織演習Ⅰ　198
じ　情報資源組織演習Ⅱ　199
じ　情報資源組織論　200
じ　情報処理演習Ⅰa　202
じ　情報処理演習Ⅰb　204
じ　情報処理演習Ⅱa　206
じ　情報処理演習Ⅱb　207
す　スタディ・スキルⅠa　208
す　スタディ・スキルⅠb　210
す　スタディ・スキルⅡa　211
だ　大学編入実践演習　212
ち　調剤報酬請求演習　213
で　デジタルマーケティング　214
と　図書・図書館史　215
と　図書館概論　216
と　図書館サービス概論　217
と　図書館実習　218
と　図書館情報技術論　219
と　図書館情報資源概論　220
と　図書館情報資源特論　221
と　図書館制度・経営論　222
に　日本語表現Ⅰ　223
は　販売学総論Ⅰ　224
は　販売学総論Ⅱ　225
び　Business　English　226
び　ビジネス実務演習Ⅰa　227

び　ビジネス実務演習Ⅰb　228
び　ビジネス実務演習Ⅱa　229
び　ビジネス実務演習Ⅱb　230
び　ビジネス実務総論Ⅰ　231
び　ビジネス実務総論Ⅱ　232
ひ　秘書学概論　233
ひ　秘書実務演習Ⅰ　234
ひ　秘書実務演習Ⅱ　235
ふ　ファイナンシャル・プランナー総論Ⅰ　236
ふ　ファイナンシャル・プランナー総論Ⅱ　237
ぷ　プレゼンテーション演習　239
ぷ　プレゼンテーション概論　240
ぶ　文章表現方法論　241
ま　マーケティング　242
め　メディカル・コミュニケーション論　243
め　メディカルヒューマンリソース　244
め　面接実践演習　246
り　臨床検査学　247
り　臨床薬理学　248

（3）専攻科福祉専攻
い　医療的ケア　249
い　医療的ケア児と保育　251
か　介護過程演習　253
か　介護過程総論　255
か　介護実習　257
か　介護総合演習　259
か　介護福祉概論Ⅰ　261
か　介護福祉概論Ⅱ　264
か　介護福祉概論Ⅲ　268
こ　コミュニケーション技術Ⅰ　270
こ　コミュニケーション技術Ⅱ　272
し　社会制度論　274
し　障害総論　276
し　心身医学概論Ⅰ　278
し　心身医学概論Ⅱ　280
せ　生活支援技術　282
せ　生活支援総論　284

に　日常生活支援技術Ⅰ　286
に　日常生活支援技術Ⅱ　288
に　日常生活支援技術Ⅲ　291
に　認知症総論Ⅰ　294
に　認知症総論Ⅱ　296
は　発達老化総論　298

# 宮崎学園短期大学【全学DP】

## Ⅰ　自他を大切にし、礼儀正しく行動できる。（礼節、人間尊重の精神）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| a 勉学に励む学生としてふさわしい服装や持ち物等を身に付けることができる。 | b 心のこもった挨拶や礼儀正しい言葉、敬語等、相手を尊重した言葉遣いができる。 | c 時・場・目的等を踏まえ他者への配慮ある立ち居振る舞いができる。 | d 道徳的な行動が、自律的・自発的にできる。 | e　自他の人権や命を尊重することができる。 |

## Ⅱ　自己と環境をより良くできる。（勤労、問題解決力）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| a 自分から進んで行動できる。 | b 成果を上げるためにコツコツ努力を重ねている。 | c 自分の責任を自覚して、改善・向上への意欲を持っている。 | d 自己を振り返り、改善すべき点を見出すようにしている。 | e 目標を立て、計画的に物事を進めている。 | f 集団・社会をより良くするために行動している。 |

## Ⅲ　適切に情報を集め、しっかり考え、それをわかりやすく説明できる。（リテラシー）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| a 分からないことを辞書などで調べるようにしている。 | b 新聞、本を読み、自分の知的向上を図っている。 | c ものごとを筋道を立てて考え、分析・総合できる。 | d 自分の意見を分かりやすく他者に伝えることができる。 | e 必要に応じてパソコンを使うことができる。 |

## Ⅳ　多様な人々とコミュニケーションをとり、協力できる。（協働力）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| a 相手の話に傾聴し、共感的に理解しようとする。 | b 積極的に他人と関わっている。 | c 相手に合わせて、自分の言いたいことを表現している。 | d 協力して仕事をすることができる。 | e リーダーシップを発揮できる。 | f 状況に応じて、報告・連絡・相談を実践している。 |

## Ⅴ　大学で学ぶ専門的知識や技能を実際場面に活用できる。（実践力）

| | | | |
|---|---|---|---|
| a 授業に参加（意欲・態度・姿勢・身なり等）している | b 授業内容（知識・技能）を理解している | c 授業以外での学習（家庭・地域）をしている | d 学習したことの応用・発展（社会生活・実習・インターンシップ等）を心がけている |

# 宮崎学園短期大学【保育科DP】

| | | レベル０（未達成） | レベル１（他律） | レベル２（自律） | レベル３（率先・貢献・探求） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ 自己の成長** | | | | | |
| | **学習習慣** | １週間の自宅での学習時間がのべ１時間以下 | 指示された課題９割以上を期限内に提出しているが、わからないところの解決に至っていない | 課題はすべて期限内に提出し、わからないことは自分で調べるように習慣づけている | 授業内容を超えて、様々な事柄に興味を持ち、探求している |
| | **基礎学力** | 宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点取得が３科目未満 | 宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点を３科目以上取得 | 宮短基礎力向上ドリル（スタンダード）実力テスト100点を３科目以上取得 | 宮短基礎力向上ドリル（ベーシック・スタンダード）全科目100点 |
| | **自己理解** | 自己分析したことがなく、自分の長所・短所をわかっていない | 他者からの評価によって自分の長所・短所を把握している | 様々な視点から、自身の長所・短所を把握している | 自分の強みを伸ばし・弱みを補うことができるよう心がけている |
| | **教養** | 自分の好きなことだけしか興味がない | 自分の知識・能力不足は自覚しているので、授業は好き嫌いなく勉強しようとしている | 自身の教養を深めるために、授業以外も興味を広げ読書などに取り組んでいる | 多角的な視点で物事を考えることができる |
| | **社会変化への対応** | 社会で何が起こっているかよく知らない | 社会の変化について、授業で学んだ範囲は知っている | 持続可能な社会にするためには何をすべきか関心を持ち、自ら調べている | すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くためにすべきことを取り組んでいる |
| | **セルフマネジメント** | 自分を振り返ることがなく、自己の課題について考えていない | 自己の課題がわかってはいるが、どうしてよいかわからない | 自己の課題や目標について、具体的にその対応方法を考え、実践している | 自己の課題や目標への取り組みに対し、振り返りを行い、改善策を検討している |
| **Ⅱ 保育者の専門性** | | | | | |
| **①保育の基礎的理解** | | | | | |
| | **保育者の使命** | 目指す保育者像について考えたことがない | 全国保育士会倫理綱領の内容を説明することができる | 全国保育士倫理綱領に則った保育者として求められる行動を説明することができる | 目指す保育者像を学内外で探求することができる |
| | **保育制度の理解** | 子どもを育てる様々な社会の仕組みについてよく知らない | 子どもや保護者をはじめ、子どもの健全な成長に関わる様々な問題について説明できる | 社会全体で子どもを育てるための様々な施設・制度・資源について説明できる | 社会のニーズに対応した福祉を目指し、必要な支援を考えることができる |
| | **指針、要領、教育・保育要領の理解** | 指針、要領、教育・保育要領を読んだことはない | 指針、要領、教育・保育要領を読み、概要を説明することができる | 指針、要領、教育・保育要領を踏まえた、具体的な保育について説明することができる | 指針、要領、教育・保育要領を踏まえ、実際の保育の課題を指摘できる |
| | **子ども理解** | 子どもの成長発達について理解していない | 子どもの発達や特性について、理解している | 子どもの成長発達段階に応じた支援（保育活動）を考えることができる | 子どもの成長発達段階を踏まえ、子ども一人ひとりに寄り添った支援ができる |
| | **特別な配慮を必要とする子どもの保育の理解** | 特別に配慮を必要とする子どもの特徴や支援方法を知らない | 具体的な場面での配慮や支援はできないが、発達障がいを含めた障がいの知識がある。 | 特別な配慮を必要とする子どもの、基本的な知識をもち、実習場面で配慮や支援ができる。 | 新しい情報を探りながら、特別な配慮が必要な子どもへ、実態に応じた必要な配慮や支援ができる。 |
| **②保育の基礎的実践力** | | | | | |
| | **子どもの健康への配慮** | 子どもの発育発達や健康状態についての知識がなく、保健活動の意義が分らない。 | 子どもからの訴えや不機嫌な状態が続くことで、はじめて体調の変化に気付くことができる。 | 子どもの健康状態を観察することで体調の変化に気付き、適切に対処し、報告することができる。 | 子どもの健康状態を観察することで体調変化へ適切に対処し、職員と協力して集団への健康管理ができる。 |
| | **安全な環境と事故防止** | 園庭や保育室の危険箇所がわからない。 | 園庭や保育室の危険箇所を少し理解している。 | 園庭や保育室の危険箇所に気付き、安全対策を考え実践することができる。 | 園庭や保育室の危険箇所に気付き、安全対策を考え実践し、事故防止に努めることができる。 |
| | **遊びの理解** | 子どもの興味や関心、発達課題がわからない。 | 子どもの興味・関心、発達課題に気付くことができる。 | 子どもの興味・関心、発達課題に応じた遊びの計画ができる。 | 子どもの成長過程を捉え、子ども主体の遊びを展開することができる。 |
| | **子どもの気持ちへの寄り添い** | 子どもの気持ちが想像できない。 | 子どもの気持ちを想像することはできるが、それに対応することができない | 子どもの言動から気持ちを汲み取り、思いに共感したり言葉に変えたりすることができる。 | 子どもの言動から気持ちを汲み取りながら、月齢や年齢に応じた対応ができる。 |
| | **子どもの主体性を引き出す保育環境の構成** | 保育における環境の役割を説明できない。 | 環境構成に必要な人的環境・物的環境について説明できる。 | 子どもの発達の様子に合わせた環境を構成することができる。 | 子どもを主体とした関わりの中で、保育環境を構成することができる。 |
| | **保育日誌の作成** | 保育日誌の作成に、指導者の支援をかなり要する | 保育日誌の作成について、指導者の指導・助言を得ながら記述できる | 保育場面の観察･実践を通して、保育日誌を自分で作成することができる。 | 保育日誌を自分で作成し、環境構成や保育者の援助について具体的に記述することができる。 |
| | **保育計画の作成と実践** | 保育指導案の作成に、他者の支援をかなり要し、計画した保育の実践も自力では行えない | 保育指導案の作成に他者の支援を要するが、計画した保育は自力で実践することができる | 子どもの実態に即した保育を自身で作成した保育指導案をもとに実践することができる | 子どもの実態に即した保育をPDCAサイクルによって改善しつづけることができる |
| **Ⅲ 協働力** | | | | | |
| | **礼節** | 他者を尊重した、場にふさわしい言動をあまり意識せず生活している | 他者を尊重した、場にふさわしい言動を指摘されることがある | 他者を尊重した、場にふさわしい言動を自ら心がけ、実践している | 他者を尊重した、場にふさわしい言動を率先して行い他者の模範となることができる |
| | **コミュニケーション** | 人と話すことが苦手で、人とコミュニケーションをとろうとしない | 自分の考えや意見を相手に伝えることができる | 相手の考え・意見をくみ取りながら、自分の考えを相手が理解できるように伝えることができる | みんなが納得できる建設的なコミュニケーションをとることができる |
| | **プレゼンテーションスキル** | 自分の意図を効果的に伝える方法をしらない | 人前に立ち発表することはできるが、他者の理解を考えた工夫ができていない | 多様なプレゼンテーションの手段について知識を持ち、体系的で相手にわかりやすい説明をすることができる | 他者の興味を引き、相手を説得するためのプレゼンテーションを考えることができる |
| | **ICTリテラシー** | 情報モラルについて理解しておらず、コンピュータの基本的操作ができない。 | 情報モラルに関する知識を身に付け、インターネットの利用やICT関連ソフトの基本的な操作ができる。 | 課題解決のために様々なICTツールを活用して収集した情報を整理・管理・活用することができる。 | ICTツールやネットワークを活用してデータや情報を整理・管理・活用し、新たな価値を生み出すことができる |
| | **チームワーク** | 課題解決のために、協働して作業することができない | 課題解決のために、与えられた自分の役割を果たすことができる | 課題解決のために、周囲の状況を踏まえ、主体的に自分の役割を果たすことができる | 課題解決のために、メンバーの特性を活かして、リーダーシップを発揮することができる |

# 宮崎学園短期大学【現代ビジネス科DP】

| | | | レベル０（未達成） | レベル１（他律） | レベル２（自律） | レベル３（率先・貢献） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ 自己の成長** | | | | | | |
| | **学習習慣** | | １週間の自宅での学習時間がのべ１時間以下 | 指示された課題９割以上を期限内に提出しているが、わからないところの解決に至っていない | 課題はすべて期限内に提出し、わからないことは自分で調べるように習慣づけている | 授業内容を超えて、様々な事柄に興味を持ち、探求している |
| | **基礎学力** | | 宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点取得が３科目未満 | 宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点を３科目以上取得 | 宮短基礎力向上ドリル（スタンダード）実力テスト100点を３科目以上取得 | 宮短基礎力向上ドリル（ベーシック・スタンダード）全科目100点 |
| | **自己理解** | | 自己分析したことがなく、自分の長所・短所をわかっていない | 他者からの評価によって自分の長所・短所を把握している | 様々な視点から、自身の長所・短所を把握している | 自分の強みを伸ばし・弱みを補うことができるよう心がけている |
| | **教養** | | 自分の好きなことだけしか興味がない | 自分の知識・能力不足は自覚しているので、授業は好き嫌いなく勉強しようとしている | 自身の教養を深めるために、授業以外も興味を広げ読書などに取り組んでいる | 多角的な視点で物事を考えることができる |
| | **社会の変化への対応** | | 社会で何が起こっているかよく知らない | 社会の変化について、授業で学んだ範囲は知っている | 持続可能な社会にするためには何をすべきか関心を持ち、自ら調べている | すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くためにすべきことを取り組んでいる |
| | **セルフマネジメント** | | 自分を振り返ることがなく、自己の課題について考えていない | 自己の課題がわかってはいるが、どうしてよいかわからない | 自己の課題や目標について、具体的にその対応方法を考え、実践している | 自己の課題や目標への取り組みに対し、振り返りを行い、改善策を検討している |
| **Ⅱ ビジネス社会で必要なプロフェッショナルスキル** | | | | | | |
| | **①ビジネスの基礎理解** | | | | | |
| | | **働く意義、職業理解** | 仕事を通して、自己実現することの意味や社会的意義は分からない | 企業研究や職業現場実習を経験し、職業と仕事のイメージを掴むことができた | 自分自身の強みや長所を活かすことのできる職業について調査し、の進路計画を描くことができる | 明確な進路意識のもと、進路決定に向けた努力を重ね、自己向上に努めている |
| | | **経済の基礎・基本の理解** | 経済の基本的な考えや経済の理論について説明できない | 経済とは何か、経済の諸現象について理解を深めようとしている | 経済学の基本的な用語（市場、マクロ経済、ミクロ経済、機会費用など）を説明できる | 市場経済のしくみと役割を理解しており、経済現象について説明することができる |
| | | **ビジネスの基礎・基本の理解** | ビジネス社会での仕事の進め方や人間関係のあり方が分からない | 企業概念とビジネス活動、ビジネスに対する心構えを理解している | ビジネス活動で求められる基本的能力を説明することができる | 多様化するビジネス環境について情報を収集することができ、ＰＤＣＡを理解した行動ができる |
| | | **秘書職務の理解と秘書機能の理解** | 秘書の歴史やビジネスにおける秘書学の位置づけは分からない | 秘書の資質、機能、マナーと接遇について理解しようと努めている | 接遇マナーや敬語・接遇用語、組織における意志の疎通を理解し、ＴＰＯに応じた実践ができる | 秘書に必要な経営知識、会計知識、法律知識を身につけ、秘書検定３級程度の問題を理解し、解答できる |
| | | **現代社会でのプレゼンテーションの役割** | 現代社会におけるプレゼンテーションの意義や役割は分からない | 様々な場面のプレゼンテーションを作り、良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションの違いが分かる | プレゼンテーション構成要素であるコンテンツスキル、デリバリースキルを効果的に表現できる。 | 目的に応じた適切なプレゼンテーション資料を作成するとができ、実施する際のポイントをしっかりと押さえることができる |
| | **②４つのコースに共通するビジネス実践力と実務教育協会各資格の到達目標達成** | | | | | |
| | | **キャリアプランを描くことができる** | キャリア意識が希薄で、将来への関心が低く、キャリアプランがない | 客観的に自己の分析ができ、自己の良さを知る。また広い視野で将来を考えることができる | 多様な考えや価値観に触れ、自分自身のキャリア形成に活かすことができる | 自身の人生設計に必要な情報収集や検討ができ、具体的な目標を設定することができる |
| | | **情報技術を使って、様々なビジネスシーンに情報活用ができる** | ビジネスにおける情報活用の手法が分からない | ビジネスにおける情報を収集、処理し、管理する手法について理解している | ビジネス情報、文書デザイン、医療情報、図書館情報等の情報関連科目の技術を身につけ、ビジネスシーンで活用することができる | 得られたビジネス情報を分析、発信するなど、情報技術を実務に活用することができる |
| | | **現状打開のために創意工夫し、解決に向けた計画を考えることができる（考え抜く力）** | 現状認識が甘く、課題を明らかにすることができない | 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる課題発見力が身についている | 問題解決に向けたプロセスを明らかにし準備できる計画力が身についている | 課題解決策の計画を実行し、新しい価値を生み出す創造力がある |
| | | **目標とする実務資格の目標達成ができている** | ○実践キャリア実務士 ○ビジネス実務士 ○情報処理士 ○上級ビジネス実務士 ○プレゼンテーション実務士 ○上級秘書士 のルーブリック到達目標達成度評価 | | | |
| **Ⅲ 協働力（他者との関係）** | | | | | | |
| | **他者とのコミュニケーションを通した課題の解決** | | | | | |
| | | **コミュニケーション力** | 自己中心的な考えを優先したり、他者と関わろうとしない | 積極的ではないが他者の意見に耳を傾けることはできる | 他者の意見の真意を把握できるが、自らの意見を伝えることに消極的である | 他者の考えを理解し、自らの考えも含めて論理的かつ的確に意見交換ができる |
| | | **前に踏み出す力** | 明確な答えが見つからないと、結果が怖くて前に踏み出すことができない | 課題解決や問題に自ら進んで取り組む主体性が身についている | 目的を設定し確実に行動できる実行力が身についている | 他者に働きかけ巻き込むことのできる働きかけ力が身についている |
| | | **チームで働く力** | 価値観や意見の違う他者とはあまり協力しあうことができない | 相手の意見を丁寧に聞く力を備え、自分の意見を分かりやすく伝えることができる | 意見の違いや立場の違いを理解できる柔軟性を持ち、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解できる状況把握力が身についている | 社会のルールや人との約束を守ることのできる規律性を備え、課題解決に向けメンバー間の意思疎通を調整することができる |
| | | **ICTスキルの活用** | ビジネスや業務を円滑に行うためのＩＣＴスキルが身についていない | ＩＣＴを活用して、データの収集・分析ができる | ＰＣ、タブレット等のデジタルデバイスを適宜に活用でき、専用のソフトやアプリケーションを正しく使うことができる | ビジネス活動におけるＩＣＴ技術をその時々に合わせて柔軟に対応できるプログラミングスキルを身につけている |

# 令和６年度　保育科　カリキュラムマップ　要素一覧（学科DPに沿った能力育成計画）

| 区分 | 科目名 | 授業の種類 | 開設単位数 | 開設の時期 1年 前期 | 1年 後期 | 2年 前期 | 2年 後期 | 3年 前期 | 3年 後期 | 卒業 必修 | 卒業 選択 | Ⅰ 自己の成長 学習習慣 | 基礎学力 | 自己理解 | 数養 | 社会変化への対応 | セルフマネジメント | Ⅱ 保育者の専門性 ①保育の基礎的理解 保育者の使命 | 保育制度の理解 | 指針、要領、教育・保育要領の理解 | 子ども理解 | 特別な配慮を必要とする子どもの保育の理解 | ②保育の基礎的実践力 子どもの健康への配慮 | 安全な環境と事故防止 | 遊びの理解 | 子どもの気持ちへの寄り添い | 子どもの主体性を引き出す保育環境の構成 | 保育日誌の作成 | 保育計画の作成と実践 | Ⅲ 協働力 礼節 | コミュニケーション | プレゼンテーションスキル | ICTリテラシー | チームワーク |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般教育科目 | 情報処理概論Ⅰ | 演習 | 1 | ○ | | ● | | | | 1 | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | |
| | 情報処理概論Ⅱ | 演習 | 1 | | ○ | | ● | | | 1 | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | |
| | コミュニケーション英語Ⅰa・Ⅰb | 演習 | 2 | ○ | ○ | ● | ● | | | 2 | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | 健康の科学 | 講義 | 1 | ◎ | | | | | | 1 | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | 体育実技 | 実技 | 1 | | ◎ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ |
| | 人間の研究(勤労) | 演習 | 1 | ○ | ◎ | | | | | 1 | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | 人間の研究(礼節) | 〃 | 1 | ◎ | ○ | | | | | 1 | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | 学びのステップ | 講義 | 2 | ◎ | | | | | | 2 | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ |
| 領域及び保育内容の指導法 | 子どもと健康 | 〃 | 1 | | ◎ | | | | | 1 | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | |
| | 子どもと人間関係 | 〃 | 1 | | ○ | | ● | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| | 子どもと環境 | 〃 | 1 | ○ | | ● | | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| | 子どもと言葉 | 〃 | 1 | ○ | | ● | | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| | 子どもと表現(音楽)Ⅰ | 〃 | 1 | ◎ | | | | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ |
| | 子どもと表現(音楽)Ⅱ | 〃 | 1 | | ◎ | | | | | | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ |
| | 子どもと表現(造形)Ⅰ | 〃 | 1 | ○ | | ● | | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| | 子どもと表現(造形)Ⅱ | 〃 | 1 | | ○ | | ● | | | | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| | 保育内容総論 | 演習 | 1 | ◎ | | | | | | | 1 | | | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 保育内容「健康」の指導法 | 〃 | 1 | | | ◎ | | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| | 保育内容「人間関係」の指導法 | 〃 | 1 | | | ○ | | ● | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 保育内容「環境」の指導法 | 〃 | 1 | | | ○ | | ● | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 保育内容「言葉」の指導法 | 〃 | 1 | | ○ | | ● | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | | | |
| | 保育内容「表現」の指導法Ⅰ | 〃 | 1 | | | ○ | | ● | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 保育内容「表現」の指導法Ⅱ | 〃 | 1 | | | | ○ | | ● | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | ◎ |
| 器楽 | 器楽Ⅰ | 〃 | 1 | ◎ | | | | | | 1 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | 器楽Ⅱ | 〃 | 1 | | ◎ | | | | | 1 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | 器楽Ⅲ | 〃 | 1 | | | ◎ | | | | | 1 | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | 器楽Ⅳ | 〃 | 1 | | | | ◎ | | | | 1 | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目群 | 教職概論 | 講義 | 2 | | | | ○ | | ● | 2 | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 保育原理 | 〃 | 2 | ◎ | | | | | | 2 | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育原理 | 〃 | 2 | | | ○ | | ● | | | 2 | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 子ども家庭福祉 | 〃 | 2 | | | ○ | | ● | | 2 | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会福祉論 | 〃 | 2 | ○ | | ● | | | | | 2 | | ◎ | | | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 子ども家庭支援論 | 〃 | 2 | | | | ○ | | ● | | 2 | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会的養護Ⅰ | 〃 | 2 | | ○ | | ● | | | | 2 | | | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 保育者論 | 〃 | 2 | | ◎ | | | | | 2 | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育心理学 | 講義 | 2 | ◎ | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | |
| | 保育の心理学 | 演習 | 1 | | ◎ | | | | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | 子ども家庭支援の心理学 | 講義 | 2 | | | ○ | | ● | | 2 | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 子どもの保健 | 講義 | 2 | ◎ | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | |
| | 子どもの食と栄養Ⅰ | 演習 | 1 | | | | ◎ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | |
| | 子どもの食と栄養Ⅱ | 〃 | 1 | | | | | ◎ | | | 1 | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | |
| | 教育課程論 | 講義 | 2 | | ◎ | | | | | | 2 | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会的養護Ⅱ | 〃 | 1 | | | ○ | | ● | | | 1 | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | 乳児保育Ⅰ | 講義 | 2 | ◎ | | | | | | 2 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | 乳児保育Ⅱ | 演習 | 1 | | ◎ | | | | | 1 | | | | | | ◎ | | ◎ | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | | |
| | 特別支援教育Ⅰ | 〃 | 1 | | ○ | | ● | | | | 1 | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | |
| | 特別支援教育Ⅱ | 〃 | 1 | | | ○ | | ● | | | 1 | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | |
| | 子育て支援 | 〃 | 1 | | | | ○ | | ● | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 子どもの健康と安全 | 〃 | 1 | | ◎ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | |
| | 教育方法と技術 | 講義 | 2 | | | | ○ | | ● | | 2 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | |
| | 幼児教育相談 | 〃 | 2 | | | | ○ | | ● | | 2 | | | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | 保育・教職実践演習(幼稚園) | 演習 | 2 | | | | ○ | | ● | | 2 | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | ◎ | | | ◎ |
| 実習指導 | 教育実習前後指導 | 実習 | 1 | △ | | △ | | △▲ | | ▲ | | 1 | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | |
| | 保育実習指導Ⅰ | 演習 | 2 | ○ | | ○ | | ○● | | ● | | 2 | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | |
| | 保育実習指導Ⅱ | 演習 | 1 | | | | ○ | | ○ | ● | ● | | 1 | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | |

令和６年度　現代ビジネス科　カリキュラムマップ　要素一覧（学科DPに沿った能力育成計画）

| 大区分 | 小区分 | 授業科目 | 授業の種類 | 開設単位数 | 開設の時期 1年 前期 | 開設の時期 1年 後期 | 開設の時期 2年 前期 | 開設の時期 2年 後期 | 卒業 必修 | 卒業 選択 | Ⅰ 自己の成長 学習習慣 | 基礎学力 | 自己理解 | 教養 | 社会の変化への対応 | セルフマネジメント | Ⅱ ビジネス社会で必要なプロフェッショナルスキル ①ビジネスの基礎理解 働く意義、職業理解 | 経済の基礎・基本の理解 | ビジネスの基礎・基本の理解 | 秘書職務の理解と秘書機能の理解 | 現代社会でのプレゼンテーションの役割 | ②4つのコースに共通するビジネス実践力と実務教育協会各資格の到達目標達成 キャリアプランを描くことができる | 情報技術を使って、様々なビジネスシーンに情報活用ができる | 現状打開のために創意工夫し、解決に向けた計画を考えることができる（考え抜く力） | 目標とする実務資格の目標達成ができている | Ⅲ 協働力（他者との関係） ①他者とのコミュニケーションを通した課題の解決 コミュニケーション力 | 前に踏み出す力 | チームで働く力 | ICTスキルの活用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 情報処理概論Ａ | 演習 | 1 | ○ | | | | 1 | 2単位 | | | | | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | | | | ◎ |
| | | 情報処理概論Ｂ | 〃 | 1 | | ○ | | | 1 | | | | | | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | | | | ◎ |
| | 基礎力分野 | 読む聞く書く話す入門 | 講義 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | キャリアガイダンスⅠ | 〃 | 1 | ○ | | | | 1 | | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | | キャリアガイダンスⅡ | 〃 | 1 | | ○ | | | 1 | | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | | 生涯学習概論 | 講義 | 2 | | ○ | | ○ | | 2 | | | | ◎ | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | |
| 専門教育科目 | 基幹科目 | 秘書学概論 | 講義 | 2 | ○ | | | | 2 | | ◎ | | | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | | 基礎経済 | 講義 | 2 | ○ | | | | 2 | | | ◎ | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | ビジネス実務総論Ⅰ | 〃 | 2 | ○ | | | | 2 | | | ◎ | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | | スタディ・スキルⅠa | 演習 | 1 | ○ | | | | 1 | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | スタディ・スキルⅠb | 〃 | 1 | | ○ | | | | 1 | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | スタディ・スキルⅡa | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | スタディ・スキルⅡb | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | プレゼンテーション概論 | 講義 | 2 | | ○ | | | 2 | | | | | | ◎ | | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ | |
| | | 新宮崎創生論Ⅰ | 〃 | 2 | ○ | | | | | 2 | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | | | ◎ | | | ◎ | | |
| | | 新宮崎創生論Ⅱ | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | | | ◎ | | | ◎ | | |
| | 情報処理 | 情報処理演習Ⅰa | 演習 | 1 | ○ | | | | | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ |
| | | 情報処理演習Ⅰb | 〃 | 1 | | ○ | | | | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ |
| | | 情報処理演習Ⅱa | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | ◎ |
| | | 情報処理演習Ⅱb | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | ◎ |
| | | 情報サービス論 | 講義 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ |
| | | 情報機器利用プレゼンテーション演習 | 演習 | 1 | ○ | | | | | 1 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ |
| | ビジネス理解 | ビジネス実務総論Ⅱ | 講義 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | ビジネス実務演習Ⅰa | 演習 | 1 | ○ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | ビジネス実務演習Ⅰb | 〃 | 1 | | ○ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | ビジネス実務演習Ⅱa | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | ビジネス実務演習Ⅱb | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 企業簿記Ⅰa | 〃 | 1 | ○ | | | | | 1 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| | | 企業簿記Ⅰb | 〃 | 1 | | ○ | | | | 1 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| | | 企業簿記Ⅱa | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| | | 企業簿記Ⅱb | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| | | コンピュータ会計Ⅰ | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | コンピュータ会計Ⅱ | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | ファイナンシャル・プランナー総論Ⅰ | 講義 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | ◎ | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | ファイナンシャル・プランナー総論Ⅱ | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | ◎ | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 販売学総論Ⅰ | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 販売学総論Ⅱ | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | |
| | | ブライダル概論 | 〃 | 2 | （未開講） | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 現代ビジネス論 | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| | | 実践ビジネス演習Ⅰ | 演習 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 実践ビジネス演習Ⅱ | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | マーケティング | 講義 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | ◎ |
| | | デジタルマーケティング | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | ◎ |
| | | 経営学総論 | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| | | 秘書実務演習Ⅰ | 演習 | 1 | | ○ | | | | 1 | | | | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | | 秘書実務演習Ⅱ | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | | DX活用基礎論 | 講義 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | ◎ |
| | | 企業実習Ⅰ | 実習 | 1 | ○ | | | | | 1 | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | |
| | | 企業実習Ⅱ | 〃 | 2 | | (○) | (○) | (○) | (○) | 2 | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 企業実習Ⅲ | 〃 | 2 | | (○) | (○) | (○) | (○) | 2 | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | |
| | | 企業実習Ⅳ | 〃 | 2 | | (○) | (○) | (○) | (○) | 2 | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | |
| | | 企業実習Ⅴ | 〃 | 2 | | (○) | (○) | (○) | (○) | 2 | | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | |
| | コミュニケーション | 日本語表現Ⅰ | 講義 | 2 | | (○) | (○) | | | 2 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 日本語表現Ⅱ | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | Business English | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | プレゼンテーション演習 | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | | ◎ |
| | 大学編入 | キャリア基礎論 | 講義 | 2 | ○ | | | | | 2 | | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | | 大学編入実践演習 | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | | 文章表現方法論 | 講義 | 2 | | | ○ | | | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 面接実践演習 | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | ◎ | ◎ | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | |
| | 創作表現 | コミュニケーションデザイン演習Ⅰ | 演習 | 1 | ○ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | ◎ |
| | | コミュニケーションデザイン演習Ⅱ | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | ◎ |
| | | 卒業研究 | 講義 | 2 | | | ○ | ○ | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 大区分 | 小区分 | 授業科目 | 授業の種類 | 開設単位数 | 開設の時期 1年 前期 | 開設の時期 1年 後期 | 開設の時期 2年 前期 | 開設の時期 2年 後期 | 卒業 必修 | 卒業 選択 | Ⅰ 自己の成長 学習習慣 | 基礎学力 | 自己理解 | 教養 | 社会の変化への対応 | セルフマネジメント | Ⅱ ビジネス社会で必要なプロフェッショナルスキル ①ビジネスの基礎理解 働く意義、職業理解 | 経済の基礎・基本の理解 | ビジネスの基礎・基本の理解 | 秘書職務の理解と秘書機能の理解 | 現代社会でのプレゼンテーションの役割 | Ⅱ ビジネス社会で必要なプロフェッショナルスキル ②4つのコースに共通するビジネス実践力と実務教育協会各資格の到達目標達成 キャリアプランを描くことができる | 情報技術を使って、様々なビジネスシーンに情報活用ができる | 現状打開のために創意工夫し、解決に向けた計画を考えることができる（考え抜く力） | 目標とする実務資格の目標達成ができている | Ⅲ 協働力（他者との関係） ①他者とのコミュニケーションを通した課題の解決 コミュニケーション力 | 前に踏み出す力 | チームで働く力 | ICTスキルの活用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 医学基礎 | 健康と疾病 | 講義 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | ○ | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | | 患者論と医の倫理 | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | ○ | |
| | | 解剖生理学Ⅰ | 〃 | 2 | ○ | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 解剖生理学Ⅱ | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 臨床検査学 | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 臨床薬理学 | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 医療用語Ⅰ | 〃 | 2 | ○ | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | ◎ | | | | |
| | | 医療用語Ⅱ | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 看護概論 | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | ◎ | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | メディカル・コミュニケーション論 | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ○ | ○ |
| | 医療秘書 | 医療秘書学概論 | 講義 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | | | ◎ | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | |
| | | 医療秘書実務Ⅰ | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 医療秘書実務Ⅱ | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 医療情報学 | 講義 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ |
| | | 医療関係法規Ⅰ | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 医療関係法規Ⅱ | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 医科診療報酬請求論Ⅰ | 〃 | 2 | ○ | | | | | 2 | | | | | | | | ○ | | | | ◎ | | | ◎ | | | | |
| | | 医科診療報酬請求論Ⅱ | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ◎ | | | ◎ | | | | |
| | | 医科診療報酬請求実務Ⅰ | 演習 | 2 | ○ | | | | | 2 | | | | | | | | ◎ | | | | ○ | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 医科診療報酬請求実務Ⅱ | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | ◎ | | | | ○ | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 医科診療報酬請求実務Ⅲ | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | ◎ | | | | ○ | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 介護報酬請求演習 | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | ◎ | | | | ○ | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 調剤報酬請求演習 | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | ◎ | | | | ○ | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 医療機関実習Ⅰ | 実習 | 1 | | ○ | | | | 1 | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 医療機関実習Ⅱ | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 医事コンピューターⅠ | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | ○ | ○ | ◎ |
| | | 医事コンピューターⅡ | 〃 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | ○ | | | | | ◎ | | ◎ | | | ○ | ◎ |
| | | 医事コンピューターⅢ | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | ○ | | | | | ◎ | | ◎ | | | ○ | ◎ |
| | | 医療マネジメント論 | 講義 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | ◎ | ○ | | | ○ | | ◎ | | | ○ | ○ | |
| | | メディカルヒューマンリソース | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | ◎ | ○ | | | | ○ | | ◎ | | | ○ | ○ | |
| | 図書館学に関する科目 | 図書館概論 | 講義 | 2 | ○ | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 図書館情報技術論 | 〃 | 2 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 図書館制度・経営論 | 〃 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 図書館サービス概論 | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | | 情報サービス演習Ⅰ | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ |
| | | 情報サービス演習Ⅱ | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ |
| | | 図書館情報資源概論 | 講義 | 2 | ○ | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 情報資源組織論 | 〃 | 2 | | ○ | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 情報資源組織演習Ⅰ | 演習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 情報資源組織演習Ⅱ | 〃 | 1 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 児童サービス論 | 講義 | 2 | | | ○ | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | | 図書・図書館史 | 講義 | 1 | | ○ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 図書館情報資源特論 | 〃 | 1 | | ○ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 図書館実習 | 実習 | 1 | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | |
| 必要最低単位数 | | | | | | | | | 48 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要最低単位数総計 | | | | | | | | | 62 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※別表１～６を参照し履修すること。

| 授業科目名 | 化学（科目コード:TGNSC102） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 保田 昌秀 (myasuda@miu.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科 1,2 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 化学の基礎知識と考え方を習得し、他人に伝えることができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ |

**到達目標：** ①化学の基礎知識と学び方を習得し、他人に伝えることができる
②発展的な課題として、環境問題および科学の歴史を学ぶ。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 原子の構造 | 質量数、同位体、原子量、質量分析について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 2 | 原子中の電子の動き | 電子が動き回る軌道の概念について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 3 | 分子の電子構造 | ルイス構造、ケクレ構造などで、分子の結合の表し方を学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 4 | 化学結合 | 原子価結合法を用いて分子の形について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 5 | 酸と塩基 | 結合での電子の偏りと酸塩基の関係について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 6 | 水と酸性雨 | 水の性質と水素イオン指数(pH)、酸性雨について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 7 | 中間試験 | 前半 6 回分の内容について試験を行う | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 8 | 炭素原料 | 化石燃料、ナフサについて学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 9 | 二酸化炭素と地球温暖化 | 二酸化炭素の性質と地球温暖化について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 10 | 低分子化合物 | 界面活性剤や液晶を例に、柔軟構造のアルキル基の働きを学ぶ。 | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 11 | 高分子物質・炭水化合物 | 高分子の種類や糖、光学異性体などについて学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 12 | 塩素化学物 | 身の回りの塩素製品と、フロンとオゾン層について学ぶ。 | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 13 | 珪素化合物 | シリコン、ガラスなどの珪素化合物について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 14 | グループ学習 | 科学切手についてのグループ学習 | グループで課題を解く |
| 15 | グループ発表 | 科学切手についてのグループ発表 | グループで課題を解く |

**単位の認定について：**中間試験 40%　期末試験 36%　グループ発表 10%　平常点 14%

**教科書：** 必要に応じてプリントを配布
**参考書：** 授業中に適宜紹介する。

**授業外学習について：**適宜、課題を出す。指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法：** 次回の授業冒頭で解答を示す。
※この授業はアクティブラーニングを取り入れて実施します。

| 授業科目名 | キャリアガイダンスⅠ（科目コード:TGGEN106） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 実践キャリア実務士、プレゼンテーション実務士 | | | | | | |
| 担当者 | 現代ビジネス科教員 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、自己の内省を深めるとともに、自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を養うことを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**・自らの内省を深め、自己肯定感や主体性を持って行動できる。
・ビジネス社会で求められるビジネスマナーやモラルを説明できる。
・自らのキャリアイメージを具体化できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について理解する。キャリア教育の意義について理解する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 2 | キャリア形成の実際 | 教員自身のこれまでの経験を聞き、自己のキャリア形成のヒントを得る。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 3 | ビジネスマナー | 社会人に必要なビジネスマナーを理解し、身につける。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 4 | 自己分析（1） | 自己の特徴を多面的に分析し、自らの強みをアウトプットできるスキルを養う。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 5 | 自己分析（2） | 自己の価値観を知り、キャリアイメージを具体化する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 6 | 企業研究（1） | 様々な業界を知り、自己のキャリアイメージを広げる。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 7 | 企業研究（2）<br>項目③（導入 1-4） | 企業研究を通して、興味のある業界への知識を深めるため、学生がデータ・AI 利活用を行い、企業について調査する。結果をグループワークの中で発表して意見を出し合い、自分のキャリアイメージを具体化する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 8 | 企業人モデル | 社会で求められる人材について学習し、必要な知識・スキルを学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 9 | 講演（1） | 一般企業、医療機関の就業者の講演を聴き、自己のキャリアイメージを具体化する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 10 | メールと送付状（1）<br>項目④（導入 3-1） | ビジネスメールの活用方法やメールのマナーについて理解する。AI が引き起こす課題についてグループディスカッションを行い、留意事項を深く知る。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 11 | メールと送付状（2） | 就職活動やビジネス社会で使用する送付状の作成方法を理解する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 12 | 書類提出のマナー | 応募書類の提出に必要なビジネスマナーを理解するとともに、証明写真撮影のポイントについて学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 13 | 講演（2） | 企業経営者または事業責任者の講演を聴き、自己のキャリアイメージを具体化する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 14 | グループディスカッション（1） | 就職試験で用いられるグループディスカッションの意義や方法を理解する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 15 | グループディスカッション（2） | グループディスカッションのシミュレーションを行い、就職活動で求められるビジネススキルについて学ぶ。 | 最終課題の提出に向けて、準備を行う。(60 分) |

**単位の認定について**　取り組み状況(40%)、ワークシート(30%)、プリント課題(30%)
**教科書**
**参考書**　noa 出版（2013)『「なりたい自分」を目指す　シューカツワーク Book』
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

| 授業科目名 | キャリアガイダンスⅡ（科目コード:TGGEN107） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 実践キャリア実務士、プレゼンテーション実務士 | | | | | | |
| 担当者 | 現代ビジネス科教員 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、自己の内省を深めるとともに、自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を養う。さらに、キャリアガイダンスⅠで身につけた自己肯力感や知識・スキルを、自己のキャリア実現に向けて活用できることを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・自己のキャリア実現に必要な知識・スキルを身につけている。
・自己の考えや意見をアウトプットできる。
・他者と円滑にコミュニケーションできる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 会社説明会（1） | 就職活動の流れを理解し、就職活動スケジュールを立てる。会社説明会の概要について理解する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 2 | 会社説明会（2） | 会社説明会のシミュレーションを行い、人事担当者の視点、受講者の視点から就職活動で求められるビジネススキルについて学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 3 | 履歴書の作成（1） | 就職活動に必要な応募書類（履歴書・エントリーシート）の書き方のポイントを理解する。取得予定の資格、検定を理解する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 4 | 履歴書の作成（2） | 作成した履歴書の添削指導を受ける。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 5 | 就活サイトの活用 | マイナビやハローワーク等の就活支援サイトの活用方法を学ぶとともに、就職活動の具体的な流れを理解する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 6 | 履歴書の作成（3） | 指導を受けた内容を活かし、志望動機以外の項目について作成する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 7 | 面接（1） | 就職活動における面接試験の意義とポイントを理解し、必要な知識やスキルについて学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 8 | 面接（2） | 面接の基本となる入退室や相手に伝わる挨拶について学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 9 | 面接（3） | 面接試験のシミュレーションを行い、就職活動で求められる受け答えの方法について理解する。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 10 | 講演 | 就職活動を終えた先輩の話を聞き、自己のキャリア実現に必要なスケジュール管理の方法やキャリアイメージの具体化を図る。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 11 | キャリア・アンカーの概念 | キャリア・アンカーの概念の起源と種類などについて学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 12 | キャリア・アンカーの展開 | キャリア・アンカーを知り、個人の欲求と組織の要望のマッチングを図ることを学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 13 | 計画的偶発性理論の活用 | 「想定外の出来事を最大限に活用する」ことについて学ぶ。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 14 | メイク指導と証明写真 | ビジネスマナーの一つとして外部指導者によるメイク指導を受け、就職活動に必要なマナーを身につける。証明写真の撮影を行う。 | 学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分) |
| 15 | まとめ | 授業評価アンケート、提出物等の確認、成績等の説明、キャリアガイダンスの感想記入、授業のまとめを行う。 | 最終課題の提出に向けて、準備を行う。(60 分) |

**単位の認定について**　取り組み状況(40%)、ワークシート(30%)、プリント課題(30%)
**教科書**
**参考書**　noa 出版（2013)『「なりたい自分」を目指す　シューカツワーク Book』
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

| 授業科目名 | 教育学Ⅰ （科目コード:TGSSC103） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関係 | 教養科目（人文社会分野） | | | | | | |
| 担当者 | 杉田康之(アドレス:y-sugita@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科 1.2 年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業目標：** 1　日常における教育問題について、ディスカッションを行いながら理解を深める。
2　教育課題について必要な資料等を収集し、他者に理解できるようにレポートやプレゼンを作成する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ |

**到達目標：** 1　教育の基礎的・基本的知識を理解することができる。
2　教育課題についてディスカッションやグループワークを行う中で、問題解決する力を身に付けることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 課題設定とオリエンテーション | ・教育に関する課題意識をもたせるとともに、講義のオリエンテーションを行う。 | ・日常生活における教育問題への課題意識をまとめておく。(60 分) |
| 2 | 学校、学習 | ・「学校」と「学習」の意味について班や全体でディスカッションを行い、理解を深める。 | ・学校教育を振り返り、「学校」と「学習」のイメージをまとめておく。(60 分) |
| 3 | 学校制度 | ・幼稚園から大学までの教育目的や学ぶ意味について班や全体でディスカッションを行い、理解を深める。 | ・学校で学ぶ意味についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 4 | 学校制度の課題 | ・大学における授業の在り方について班や全体でディスカッションを行い、理解を深める。 | ・大学の授業についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 5 | 家庭の課題(1) | ・子どもの貧困について班や全体でディスカッションを行い、理解を深める。 | ・子どもの貧困についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 6 | 家庭の課題(2) | ・児童虐待について班や全体でディスカッションを行い、理解を深める。 | ・児童虐待についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 7 | 家庭や地域の教育目的 | ・家庭教育や社会教育の意義と役割について班や全体でディスカッションを行い、理解を深める。 | ・家庭教育や社会教育の役割についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 8 | 学校の教育課題(1) | ・特別支援教育についてグループワークを行い、現状とその対策について理解を深める。 | ・特別支援教育についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 9 | 学校の教育課題(2) | ・いじめについて班や全体で KJ 法を用いてディスカッションを行い、現状とその対策について理解を深める。 | ・いじめについてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 10 | 学校の教育課題(3) | ・不登校について班や全体で KJ 法を用いてディスカッションを行い、現状とその対策について理解を深める。 | ・不登校についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 11 | 学校の教育課題(4) | ・働き方改革について班や全体で KJ 法を用いてディスカッションを行い、現状とその対策について理解を深める。 | ・働き方改革についてレポートにまとめておく。(60 分) |
| 12 | 宮崎県の教育課題(1)-① | ・現代の教育課題とその対策について、ICT を使用してレポートを作成する。 | ・レポートの資料を収集し、それをもとにレポートを作成する。(60 分) |
| 13 | 宮崎県の教育課題(1)-② | ・現代の教育課題とその対策について、ICT を使用してレポートを作成する。 | ・レポートの資料を収集し、それをもとにレポートを作成する。(60 分) |
| 14 | 宮崎県の教育課題(2)-① | ・現代の教育課題について作成したレポートをもとにプレゼンテーション資料を作成する。 | ・教育課題について、プレゼンテーション資料を作成する。(60 分) |
| 15 | 宮崎県の教育課題(2)-② | ・プレゼンテーション資料を発表し合い、自分の教育課題の理解を他者に適切に表現する。 | ・教育課題について、プレゼンテーション資料を作成する。(60 分) |

**単位の認定について**　授業内での演習・グループワークへの取組み態度・意欲 30%、レポート等 30%、小テスト・期末試験 40%
**教科書・参考書**　自作の資料を講義中に適宜配付する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。
Universal Passport を使ってアンケートを実施し、授業内でフィードバックする。
※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

| 授業科目名 | 健康の科学 （科目コード:TGPHY101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 伊東朋子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　毎授業後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成する。また生活習慣病の乱れやストレスなどが健康に影響することを学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：**健康の保持増進に強い関心を持ち、将来のライフステージを考えることができる。
健康に関する情報を収集し、知識を高めようとすることができる。
授業内容を工夫してノートに記録する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本授業科目の方針、進め方、内容、評価　等について学ぶ。 | 全授業の概要を確認しよう。次時の内容を自分なりにまとめる。(40分) |
| 2 | 心肺蘇生法 | 心肺蘇生法の正しい方法や手順を身につける。 | 心肺蘇生法の手順について調べておく。(40分) |
| 3. | 日常的な応急手当 | 怪我や熱中症の応急手当の知識を身につけ理解を深める。 | 応急手当の仕方を調べておく。(40分) |
| 4 | 食事と健康 | 若い人の食生活事情とその問題やバランスの取れた食事の取り方についての理解を深める。 | 年齢に応じたバランスのよい食事の取り方について調べておく。(40分) |
| 5 | 飲酒・喫煙と健康 | 飲酒・喫煙と健康について理解を深める。 | 飲酒・喫煙の健康被害を調べておく。(40分) |
| 6 | 薬物乱用と健康 | 薬物乱用と健康への影響・防止を理解する。 | 健康問題に関する現状を調べ、問題点や今後の在り方等について自分の考えをまとめておく。(40分) |
| 7 | 性行動と性意識の選択 | 異性との人間関係や性情報に対してどのようなことに配慮した行動が必要か理解を深める。 | 性行動の変化と異性の尊重について調べておく。(40分) |
| 8 | 現代の感染症 | 過去の病気だと思われていた感染症が再び猛威をふるうということが起きている。問題となっている感染症とはどんなもので、なぜそのようなことが起こっているのか考え理解を深める。 | 過去、現代の感染症を調べ、現代の感染症の問題点や在り方について、自分の意見をまとめておく。 |

**単位の認定について**　講義への取組み(25%)、服装・態度(25%)、提出物・課題(50%)で評価し、60 点以上が合格点。

**参考書**　印刷物を配布する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**

提出された課題はチェック後に解説する

| 授業科目名 | コミュニケーション英語Ⅰa(科目コード:TGFOR101) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 植田 美穂(m-ueda@mgjc.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** 英語に対する意欲や関心、英語および文化への興味を持ち、自ら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする能力を養う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ○ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：** 基礎的な英語表現＝知識、多様な場面でのコミュニケーション＝技能、積極的な意見交換＝態度を身に着ける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 導入 | 授業内容、目標、評価等の説明および導入 | |
| 2 | Communicative task 1-① | 基本的語彙を使った発表の準備 | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 3 | Communicative task 1-② | 基本的表現・語彙を使って発表実践 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 4 | Communicative task 1-③ | 他の学生の発表について討論・相互評価 | |
| 5 | Activity 1-① | 英語による classroom activity 運用 | フラッシュカードを用意する(40分) |
| 6 | Activity 1-② | Classroom activity の相互評価 | |
| 7 | Communicative task 2-① | 基礎的語彙を使った発表の準備 | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 8 | Communicative task 2-② | 基礎的表現・語彙を使って発表実践 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 9 | Communicative task 2-③ | 他の学生の発表について討論・相互評価 | |
| 10 | Activity 2-① | 英語による classroom activity 運用 | 使用するプロップを用意する(40分) |
| 11 | Activity 2-② | Classroom activity の相互評価 | |
| 12 | Communicative task 3-① | 基礎的語彙を使った発表の準備 | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 13 | Communicative task 3-② | 基礎的表現・語彙を使った発表の実践 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 14 | Communicative task 3-③ | 他の学生の発表について討論・相互評価 | |
| 15 | Overall Review | これまでの学習事項の総合評価およびまとめ | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |

**単位の認定について** 毎回の授業内での復習テストと演習70％ 提出物(ノートおよび作成資料)30％により評価する

**教科書** 独自に作成した資料を利用。

**参考書**

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | コミュニケーション英語Ⅰa（科目コード:TGFOR101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | パッソス裕子 y-passos@mgjc.ac.jp 藤山由佳里 y-fujiyama@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：** 英語に対する意欲や関心、英語および文化への興味を持ち、自ら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする能力を養う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：** 適切に情報を集め、多様な人々と積極的にコミュニケーションができる基本的な英語能力の習得を目指す。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 導入 | 授業内容・目標・評価等の説明および導入 | |
| 2 | 英語にふれよう<br>チャンツ | 第一章 子ども英語のキホン Q1<br>第二章 歌① Acca bacca soda cracker | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 3 | 英語にふれよう<br>絵本 | 第一章 子ども英語のキホン Q2<br>第二章 絵本① Sounds in the Pond | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 4 | 英語にふれよう<br>絵本 | 第一章 子ども英語のキホン Q3<br>第二章 絵本② It's a ghost | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 5 | 英語にふれよう<br>チャンツ | 第一章 子ども英語のキホン Q4<br>第二章 歌② Five Little Monkeys | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 6 | 英語にふれよう<br>絵本 | 第一章 子ども英語のキホン Q5<br>第二章 絵本③ I am Roly Poly! | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 7 | 英語にふれよう<br>絵本 | 第一章 子ども英語のキホン Q6<br>第二章 絵本④ Let's be friends! | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 8 | 英語にふれよう<br>歌 | 第一章 子ども英語のキホン Q7 とまとめ<br>第二章 歌③ Coconut Song | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 9 | 英語にふれよう<br>絵本 | 第二章 絵本⑤ Happy Birthday<br>ゲーム① One to Ten Wow! | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 10 | 英語にふれよう<br>絵本・ゲーム | 第二章 絵本⑥ Magic Water<br>ゲーム② Reach for the Animal Card | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 11 | 英語にふれよう<br>歌・ゲーム | 第二章 歌④ The Weather Song<br>ゲーム③ Simon Says<br>絵本⑦ How do you like your icecream? | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 12 | グループワーク | 基本的語彙を使った発表の計画案作り・準備 | 発表に用いる計画案を作成する(40分) |
| 13 | グループワーク | 基本的語彙を使った発表の計画案作り・準備 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 14 | グループ発表① | 基礎的表現・語彙を使った発表の実践<br>プレゼンテーション<br>他の学生の発表について相互評価 | グループ発表の振り返りレポート作成 |
| 15 | Overall Review | これまでの学習事項についてのまとめ | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |

**単位の認定について** 期末試験50%と演習(グループワークと発表への参加)20%、提出物(作成資料)30%により評価する

**教科書** **先生といっしょ！はじめての英語**

**参考書** **キンダーすまいる英語**

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | コミュニケーション英語Ⅰb(科目コード:TGFOR101) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 植田 美穂(m-ueda@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：** 前期開講のコミュニケーション英語Ⅰaを踏まえ、英語に対する意欲や関心をさらに高め、英語および文化への興味を持ち、より多様な場面における積極的なコミュニケーション能力を養う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ①知識＝基礎的英語表現(読む・聞く・話す・書く)を活用して応用力を高める ②技能＝より多様な場面でのコミュニケーションへの対応力を身に着ける ③態度＝積極的な意見交換を通して共感力を高める

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | Communicative task 4-① | 基礎的語彙を使った発表の準備 | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 2 | Communicative task 4-② | 基礎的表現・語彙を使った発表実践 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 3 | Communicative task 4-③ | 他の学生の発表について討論・相互評価 | |
| 4 | Activity 3 | Classroom activity の運用と相互評価 | 使用するプロップを用意する(40分) |
| 5 | Communicative task 5-① | 発展的内容での発表の準備 | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 6 | Communicative task 5-② | 発展的内容を使った発表実践 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 7 | Communicative task 5-③ | 他の学生の発表について討論・相互評価 | |
| 8 | Activity 4 | Classroom activity の運用と相互評価 | 使用するプロップを作成する(40分) |
| 9 | Communicative task 6-① | 発展的内容での発表の準備 | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 10 | Communicative task 6-② | 発展的内容を使った発表実践 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 11 | Communicative task 6-③ | 他の学生の発表について討論・相互評価 | |
| 12 | Activity 5-① | Classroom activity の運用 | 使用するプロップを作成する(40分) |
| 13 | Activity 5-② | Classroom activity の運用と相互評価 | |
| 14 | Communicative task final | 全体的学習項目を使用した総合発表・相互評価 | 作成した資料をファイリングする(40分) |
| 15 | Overall Review | これまでの学習内容の総合的評価およびまとめ | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |

**単位の認定について** 毎回の授業内での復習テストと演習70% 提出物(ノートおよび作成資料)30%により評価する

**教科書** 独自に作成した資料を利用。

**参考書**

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。

※トピックの開催ナンバーは、コミュニケーション英語Ⅰaからの連番で表示している。

※この授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | コミュニケーション英語Ⅰb（科目コード:TGFOR101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | パッソス裕子 y-passos@mgjc.ac.jp 藤山由佳里 y-fujiyama@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要:** 前期開講のコミュニケーション英語Ⅰａを踏まえ、英語に対する意欲や関心、英語および文化への興味を持ち、自ら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする 能力を養う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：** 適切に情報を集め、多様な人々と積極的にコミュニケーションができる基本的な英語能力の習得を目指す。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 活動・授業のプランを立てよう | 第三章 便利な教室英語①<br>季節のイベント ハロウィン① | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 2 | 活動・授業のプランを立てよう | 第三章 便利な教室英語②<br>季節のイベント ハロウィン② | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 3 | グループワーク | 発展的内容での発表の計画案作り・準備 | 発表に用いる資料を作成する(40分)<br>使用するプロップを用意する(40分) |
| 4 | グループ発表② | 発展的内容を使った発表実践 プレゼンテーション<br>他の学生の発表について相互評価 | グループ発表の振り返りレポート作成 |
| 5 | 活動・授業のプランを立てよう | 第三章 幼稚園・保育園の年間プラン<br>活動の組み立て方 | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 6 | 毎日の習慣に英語を取り入れよう | 第四章 1. 朝の会 2. お片付け<br>季節のイベント クリスマス① | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 7 | 毎日の習慣に英語を取り入れよう | 第四章 3. 昼食 4. お帰りの会<br>季節のイベント クリスマス① | 課題に関連する資料を用意する(40分) |
| 8 | グループワーク | 発展的内容での発表の計画案作り・準備 | 使用するプロップを作成する(40分) |
| 9 | グループ発表③ | 発展的内容を使った発表実践 プレゼンテーション<br>他の学生の発表について相互評価 | グループ発表の振り返りレポート作成 |
| 10 | ペアワーク | 発展的内容での発表の計画案作り・準備 | 発表に用いる資料を作成する(40分) |
| 11 | ペアワーク | 発展的内容での発表の準備・リハーサル | 使用するプロップを作成する(40分) |
| 12 | 発表④―1 | 全体的学習項目を使用した総合発表・相互評価<br>プレゼンテーション | ペア発表の振り返りレポート作成 |
| 13 | 発表④―2 | 全体的学習項目を使用した総合発表・相互評価<br>プレゼンテーション | ペア発表の振り返りレポート作成 |
| 14 | Overall Review | これまでの学習内容の総合的評価 | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |
| 15 | Overall Review | これまでの学習内容の総合的評価 まとめ | 既習事項についてノートにまとめる(40分) |

**単位の認定について** 期末試験50％と演習（グループワークと発表への参加）20％、提出物(作成資料)30％により評価する。
**教科書** **先生といっしょ！はじめての英語**
**参考書** **キンダーすまいる英語**

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 自然災害と防災 （科目コード:TGGEN111） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 井上 浩義 | | | | | | |
| オフィスアワー | | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科1、2年 | 開講時期 | 後期(集中) | 授業の種類 | 講義･演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**①自然災害発生のメカニズムについて学修・理解する。
②防災・減災対策について、行政・地域における現状と課題について学修・理解する。
③発生した自然災害等に対して、危機管理のための手法について学修・理解する。
④救急救命に関する講習を研修することにより、必要に応じて迅速な救急救命対応ができる手法を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ◎ |

**到達目標：** 災害発生の仕組みを理解し、防災･減災対策について行政及び地域における現状と課題を理解する。
災害を想定した危機管理の手法を理解する。

**授 業 計 画 表**

| 回 | トピック名 | 概　　要（担当講師） | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本授業の開設目的や受講にあたっての注意点等について理解する。<br>また、近年の自然災害から得られた教訓について理解する。 | レポート作成<br>（近年の自然災害に学ぶ） |
| 2 | 防災士の役割 | 防災士はどのようにして生まれたかを歴史的背景から理解し、現在防災士に期待されている役割や、実際の活動とその社会的評価について理解する。<br>講師：芝崎　敏之（NPO 法人宮崎県防災士ネットワーク前理事長） | レポート作成<br>（身近にできる防災対策） |
| 3 | 地震の仕組みと被害 | 地震に関する基礎的な知識を修得し、地震による被害にはどのようなものがあるかを理解する。<br>講師：原田　隆典（宮崎大学名誉教授） | レポート作成<br>（被害想定とハザードマップ） |
| 4 | 津波の仕組みと被害 | 津波発生のメカニズムや津波地震及び遠地津波とは何かを知り、津波による被害を軽減するにはどのような対策が必要か検討する。<br>講師：村上　啓介（宮崎大学工学部教授） | レポート作成<br>（避難と避難行動） |
| 5 | 風水害と対策 | 日本の気候・地域特性と風水害との関係や地球温暖化と異常気象の現状を知り、自助としての水害対策にはどのようなものがあるかを考える。<br>講師：岩﨑　征弘（国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所技術副所長） | レポート作成<br>（耐震診断と補強） |
| 6 | 火山噴火のしくみと被害 | 火山噴火による災害にはどのような種類があるかを知り、現在の火山噴火予知はどのように行われているかを理解する。<br>講師：清水　収（宮崎大学農学部　教授） | レポート作成<br>（都市防災） |
| 7 | 救急救助技術を身に付ける | 救出・救助に役立つロープの結び方や応急手当の方法と注意点等、災害時に役立つ救急救助技術を身につける。<br>講師：長友　正（宮崎市南消防署　署長） | レポート作成<br>（火災と防火対策）<br>（防災訓練） |
| 8 | 行政の災害対応 | 災害対策基本法などの災害対策に関する重要法令を理解し、行政が防災に関してどのような組織を設けているか、また平常時に行っている防災対策について知る。<br>講師：外山　慎也（宮崎市危機管理部　地域安全課　主任主事） | レポート作成<br>（災害と応急対策） |
| 9 | 災害とボランティア活動 | 昨今の主な災害時におけるボランティア活動から、災害ボランティア活動の役割と機能を知る。<br>講師：大山　晃代（宮崎県社会福祉協議会　地域福祉部　地域・ボランティア課　主査） | レポート作成<br>（避難所運営と仮設住宅の暮らし） |
| 10 | 土砂災害と対策 | 土砂災害の特徴と課題を理解し、土砂災害対策にはどのような対策があるかを検討する。<br>講師：篠原　慶規（宮崎大学農学部　准教授） | レポート作成<br>（災害とライフライン） |
| 11 | 災害医療 | 災害医療に関する基礎的知識を修得し、防災士が行うこころのケアとは何か、また東日本大震災後の災害医療の課題について知る。<br>講師：熊谷　泰治（宮崎市郡医師会病院　人事課　主査） | レポート作成<br>（災害と交通インフラ） |
| 12 | 災害情報の入手と活用 | 災害情報提供の方法にはどのようなものがあるかを知り、新しい伝達手段について理解する。<br>講師：粉川　真一（MRT 宮崎放送局　アナウンサー） | レポート作成<br>（災害と危機管理）<br>（災害防災と事業継続計画） |
| 13 | 地域の自主防災活動 | 自主防災組織について理解し、災害時要配慮者に対してどのような支援が必要かを考える。<br>講師：出水　和子（一般社団法人みやざき公共・協働研究会　理事） | レポート作成<br>（災害と流言・風評） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 公的機関による予報・警報 | 気象、洪水、地震、妻に、火山噴火に関する予報・警報などの情報にはどのようなものがあるか理解する。<br>講師：所　克博（気象庁宮崎地方気象台　次長） | レポート作成<br>（地震に関する知見・情報） |
| 15 | 災害と損害保険 | 災害に関連する損害保険について理解する。<br>木舟　作楽（日本損害保険協会九州支部　事務局長） | レポート作成<br>（地域の復旧と復興） |
| 16 | 試験 | 防災士資格試験 | |

**単位の認定について**　　防災士資格試験30%, レポート等の提出物70%
**教科書**　防災士教本（認定特定非営利活動法人　日本防災士機構）
**参考書**
**授業外学習について**　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　　提出された課題はチェック後に解説する。

【留意事項】
・本授業は宮崎国際大学と合同開催である。
・単位認定については本学が定める出席回数及び各回に課されたレポート内容の評価及び防災士資格試験によって認定されるものとする。
・防災士受験資格は、すべての回に出席し、且つ課されたレポートをすべて提出したものに与えられる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

| 授業科目名 | 社会心理学 （科目コード:TGHUM105） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤拓大 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科 1･2 年 | 開講時期 | 前期後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** この授業では、人間はどのように社会や他人からの影響を受けるのか、また、どのように社会や他人に影響を与えるのかについて、その心理メカニズムを学ぶ。そして、自身の目的意識を深め、特定の社会的事象について研究を行う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ |

**到達目標** ・他人からの影響を受ける場合、他人に影響を与える場合について、その心理メカニズムを理解する。
・人間関係および集団行動の特質を中心に日常的な事例に照らし合わせ考え、記述できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会心理学とは | 社会心理学とはどのようなものかについて学ぶ | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 2 | 社会的認知① | 社会的事象の観方に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 3 | 社会的認知② | 社会的事象の観方に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 4 | 自己評価 | 自己評価に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 5 | 他者評価 | 他者評価に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 6 | 研究とは何か | 研究とはどのようなものかについて考える | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 7 | コミュニケーション | コミュニケーションに関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 8 | 態度･説得 | 態度や説得に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 9 | 消費者行動 | 消費者行動に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 10 | 援助行動･援助要請 | 援助行動･援助要請に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 11 | 攻撃行動 | 攻撃行動に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 12 | インターネット･マスメディア | インターネット･マスメディアに関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 13 | キャリア･文化 | キャリアと文化に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 14 | 公正 | 公正に関する心の働き | 授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。 |
| 15 | まとめ | ここまでに学んできた内容をまとめる | これまでの学修内容をまとめる(30 分)。 |
| 16 | 学期末試験 | これまで学んだ内容の習得状況を確認、評価するための試験を行う。 | |

**単位の認定について：**試験 60%　授業態度 30%　授業外学習 10%
**教科書・参考書：**必要に応じて、担当者が伝える。
**授業外学習について：**指示された授業外学習の他に、予習･復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法：**提出された課題はチェック後に解説する。

| 授業科目名 | 障がいと社会　（科目コード:TGHCS101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 三宅 浩子　中川 志保　御手洗 正文　松田 昭憲<br>武村 順子　樋口 成樹　小澤 拓大 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期(集中) | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要**・SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」「持続可能で多様性と包摂性のある社会」について、障がいやその他の社会的少数派の視点で議論する。
・多角的な視点で多様性について考え、誰もが安心して暮らせる社会を構築する一員としての自覚を持ち、自身の価値観を広げる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ○ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

到達目標・「誰一人取り残さない」「持続可能で多様性と包摂製のある社会」について、自分の考えを持ち、他者に伝えることができる。
・他者の考えを尊重しながら、議論を進めることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>多様性の尊重とは<br>(三宅) | ・授業主旨と目的を理解する。<br>・ワークを通して、人はもともと皆違うことを理解する。 | 「普通って何だろう」(YouTube)で検索して出てきた動画を１本視聴して感想を書いておく。(60 分) |
| 2 | 障害のある子もない子も共に育ち合う保育とは（中川） | 全ての子どもが共に育ち合う保育やインクルーシブ保育について学ぶとともに、ディスカッションを通して他者の意見に触れ、多様な考えがあることを知る。 | インクルーシブ保育について調べる（30 分） |
| 3 | 人に優しいユニバーサルデザイン①<br>(御手洗) | ユニバーサルデザインが誕生した歴史的な背景とデザインの基礎となる７原則について学ぶ。 | ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いについて調べる。(30 分) |
| 4 | 人に優しいユニバーサルデザイン②<br>(御手洗) | ユニバーサルデザインを取り入れた身近な事例(分野別)をグループに分かれて IoT で調査する。また、「人に優しいデザイン」をさらに発展させるために必要なアイディアをグループ発表し、理解を深める。 | ユニバーサルデザインとエルゴノミクスデザインの違いについて調べる。例:エルゴチェアはユニバーサルデザインなのか等（30 分） |
| 5 | 学習障がい(限局性学習症)の理解(松田) | 認知の仕組みを基礎に、学習障がいについて学ぶ | 学習障がいの３つのタイプについて調べる（30 分） |
| 6 | 注意欠如多動性障がいの理解(松田) | 神経伝達の仕組みやワーキングメモリーを基礎に、注意欠如多動性障がいについて学ぶ | ワーキングメモリーについて調べる（30 分） |
| 7 | 自閉スペクトラム症の理解(松田) | 感覚の統合の仕組みを基礎に、自閉スペクトラム症について学ぶ | サバン症候群について調べる（30 分） |
| 8 | 高等教育における障がい者の理解と支援 1(武村) | ・ICF の理念から援助すべき項目を考える<br>・ディスカッションを通して当事者意識を深める | ICF について調べる。（60 分） |
| 9 | 高等教育における障がい者の理解と支援 2(武村) | 短大施設内での環境について探索をして、全ての学生が過ごし易い環境を考える。 | 学内施設や学内の学びの環境について日頃から注意を向けて、授業に役立てられるようにまとめておく。(60 分) |
| 10 | 就労における障がい者の理解と支援<br>(ゲストスピーカー) | 主に、発達障がいのある人の就労について学ぶ。 | 発達障害者の就労支援について、調べておく。(60 分) |
| 11 | 少数派の困難<br>～社会福祉の立場から～(樋口) | 少数派の生きづらさの理解を生活の視点から深める。 | 予習・自分自身や身近な人のことについて「少数派」だと感じることを数点挙げ、そこから来る生活上の制約などを具体的に例示できるようにしておく。 |
| 12 | 福祉における現状と課題<br>(ゲストスピーカー) | 福祉全般の事例を通して、個々の問題点や今後の見通しについて学ぶ | 本時に講師より提示されるテーマについてのレポートを書く。(60 分) |
| 13 | 多様性とステレオタイプ(小澤) | 多様性の尊重においてステレオタイプがどのように関わってくるのかについて学ぶ。 | 特定の集団に対する固定されたイメージを持つことが、何をもたらすのかについて自分なりに説明できるようにしておく。(30 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 多様性の理解とチームビルディング<br>(三宅) | 感覚・思考・記憶の視点から発達の多様性について学び、多様性を尊重するチームビルディングについてグループ演習で考えを深めていく。 | 自身の感覚特性、思考の傾向、記憶の容量、得意な記憶術等について、説明できるようにしておく。(30 分) |
| 15 | まとめ<br>グループ発表<br>(三宅) | 「多様性が理解され尊重される社会の在り方」について、グループで考えをまとめて発表する。 | 15 回の授業を振り返り、多様性が尊重される社会についてまとめる。(30 分) |

**単位の認定について**　講義内で提示される課題を各担当教員の指示に従って提出する。
課題提出 70%　意欲･態度 30%

**教科書**　オムニバス授業のため、教科書を使用せず、適宜資料を配布する。

**参考書**　担当教員がそれぞれの講義で紹介する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題については、授業内で解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れる。

※この授業では、SDGs に関する内容( 4.5.10.11 )を取り入れる。

| 授業科目名 | 情報処理概論Ⅰ （科目コード:TGNSC105） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」認証に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 御手洗正文、木下統、田中秀典 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後、授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：** これからのデジタル社会においては、 ICT・AI 機器等の導入・普及が益々進展するものと推測される。幼稚園・保育園においては情報機器を利用した業務管理や保育児管理システムがすでに利用されており、 ICT・AI 機器・管理ソフトなどを園務等で使いこなすための基礎的素養を身に付ける必要性が高まっている。特に、インターネットの利用と電子メールを含めたワードプロセッシングは、もっとも基礎的な技能といえる。また、データ・AI の利活用においては情報モラルを身に付け、安全な情報管理を図ることが重要となっている。授業では、ワードプロセッシングと情報システムのしくみを理解するとともに、その活用方法の基礎を学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
① 情報機器を安全、安心して利用することができる。
②社会におけるデータ・AI 利活用における情報モラルが身に付き、習得した技術や情報管理について説明ができる。
③情報機器・ソフトなど数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等で使いこなすための基礎的素養が身に付いている。
④ネットワークを利用した情報収集と発信ができる。
⑤ワードプロセッシングの基本的操作を習得し、ビジネス文書、業務文書の作成と文書ファイルの適切な管理ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 情報セキュリティの基礎<br>・データベース・ ICT・AI の利活用と情報モラルについて | ①データベース・ ICT・AI の活用領域の広がりや、最新技術について学ぶ。<br>②情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項について理解を深める。<br>③情報機器とネットワークツールを使用して保育分野のデータ・AI の利活用例について情報収集を行い、その利点と問題点についてグループ討論を行う。 | 現在のデータベース・ ICT・AIの普及と情報モラル、情報セキュリティについて、YouTubeやネット配信を利用してさらに理解を深める(60分)。 |
| 2 | ネットワークの活用<br>・ネットワークと通信ソフトについて | ①学内の Wi-Fi システムを利用するための情報機器設定とインターネットを利用したデータ検索の技術を学ぶ。<br>②データベース・ ICT・AI とインターネットを利用したメディア情報を正しく、安全に活用するための知識や技術を学ぶ。<br>③電子メール・オンラインストレージ、ならびに学内ファイルサーバ、ネットワークプリンター、Google ドライブ、Google Forms、Zoom 等の活用技術を学ぶ。 | Google Forms、Zoom、オンラインストレージ等の情報システムの仕組みについてインターネットを利用してさらに理解を深める(60分)。 |
| 3 | 情報検索と活用演習(1)<br>・ワープロの基本操作とネットワークホルダーの活用について | ①タイピングソフトを用いて、タッチメソッドの練習と文字入力に関する基本操作を学ぶ。<br>②日本と世界の SDGsへの取り組みに関係する記事を収集して理解を深め、興味のある記述等のデータベースを作成して学内の共有ファイルサーバに蓄積・保管する方法を学ぶ。 | Web サイトを利用したタイピングの練習と SDGs関係の文献を収集し、データの整理と安全な保存法を身につける(60 分)。 |
| 4 | 情報検索と活用演習(2)<br>・実社会の Web データ検索による資料収集と感想文の作成 | ①Word の基本操作を学び、文書体裁について理解する。<br>②実社会の題材として、「教育・保育に関する報告・データベース(内閣府サイト)」を検索し、興味を持った記事に対する感想文をワープロで作成し、 Forms に添付して提出する。収集したデータはファイルサーバに保管し、Web データ、Web サーバの基本的な活用法の理解を深める。 | 保育関係のデータベースから資料(文献・データ)を収集し、その活用が日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを理解する(60分)。 |
| 5 | 情報検索と活用演習(3)<br>・新聞データベース検索と記事要約文書の作成 | ①Word で文書を作成するための基本機能を学ぶ。<br>②実例題材として「新聞社のデータベース」から「幼稚園・保育園」に関する記事を収集して興味のある記事の要約を作成し、重要な文、文節、単語の網掛けや均等割り付け等を学ぶ。<br>③「幼稚園・保育園に関する記事」の要約と感想文を Google Forms に添付して提出する。 | デジタル新聞等へのアクセスや情報収集方法を習得する(60分)。 |
| 6 | 保育文書の作成演習 (1)<br>・幼稚園・保育園実習に関する「挨拶文」のデータ収集と自己の仮想挨拶文の作成 | ①Word の拡張機能について学ぶ。<br>②幼稚園・保育園・保育協会等のデータベースを検索して「保育実習における挨拶文」に関する情報を収集し、仮想の「保育実習に向けた挨拶文」を個人用に作成する。<br>③作成した「保育実習に向けての挨拶文」についてグループ発表と相互評価を行なう。<br>④感想文を Google Forms を使って提出する。 | 参考書籍やインターネットを利用して、幼稚園・保育園実習における「挨拶文」に関する資料を収集し、整理しておく(60分)。 |
| 7 | 保育文書の作成演習(2) | ①Word の表挿入と編集方法を学ぶ。 | 参考書籍やインターネットを利用して、幼稚園・保育園実習に |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・「保育指導案」に関するデータベース検索・収集と例文作成 | ②保育協会等のデータベースを検索して「保育指導案」に関する情報を収集し、仮想の「保育指導案」を作成する。<br>③「保育指導案」のグループ発表と相互評価を行なう。<br>④感想文を、 Google Forms を使って提出する。 | 関する「保育指導案」に関する資料を収集し、整理しておく(60分)。 |
| 8 | 保育文書の作成演習(3)<br>・幼稚園・保育園実習に関する「礼状文」のデータ収集と例文作成 | ①Word の飾り文字やイラスト、写真等の編集方法を学ぶ。<br>②幼稚園・保育園・保育協会等のデータベースを検索して「保育実習に関する礼状文」に関する情報を収集し、仮想の「保育実習における礼状文」を作成する。<br>③「保育実習における礼状文」についてグループ発表と相互評価を行なう。<br>④感想文を、 Google Forms を使って提出する。 | 参考書籍やインターネットを利用して、幼稚園・保育園実習に関する「礼状文」に関する資料を収集し、整理しておく(60分)。 |
| 9 | 保育文書の作成演習(4)<br>・文書/表の作成とクリップアート・ワードアート等の画像処理 | ①Word のクリップアートやワードアート、写真の貼り付け、装飾、加工について学ぶ。<br>② Word の表の割付等の編集方法について学ぶ。<br>③幼稚園・保育園・保育協会等のデータベースを検索して年間行事や年間スケジュール等の情報を収集し、仮想の「年間スケジュール表」を作成する。<br>④作成した「年間スケジュールの紹介パンフ」を作成し、グループ発表と相互評価を行なう。 | Word には非常に多くの機能が付帯している。講義時間内に演習できないものも多いので、Web サイトや YouTube 等の Word 解説を参考に付帯機能を修得しておく(60 分)。 |
| 10 | 保育文書の作成演習(5)<br>・「幼稚園・保育園のクラス便り」の作成とネットワークサーバ、ネットワークプリンターの利用 | ①Word のスクリーンショット等の編集方法について学ぶ。<br>②全国幼稚園・保育園における行事案内、保護者連絡、フリーイラスト集等の参考データを Webで収集する。<br>③収集した「お知らせ」、「ご案内」、「園便り」等のモデルパンフ等を参考に、仮想の「春のクラス便り」を作成し、データファイルを学内のファイルサーバに保管する。<br>④ネットワークプリンターを使用して印刷する方法を学ぶ。 | 幼稚園・保育園の「お知らせ」、「案内」、「園便り」に関する情報がネット上に多く取り上げられている。また、これらに関するフリーイラストを提供しているサイトも多い。将来、「幼稚園・保育園」の仕事で役に立ちそうな情報を収集し、データを整理しておく(60 分)。 |
| 11 | 保育文書の作成演習(6)<br>・「春のクラス便り」のネットワーク、ICT・AI 機器を利用した発表 | ①作成した「春のクラス便り」ついて、ネット共有システム(AI 設備機器)を利用して、クラス全員の PC と映像を共有し、スライド投影と併用した作品発表を行なう方法を学ぶ。<br>②作品評価のためのグループ検討会を行なう。<br>③作成した「春のクラス便り」とその感想文を Google Forms を使って提出する。 | 全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「春のクラス便り・園便り」に関する情報とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60分)。 |
| 12 | 保育文書の作成演習(7)<br>・「幼稚園・保育園の夏のクラス便り」の作成とネットワーク機器を利用した発表 | ①Word の画像処理機能を利用して「夏のクラス便り」を作成する方法を学ぶ。<br>②AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像を配信し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。<br>③作品評価のためのグループ検討会を行なう。<br>④作成した「夏のクラス便り」発表の感想文を Google Forms で提出する。 | 全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「夏のクラス便り・園便り」に関する情報とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60分)。 |
| 13 | 保育文書の作成演習(8)<br>・「幼稚園・保育園の運動会のお知らせ」の作成とネットワーク、ICT・AI 機器を利用した発表 | ①Word の画像処理機能を利用して「運動会のお知らせ」を作成する方法を学ぶ。<br>②AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像を投影し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。<br>③作品評価のためのグループ検討会を行なう。<br>④作成した「運動会のお知らせ」発表の感想文を Google Forms で提出する。 | 全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「運動会」に関する文献とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60 分)。 |
| 14 | 保育文書の作成演習(9)<br>・「幼稚園・保育園のクリスマス会のお知らせ」の作成とネットワーク、ICT・AI 機器を利用した発表 | ①Word の画像処理機能を利用して「クリスマス会のお知らせ」を作成する方法を学ぶ。<br>②AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像を投影し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。<br>③作品評価のためのグループ検討会を行なう。<br>④作成した「クリスマス会のお知らせ」発表の感想文を Google Forms で提出する。 | 全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「クリスマス会」に関する情報とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60 分)。 |
| 15 | 情報処理概論Ⅰの総合課題 | 提示された課題に関するレポートを仕上げ、提出する。 | これまでの「振り返り」を充分にしておく。 |

**単位の認定について** 授業の取り組み状況 (20%) ・課題提出 (30%) 、総合課題演習 (50%)

**教科書** ： 教科書は使用しない。必要な資料・情報はデジタルファイルを配布します。

**参考書** ：今すぐ使えるかんたんExcel Word プロ技 BEST セレクション 門脇 香奈子： Kindle 版 (電子書籍)
データサイエンス入門 (岩波新書) 竹村 彰通： Kindle 版 (電子書籍)
眠れなくなるほど面白い 図解 AI とテクノロジーの話 三宅陽一郎：： Kindle 版 (電子書籍)

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、授業の復習に 60 分以上の時間をあてること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題等は、チェック後に解説する。また、提出ファイルは、共通ファイルサーバ（学内ネットワークサーバ）に収納し、いつでも参照できるようにします。

※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

※　この授業では、ＳＤＧｓに関する内容〈1～17 項目〉を取り入れます。

※　本教科は、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」認証を受けた本学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」を構成する科目です。

※　遠隔授業等が必要になった場合は、Zoom による双方向型授業やハイブリッド型授業を取り入れます。

| 授業科目名 | 情報処理概論Ⅱ （科目コード:TGNSC105） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」認証に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 御手洗正文、木下統一、田中秀典 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後、授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**保育現場においても情報機器を利用した園務管理や保育児管理システムがすでに利用されていることから ICT・AI 機器・管理ソフトなどを利用した数理・データサイエンス・AI に関する知識を日常の生活、仕事等で使いこなすための基礎的素養を身に付ける必要性が高まっている。特に、インターネットを利用した情報収集や電子メール、ワードプロセッシングはもとより、多様なデータ処理や分析、図表を活用したレポートやプレゼンテーション、ならび動画作成と配信技術等が必要になっている。また、インターネットを利用したデータ・AI の利活用については情報モラルを身に付け、安全な情報管理を図ることが重要となっている。授業では、Excel による図表作成と基礎的な数理統計学、Power Point によるプレゼンテーション技術、Movie Maker による動画作成と YouTube による動画配信技術、Scratch 言語によるプログラミングと AI 機器の制御について学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**

①情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
②表計算、グラフ作成、基礎的な数理統計分析の技法を学び、レポートの作成ができる。
③プレゼンテーションファイルの作成と発表ができる。
④保育用動画の作成とネット配信ができる。
⑤プログラミングにより保育用の学習ソフトが作成できる。
⑥プログラミングにより保育児、幼稚園児を対象にした AI 機器(ロボット)の動作制御できる。
⑦学修したソフト・情報機器ならびに数理・データ・AI 等に関する知識・技能を活用できるようになる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 情報セキュリティと情報モラルについて | ①情報セキュリティと情報モラルの知識を身に付ける。<br>・法律面からの情報セキュリティと情報モラルについて理解を深める。<br>・SNS の利用と問題点について、情報収集とグループ討議を行い、感想文を Google Forms に添付して提出する。 | 書籍やインターネット配信講座を活用して情報セキュリティと情報モラルにつての知識を深める。(60 分) |
| 2 | 表作成の基礎①<br>・Excel の基礎操作 | ①Excel の入力方法やオートフィル機能などの基本操作について学ぶ。<br>・保育関係の統計 DB の数値データを検索利用<br>・セルへのデータ入力と編集<br>・書式設定と表作成および編集<br>②罫線や計算式を用いた表の作成方法を学ぶ。<br>・基本的な四則演算<br>③演習で作成した Excel ファイルを学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して Excel の基本操作について理解を深める。(60 分) |
| 3 | 表作成の基礎②<br>・Excel の文字列と書式操作 | ①Excel の文字列操作関数、文字列の扱いについて学ぶ。<br>・保育関係法規・規程 DB の文書データを検索利用<br>②条件付き書式と入力規則について学ぶ。<br>③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して Excel の文字列操作関数について理解を深める。 (60 分) |
| 4 | Excel の基本関数と応用関数 | ①Excel の基本関数について学ぶ。<br>・保育関係の統計 DB の数値データを検索利用<br>・SUM、AVERAGE、STDIV、MAX、MIN 等<br>・アンケート処理等で使用頻度の高い関数<br>②応用関数について学ぶ。<br>・条件に応じて処理を分岐させる論理関数<br>③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して Excel の関数機能について理解を深める。(60 分) |
| 5 | Excel の基礎統計とデータ分析 | ①保育に関する数理データの収集と基礎統計を学ぶ。<br>・保育関係統計 DB の数値データを検索利用<br>・ソートとオートフィルタ機能の活用<br>②Excel 分析ツールによるデータ処理について学ぶ。<br>③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して Excel の分析ツールについて理解を深める。(60 分) |
| 6 | Excel のグラフ作成 | ①Excel の基本グラフ作成演習:一般的な棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等の作成について学ぶ。<br>・保育関係統計 DB の数値データを検索利用<br>②応用グラフ作成演習:散布図をはじめとするその他のグラフの作成とグラフの詳細な編集について学ぶ。<br>③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して表計算ソフトのグラフ作成について理解を深める。(60 分) |
| 7 | Excel の応用演習<br>・地域企業の実データ | ①地域企業の実データを用いた Excel の統計処理を学ぶ。<br>②ソート、オートフルオプション、カラースケール、貸出金 | 書籍やインターネット講座を活用して表計算ソフトの |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 解析とグラフ作成 | 残高%の算出方法等を学ぶ。<br>③Excel の円・棒・折れ線等のグラフ作成を学ぶ。<br>④作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | グラフ機能について理解を深める。(60 分) |
| 8 | スライド作成①<br>・Power Point の機能<br>操作 | ①Power Point よる基本的なプレゼンテーション作成を通して、プレースホルダー操作、スライド挿入、書式設定を学ぶ。<br>・保育関係のイラスト DB の画像データを利用<br>②図形や SmartArt グラフィックを作成して、スライドの見栄えを整える方法を学ぶ。<br>③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して Power Point の機能・操作について理解を深める。(60 分) |
| 9 | スライド作成②<br>・Power Point の特殊効果と課題テーマ<br>スライド作成 | ①アニメーションの設定や画面切り替え効果の設定など、プレゼンテーションの特殊効果機能を理解する。<br>・保育関係のイラスト DB の画像データを利用<br>②プレゼンテーションソフトの操作をもとに、設定された課題テーマ(保育関係)のスライドを作成する。<br>③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して Power Point の特殊効果について理解を深める。(60 分) |
| 10 | スライド作成③<br>・プレゼンテーション | ①スライドのグループ発表と評価を行う。<br>・AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像転送し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。<br>②作成した「課題テーマスライド」と感想文を Google Forms に添付して提出する。<br>③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | プレゼンテーションのための予習をする。 (60 分) |
| 11 | 動画の作成① | ①写真、ムービー、音楽、字幕を挿入した動画の作成方法を学ぶ。<br>・保育関係のイラスト DB の画像データを利用<br>・Movie Maker を利用した動画作成の基礎<br>・保育関係アルバムムービーの作成<br>②作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。 | 書籍やインターネット講座を活用して Movie Make の機能・操作について理解を深める。 (60 分) |
| 12 | 動画の作成② | ①作成した動画を YouTube にアップする方法を学ぶ。<br>・YouTube 登録、限定(一般)公開等の各種設定<br>・YouTube の音楽・動画等の著作権チェックシステム<br>②作成した動画についてグループ評価を行なう。 | 書籍やインターネットを活用して YouTube の利用手順や著作権について理解を深める。(60 分) |
| 13 | プログラミング① | ①保育用学習ソフトのプログラム作成技術を学ぶ。<br>・Scratch で開発されたソフト DB の検索<br>・Scratch を利用した動物アニメの作成<br>・Scratch の拡張機能を利用した楽器演奏プログラムの作成<br>②作成した作品についてグループ評価を行なう。 | インターネット講座を活用して Scratch 言語に関するアリゴリズムとプログラミングの基礎知識を深める。(60 分) |
| 14 | プログラミング② | ①最先端のAI技術について理解を深める。<br>・無人タクシー、無人トラクター、ドローン配達システム等についてのネット検索<br>②AI の制御プログラムを学ぶ。<br>・Scratch の拡張機能を利用した AI の動作制御演習<br>③作成したプログラムについてグループ評価を行なう。 | インターネット講座を活用して AI 機器の動作制御プログラミングについての知識を深める。(60 分) |
| 15 | 情報処理概論Ⅱの総合課題 | ①提示された総合課題に関するレポートを仕上げ、提出する。 | これまでの復習をしておく。 |

**単位の認定について**　授業への取り組み状況（20%）・演習課題（30%）、総合課題（50%）
**教科書**　教科書は使用しない。必要な資料・情報はデジタルファイルを配布します。。
**参考書**・Excel 最強の教科書[完全版]すぐに使えて、一生役立つ「成果を生み出す」超エクセル仕事術
藤井 直弥 （著), 大山 啓介 （著）　【Amazon.co.jp 限定】
・文系のための データサイエンスがわかる本　高橋 威知郎 （著）
・はじめての Windows ムービーメーカー　羽石 相 (著)　Kindle 版
・いちばんやさしい AI〈人工知能〉超入門 大西 可奈子 (著)　Kindle 版（電子書籍）
・スクラッチプログラミング　ゲームテクニック集: ゲーム制作に今すぐ使える　鍋藤優 (著)　Kindle 版
・できる たのしくやりきる Scratch3 子ども AI プログラミング入門　小林真輔　形式: Kindle 版
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題等は、チェック後に解説する。
また、提出ファイルは、学内のファイルサーバに保存し、いつでも学生が参照できるようにしています。
※ 本教科は、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認証を受けた本学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」を構成する科目です。
※　遠隔授業等が必要になった場合は、Zoom による双方向型授業やハイブリッド型授業を取り入れます。

| 授業科目名 | 情報処理概論 A(科目コード:TGNSC105) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀 彩子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 1 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**本講義の目的は、現代のビジネス社会で必要とされる IT 技術、情報モラルに関する基本知識を身につけることである。また、コンピュータの基本操作やソフトウェアの演習などを通して、情報機器への興味喚起や数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義を理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・情報処理の基礎や数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義について説明できる。
・情報(数理・データサイエンス・AI 等)を活用する上でのモラルの重要性を理解している。
・ハードウェアやソフトウェアに関する基本的知識・技能を修得している。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>項目①(導入 1-1) | 学習の進め方について理解する。日常生活の中にあるコンピュータについて調べ、社会で起きている変化を知る。特に、現代ビジネスと数理・データサイエンス・AI の関わりについて学ぶ。 | 受講に必要となるツールについて復習する(30 分) |
| 2 | 情報社会の発展と技術<br>項目①(導入 1-6) | 情報とは何か、情報社会へとどのように発展したか、現代社会における情報技術の活用例や AI 最新技術の役割、AI 等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーションなど)について学ぶ。 | 身近で使われている情報技術、AI 等を活用した新しいビジネスモデルについて調べる。(30 分) |
| 3 | PC の基本操作<br>項目②(導入 1-2、1-3) | ログイン・ログアウト、ファイルやフォルダの操作・管理、各種アプリケーションソフトの操作方法を身につけ、社会でどのようなデータが集められ、どう活用されているかを知る。 | 基本操作を復習する。(30 分) |
| 4 | ハードウェアの仕組み | ハードウェアの構成やコンピュータの仕組み、ハードウェアの接続方法や周辺機器とインターフェイスの活用方法を学ぶ。 | ハードウェアの仕組みについて復習する。(30 分) |
| 5 | ソフトウェアの役割(1) | オペレーティングシステムの機能や仕組みと、代表的なアプリケーションソフトの操作方法を学ぶ。 | アプリケーションソフトの操作を復習する。(30 分) |
| 6 | ソフトウェアの役割(2) | 引き続き、代表的なアプリケーションソフトの操作方法を学ぶ。 | アプリケーションソフトの操作を復習する。(30 分) |
| 7 | デジタルデータの収集と処理 | コンピュータネットワークを使って、様々なデータを取得し、簡易的な処理をおこなう方法を学習する。 | データ収集ツールの操作を復習する。(30 分) |
| 8 | 中間確認問題 | 自分で収集したデータを適切な形に処理し、レポートにまとめる課題に取り組む。 | 確認問題のフィードバックを読み復習する。(30 分) |
| 9 | ネットワーク | ネットワークの仕組みや通信プロトコル、Web、IP アドレスなどを学ぶ。 | ネットワークの仕組みについて復習する。(30 分) |
| 10 | 情報モラルとマナー(1)<br>項目④(心得 3-1、3-2) | データ・AI を利活用する上で知っておくべきこと、情報活用に関わる法律やモラルやマナーの内容について学習する。また、情報モラルとマナーについてグループ討論により理解を深める。 | 情報モラルに関する記事を調べまとめる。(30 分) |
| 11 | 情報モラルとマナー(2)<br>項目④(心得 3-1、3-2) | 情報モラルに関わる問題について、学習ビデオ講座を用いて学ぶ。 | 動画の感想をまとめる。(30 分) |
| 12 | デジタルデータの活用(1)<br>項目③(導入 1-4) | 画像処理ソフトを活用し、画像処理の方法とその仕組みについて学習する。また、データ・AI を活用するために使われている画像/動画処理/音声/音楽処理などの技術の概要を知る。 | 画像処理ソフトを用いて作品を作成する。(30 分) |
| 13 | デジタルデータの活用(2)<br>項目③(導入 1-4) | 画像処理ソフトを活用し、画像処理の方法とその仕組みについて学習する。また、データ・AI を活用するために使われている画像/動画処理/音声/音楽処理などの技術の概要を知る。 | 画像処理ソフトを用いて作品を作成する。(30 分) |
| 14 | 情報の発信 | デジタルデータを活用し作成した作品を、ネットワーク配信する方法を学ぶ。 | 情報の発信方法について復習する。(30 分) |
| 15 | まとめ | 本講義の振り返り、ならびに総合課題を実施する。 | これまでの総復習に取り組む。(30 分) |

**単位の認定について**　授業の取り組み状況（20%）、提出物（30%）、総合課題（50%）
**教科書**　教科書は使用しない。必要な資料・情報は授業用共有フォルダ等からダウンロードする。
**参考書**　これだけは知っておこう！情報リテラシー　改定第 5 版（noa 出版）
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、授業の復習に 30 分以上の時間をあてること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題等は、チェック後に解説する。また、提出ファイルは、

共通フォルダ（学内ネットワークサーバ）に収納し、いつでも参照できるようにする。

※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

※　この授業では、ＳＤＧｓに関する内容〈1～17 項目〉を取り入れます。

※　トピック欄の（　）は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）に関わる「モデルカリキュラム対応箇所」を標記しています。

| 授業科目名 | 情報処理概論 B（科目コード：TCITC101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | | | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀彩子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 1 年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** 本講義の目的は、SNS や IoT、ビッグデータ、AI と言った、社会を取り巻く新たな情報技術に関する知識を身につけることである。さらに、ネットワークに関する様々な危険性を理解し、情報セキュリティに関する正しい知識を身につける。また、デジタルデータの活用についても学修する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**評価指標：**・情報処理に関する応用知識を理解している。
・情報を活用する上でのセキュリティの重要性を理解している。
・IoT や AI、ビッグデータ等について説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について理解する。<br>コンピュータに関わる基礎知識の理解状況を把握する。 | コンピュータの基礎知識について振り返る。(30 分) |
| 2 | 情報の伝達 | ソーシャルネットワーキングの仕組みや利用について学習する。 | SNS の記事について調べる。(30 分) |
| 3 | クラウドコンピューティングの仕組み | クラウドコンピューティングの仕組みと活用方法について学ぶ。 | どのようなクラウドサービスがあるかを調べる。(30 分) |
| 4 | IoT 技術 | IoT 時代と仕組みについて学ぶ。 | 身近にある IoT 技術について調べる。(30 分) |
| 5 | IoT の活用 | IoT の活用事例について学ぶ。 | IoT の活用事例を調べる。(30 分) |
| 6 | 情報セキュリティ(1)<br>項目④(基礎 3-2) | 情報セキュリティの現状と問題点について理解し、ネットワークの危険性とその対処法について学習する。 | 情報セキュリティに関する記事を調べまとめる。(30 分) |
| 7 | AI 利活用の必要性<br>項目③(導入 1-5) | 流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等の業態でデータ・AI 活用が進んでいる。最新のビジネスモデルや活用事例を学ぶ。 | データを活用したビジネスやサービスの中で使われている AI 技術についてまとめる。(30 分) |
| 8 | ビッグデータの仕組み<br>項目①(基礎 1-1) | ビッグデータの仕組みについて学習する。 | ビッグデータの仕組について復習する。(30 分) |
| 9 | ビッグデータの活用<br>項目③(基礎 1-5) | ビッグデータの効果的な活用として、外部団体(国の行政機関)のデータを取得し、データの解析と可視化(グラフ化)を行い、その活用方法について学ぶ。 | ビッグデータの活用事例を調べる。(30 分) |
| 10 | AI(人工知能)<br>項目③(基礎 1-4) | 深層学習、機械学習などを通して AI の仕組みについて学ぶ。 | AIの事例について調べる。(30 分) |
| 11 | AI と技術革新<br>項目①(基礎 1-1) | 今後 AI が社会にどのような影響を与えるかについて学習する。 | AI がもたらす社会について考える。(30 分) |
| 12 | データの活用(1)<br>項目⑤(基礎 2-1) | 日常生活や職場でデータ・AI を使いこなすための基礎的素養を身に付け、身の回りのデータを適切に読み解くことを学ぶ。<br>また、データの種類(量的変数、質的変数)とデータの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)等について学ぶ。 | どのように収集されたデータなのかを分析し、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)を理解する。(30 分) |
| 13 | データの活用(2)<br>項目⑤(基礎 2-2) | データの特性に合わせた図表やグラフの種類の知識を得て、データを適切に説明する力を身に付ける。また、不適切に処理されたデータや図表に気付くことができる。 | データの特性に合わせた図表やグラフの種類をまとめる。(30 分) |
| 14 | データの活用(3)<br>項目⑤(基礎 2-3) | 表計算やデータベースソフトを使って、データを集計し、加工することを学び、適切に処理することを身に付ける。 | データを加工し、適切な図表やグラフにする。(30 分) |
| 15 | まとめ | 本講義の振り返りならびに最終課題について理解する。 | 最終課題に取り組む。(30 分) |

**単位の認定について**　授業の取り組み状況（20%）、課題提出（30%）、総合課題演習（50%）
**教科書**　教科書は使用しない。必要な資料・情報は授業用共有フォルダ等からダウンロードする。
**参考書**　教養としてのコンピューターサイエンス講義（日経ＢＰ）ブライアン・カーニハン
プログラミング入門講座（ＳＢクリエイティブ）米田昌悟
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、授業の復習に 30 分以上の時間をあてること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題等は、チェック後に解説する。また、提出ファイルは、共通フォルダ（学内ネットワークサーバ）に収納し、いつでも参照できるようにする。

※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。
※　この授業では、ＳＤＧｓに関する内容〈1～17 項目〉を取り入れます。
※　本教科は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」認証を申請する本学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」を構成する科目です。トピック名欄の（）内は「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に関わる「モデルカリキュラムの対応箇所」を標記しています。

| 授業科目名 | 心理学概論 （科目コード:TGHUM104） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 井上浩義 （h-inoue@mgjc.ac.jp） | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科・全学年 | 開講時期 | 前期・後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** 本授業では、心理学の様々な基礎的領域を学び、それを自身の問題に置き換えて考えることを行う。それにより、思い込みや感情的な解釈にとらわれず、事実を捉え、柔軟に対処しようとする態度を養う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ |

**到達目標：**・心理学の基礎的な知識が身につけられている。
・心理学の基礎的な知識を自身の問題に置き換えて考えることができる。
・思い込みや感情的な解釈にとらわれず、事実を捉え、柔軟に対処しようとする態度を養えている。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 心理学とは | 心理学とはどのようなものかについて学ぶ | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |
| 2 | 心理学の歴史 | 哲学から心理学への流れについて学ぶ<br>(録画での遠隔授業対応回) | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |
| 3 | 認知心理学① | 認知心理学と錯視<br>(録画での遠隔授業対応回) | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |
| 4 | 認知心理学② | 認知心理学と記憶<br>(録画での遠隔授業対応回) | 学習内容を自身の問題に置き換えて考える(30 分)。 |
| 5 | 認知心理学③ | 認知心理学と学習<br>(録画での遠隔授業対応回) | 学習内容を自身の問題に置き換えて考える(30 分)。 |
| 6 | 発達心理学 | ヒトのこころの発達的変化<br>(録画での遠隔授業対応回) | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |
| 7 | 臨床心理学 | さまざまなこころの問題と、カウンセリング<br>(録画での遠隔授業対応回) | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |
| 8 | 社会心理学 | パーソナルスペースについて<br>ストップディスタンス法による実験 | パーソナルスペース実験を行う。心理社会的距離について考える(60 分) |
| 9 | 心理学の研究法① 検査法 | 様々な心理学の研究方法を知る<br>知能検査 （録画での遠隔授業対応回） | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |
| 10 | 心理学の研究法② 検査法 | 様々な心理学の研究方法を知る<br>知能検査(録画での遠隔授業対応回) | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |
| 11 | 心理学の研究法③ 調査法 | さまざまな心理学の研究法を知る<br>SD 法とデータ集計を体験する | 調べたデータを基に考察したことを、レポートにまとめる。(60 分) |
| 12 | 心理学の研究法④ 実験法 | さまざまな心理学の研究法を知る<br>鏡映描写実験(両側性転移)とデータ集計 | 実験を行う。実験結果を、集約する。(60 分) |
| 13 | 心理学の研究法⑤ | 実験から論文へ<br>鏡映描写実験のレポート作成 | 実験結果を、論文としてまとめ、執筆する。(60 分) |
| 14 | 恋愛心理学 | 出会い・進展・深化における心理学<br>(録画での遠隔授業対応回) | 学習内容を自身の問題に置き換えて考える(30 分)。 |
| 15 | まとめ | ここまで学んだことについてまとめる | 授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。 |

**単位の認定について**
試験 60% 復習テスト 10% 授業態度 10% 授業外学習(課題)20%

**教科書 参考書**
必要に応じて、担当者が伝える。

**授業外学習について**
指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
毎回授業冒頭に、Universal Passport を使用して、前回の内容について復習テストを実施します。

**課題に対するフィードバックの方法**
提出された課題はチェック後に解説する。授業中に理解度を確認するために Universal Passport を使用します。

**※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。**

| 授業科目名 | 生涯学習概論(科目コード:TGSSC105) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 高橋利行 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 1, 2 年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**人間が社会の変化に対応し、よりよく生きるためには生涯にわたる学習が重要であるという生涯学習の理念及び社会的背景等を明確にするとともに、生涯学習社会形成のための課題や在り方について講義する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**

① 生涯学習の理念や必要性、社会的背景や系譜及び生涯学習施設の役割や在り方について説明できる。
② 生涯学習社会における家庭教育、学校教育、社会教育の定義や課題、在り方について説明できる。
③ 生涯各期の学習課題と学習内容・方法、学習ニーズとニーズに対応する学習支援の方法について説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生涯学習の定義 | 教育と学習の違い、生涯学習の定義、教育の3つの類型等について解説する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 2 | 生涯学習の系譜と必要性 | 生涯学習の起源や社会的背景、日本における生涯学習の施策や動向について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 3 | 生涯学習の理念と理論 | 生涯学習の理念や理論、生涯学習と他の教育との関係、生涯学習社会の方向性について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 4 | 生涯学習と家庭教育 | 生涯学習における家庭教育の定義と役割、家庭教育の現状と課題について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 5 | 生涯学習と学校教育 | 生涯学習における学校教育の位置づけ、開かれた学校の考え方と具体的方策等について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 6 | 生涯学習と社会教育 | 生涯学習における社会教育の位置づけ、社会教育の定義と内容・方法や在り方等について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 7 | 生涯学習と行政の仕組 | 一般行政と教育行政の関係、生涯学習の推進と教育行政との関係について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 8 | 生涯学習の内容と形態・方法 | 学習指導の支援原理など、学習内容と方法の類型とその特徴について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 9 | 生涯各期の発達課題と学習 | ライフサイクルとライフステージの考え方、生涯各期の発達課題と学習内容について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 10 | 学習プログラムの企画・立案 | 生涯学習支援計画の類型、学習プログラム作成の必要性、企画立案の基本的条件について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 11 | 生涯学習と学習施設 | 生涯学習を支援する施設の専門職員の種類と役割、施設における学習支援の在り方について講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 12 | 生涯学習と民間団体との関係 | 民間団体による生涯学習支援の具体的な活動事例を解説し、行政と民間との連携による学習支援の在り方につて講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 13 | 生涯学習と指導者・支援者 | 生涯学習を支援する専門職員・指導者・支援者について、学習支援者としての心得、在り方を講義する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 14 | 生涯学習とボランティア | 生涯学習とボランティアの関係を理解し、超高齢社会を自分らしく、よりよく生きるための在り方を考察する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 15 | まとめ | これまでの生涯学習に関する授業のまとめを行う。 | 振り返りをする。(30 分) |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度(30%)　学期末テスト(70%)
**教科書**　授業内で指定する。
**参考書**　授業内で指定する。
**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 数学（科目コード:TGNSC104） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担　当　者 | 保田　昌秀　(myasuda@sky.miyazaki-mic.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 全学科 1, 2 年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |
| 授業概要： 数学の基礎知識と考え方を習得し、他人に教えることができる。 | | | | | | | | |

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ |

**到達目標：** ①数学の基礎知識と数学の学び方を習得し、中学生・高校生に教えることができる。
②発展的な課題として、データの解析方法およびエクセルの使い方を学ぶ。

**授　業　計　画　表**

| 回 | トピック名 | 概　　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 数学の約束事<br>数の分類 | 括弧、符号、加減乗除などの数学の約束事および整数、有理数、素数、素因数分解を学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 2 | 分数と小数 | 分数の定義と小数への変換、無理数について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 3 | 累乗数と平方根 | 指数と累乗数、累乗数の掛け算、指数がマイナスの時、小数の時、0.5 の時(平方根)の計算、有理化を学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 4 | 計算 | マイナスにマイナスを掛ける、括弧の意味、式の展開について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 5 | 数式 | 文章を数式にする。比例式について学ぶ。未知数を文字にして数式を立てる。 | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 6 | 平面図形 | 平面図形の面積、ピタゴラスの定義 | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 7 | 三角形と円 | 三角形と円(角度、面積) | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 8 | 立体図形<br>前半のまとめ | 立体図形の体積、前半 8 回分の内容の演習を行い、理解を深める | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 9 | データ分析(変量と分散)・中間試験 | データの整理法として、四分位数と箱ひげ図を学ぶ。<br>前半 8 回分の内容について試験を行う | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 10 | 標準偏差 | データ集団の整理法として、平均値、分散、標準偏差を理解する。 | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 11 | 度数分布と正規分布 | 度数分布、ヒストグラム。 | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 12 | 標準正規分布の活用 | 度数分布と正規分布の関係(統計処理)について学ぶ。 | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 13 | 検定 | データの抽出と検定(Z 検定、t 検定)について学ぶ | 授業内容の復習および与えられた課題を解く |
| 14 | 相関 | 身長と体重の関係のような 2 次元のデータの解析法と相関係数を理解する。 | グループで課題を解く |
| 15 | 後半のまとめ | 後半4回分の内容の演習を行い、理解を深める | グループで課題を解く |

**単位の認定について：**中間試験 50%　期末試験 37%　平常点 13%
**教科書：** 必要に応じてプリントを配布
**参考書：** 授業中に適宜紹介する。
**授業外学習について：**適宜、課題を出す。指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法：** 次回の授業冒頭で解答を示す。
※　本教科は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル)」認証を申請する本学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」を構成する科目（その他）となっています。

| 授業科目名 | 生物学（科目コード:TGNSC101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 髙妻瑠弥乃 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科 1、2 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**身近な自然や生物に興味をもち、自然を大切にする心や態度を身に付けることは大切である。特に郷土宮崎の将来を担う人材となるために、宮崎の自然や生物、農業を生物学的視点で見ることは大変有意義なことである。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ |

**到達目標：** 郷土宮崎の豊かな自然や多様な生物、眼には見えないけれども食品や環境等様々なところで活躍している微生物について正しく理解し、宮崎の生物学的な特徴や身近な生物について説明することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 生物とはなにか、また生物学とはどのような学問かを理解する。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 2 | 宮崎の自然 | 日本に生息する動植物について知る。学内植物地図の作成。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 3 | 自然環境と生物 | 植物の基本を学ぶ。葉脈標本づくり。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 4 | 将来に残したい宮崎の希少生物 | 希少生物の実態と保護のあり方を理解し、生物多様性の意義を知る。希少生物の調べ学習。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30） |
| 5 | 環境指標生物 | 環境指標生物を通して身近な自然環境を知る。宮崎の環境指標生物の調べ学習。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 6 | 水生生物の観察 | 水生生物の観察を通して、特徴を理解する。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 7 | 宮崎の自然と農業 | 宮崎の自然環境と農林業、畜産業、水産業の実態を知るとともに、経済動物について理解する。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 8 | 穀類の生物学特徴 | 世界三大穀物の生物学的な特徴を理解する。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 9 | 小麦粉のグルテン抽出 | 小麦粉たんぱく質の性質について実験を通じて理解する。グルテンの抽出実験。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 10 | 食品と微生物の世界 | 発酵食品等様々な形で食品に関係している微生物について理解する。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 11 | パン酵母の発酵試験 | パン酵母の発酵試験を通じて、発酵食品の基礎的概念を理解する。イースト菌の発酵実験。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 12 | 微生物を利用した食品 | 微生物を利用して作られた食品の特長を理解する。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 13 | 空中落下細菌培養観察 | 空中落下細菌の培養観察を通して、微生物の多様性を知るとともに環境衛生の重要性を理解する。食パンのカビ実験。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 14 | DNA | DNA の特徴を理解する。DNA の抽出実験。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |
| 15 | 微生物の利用と将来性 | 食品、医薬品、環境保全などの様々な分野で応用される微生物の将来性と利用を理解する。 | 授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分） |

**単位の認定について**　試験70%, レポート等の提出物30%、授業への取り組み10%

**教科書**：授業ごとに資料を配布する

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

この授業はアクティブラーニングを実施します。

| 授業科目名 | 体育実技 （科目コード:TGPHY102） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 伊東朋子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　毎授業後 | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 実技 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**生涯にわたる健康づくりの基礎を身に付けるとともに、各種の運動やスポーツを楽しむことで、体力の維持・増進を図り、心身ともに健康で豊かな学生生活の向上を目指す。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：**健康の保持増進に強い関心を持ち、自ら進んで運動実践に取り組む。
自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康、安全を確保する。
授業内容を工夫してノートに記録する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | バレーボール | グループ編成、ルールの確認、基礎練習について学ぶ。 | バレーボールのルールと技術を調べる。(40分)<br>各班で時間毎の練習の内容を考え、練習メニューを作っておく。(40分) |
| 2 | バレーボール | グループ練習とゲームを実践する。 | 各班で時間毎の練習の内容を考え、練習メニューを作っておく。(40分) |
| 3 | バレーボール | グループ練習とゲームを実践する。 | 各班で時間毎の練習の内容を考え、練習メニューを作っておく。(40分) |
| 4 | バレーボール | グループ練習とゲームを実践する。 | ゲームの展開を考え、自チームのフォーメーションや作戦を作っておく。(40分) |
| 5 | バレーボール | グループ練習とゲームを実践する。 | ゲームの展開を考え、自チームのフォーメーションや作戦を作っておく。(40分) |
| 6 | バレーボール | グループ練習とゲームを実践する。 | 大会企画をし、競技会の準備を整えておく。(40分) |
| 7 | バレーボール | グループ練習とゲームを実践する。 | 大会企画をし、競技会の準備を整えておく。(40分) |
| 8 | バドミントン | グループ編成、ルールの確認、基礎練習について学ぶ。 | 各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分) |
| 9 | バドミントン | グループ練習とゲームを実践する。 | 各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分) |
| 10 | バドミントン | グループ練習とゲームを実践する。 | 各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分) |
| 11 | バドミントン | グループ練習とゲームを実践する。 | 各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分) |
| 12 | バドミントン | グループ練習とゲームを実践する。 | ゲームの展開を考え、他グループとの練習試合を事前に計画してゲームの運営を実践する。(40分) |
| 13 | バドミントン | グループ練習とゲームを実践する。 | ゲームの展開を考え、他グループとの練習試合を事前に計画してゲームの運営を実践する。(40分) |
| 14 | バドミントン | グループ練習とゲームを実践する。 | ゲームの展開を考え、他グループとの練習試合を事前に計画してゲームの運営を実践する。(40分) |
| 15 | まとめ | 実技について、習熟度の確認を行う。 | 行ったことについて、まとめる。(60 分) |

**単位の認定について**　実技への取組み(25%)、服装・態度(25%)、授業内での実技試験(50%)で評価し、60 点以上が合格点。

**参考書**　印刷物を配布する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

| 授業科目名 | 人間の研究 「勤　労」　（科目コード:TGGEN103） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担　当　者 | 南中道 隆 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科　1年<br>保 育 科 1年 | 開講時期 | 前期・後期<br>後　期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**　建学の精神である「礼節と勤労」を具現化することを目標とします。「勤労」においては、心身を労して、自主的かつ積極的に取り組むことの大切さを学び、能動的思考や態度を育てることを目指します。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科 DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ　◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**建学の精神、勤労の意義、勤労の権利と義務、日本人の勤勉性、男女共同参画社会、働き方改革について説明できる。実習に積極的に参加し記録ができる。サツマイモやソラマメの栽培方法やポイントが具体的に説明できる。

**授　業　計　画　表**

| 回 | トピック名 | 概　　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業内容・授業の進め方及び単位認定について学ぶ。大坪資秀氏の「建学の精神」と「勤労」の意義について学ぶ。(Zoom による遠隔授業対応回) | ノートを準備しまとめ方について考える。「学生便覧」のP. 16を活用し、事前にまとめてくる。(30分) |
| 2 | 収穫実習1 | ソラマメ(前期)またはサツマイモ(後期)の特性や収穫実習の要領及び実習記録の記述について学び、グループで役割分担を行う。(Zoom による遠隔授業対応回) | 収穫の手順やポイントを考えて、効率的に作業が行えるようにする(30分) |
| 3 | 収穫実習2 | ソラマメ(前期)またはさつまいも(後期)の収穫実習を通してその特性を理解する。 | 気付いたことなどについて、実習記録にまとめる。(60分) |
| 4 | 勤労の権利と義務<br>勤労の意義と重要性 | 日本国憲法や労働三法などを調べ、労働の権利と義務について理解する。また勤労の意義と重要性について理解する。(Zoom による遠隔授業対応回) | マズローの「欲求5段階説」を調べ、自分なりの「自己実現」について考える。(60分) |
| 5 | 栽培実習1 | サツマイモ(前期)またはソラマメ(後期)の特性や畑の準備について学び、グループで役割分担を行う。(Zoom による遠隔授業対応回) | サツマイモまたはソラマメ栽培の手順や準備物を理解し、実践できるようにまとめる。(60分) |
| 6 | 栽培実習2 | サツマイモ(前期)またはソラマメ(後期)の栽培実習を通して、施肥や畝づくり、マルチシート張りの仕方を理解する。 | 実習を通して、気付いたことや学んだこと等について、実習記録をまとめる。(60分) |
| 7 | 栽培実習3 | サツマイモ(前期)またはソラマメ(後期)の栽培実習を通して、苗や種用の穴あけや挿苗・播種の仕方を理解する。 | 実習を通して、気付いたことや学んだこと等について、実習記録をまとめる。(60分) |
| 8 | 宮崎県の先人たち1 | 郷土を代表する先人たちの働きや功績を学び、志の大切さや将来の生き方を考える。(Zoom による遠隔授業対応回) | 現在活躍している宮崎県出身者を調べ、ワークシートにまとめる。(60分) |
| 9 | 宮崎県の先人たち2 | 安井息軒記念館を訪問し、講話や展示品の見学を通して、息軒先生の生き方や功績を学ぶ。 | 安井息軒記念館を見学して気付いたことや考えたことをまとめる。(60分) |
| 10 | 近江商人に学ぶ | 授業ビデオ「てんびんの詩」第1部を視聴し、働くことの意味や心構え、信頼関係等について考える。(Zoom による遠隔授業対応回) | 心に残った言葉や場面を書きだし、自分の体験等を交えながら感想文を書く。(60分) |
| 11 | 働き方改革 | 一億総活躍社会の実現を目指すための「働き方改革」について学び、卒業後の自分の「ワーク・ライフ・バランス」について考える。(Zoom による遠隔授業対応回) | 自分のこれからを見据えながら、キャリア・プランニングを行う。(60分) |
| 12 | 男女共同参画社会1 | 男女共同参画社会の意味や意義、ジェンダー・フリーについて学び、男女が手を携える職場づくりについて考える。(Zoom による遠隔授業対応回) | ジェンダー・フリーな社会になるために、自分ができることを考えてまとめる。(60分) |
| 13 | 男女共同参画社会2 | 雇用の分野における男女の均等な機会や待遇の確保などに関する法律について理解する。(Zoom による遠隔授業対応回) | 男女雇用機会均等や育児休業、介護休業についてまとめる。(30分) |
| 14 | プロフェッショナルに学ぶ | 授業動画「ビル清掃員　新津春子」を視聴し、プロフェッショナルとして必要な実践力や心構え等について学び、将来目指す職業に生かせることを考える。(Zoom による遠隔授業対応回) | プロフェッショナルと言われる理由を考え、将来の自分の職業で生かしたいことなどをまとめる。(60分) |
| 15 | まとめ | 前期または後期の授業を振り返り、まとめる。(Zoom による遠隔授業対応回) | 勤労の授業を通して学んだことをまとめる。(30分) |

**単位の認定について**

実習への取り組み状況及び授業に対する勤勉度　約30％実習記録の提出状況、実習記録の内容　約20％
感想文（レポート）の内容約20％　記述試験　約30％を総合して評価。 60％以上獲得で単位認定

**参考書**　必要な事柄については、その都度印刷物を配付する。

**時間外学習について**　指示された時間外学習についてまとめ、次の授業までに作成し提出する。1時間以上予習・復習を行なう。

※ この授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れて行います。
※ この授業では、SDGsに関する内容（5，8，10，11）を取り入れています。

| 授業科目名 | 人間の研究(礼節)　(科目コード:) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 山本優子　　長瀬富美子 f-nagase@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科 1 年 | 開講時期 | 前期 /後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**

本学の建学の精神をふまえ、一般礼節の基本的な知識と心得を学び、場にふさわしい所作を習得する。日常生活や公の場で今なすべきこと、他者から求められていることが何であるか、人としての心の在り方を考え、自ら礼儀正しい行動ができることを目指す。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ ◎ | Ⅱ ○ | Ⅲ ○ | Ⅳ ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ ◎ |

**到達目標：**
1 清潔感のある服装・身だしなみを整え、授業に積極的に臨むことができる。
2 TPO に応じた美しい立ち居振る舞いを心がけ、日常生活の中で実践することができる。
3 日常の言葉遣いの基本と敬語の正しい使い方を理解し、日常生活の中で実践できる。
4 授業内容の中から課題を見出し興味深く調べ実践に繋げる、授業外学習の取組ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業概要と内容、取り組み、評価について理解し明教庵での心得を学ぶ。TPO に応じたお辞儀を学び実践する。メール送受信の心得について理解する。Universal Passport を使って「授業に関するアンケート」を実施する。 | 学生便覧等を参考にして、本学の「建学の精神」(礼節)について調べる。「メールの心得」について調べまとめる。(30 分) |
| 2 | 建学の精神/<br>基本的な立ち居振る舞い Ⅰ(洋室) | 建学の精神(礼節)について理解し、自分の目指す「清潔感のある学生像」を考える。<br>洋室への入退室、立礼、椅子のかけ方、人の話を聴く時の姿勢と態度、物の持ち方と渡し方などの基本動作を学び実践する。 | 「公共のマナー」について調べ、自分の考えをまとめる。(30 分) |
| 3 | 言葉遣い Ⅰ/<br>基本的な立ち居振る舞い Ⅱ(和室) | 日常の言葉遣い、話し方のポイントについて学ぶ。<br>和室への入退室、歩き方、座礼、跪座、立ち方と座り方などの基本動作を学び実践する。 | 「敬語」について調べ、整理してまとめる。(30 分) |
| 4 | 言葉遣い Ⅱ/<br>実技テスト(和室) | 敬語の種類と正しい使い方について学ぶ。<br>ロールプレイングを行い、TPO に応じた敬語の使い方を実践する。 | 「間違いやすい敬語」についてまとめる。(30 分) |
| 5 | 冠婚葬祭の作法 Ⅰ | 慶事・行事の心得を学び、儀式における振る舞いを学ぶ。座布団の使い方を実践する。(グループワーク) | 「人生の祝い事」について調べまとめる。(30 分) |
| 6 | 冠婚葬祭の作法 Ⅱ | 弔事の心得を学び、儀式における振る舞いを学ぶ。<br>金包みと表書きの心得・袱紗の扱いを学び実践する。 | 慶事・弔事に用いられる「金包み」について調べまとめる。(30 分) |
| 7 | 手紙の書き方 | 手紙の心得、手紙文の基本構成、便箋・封筒の書き方を学ぶ。お礼状の内容を考え、下書きを作成する。 | 「時候のあいさつ」について調べる。(30 分) |
| 8 | 実技テスト(洋室) | 訪問時の客の心得について、自分の理解度を確認する。お礼状の清書に取り組む。 | お礼状を仕上げる。(30 分) |
| 9 | 筆記テスト/<br>電話のかけ方 | 一般的な電話のかけ方、受け方について学ぶ。<br>DVD を視聴し、応用力・実践力につなげる。<br>実習先訪問に向けてロールプレイングを行う。 | 「電話のかけ方と応対のマナー」について整理しまとめる。(30 分) |
| 10 | 食事作法 Ⅰ | 日本料理の種類について理解し、正しい箸づかいの演習を行い、基本的な心得と食事作法を学ぶ。 | 「日本料理の特徴とマナー」について調べまとめる。(30 分) |
| 11 | 食事作法 Ⅱ | 西洋料理の基本的な心得と作法について学び実践する。 | 訪問する際の「客の心得」について調べまとめる。(30 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 12 | 職場でのマナー | 社会人としての基本的な心得、職場でのマナーと身だしなみについて学ぶ。 | 「社会人としての基本的な心得」について調べまとめる。(30 分) |
| 13 | 訪問と応対 | 席次のマナーについて学ぶ。<br>訪問する側ともてなす側の心得と所作について学ぶ。茶の種類と特徴を捉え、煎茶の美味しい淹れ方、茶菓のすすめ方、いただき方を学ぶ。(グループワーク) | 「茶の種類、成分、効能、美味しい淹れ方」について調べる。(30 分) |
| 14 | 茶道 Ⅰ | 床の間の拝見、扇子の扱い、お菓子と薄茶のいただき方、道具の名称や扱いなど、客と亭主の心得を学び実践する。 | 「茶道の歴史」について調べる。<br>(30 分) |
| 15 | 茶道 Ⅱ /まとめ | 客と亭主の心得を通して、茶道の精神にふれる。<br>(グループワーク)<br>半年間の学びと取り組み、到達度を自己評価し、今後の目標と課題を掲げる。 | SDGs 目標 13【気候変動】及びその影響を軽減するための対策を考える。<br>(30 分) |

**単位の認定について**　実技テスト25%、筆記テスト35%、提出物40%を総合して評価。60%以上獲得で単位認定。

**参考書**

「新 生活教養」近喰晴子他共著 建帛社、「しつけの事典」小笠原清信監修 東陽出版、「日本人の礼儀と心」小笠原忠統 ダン社

**授業外学習について**

指示された授業外学習に取り組み、次の授業までに作成し提出する。既習内容については、日常生活で意識して取り組み、身に付ける努力をして実践につなげていくこと。指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
※この授業は、SDGs に関する内容＜13＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 日本国憲法（科目コード:TGSSC101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 佐保　忠智　（tadatomo-saho@mgjc.ac.jp） | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**

①法の体系を知り、憲法が国家の最高法規であることを理解する。
②日本国憲法の制定過程を学習し、日本国憲法の基本原理を理解する。
③基本的人権の本質や人権の種類、公共の福祉に関する学習を通して自己の人権感覚を高める。
④民主政治の原理や権力分立に関する学習を通して民主政治の重要性を理解する。
⑤国会の地位や組織、内閣の権限や組織、裁判所の構成や役割、地方自治に関する学習を通して主権者としての自覚を高める。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ○ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ | |

**到達目標：**

①日本国憲法の性格、日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義についてその意義の理解を図り、 基本的人権や国会、内閣、裁判所、地方自治などに関する知識理解を確かなものにする。
②学習活動全体を通して、科学的に根拠をもって考える思考力を身に付けるとともに保育士・幼稚園教諭（保育教諭）に必要な法的感覚と基礎的な法知識の習得を図る。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 法の体系と憲法の概要に関する学習 | 憲法が最高法規であること、法体系として憲法を頂点として法律や命令、規則、条例等の各種の法が制定されていること、上位の法に反してはならないことなどを知る。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 2 | 日本国憲法の制定過程と基本原理に関する学習 | ポツダム宣言を受諾した我が国は大日本帝国憲法を根本的に改正する必要に迫られたこと、そのような歴史的過程を経て戦後制定された日本国憲法の三大基本原理である国民主権主義、基本的人権尊重主義、平和主義について学ぶ。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 3 | 基本的人権の性格や本質、基本的人権と公共の福祉の関係などに関する学習 | 基本的人権は永久不可侵の権利であり、個人の尊厳を重視したものであるが公共の福祉との調和が求められることなどについて学ぶ。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 4 | 自由権的基本権の性格と特徴、種類などに関する学習 | 自由権的基本権は国家権力からの自由を内容とする権利であること、日本国憲法の規定を基に人身の自由、精神の自由、経済の自由に分類されることを具体的に学習する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 5 | 平等権と社会権的基本権に関する学習 | 平等権の性格と特徴、平等権に関する今日的課題などを具体的に学習する。社会権的基本権は国家権力の積極的な作用によって実現する権利であること、日本国憲法で規定する生存権、教育権、勤労権、労働三権について内容や現実的な課題を具体的に考察する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 6 | 参政権及び請求権の性格と特徴に関する学習 | 参政権には選挙権、被選挙権の他に国民が直接政治に参加する憲法改正の国民投票権、最高裁判所裁判官の国民審査権、地方特別法の住民投票権が存在することを確認する。参政権と請求権の違い、国家賠償請求権及び刑事補償請求権の内容について、事例を基に具体的に理解する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 7 | 民主政治の原理と権力分立に関する学習 | 国民主権、代議政治、法の支配についてその概要を掴んだうえで、権力分立の意義、ねらいについて学習する。また、日本国憲法上それらの原理がどのように生かされているかを具体的に学習し、国会、内閣、裁判所相互間における権力の抑制と均衡の関係を学ぶ。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 8 | 国会の地位と役割に関する学習 | 憲法の根拠規定を把握しながら国会は国権の最高機関であり唯一の立法機関であることを確認する。なぜ国会が国権の最高機関であり唯一の立法機関であるのかその背景にある意味を理解する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 9 | 国会の組織と権限に関する学習 | 国会は衆議院と参議院からなる二院制であること、両議院とも全国民の代表者で組織されること、両院の定数や議員選出方法の違い、国会議員の特権、二院制の意義、国会の権限、衆議院の優越と意義について学習を深める。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 10 | 内閣の地位と役割に関する学習 | 内閣は行政権の主体であること、日本国憲法はイギリス型の議院内閣制を採用しており、議会の信任が内閣の成立要件であり存続要件であることを理解し学習を深める。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 11 | 内閣の組織と権限に関する学習 | 内閣は首長たる内閣総理大臣と国務大臣で組織される合議体であること、内閣の権利と内閣総理大臣の権利、任命手続き等について学習する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 12 | 裁判所の地位と役割に関する学習 | すべて司法権は最高裁判所及び法律の定める下級裁判所に属すること、特別裁判所設置の禁止、司法権の独立、裁判官の独立と身分の保障、その意義について学習する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 13 | 裁判所の組織と権限に関する学習 | 最高裁判所の組織、下級裁判所の種類、審級制度、裁判の種類、違憲立法審査権、裁判の公開、国民審査、裁判員制度等について具体的に学習する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 14 | 地方自治、公務員法に関する学習 | 地方自治の必要性をブライスの「民主主義の学校」ということばから考察する。地方自治の本旨の意味に関し、住民自治、団体自治の意義を理解し、地方自治法に規定する直接請求権や地方公務員の身分や義務などについても学習を発展させる。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 15 | 憲法学習のまとめとしての日本国憲法の最高法規性と憲法改正手続、憲法尊重擁護義務に関する学習 | 憲法学習のまとめとして日本国憲法の最高法規性と憲法改正手続、憲法尊重擁護義務について学習する。日本国憲法の規定を基に改正手続きを確認し、硬性憲法であることの意義について考察を深める。また、日本国憲法の最高法規性と憲法尊重擁護義務から憲法の役割を考察する。 | ①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。<br>②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分) |
| 16 | 試験 | 単位試験を行う。 | |

**単位の認定につい** 原則として単位試験を70%、小テスト、レポート等の提出を30%として評価する。ただし、非常変災等による異常事態発生の場合は単位試験の実施の有無を含めて別途計画をする。その場合は事前連絡をする。

**教科書** 『ようこそ日本国憲法へ 第3版』(小林 武 著・法学書院)

**参考書** 授業の中で紹介する。

**授業外学習について**

事前学習として、教科書の本文及び教科書巻末の日本国憲法の条文を読んで、授業に臨むこと。事後学習として、授業で使用した教科書、配付プリント、ノートを基に復習し、疑問点があれば次の時間に質問し疑問を解決すること。

指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**

レポート・答案等の提出物については、コメントを記載して返却する。また、必要に応じて授業またはオフィスアワーを活用して口頭での説明を行う。解答例を配布する。

| 授業科目名 | 文学 （科目コード:TGHUM106） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 原田 真理 <mharada@mgjc.ac.jp> | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科 1.2 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 古典とされる日本の文学作品に親しむとともに、思考する力・思いを述べる力を向上させることを目指す。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ |

**到達指標：** ・作品を読み、内容を理解し考えることができる。
・感じたことを、ことばにすることができる。
・学友とのグループ討議に主体的に参加し協力し合って取り組むことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに | 古典といわれる作品についての紹介 | 日本の歴史を復習する(60 分) |
| 2 | 和歌① | 季節の歌を読み、感じたことについてディスカッションを行う。 | 自分なりの現代語訳を作成(30 分) |
| 3 | 和歌② | 万葉集から自然を読んだ歌を読み、ディスカッションを行う。 | 自分なりの現代語訳を作成（30分） |
| 4 | 和歌③ | 古今和歌集他の歌を読み、感じたことについてディスカッションを行う。 | 自分なりの現代語訳を作成（30分） |
| 5 | 伊勢物語① | 章段を読み、内容についてディスカッションを行う。 | 自分なりの現代語訳を作成（30分） |
| 6 | 伊勢物語② | 章段を読み、内容について話し合う。(zoom での遠隔授業対応) | 自分なりの現代語訳を作成（30分） |
| 7 | 物語の比較 | 伊勢物語と大和物語を比較し、話し合う | 自分の考えをまとめて記す（60分 |
| 8 | 枕草子① | 随想的章段を読み、感じた事についてディスカッションを行う。 | 枕草子について調べる（60分） |
| 9 | 枕草子② | 類聚章段を読み、着眼や発想の豊かさに触れる。(zoom での遠隔授業対応) | テーマに即した随想創作（60分） |
| 10 | 竹取物語① | 求婚者5人の行動を読み、ディスカッションを行う。 | 作中人物を整理する（60分） |
| 11 | 竹取物語② | かぐや姫と帝を中心に読み、物語の特徴を考える。 | 作中人物についてまとめる(60分) |
| 12 | 源氏物語① | 源氏物語の概要を理解する。 | 年立をもとに、概要を理解する |
| 13 | 源氏物語② | 源氏物語に登場する女性たちについて考える。(zoom での遠隔授業対応) | 女性たちの思いを想像しまとめる（60分） |
| 14 | 源氏物語③ | 源氏と紫の上の関係の変化を追う。 | 紫の上の思いを想像しまとめる（60分） |
| 15 | 古典 | 古典とされる作品について話し合ディスカッションを行う。 | 意見をまとめる(60 分) |

**単位の認定について** 授業における取り組み 50%、課題 50%の割合で評価する。

**教科書** プリントを配付する。

**参考書** 図書館の関係図書

**授業外学習** 授業に関連した調査、意見のまとめ、創作等、積極的な取り組みを期待する。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。

※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

※ この授業では、SDGｓに関する内容（１，４，１０，１６）を取り入れる。

| 授業科目名 | 学びのステップ （科目コード:TGGEN110） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 南中道 隆 杉田康之 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後、授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**初年次において大学で学ぶということはどういうことかを考え、大学での目標を明確にするとともに、大学で学ぶ上で基本となる技能や態度を身に付けることができる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標**
・大学での学びの方法の理解と自主的な学習態度を形成することができる。
・問題発見能力を開発することができる。
・文献資料などの情報収集方法を修得することができる。
・読解力、表現力、発表力、討論の方法などを修得・向上することができる。
・大学生活を送る上での社会的ルールを理解することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ウォーミングアップ① | ・「学びのステップ」の授業について知る。<br>・自己紹介を行ない、クラス内の交流を図る。<br>・授業外学修について知る<br>・図書館ツアーを行う。 | ・「学生便覧とテキスト」を一読してくる。(30 分)<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 2 | ウォーミングアップ② | ・「大学生になる」ことで得られる権利や義務、社会参加についてグループワークやスマートフォンを活用して理解する。<br>・学内の施設や教職員について知る。<br>・「建学の精神」や大学及び学科ＤＰについて学ぶ。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・「学生便覧」の中から「建学の精神」「全学及び学科ＤＰ」を調べておく。(30 分)<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 3 | オリエンテーション① | ・大学生活をデザインし、卒業までの道のりを学ぶ。<br>・大学の授業について、単位認定やシラバスの見方などを学ぶ。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・「学生便覧」「シラバス」を活用し事前に調べておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 4 | オリエンテーション② | ・大学生活のリスクやトラブルについてグループワークを通して考える。<br>・大学の定期試験について学ぶ。<br>・構成的グループエンカウンターを学び、エクササイズを行う。　（Zoom での遠隔授業対応回） | ・構成的グループエンカウンターについてまとめておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 5 | スタディスキル① | ・グループやチームで学ぶメリットを知る。<br>・グループワークを通してディスカッションスキルを使ってチーム力を高める。(Zoom での遠隔授業対応回) | ・ディスカッションスキルについてまとめておく。(30 分)<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 6 | スタディスキル② | ・ブレインストーミングやＫＪ法の手法を使って、グループワークを通して問題解決の方法を探ろう。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・ブレインストーミングやＫＪ法についてまとめておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 7 | スタディスキル③ | ・ディベートの手法を使って、グループワークを通して、問題解決を体験してみる。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・ディベートの方法についてまとめておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 8 | スタディスキル④ | ・マインドマップの手法を使って、グループワークを通して、問題解決を体験してみる。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・マインドマップの方法についてまとめておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 9 | スタディスキル⑤ | ・文章を要約するスキルについて学ぶ。<br>・文字数制限のある「５４文字物語」を考える。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・文章を要約するスキルについてまとめておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 10 | スタディスキル⑥ | ・文章を図で表すスキルや表やグラフを使って表すスキルを学び、実際に文章を図や表・グラフで表す活動を行なう。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・文章を図で表したり、表やグラフを使って表したりするスキルについてまとめておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 11 | スタディスキル⑦ | ・ディスカッションの目的やスキルを学び、グループワークでスキルを活用した活動を行なう。（Zoom での遠隔授業対応回） | ・ディスカッションについてまとめておく。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |
| 12 | スタディスキル⑧ | ・レポート作成の基本を知る。<br>・図書館やインターネットで情報収集を行い、表やグラフの書き方を学ぶ。<br>・パソコンを使ってレポートを作成する。 | ・レポートの資料を収集する。（30 分）<br>・保育の基本用語を調べておく。(30 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | スタディスキル⑨ | ・パソコンを使ってレポートを作成する。 | ・レポートの資料を収集し、それをもとにレポート作成を進める。（60 分） |
| 14 | スタディスキル⑩ | ・パソコンを使ってレポートを完成させ、発表する。<br>・発表とディスカッションをする。 | ・レポートを完成させ、発表の準備を行なう。（60 分） |
| 15 | まとめ | ・保育の基本用語（漢字・用語）の試験 | ・「学びのステップ」についてまとめる。（60 分） |

**単位の認定について** 授業への取組態度・意欲（30%）授業でのテキスト、ワークシート記入（40%）小テスト・まとめテスト（30%）

**教科書** 「スタディスキルズ・トレーニング」（実教出版）保育の基本用語（わかば社）

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※ この授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 倫理学 （科目コード:TGHUM102） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 宗和太郎 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了時 | | | | | | | |
| 授業対象 | 全学科 1.2 年 | 開講時期 | 前・後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 人間にとって善さとは何か、ソクラテスの考えと対話しながら自分なりの考えを深めていく。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ○ |

**到達目標：**①『ゴルギアス』を読解し、ソクラテスの基本となる考え方を説明することができる。
②それに対し自分なりの考えを人に説明することができる(論文を仕上げる)。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | この「倫理学」 | オリエンテーション(目標、履修方法) 倫理学(功利主義・徳倫理学・義務論)、極限状況における人間の自由『夜と霧』(フランクル)、ソクラテスの人間の限界(不知)の自覚、真理の探究としての議論<br>本書のテーマ;**不正をして見つからないことより、不正していないのに間違えて捕まえられる方がいい** | **予習（１時間以上）**<br>①google classroom に入り、授業ビデオを視聴する<br>②授業範囲のテキストを読み、<br>③分からない言葉の意味を調べ、人に説明できるようにする<br>④ソクラテスと相手の議論を検討する<br>⑴主題 ～について議論しているのか<br>⑵相手の主張 ～どうだと言いたいのか、そう考える理由<br>⑶ソクラテスの主張 ～どうだと言いたいのか、そう考える理由<br>⑤印象に残ったフレーズ（私の心に留めたい言葉）<br>⑥分からないことを質問する<br>google classroom の予習課題として授業前に提出する<br><br>**復習（３０分）**<br>classroom から届く復習課題に取り組み提出する |
| 2 | 一番の技術 | ゴルギアスとは何者か、弁論術とはなにか、～40頁 453A<br>**ドクサ(思い込み)の間違いから自分並びに社会が目覚めたこと**<br>**「ハインツのジレンマ」ディベート、私の価値観**、1 分間サイコロトーク | |
| 3 | ドクサとエピステーメー | 弁論術による説得の特質、弁論術の威力、悪用可能性と弁論家の責任～68 頁 **461B 私は喜んで論駁をされる人間だ、** | |
| 4 | 分別を欠いて、自分に最善をしていると思う | 良くする技術に化けるコラケイア、「恣意」と「真の欲求」の分別、価値の三分、善さを求める人間、～97 頁 **468E**、ポロスとの対話<br>**コラケイア、国で一番力のある者はだれか？** | |
| 5 | 復習 | 1 分間サイコロトーク<br>**私のコラケイア、本当に正しいことを学んだ人は正しいことを行う、本当に望んでいることを見失い、勘違いして満足している人を幸福とは呼べない、羨むべきでない** | |
| 6 | 権力者が羨ましくないのか | 独裁者より火炙りにされる方が幸せだなんて？<br>**不正を加えるより、不正を加えられる方を選ぶ、不正を行い幸せな人はいるか？**～120 頁 **474C**、 | |
| 7 | ポロスへの論駁 | **いじめをする・いじめをされる どちらが悪いか？**<br>どちらがより醜い？より醜い＝より悪い<br>不正を加える VS 不正を加えられる<br>罰を受ける VS 罰を受けない<br>幸福度ランキング ～148 頁 **481B**、罰を受けることの有益さ | |
| 8 | カリクレス登場<br>弱肉強食は自然の正義 | ノモスとピュシス;「自然の正義」と平等主義批判<br>哲学批判と実践的生の勧め、実りある対話成立の三要件、<br>148～172 頁 **488B**<br>**ニーチェ「奴隷の道徳」・ルサンチマン、論文の書き方** | |
| 9 | **欲望の満足が幸せか？** | 「強者」とは、節制批判とウルトラ快楽主義、<br>ソクラテスの例え話⑴⑵<br>掻き続けるのは幸せか・～197 頁 **494E**、 | |
| 10 | ソクラテスの論駁⑴⑵<br>善さ≠快さ | **善悪と快苦は別物**、カリクレスの豹変<br>行為の目的としての善と快、「技術」と「熟練」<br>大衆向け弁論術としての芸術批判、迎合政治批判と真の意味における政治、秩序の美と魂の徳、～245 頁 **506C**<br>**善悪を見極める仕事とひたすら快を求める仕事、弁論家は人を優れたものにしたか？** | |
| 11 | 欲望の追求は禍のもと | **鉄と鋼の論理**、無知の自覚の表明～272 頁 **514A**、<br>**幸せになれるかは共同できるかにかかっている**<br>不正の被害は防げない、**快楽第一か最善第一かどちらかだ？マズローの欲求段階説、カントの究極の自由（義務倫理学）、定言命法、道徳の黄金律、人格の平等、社会契約⇔万人の万人に対する闘争、論文の作り方** | |
| 12 | 死を恐れない | 世の中には2種類の仕事、人々の欲望は充たしても、人々を善くした政治家はいない エピローグ死後の裁きについて「**幸福者の島**」へ行く～324 頁 **527E** | |
| 13 | 復習と論文構想 | 1分間サイコロトーク、5分間プレゼンテーション | 論文構想 |
| 14 | 復習と論文構想 | 1分間サイコロトーク、5分間プレゼンテーション | 論文推敲 |
| 15 | 復習と論文構想 | 1分間サイコロトーク、論文添削・推敲 | 論文仕上げ |

**単位の認定について**　考察を論文(4000 字程度)にまとめる(50%)。毎回の課題出(50%)
**教科書**　**プラトン**、中澤務訳『ゴルギアス』光文社
**参考書**　三嶋輝夫訳『ゴルギアス』講談社学術文庫、加来彰俊訳『ゴルギアス』岩波文庫
**授業外学習について**　YouTube 解説並びにテキストの予習と、クラスルームの予習及び振り返り課題の提出
**課題に対するフィードバックの方法**　その都度、授業で行う

| 授業科目名 | おもちゃと絵本Ⅰ （科目コード:TNBKT101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 一般社団法人日本知育玩具協会認定資格に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 藤田 篤　　堀之内 信子　小川美由紀 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後　　火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科 1･2 年 | 開講時期 | 前期(集中) | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 0･1 歳の子ども達の発達課題を理解し、必要とされる具体的な愛情、おもちゃ、絵本を学び、その正しい導入方法(使い方)を身につける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：** 0･1 歳の子どもの発達課題の内容を理解したうえで、子どもの状況に応じたおもちゃ･絵本を選び、与えるための知識･技術を修得できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ･授業全体像の説明。授業目標及び本授業の到達目標を確認する。<br>･発達課題:発達の順序性、基本的信頼、感受性の土台、最近接領域について学ぶ。 | 集中講義のため、授業終了後の学修は求めないが、事前にシラバスを読み、授業内容について把握しておくこと。 |
| 2 | 乳児への絵本の与え方 | 自身の絵本の原体験を振り返り、絵本との3度の再会について理解し、良い読み手とは誰か、絵本を読み聞かせるためのよりよい環境について学ぶ。またよい絵本の特徴を理解し、よい絵本の読み方を学ぶ。絵本嫌いになるきっかけについても学ぶ。 | |
| 3 | 人形とままごと | お世話遊びの動機を理解し、ちょうどよい人形とは何か、人形の与え方、よいままごと道具の与え方を学ぶ。 | |
| 4 | 積木:積木のルーツ | 積木のルーツ、よい積木の特徴を理解し、積み木を崩すこと(探索行動)の意味と積木の与え方を学ぶ。 | |
| 5 | 発達を支えるおもちゃ | 発達の順序性と五感を豊かに育てるポイントを理解し、音の出るおもちゃ、プッシュトーイ、プルトーイ、落ちる動きを追うおもちゃ、叩くおもちゃなどの各役割と与え方を学ぶ。 | |
| 6 | 2･3歳に向けて | 遊びの連続性について学ぶ。発達に沿ったおもちゃの与え方の変化について学ぶ。 | |
| 7 | まとめ | これまでの授業を振り返り、子どもの発達課題を理解し、おもちゃ･絵本の正しい導入方法を理解する。 | |
| 8 | まとめ･試験 | ･口頭でこれまでの授業内容について説明することができる。<br>･筆記試験 | これまでの授業を振り返り、自分の言葉で理解したことを説明することができるよう準備する。 |

**単位の認定について**　筆記試験:100%にて評価する。

**教科書・参考書**　①『子育てを感動にするおもちゃと絵本』藤田篤著，ゆいぽおと
②『子どもの心が見える本』佐々木正美著，子育て協会
その他、資料を配付する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習･復習に 1 時間をあてること。

**課題に対するフィードバックの方法**　試験やプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

| 授業科目名 | おもちゃと絵本Ⅱ （科目コード:TNBKT102） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 一般社団法人日本知育玩具協会認定資格に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 藤田 篤　　堀之内 信子 小川美由紀 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科 1･2 年 | 開講時期 | 後期(集中) | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**2・3 歳の子ども達の発達課題を理解し、必要とされる具体的な愛情、おもちゃ、絵本を学びその正しい導入方法（使い方）を身につける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**2・3 歳の子どもの発達課題の内容を理解したうえで、子どもの状況に応じたおもちゃ・絵本を選び、与えるための知識・技術を修得できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ・授業全体像の説明。授業目標及び本授業の到達目標を確認する。<br>・発達課題:自律性、しつけとは何か、楽しいことの自己決定について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだことについて振り返り、次時の予習をする。 |
| 2 | 絵本で子どもの心を見る、育てる | よい絵本の特徴を理解し、よい絵本の読み方、絵本嫌いになるきっかけについて学ぶ。絵本とおもちゃの関係について学ぶ。 | |
| 3 | 積木 | 積木のルーツ、積木遊びが必要な理由、積木遊びの五段階、子どもの能力を伸ばすよい積木の条件、積木の与え方について学ぶ。 | |
| 4 | 人形とごっこ遊び | よい人形の条件、人間性を身につけるために人形遊びが必要な理由、よいごっこ遊びの道具の条件について学ぶ。 | |
| 5 | おもちゃで身につくしつけの基本 | 落ちるおもちゃ・叩くおもちゃが子どもの発達を促す仕組みを理解し、2歳児の課題を遊びで解決する方法を学ぶ。 | |
| 6 | 4歳までに体験させたい遊び | 汽車遊び、ドイツゲーム、玉の道のおもちゃ、ブロックと積木の関係などを理解し、それらが育てるものと、与え方を学ぶ。 | |
| 7 | まとめ | これまでの授業を振り返り、2・3歳の子どもの発達課題を理解し、おもちゃ・絵本の正しい導入方法をプレゼンテーションできる。 | |
| 8 | まとめ・試験 | ・これまでの授業の振り返り。プレゼンテーションに対するフィードバック。<br>・筆記試験 | これまでの授業を振り返り、理解したことを自分の言葉で説明することができるよう準備する。 |

**単位の認定について**　筆記試験:100%にて評価する。

**教科書・参考書**　①『子育てを感動にするおもちゃと絵本』藤田篤著，ゆいぽおと
②『子どもの心が見える本』佐々木正美著，子育て協会
その他、資料を配付する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　試験やプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

| 授業科目名 | 音楽鑑賞法 （科目コード:TNMTH108） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 専門教育科目 （音楽療法士２種に関する科目） | | | | | | |
| 担当者 | 小澤真美子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** 西洋音楽の歴史や各時代を代表する作曲家について、時代背景とともに学び、独唱曲、独奏曲、室内楽曲、協奏曲、管弦楽曲、オペラ等の鑑賞をする際のポイントを知る。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ○ |

**到達目標：**・西洋音楽の歴史と音楽様式の変化、各時代を代表する作曲家について、理解できたか。
・作曲家や作曲された背景を知って、様々な曲を聴き味わい、自分なりの考えをまとめることができたか。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>クラシック音楽について | 自己紹介を行う。<br>音楽ホール、クラシック音楽コンサートのマナー、オーケストラ等について学ぶ。 | 教科書等の復習。(60 分) |
| 2 | 古典派の音楽(1) | 古典派の音楽形式やその時代について、モーツァルトを題材にして学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 3 | 古典派の音楽(2) | オペラについて、モーツァルトのオペラを題材にして学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 4 | 古典派の音楽(3) | 古典派の作曲家、ベートーヴェンについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 5 | ロマン派の音楽(1) | 歌曲の王:シューベルトについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 6 | ロマン派の音楽(2) | ピアノの歴史と、ピアノの詩人:ショパンについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 7 | 確認テストⅠ/<br>ロマン派の音楽(3) | 古典派の音楽(1)～(3)、ロマン派の音楽(1)～(2)の理解度について、確認テストを行う。<br>ショパンを題材にした映画(抜粋)を鑑賞する。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 8 | ロマン派の音楽(4) | 確認テストⅠの内容の振り返りをする。<br>シューマンとブラームスについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 9 | ロマン派の音楽(5)/<br>バロック時代の音楽 | メンデルスゾーンと、バロック時代の音楽の父:J.S.バッハについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 10 | ロマン派の音楽(6) | ピアノの魔術師:リストと、楽劇王:ワーグナーについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 11 | ロマン派の音楽(7) | ワルツの王:シュトラウスⅡ世と、イタリアオペラの作曲家:ヴェルディ&プッチーニについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 12 | ロマン派の音楽(8) | フランスオペラの作曲家:ビゼーについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 13 | 後期ロマン派の音楽 | ロシアの音楽家:チャイコフスキーとラフマニノフについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 14 | 20 世紀の音楽 | フランスの音楽家:ドビュッシーとラヴェル、アメリカの音楽家:ガーシュウィンとケージについて学ぶ。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |
| 15 | 確認テストⅡ | ロマン派音楽(4)～(8)、後期ロマン派の音楽、20 世紀の音楽の理解度について、確認テストを行う。 | 教科書等の予習・復習。(60 分) |

**単位の認定について** 確認テスト(90%) 提出物等(10%) 合計 60 点以上で認定

**教科書** 購入は無し。ただし、授業で配布する「プリント」を A4 ファイルに綴じ、毎回持参すること。

**参考書** 「ゼロから分かる！図解クラシック音楽」(世界文化社)
「クラッシクの音楽の世界」(新星出版社)

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。

| 授業科目名 | 音楽理論 （科目コード:TNMTH109） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 専門教育科目 （音楽療法士２種に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤真美子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**音楽の基礎知識(音程、音階、調性、和音等)を身につけ、音楽の仕組みをしっかりと理解できるようになる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ○ | |

**到達目標：** ・音楽の仕組みをしっかりと理解するために必要な音楽基礎知識を身につけ、応用することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>第1章　譜表と音名<br>第2章　音符と休符(1) | 簡単な自己紹介を行う。<br>音名や変化記号について学び、練習問題に取り組む。<br>音符や休符について学ぶ。 | 教科書等で復習をする。(60 分) |
| 2 | 第3章　リズムと拍子(1) | オンライン学習で、音符、ビート、テンポ、長調と短調の雰囲気を感じ取る。 | 教科書等で予習復習をする。(60 分) |
| 3 | 第2章　音符と休符(2)<br>第3章　リズムと拍子(2) | 付点のリズム、タイ等について学ぶ。<br>バイナリービートとターナリービートについて学ぶ。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 4 | 第3章　リズムと拍子(3) | バイナリービートやターナリービートの復習をし、混合拍子、変拍子について学ぶ。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 5 | 確認テストⅠ<br>第5章　音程(1) | 第1章～第3章の、確認テストを受ける。<br>完全系音程について学ぶ。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 6 | 第5章　音程(2) | 確認テストⅠの振り返りを行う。<br>完全系音程を復習する。<br>長短系音程と、派生音を含む音程を学ぶ。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 7 | 第5章　音程(3) | 音程の復習をする。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 8 | 第4章　記号・用語 | 様々な音楽記号や用語を学ぶ。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 9 | 確認テストⅡ<br>第6章　音階と調(1) | 第4章～第5章の、確認テストを受ける。<br>長音階について学ぶ。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 10 | スリーコードの復習 | 配信授業にて、1 年次に学んだスリーコードについて復習し、今後の内容理解につなげる。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 11 | 第6章　音階と調(2)<br>第7章　和音とコード(1) | 確認テストⅡの振り返りを行う。<br>短音階と移調について学ぶ。<br>三和音や四和音、属7の和音について学ぶ。 | 教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60 分) |
| 12 | 第7章　和音とコード(2)<br>作曲課題提出に向けて(1) | 和音記号や転回形について学ぶ。<br>和声音について学び、短いメロディを作曲する。 | 課題に取り組む。(60 分) |
| 13 | 作曲課題提出に向けて(2) | 和音のつながり、非和声音等について学び、短いメロディを作曲する。 | 課題に取り組む。(60 分) |
| 14 | 作品を完成させる | 自作の曲に題名と歌詞を付けて作品を完成させ、作曲課題を提出する。 | 作品を完成させる。(60 分) |
| 15 | 作品共有 | 作品を共有し、お互いの作品の感想を発表する。 | 前回の復習をする。(60 分) |

**単位の認定について**　確認テストⅠ・Ⅱ(70%)　課題提出・出欠カード等(30%)　合計 60 点以上で認定となる。

**教科書**　「音楽の基礎と表現～楽典とソルフェージュ～」（ふくろう出版）
授業で配布するプリント（A4 ファイルに綴じる）

**参考書**　「改定　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）
「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 音楽療法演習 （科目コード:TNMTH203） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 星﨑明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎と専門知識・技術技能について学習する。発達の援助のための音や音楽の使い方、障害種別、形態別（個別、集団など）の療育の具体的方法、楽器の活用法や身体活動と音楽との関連を視野に入れた実践方法について学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①○ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ |

**到達目標：**・障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践ができる。
・発達援助のために音や音楽の使い方を理解して、音楽を構成したり、療育活動を構成したりすることができる。
・グループワークにより発達に合わせた遊びを創造することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>アセスメントについて | シラバスに基づきオリエンテーションを行う。<br>アセスメントの方法について学ぶ。 | リズムムーブメントの練習を行う。(30 分)<br>教科書 p217～223 を読む。(10 分) |
| 2 | 音楽療法プログラムの立て方と目的 | コ・ミュージックセラピーの流れを理解し、目的を持って計画を立てる力を身につける。 | 教科書 p125～169 を読む。(30 分) |
| 3 | 基礎的技術の習得① | ハンドドラム挨拶、手遊び・歌遊びの実際を学ぶ。 | 手遊び5曲、歌あそびの曲の練習を行う。(30 分) |
| 4 | 基礎的技術の習得② | 身体活動と音・音楽を学ぶ。 | リズムムーブメントの練習を行う。(30 分) |
| 5 | 音楽の構成の方法 | 音や歌唱曲、CD の曲を聴いて、音楽の構成について考え、実際に楽器構成をする。 | 学習した曲の歌唱・伴奏の練習。(30 分) |
| 6 | 肢体不自由児への音楽療法 | 肢体不自由児に対する個別音楽療育と集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 肢体不自由児の音楽療法に関する課題。(30 分) |
| 7 | 発達障害児への音楽療法① | 発達障害児に対する個別音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 発達障害児の音楽療法に関する課題。(30 分) |
| 8 | 発達障害児への音楽療法② | 発達障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 発達障害児の音楽療法に関する課題。(30 分) |
| 9 | 知的障害児への音楽療法 | 知的障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 知的障害児の音楽療法に関する課題。(30 分) |
| 10 | 視覚・聴覚障害児への音楽療法 | 視覚障害児・聴覚障害児に対する集団音楽療法の具体的方法について学ぶ。 | 視覚障害、聴覚障害児の音楽療法に関する課題。(30 分) |
| 11 | 発達援助のための遊びと音楽① | 対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。 | 発達援助のための音楽遊びを考案する。(60 分) |
| 12 | 発達援助のための遊びと音楽② | 対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。 | 発達援助のための音楽遊びを考案する。(60 分) |
| 13 | 模擬セッション① | グループごとに模擬セッションを行う。 | 計画を立て、練習する。(60 分) |
| 14 | 模擬セッション② | グループごとに模擬セッションを行う。 | 計画を立て、練習する。(60 分) |
| 15 | まとめ | 半期を振り返り、障がい児・者への音楽療法の実践方法のポイントを復習する。 | レポートを書く。(60 分) |

**単位の認定について**　授業記録 10%、活動への取り組み 20%、レポート 30%、授業中及び終了時の試験 40%。

**教科書**　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002 年　春秋社
『はらっぱ de 楽譜集』中島恵子　2000 年　こども音楽センター

**参考書**　『音楽療法ハンドブック』山下恵子共著（未来プロジェクト）星雲社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 音楽療法概論　（科目コード:TNMTH101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 星﨑明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**障がい児・者の音楽療法に関する基礎・専門理論を学ぶ。理解を深めるために演習やグループ討議を用いて講義する。音楽療法実習や各論との繋がり、関連領域についても大まかに理解することを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**①障がい児・者の音楽療法の基本的理念を説明し、グループワークにより実践することができる。
②音楽療法時に見られる対象児・者の姿を発達的視点で理解し、援助することができる。
③関連領域の理論や方法を大まかに理解し説明することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業目標及び本授業の到達目標の確認。音楽療法実習の流れを理解する。(配信) | 教科書.5～p.12 を読む。（４０分） |
| 2 | 音や音楽の可能性① | 音楽活動が心身に与える影響について考え、音楽療法の可能性を学ぶ。 | 教科書 pp.36～p.49 を読む。(40 分) |
| 3 | 音や音楽の可能性② | 音や音楽に映し出される人の姿を多様な視点から見ることを学ぶ。 | 教科書 p.13～p.33 を熟読してくる。(40 分) |
| 4 | Co-Musictherapy の定義① | オルフ・ムジーグテラピーの基本理念を知り、セラピーにおける遊びについて学ぶ。 | カール・オルフの音楽教育法、オルフ音楽療法についてまとめる。(40 分) |
| 5 | Co-Musictherapy の定義② | 音や音楽の多感覚性について、簡単なワークを通して学ぶ。(触覚を使った体験) | 授業内容をまとめる。(40 分)<br>学内実習に入り、エピソードを用紙に記入してくる（以後随時）。(30 分) |
| 6 | 音楽療法の主要な概念 | 音楽療法の意義、目的を学ぶ。 | 課題レポート。(提出)(90 分) |
| 7 | 音楽療法の具体的展開① | 音楽療法の具体的展開を学ぶ。 | 教科書４章５章を読む。(60 分) |
| 8 | 音楽療法の具体的展開② | 音楽療法の構造について学ぶ。 | 授業内容をまとめる。（30 分） |
| 9 | 音楽療法の具体的展開③ | 音楽療法の具体的展開を事例で学ぶ。 | 教科書第六章を熟読してくる。(60 分) |
| 10 | 音楽療法における環境調整とは | 対象児・者と音楽の関わりを促すために必要な配慮や工夫について学ぶ。 | 授業内容をまとめる。(40 分) |
| 11 | 対象の理解①子ども | 音楽活動時に見られる子どもの姿を配信映像から学び、発達的視点で理解する。 | 実際の音楽療法に参加し、記録を書き考察をする。（60 分） |
| 12 | 対象の理解②成人 | 音楽活動時に見られる成人の姿を理解し、援助の方法を学ぶ | 授業内容をまとめる。(各 40 分) |
| 13 | 対象の理解③高齢者 | 音楽活動時に見られる高齢者の姿を理解し、援助の方法を学ぶ | 授業内容をまとめる。(各 40 分) |
| 14 | アセスメントと評価 | Co-Musictherapy における多感覚領域の視点について学ぶ | アセスメント記録を提出する (30 分) |
| 15 | まとめ | 対象児・者の適切な理解と援助、自身の振り返りのための記録・評価を学ぶ。 | レポート提出(60 分) |

**単位の認定について**　レポート提出 50%　授業記録 20%　活動への取り組み 30%
**教科書**　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002　春秋社
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 音楽療法実習（科目コード:TNMTH301） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 後藤祐子　星﨑明里　中武紋子　折口奈津美　兒玉莉子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後、授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科2年 | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**宮崎学園短期大学こども音楽教育センター及び外部施設において、障がい児・成人・高齢者との交流を通して対象者を理解し、更に、音や音楽を使った音楽療法の具体的実践方法を学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**評価指標：**・対象者と積極的にかかわりを持つことができる。
・セラピストの療法の意図を理解することができる。
・心身の発達過程と音楽的発達との関係を、現場を見て理解することができる。
・障がい種別の具体的援助方法の意義を見出すことができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|
| オリエンテーション | 実習の具体的方法について理解する。 | 実習先について調べる。（60分） |
| 記録の書き方 | 実習記録の書き方、提出方法について知る。 | 実習記録の書き方を復習する。（30分） |
| 宮崎学園短期大学こども音楽教育センターにおいて年10回、更に、外部施設において2日間の学外実習を行う。<br><br>※前後指導では対象者の状態についての理解、部分実践のための計画立案・練習等の事前指導及び、セラピストと振り返りを行う事後指導を実施する。 | 1．実習の段階<br>①療育実習の2側面<br>受動的側面：障がい児の観察と理解<br>能動的側面：障がい児と積極的に関わりを持つことが出来る。<br>②実習の段階<br>見学・観察実習、参加実習。<br>2．実習の内容<br>①見学・観察実習<br>障がい児及び音楽療育の実際を理解する。<br>②参加実習<br>音楽療育場面に参加し、積極的にこども達と関わる。 | ・実習前に対象児を確認し、障がいについての理解を深める。（30分）<br>・実習後にセラピストとのミーティングを行い、実習内容について理解する。（30分）<br>・外部施設の特徴を理解する。（60分）<br>・実習記録を記入する。（60分） |
| まとめ | ・実習事後指導を受ける。<br>・実習を終えて学んだこと、感想をレポートにまとめる。 | 実習後に、音楽療育実習記録簿をまとめ、提出する。（60分） |

**単位の認定について**　実習記録簿の提出状況50%、実習参加状況50%。
**参考書**　『音と人をつなぐ　コ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子著　2002　春秋社
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

| 授業科目名 | 音楽療法実践（科目コード:TNMTH205） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 星﨑明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期(集中) | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 音楽療法実践では、さまざまな音や音楽を使ったワークショップによる体験学習を行う。特に、コ・ミュージックセラピーの手法を中心としながら、セラピー場面における楽器（声を含む）の奏法を習得する。更に、グループワークの中で、自分の様々な面と向かい合い、セラピストとして重要な資質となる自己洞察の機会を持つ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：** ・打楽器の基礎的な奏法を身に付けている。
・障がい児・者を対象とした音楽療法の実施計画を立て、実践することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 打楽器奏法① | 様々な楽器の音・奏法を学ぶ | 楽器による課題の練習(40 分) |
| 2 | 打楽器奏法② | 様々な楽器を使ったグループワークを行う | 楽器による課題の練習(40 分) |
| 3 | リズムアンサンブル① | 様々なリズムを使ったグループアンサンブルを行う | リズム課題の練習(40 分) |
| 4 | リズムアンサンブル② | 様々なリズムを使ったグループアンサンブルを行う | リズム課題の練習(40 分) |
| 5 | リズムアンサンブル③ | 様々なリズムを使ったグループアンサンブルを行う | リズム課題の練習(40 分) |
| 6 | 声によるアンサンブル① | 様々な声でコミュニケーションする体験をする | 音声による課題の練習(40 分) |
| 7 | 声によるアンサンブル② | グループワークで声によるコミュニケーションを行う | 音声による課題の練習(40 分) |
| 8 | 声によるアンサンブル③ | グループワークで即興的な声のアンサンブルを行う | 音声による課題の練習(40 分) |
| 9 | 音・声と身体表現によるアンサンブル① | 様々な楽器や音声とそれらに合わせた身体の動きによるアンサンブルを行う | アンサンブル課題の練習(40 分) |
| 10 | 音・声と身体表現によるアンサンブル② | 様々な楽器や音声とそれらに合わせた身体の動きによるアンサンブルを行う | アンサンブル課題の練習(40 分) |
| 11 | 音・声と身体表現によるアンサンブル② | 様々な楽器や音声とそれらに合わせた身体の動きによるアンサンブルを行う | アンサンブル課題の練習(40 分) |
| 12 | 創作のグループワーク① | 様々な楽器や音声、身体表現、即興演奏を含む作品を創作する | 創作課題の練習(40 分) |
| 13 | 創作のグループワーク② | 様々な楽器や音声、身体表現、即興演奏を含む作品を創作する | 創作課題の練習(40 分) |
| 14 | 創作のグループワーク③ | 様々な楽器や音声、身体表現、即興演奏を含む作品を創作する | 創作課題の練習(40 分) |
| 15 | まとめ | 創作グループワークの発表を行う | レポートを提出する(40 分) |

**単位の認定について** 実技試験 60%　活動への取り組み 30%　レポート 10%

**教科書** 「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」中島恵子　山下恵子　2002　春秋社
「はらっぱ de 楽譜集」中島恵子　2010（第 3 版改訂版）こども音楽センター遊音印刷

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 音楽療法総合演習 （科目コード:TNMTH204） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 山下恵子 （メールアドレス:kyamashita@sky.miyazaki-mic.ac.jp） | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期(集中) | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**音楽療法総合演習では、音楽療法の目的、意図、機能についての基本的な知識を身につける。個々の対象児や対象者に対する音楽療法の目的に合わせて、セラピーを組み立て実践することができるよう、対象理解と音楽スキルの向上を図る。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**①対象者のアセスメントができる。　②アセスメント結果に基づき目標を立てることができる。
③目標を達成するための方法を考えることができる。　④音楽療法の基本的な実践ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 音楽療法の目的 | 音楽療法の目的、意図、機能等、音楽療法とは何かということを理解する。 | 音楽療法の定義について調べまとめる。（60 分） |
| 2 | 音楽療法のアセスメント① | 音楽療法の基礎的な知識を学ぶ。多感覚を使ったアセスメントの方法を学ぶ。 | 発達検査、多感覚アセスメント表を読み、事前に宿題シートに記入する。（60 分） |
| 3 | 音楽療法のアセスメント② | 定型発達に基づくアセスメントを学ぶ。 | 遠城寺式分析的発達検査法に基づき、6 か月までの発達についてまとめる。（60 分） |
| 4 | 音楽療法のアセスメント③ | 発達障害、肢体不自由児の実践ビデオを見て実際にアセスメントをし、シートを記入する。 | 発達検査、多感覚アセスメント表を読み、事前に宿題シートに記入する。（60 分） |
| 5 | 音や音楽の体験① | グループワークで、自らが音や音楽に映し出された自分を感じ取り、自己洞察を深めていく。 | 打楽器、鍵盤楽器の基礎練習をする。はらっぱ de 楽譜集より（60 分） |
| 6 | 音や音楽の体験② | セラピー楽器の具体的な奏法や対象者別の音楽ジャンルに沿った使用方法を学ぶ。 | 打楽器、鍵盤楽器の基礎練習をする。はらっぱ de 楽譜集より（60 分） |
| 7 | 音や音楽を創造する① | 楽器を使った即興演奏や様々な表現活動を通してグループでの作品作りを体験する。 | はらっぱで楽譜集より指定した曲を事前に練習する。(60 分) |
| 8 | 音や音楽を創造する② | グループでの作品作りを通して、音や音楽を創造することの喜びを経験する。 | はらっぱで楽譜集より指定した曲を事前に練習する。（60 分） |
| 9 | 音や音楽を創造する③ | グループディスカッションをしながら体験のメカニズムについて解明し、対象児に合わせた活動について考える。 | 対象児に合わせた 1 活動を立案する。（60 分） |
| 10 | 音や音楽を創造する④ | グループディスカッションをしながら体験のメカニズムについて解明し、対象児に合わせた活動について考える。 | 対象児に合わせた 1 活動を立案する。（60 分） |
| 11 | 音楽療法の実際① | プログラム構成の意味について理解する。 | 対象児に合わせたプログラムを立案する。(60 分) |
| 12 | 音楽療法の実際② | 実践ビデオを見ながら、対象者の理解、活動の意味や目的、セラピーの構造について学ぶ。 | 対象児に合わせたプログラムを立案する。（60 分） |
| 13 | 音楽療法の実際③ | 対象者別模擬セラピーを実践する | 対象児に合わせたプログラムを実践する。（60 分） |
| 14 | 音楽療法の実際④ | 対象者別模擬セラピーを実践する | 対象児に合わせたプログラムを実践する。（60 分） |
| 15 | まとめ | 「なぜ音楽療法なのか」の問いに答えられるよう、理論と実践の一体化を図る。 | 音楽療法用語を覚え、実技試験の課題を練習する。(60 分) |
| 16 | 試験 | 筆記試験及び実技試験を行う。 | |

**単位の認定について**　振り返りシート記載 25 点、授業の取り組み 25 点、実技試験 25 点、用語テスト 25 点で評価する。
**教科書**　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子　春秋社
**参考書**　資料を配布する
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 30 分をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に毎回解説する。
**その他**　事前学習として、一部オンデマンド形式で映像を配信する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 合唱Ⅰ（科目コード:TNMTH105） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 太田宏美(h-oota@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**合唱を通して、人と人とが声を合わせ、ハーモニーとして重ねることの喜びの体験を行う。
合唱名曲やポピュラー曲などの幅広いジャンルの合唱体験を行い豊かな表現ができるようにする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ①簡単な二部合唱のアンサンブルを楽しむことが出来る。
②合唱のハーモニーを感じるとともに、動きを伴った表現の喜びを味わうことができる。
③音楽劇等の鑑賞により、みんなで協力して歌と演技を表情豊かに表現することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 合唱Ⅰの授業内容を伝える。 | 発声の基本と声を使ったアンサンブルについて考える。 |
| 2 | 体の使い方や発声、簡単な二部合唱 | 発声に気を付けながら、楽しく歌う。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 3 | 体の使い方や発声、簡単な二部合唱 | 発声に気を付けながら、楽しく歌う。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 4 | 体の使い方や発声、簡単な二部合唱 | 発声に気を付けながら、楽しく歌う。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 5 | 簡単な二部合唱や三部合唱 | 発声に気を付けながら、表情豊かに歌う。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 6 | 簡単な二部合唱や三部合唱 | 発声に気を付けながら、表情豊かに歌う。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 7 | 合唱を伴った映像作品を鑑賞する① | 映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 8 | 合唱を伴った映像作品を鑑賞する② | 映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 9 | 合唱を伴った映像作品を鑑賞する③ | 映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 10 | 合唱を伴った映像作品を鑑賞する④ | 映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 11 | 合唱のメドレーを計画する | 立ち位置や周りとのハーモニーを考える。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 12 | 合唱のメドレーを計画する | 表現の仕上げ方を考える。 | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 13 | 合唱メドレーを通していく | 表現の仕上げを行う① | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 14 | 合唱メドレーを通していく | 表現の仕上げを行う② | 授業内課題の自主練習（30分） |
| 15 | まとめ | 発表を行い意見や感想を述べあう。 | 授業内課題の自主練習（30分） |

**単位の認定について**　授業への取り組み（50%）と授業外学習（10%）提出物（40%）で評価する。
**教科書・資料**　授業内で配布する。
**参考書**　授業内で紹介する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 器楽Ⅰ（科目コード:TNEDU104／TNNTC104） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教科に関する科目（音楽） | | | | | | |
| 担当者 | 小澤真美子　山本優子<br>安楽三由紀　甲斐麿有美　川原友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理<br>土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子　宮里由実 | | | | | | |
| オフィスアワー | 常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要:** ・「ピアノと音楽」をもとに、子どもの歌でよく使われている、ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調について学び、両手でピアノを弾くことに慣れる。
・幼稚園や保育園、認定こども園で歌われる生活の歌や手遊び歌、春・夏の季節の歌の弾き歌いを習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③◎ |

**到達目標：** ・前期の目標設定および振り返り、毎時間のレッスン記録を行うことで、自身の課題を把握する。
・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、試験において生活・春・夏の歌の弾き歌いができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | レッスンの形態や、授業ルール、ピアノレッスンノートの記入方法等を理解する。また、保育現場をイメージし、到達目標を立てる。 | 第 1 回目の内容を振り返り、ピアノを練習する。(150 分) |
| 2 | 個人レッスン | ハ長調音階と練習曲を弾き、本学入学前のピアノ学習進度に応じた伴奏方法による「こどもの歌」の弾き歌いを学ぶ。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 3 | 個人レッスン | ハ長調音階と練習曲の復習および、ヘ長調音階と練習曲や「かえるのがっしょう」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 4 | 個人レッスン | ヘ長調音階と練習曲の復習および、ト長調音階と練習曲や「おててをあらいましょう」などの生活の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 5 | 個人レッスン | ト長調音階と練習曲の復習および、ニ長調音階と練習曲や「チューリップ」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 6 | 個人レッスン | ニ長調音階と練習曲の復習および、「むすんでひらいて」「ちょうちょう」などの手遊び歌や季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 7 | 個人レッスン | 前回の復習および、「ブンブンブン」「かえるのうた」などの歌や季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 8 | 個人レッスン | 前回の復習、「こいのぼり」「あくしゅでこんにちは」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 9 | 個人レッスン | 前回の復習、「かたつむり」「たなばたさま」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 10 | 個人レッスン | 前回の復習、「とけいのうた」「うみ」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 11 | 個人レッスン | 前回の復習、「きらきら星」「アイアイ」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 12 | 個人レッスン | 試験曲3曲の各カテゴリーから候補曲を数曲決め、それらの曲の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 13 | 個人レッスン | 試験曲3曲を確定し、より表情豊かに弾き歌いできるようにする。試験曲をユニバーサルパスポートから入力する。 | 毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 14 | 個人レッスン | 試験曲3曲について、より音楽的に弾き歌いできるようにする。 | 毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 15 | 個人レッスン<br>グループレッスン | グループのメンバー同士で、弾き歌いの試験曲3曲の聴きあいをし、感想や意見交換をする。また、前期の振り返りをする。 | 試験本番を想定して、課題を毎日練習する。(1 日 30 分) |
| 16 | 実技試験 | 弾き歌いの定期試験を受ける。<br>試験を振り返り、長期休暇の課題を明確にする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分) |

**単位の認定について**　授業内試験および実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。

**教科書**　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）

**参考書**　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 器楽Ⅱ（科目コード:TNEDU105／TNNTC105） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教科に関する科目（音楽） | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤真美子　山本優子<br>安楽三由紀　甲斐麿有美　川原友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理<br>土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子　宮里由実 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要:** ・他の関連科目で得たコードネームの知識を基本として、スリーコードを活用しながらコード奏を行う。
・幼稚園や保育園、認定こども園で歌われる生活の歌や手遊び歌、秋・冬の季節の歌の弾き歌いを習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③◎ |

**到達目標：** ・スリーコードを学び、簡単なコード伴奏ができるようになる。
・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、試験において生活・秋・冬の歌の弾き歌いができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 今期の到達目標を立てる。「あなたのお名前は」と「小ぎつね」のメロディ、コードを弾く。 | 第 1 回目の内容を振り返り、ピアノを練習する。（150 分） |
| 2 | 個人レッスン | 「あなたのお名前は」「小ぎつね」の伴奏アレンジおよび「虫のこえ」「アルプス一万尺」のコード奏、「大きな栗の木の下で」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 3 | 個人レッスン | 「虫のこえ」「アルプス一万尺」の伴奏アレンジおよび「村祭り」のコード奏、「まつぼっくり」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 4 | 個人レッスン | 「村祭り」の伴奏アレンジおよび「もろびとこぞりて」のコード奏、「山の音楽家」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 5 | 個人レッスン | 「もろびとこぞりて」の伴奏アレンジをし、授業内試験（コード奏）の曲を確定する。「山の音楽家」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 6 | 個人レッスン<br>グループレッスン | グループで授業内試験（コード奏）の聴きあいをし、試験前の仕上げを行う。 | 毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 7 | 授業内試験 | 授業内試験（コード奏試験）を受け、次回の課題を確認する。 | 毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 8 | 個人レッスン | 前回の復習および、「おかたづけ」「手をたたきましょう」「もみじ」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 9 | 個人レッスン | 前回の復習および、「ジングルベル」「ロンドン橋」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 10 | 個人レッスン | 前回の復習および、「もみじ」「夕やけこやけ」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 11 | 個人レッスン | 前回の復習および、「やきいもグーチーパー」「おもいでのアルバム」などの季節の歌の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 12 | 個人レッスン | 試験曲3曲の各カテゴリーから候補曲を数曲決め、それらの曲の弾き歌いをする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 13 | 個人レッスン | 試験曲3曲を確定し、より表情豊かに弾き歌いできるようになる。ユニバーサルパスポートから試験曲を入力する。 | 毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 14 | 個人レッスン | 試験曲3曲について、より音楽的に弾き歌いできるようになる。 | 毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 15 | 個人レッスン<br>グループレッスン | グループのメンバー同士で、弾き歌いの試験曲3曲の聴きあいをし、感想等を述べる。また、今期の授業について振り返りをする。 | 試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 16 | 実技試験 | 弾き歌いの定期試験を受ける。<br>試験を振り返り、長期休暇の課題を明確にする。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |

**単位の認定について**　授業内試験および実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。

**教科書**　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）

**参考書**　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 器楽Ⅲ （科目コード:TNEDU204／TNNTC204） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教科に関する科目（音楽） | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤真美子　山本優子<br>安楽三由紀　甲斐麿有美　川原友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理<br>土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子 宮里由実 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**保育所・幼稚園・認定こども園における音楽活動で必要とされるピアノ演奏の基本的技術習得を、他の音楽科目と連携をとりながら学んでいくことを目指す。具体的には以下の通り。
（1）「こどもの歌」弾き歌いを通して保育所・幼稚園・認定こども園で歌われる曲のレパートリーを増やす。
（2）コードによる伴奏付けを、実習先から提示された曲等に活用しつつ、保育現場で役立つ力を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やし、試験において弾き歌いができる。
・ 様々な曲を、必要に応じて、コード伴奏で弾くことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業内容や使用教材、授業ルールや授業の受け方について理解する。 | オリエンテーション内容を配信動画で振り返り、練習する。（150 分） |
| 2 | 個人レッスン | 担当教員に自己紹介を行い、これまでのピアノ学習歴を伝え、次回の課題を確認する。また、今期の目標を立てる。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 3 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 4 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 5 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 6 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 7 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 8 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 9 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 10 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 11 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 12 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 13 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、前期弾き歌い試験の選択曲を確定し、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 14 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」を中心にレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。今期の振り返りを行う。 | 試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 15 | 個人レッスン<br>グループレッスン | 「弾き歌い試験選択曲」について試験本番を想定した形で演奏し、練習する。また、グループ内での聴き合いをし、感想を述べる。 | 試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 16 | 実技試験 | 「弾き歌い試験」を受け、その振り返りを行い、来期へ向けての課題を確認する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |

**単位の認定について**　実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。

**教科書**　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）

**参考書**　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　課題のチェックを行い、新たな練習方法を指示したり、新しい課題を与えたりする。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 器楽Ⅳ （科目コード:TNEDU205／TNNTC205） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教科に関する科目（音楽） | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤真美子　山本優子<br>安楽三由紀　甲斐麿有美　川原友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理<br>土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子 宮里由実 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**保育所・幼稚園・認定こども園における音楽活動で必要とされるピアノ演奏の基本的技術習得を、他の音楽科目と連携をとりながら学んでいくことを目指す。具体的には以下の通り。
（1）「こどもの歌」弾き歌いを通して保育所・幼稚園・認定こども園で歌われる曲のレパートリーを増やす。
（2）コードによる伴奏付けを、実習先から提示された曲等に活用しつつ、保育現場で役立つ力を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やし、試験において弾き歌いができる。
・ 様々な曲を、必要に応じて、コード伴奏で弾くことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 個人レッスン | 担当教員に自己紹介を行い、これまでのピアノ学習歴を伝え、次回の課題を確認する。また、今期の目標を立てる。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 2 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 3 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 4 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 5 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 6 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 7 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 8 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 9 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 10 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 11 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 12 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 13 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、前期弾き歌い試験の選択曲を確定し、練習する。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 14 | 個人レッスン | 「弾き歌い試験選択曲」を中心にレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。今期の振り返りを行う。 | 試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 15 | 個人レッスン<br>グループレッスン | 「弾き歌い試験選択曲」について試験本番を想定した形で演奏し、練習する。また、グループ内での聴き合いをし、感想を述べる。 | 試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分） |
| 16 | 実技試験 | 「弾き歌い試験」を受け、その振り返りを行う。 | 配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分） |

**単位の認定について**　実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。

**教科書**　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）

**参考書**　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　課題のチェックを行い、新たな練習方法を指示したり、新しい課題を与えたりする。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 器楽活用法 （科目コード:TNMTH201／TNNTC221） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 星﨑明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**様々な楽器の奏法を学び、保育や療育の現場で効果的に音や音楽を使う技術を身に着ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
・楽器の奏法を知っており、効果的に楽器を使うことができる。
・打楽器によるアンサンブルを行うことができる。
・コードを使って子どもの歌を伴奏することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>打楽器の奏法① | シラバスを基にオリエンテーションを行う。<br>打楽器の基本的な奏法を学ぶ。<br>楽器コミュニケーション等のグループワークを行う。 | 楽器の奏法を覚える。<br>ボンゴやトゥバーノで響く音の出し方を練習する。(60 分) |
| 2 | 打楽器の奏法② | リズムアンサンブルを行う。<br>絵譜による作品作りを行う。 | リズムアンサンブルの練習をする。(60 分) |
| 3 | 鍵盤楽器奏法 | 鍵盤楽器の基本的な奏法を学ぶ。また、コード伴奏を使った効果的な演奏方法を学ぶ。 | コード伴奏を練習する。(60 分) |
| 4 | 子どもの歌と楽器① | 子どもの歌に合った楽器を探し、音付けをする。 | 楽器の練習をする。(60 分) |
| 5 | 子どもの歌と楽器② | 子どもの歌に合った楽器を探し、音付けをする。 | 楽器の練習をする。(60 分) |
| 6 | 音や音楽の使い方① | 子どもの遊びに音付けをし、効果的な音の使い方を学ぶ。 | 課題の練習をする。(60 分) |
| 7 | 音や音楽の使い方② | 音と動きのワークを行い、対象者に伝わる音の出し方を学ぶ。 | 課題の練習をする。(60 分) |
| 8 | アンサンブル① | 様々な楽器を使い、既成の曲を構成してアンサンブルを行う。 | アンサンブルの練習をする。(60 分) |
| 9 | アンサンブル② | アンサンブルの構成をグループごとに考え、練習する。 | 構成を考える。(60 分) |
| 10 | アンサンブル③ | グループごとにアンサンブルの練習をする。 | 自分のパートを練習する。(60 分) |
| 11 | アンサンブル④ | アンサンブルの発表を行う。 | アンサンブルの練習をする。(60 分) |
| 12 | 作品の創作① | 声・音、音楽、素材、描画、動き等で総合的に感覚を使う作品を創作する。 | 作品の練習を行う。(60 分) |
| 13 | 作品の創作② | 声・音、音楽、素材、描画、動き等で総合的に感覚を使う作品を創作する。 | 作品の練習を行う。(60 分) |
| 14 | 作品の創作③ | 声・音、音楽、素材、描画、動き等で総合的に感覚を使う作品を創作する。 | 作品の練習を行う。(60 分) |
| 15 | まとめ | 作品の発表を行う。 | 課題レポートを作成する。(60 分) |

**単位の認定について**　グループでの作品発表(50%)　活動への取り組み(30%)　授業記録(20%)
**教科書**　「はらっぱ de 楽譜集」中島恵子　こども音楽センター
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れています。

| 授業科目名 | 教育課程論（科目コード:TNEDU115／TNNTC115） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 久松尚美、 泰田久史 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後、 火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：**全体的な計画（教育課程・保育課程）の意義、そして編成・指導計画・評価などについて、そのポイントをノートにまとめ、理解することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育課程の意義１ | 「全体的な計画」を学ぶ意義について理解を深める。 | 「全体的な計画」を学ぶ意義についてノートにまとめる。(30 分) |
| 2 | 教育課程の意義２ | 幼稚園教育要領と保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的について理解を深める。 | 保育所・幼稚園・認定こども園の違い及び教育課程編成の目的についてまとめる。(30 分) |
| 3 | 教育課程の意義３ | 幼稚園教育要領と保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の改定の変遷及び改訂内容並びにその社会的背景を理解する。 | 新旧の要領等の改訂の変遷及び内容等についてまとめる。(30 分) |
| 4 | 教育課程の意義４ | 「全体的な計画」が社会において果たしている役割や機能をグループワークで調べる。 | 「社会に開かれた教育課程」について調べる。(30 分) |
| 5 | 教育課程の編成の方法１ | 子ども理解に基づく具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する。 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について調べる。（30 分） |
| 6 | 教育課程の編成の方法２ | 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の意義について理解を深める。 | 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を支える体制ついて調べる。（30 分） |
| 7 | 教育課程の編成の方法３ | 教育課程に基づいた指導計画の意義を学び、具体的な手順を理解する。 | 指導計画の実際を見てその必要性を説明できるようにまとめる。(60 分) |
| 8 | 教育課程の編成の方法４ | 指導計画の作成のポイントを学ぶ。 | 園児の発達や地域の実態等を考慮した指導計画の在り方についてまとめてくる。(30 分) |
| 9 | 教育課程の編成の方法５ | 年齢を考慮した長期的な視野や幼児や幼稚園、地域の実態を踏まえた教育課程や保育課程と指導計画を検討することの重要性を理解する。 | 年間計画・月案・週案・日案の指導計画の概要をまとめる。(60 分) |
| 10 | 教育課程の編成の方法６ | 幼稚園における長期と短期の指導計画の作成と作成上の留意点について理解を深める。 | 年間指導計画の指導計画の実践例をまとめる。(30 分) |
| 11 | 教育課程の編成の方法７ | 実際の事例を基に長期の指導計画の作成と展開について理解を深める。 | 毎月の指導計画（月案）の計画について実践例をまとめる。(30 分) |
| 12 | 教育課程の編成の方法８ | 実際の事例を基に短期の指導計画の実際の作成と展開について理解を深める。 | 毎週（週案）及び毎日（日案）の計画について実践例をまとめる。(30 分) |
| 13 | 教育課程の編成の方法９ | PDCA サイクルにおける評価及び省察並びに改善・記録について理解を深める | 教育課程及び保育課程の省察及び記録の重要性を説明できるようにまとめる。(60 分) |
| 14 | カリキュラム・マネジメント１ | 教育課程や保育課程におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性をグループで調べる。 | カリキュラム・マネジメントの意義や重要性をまとめる。(30 分) |
| 15 | カリキュラム・マネジメント２ | カリキュラムの評価の基礎的な考え方を理解する。教育課程論のまとめを行う。「まとめ」 | 教育課程や保育課程の評価とその方法等についてまとめる。(60 分) |

**単位の認定について**

「記述試験 50%」「ノート評価・小テスト・レポート提出・授業態度 50%」　60%以上獲得で単位認定

**参考書**
- 「幼稚園教育要領」「同解説書」（文部科学省）：フレーベル館
- 「保育所保育指針」「同解説書」（厚生労働省）：フレーベル館
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同解説書」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）：フレーベル館
- 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」（文部科学省）

**授業外学習について**　指示された時間外学習についてまとめ、次の授業までに作成し提出する。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、評価後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 教育原理　（科目コード:TNEDU113／TNNTC113） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教職に関する科目（教職の基礎理論に関する科目） | | | | | | |
| 担当者 | 河原国男 （kkawahara@edu.miyazaki-mic.ac.jp） | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**

１．教育及び保育の基本概念を身につけるとともに、教育・保育を成り立たせる諸要因とそれらの相互関係を理解する。

（１）教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。

（２）子ども、教員、家庭、学校、など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

２．教育の歴史（特に幼児教育史）に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。

（１）家庭と社会による歴史を理解している。

（２）近代教育制度の成立と展開を理解している。

（３）現代社会における教育課題を歴史的視点から理解している。

３．教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校の関わりを理解している。

（１）家庭や子どもに関わる教育の思想を理解している。

（２）学校や学習に関する教育の思想を理解している。

（３）代表的な教育家の思想を理解している。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ | |

**到達目標：**教育の本質、理念、歴史に関する基本的事項について理解し、自己の経験、関連する出来事、知識等に即して「主体的対話的で深い学び」によって、毎回のリアクションペーパー（ユニパでのアンケート回答）に記述できる。また最終試験において発展的に幼児教育の理論と実践に関する自己の所見を述べることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「環境を通じての教育」という方法概念 | 『幼稚園教育要領』等で幼児教育の基本指針とされている「環境を通じての教育」という概念を再確認する。遊びを通じて「かかわる」力に着目し、子ども−環境（仲間、先生、遊具等）の基本構造を理解する。 | 授業の予習・復習：<br>『幼稚園教育要領』及び同解説、『保育所保育指針』『認定こども園教育保育要領』を資料として、保育原理、保育内容などの既習事項を復習する。（60 分） |
| 2 | 「教授学的３関係」という概念 | 子どもに期待される「かかわる」力が、「環境を通じての教育」の下から、小学校に就学して以後は、教育学の基本概念で説明すれば、教師・教科書・子供という「教授学的３関係」の下に基本構造が移行することを理解する。 | 授業の予習・復習：<br>『幼稚園教育要領』等における「教員の役割」についての記述を調べる。(60 分) |
| 3 | 幼保・小との「円滑な接続」の課題 | 文科省調査研究協力者会議報告「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」(2010)、「文科省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」（2022）の所見を踏まえて、幼稚園・保育所と小学校の間で双方向の成果と課題があることを理解する。 | 授業の予習・復習<br>「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」「非認知的な能力」について。(60 分) |
| 4 | 「教育」「保育」の定義 | 「かかわる」力の移行プロセスが、自然的なのではなく、意図的に「なる」を実現する人間形成として「教育」によって成り立つことを認識するため、「教育」概念についてあらためて定義を理解する。その上で、「ある」に関する「養護」（生命の保持、情緒の安定）」と「教育」が対比されること、かならずしも学校教育に限定されるものではなく、家庭、学校、社会の場で、生涯学習の場でも種々行われうるものであることを理解する。 | 授業の予習・復習：<br>ペスタロッチの家庭的養護の原則について。<br>（60 分） |
| 5 | 「形成」概念とアリストテレス「習慣づけ」の理念 | 人間を対象として「形成」する働きが、原理的に“生と形式”に関する問いを含むことを、アリストテレスの「習慣づけ」の理念を理解する。真似ることの意義を示す、「なすことによって学ぶ」という有名な所見も、この理念から導かれることを理解する。 | 授業の予習・復習：<br>「ごっこ」遊びとその様相について調べる。<br>（60 分） |
| 6 | 『エミール』と社会的出来事としての＜子供期の発 | 自然的な人間形成と意図的作為的な人間形成の区別について、「自然の歩み」を主張するルソーの『エミー | 授業の予習・復習： |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 見＞ | ル』を事例に理解する。その作品に示されている＜子ども期の発見＞、子どもの主体的自発的活動としての遊びの意義とともに、ルソーの場合の特別な意味について「３種類の教育」（自然の教育、事物の教育、人間の教育）を踏まえて理解する。 | 「環境を通じての教育」の具体的実践について調べる。（60 分） |
| 7 | 自己活動の原理とソクラテス「産婆術」 | 人間間形成が、1)自己自身との関係 と 2)外的環境との関係で区分できることを理解する。前者では自己活動の原理とそれに導かれたソクラテス「産婆術」の思想ともに、自己自身に向きあう「自己内対話」、「自己教育」などがあることを理解する。関連して、対話的コミュニケーションの概念と実際について理解する。 | 授業の予習・復習：フレーベル主義における「恩物」、モンテッソーリ教育における教具について調べる。（60 分） |
| 8 | コメニウス『大教授学』の「学校」構想 | 外的環境との関係での人間形成には、事物との関係、人との関係など複数の諸力があること、そのなかで「他者教育」の専門的施設として「学校」が位置づけられることを理解する。関連して、コメニウスの「学校」構想と近代学校の史的成立について理解する。 | 授業の予習・復習（60 分） |
| 9 | 「向上」の概念と、デューイ「経験の再構成」について | 時間的経過にしたがって上昇し価値蓄積し成長していく人間のあり方として「向上」の概念を理解する。価値蓄積という点で、デューイの「経験の再構成」という成長概念がそれに相当することを理解する。子供の成長とともに、保育者自身の成長課題についても認識する。 | 授業の予習・復習（60 分） |
| 10 | 「試練」の事例 | 「向上」する人間のあり方を具体的に示す事例として、「試練」を経験する「恢復」する人間のあり方についての大江健三郎の説明を理解する。障がいの受容ということも、理解する。 | 授業の予習・復習：特別支援教育における「自立」の概念について調べる。（60 分） |
| 11 | 支配関係 | 教育的態度の諸類型（篠原助市『教育学』）の１つとしてフーコーの「一望監視施設」論にうかがえる支配関係を理解する。幼児教育の現場でも、弱められた形で支配関係に近い集団行動の統制の働きが習慣としてあり、一人一人の子どもの主体性が損なわれうることを理解する。 | 授業の予習・復習：中教審答申「幼児期の教育と小学校教育の接続について」で明らかにされている連携接続の仕方について調べる。（60 分） |
| 12 | 指導関係 | 教育的態度の諸類型の１つとして、伊藤仁斎「師説」に示された教授学的３角形についてあらためて理解する。関連して、教育目的を実現するために、教師によって選択された文化的素材として「教材」概念とその広大な範囲を理解する。“書かれていない教材”という点で、「環境を通じての教育」の概念に通ずることを理解する。 | 授業の予習・復習：工藤直子『のはらうた』に親しむ。（60 分） |
| 13 | 同朋関係 | 教育的態度の諸類型の１つとして、プラトン対話編「メノン」にうかがえる同朋関係を理解する。対話を通じての探求的な問答が重要な役割を果たすことを理解する。その具体的な実践の事例として、保育カンファレンスの状況について理解する。 | 授業の予習・復習：『幼稚園教育要領』に記載されている「共同作業者」としての教員の役割について明確に確認する。（60 分） |
| 14 | 学校の史的成り立ち | 教育の力を集めて、人材の育成を求めて教育共同体が成立し、その目的を効果的に実現するために、計画的・組織的に教育を施す場所として「学校」が歴史的社会的に成立することを理解する。 | 授業の予習・復習：集団保育の史的成立について調べる。（60 分） |
| 15 | 教育目的の「公共性」理念 | 何人も一人では生きてゆけず、他者の力を必要とし、自分も「他者の力」にならなければならないということ、そうした相互依存的性を基本とする協働関係を成立させる資質、能力を教育の目標として設定することから、教育目的の「公共性」理念が生ずることを理解する。 | 授業の予習・復習：非認知的能力に含まれる、協働する態度とその具体例について調べる。（60 分） |
| 16 | 試験 | | |

**単位の認定について：** 小テスト：30 点、学期末試験 70 点を配点とする。 60 点以上で単位を認定する。受講ノートが適切に筆記整理されていない場合には、最大 30 点減点する。ユニパのコメント内容によって、加点する場合もある。逆にコメント内容が貧弱である場合は減点する。受講態度が、望ましくない場合（実習記録の作成など別の科目の「内職」も含む）は最大で 30 点減点する。

**教科書** 『教職基礎～「教職概論」「教育原理」～』当該年度版とする。

**参考書** 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

**授業外学習について：**指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法：**試験答案はフィードバックする。受講後のコメントの一部を次回にフィードバックする。

| 授業科目名 | 教育実習 （科目コード:TNEDU302） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 髙妻弘子（実務家教員） | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科 1、2 年 | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 4 |

**授業概要：**

教育実習は、幼稚園教諭免許状取得のために不可欠のものである。一定期間、幼稚園において園児と共に教育活動を展開することを通して、幼稚園教諭となるための実践的指導力を身につけていくものであり、大学での学びと実践を通して確認し理解を深める場でもある。教育現場において大学で学んだ理論や知識を生かすとともに教育の現場にふれながら教育の実践的な知識、技能、態度等の基礎と応用力を修得させたい。なお、本学における教育実習は 4 単位である。

【教育実習の目標】
1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能について実践を通して理解を深める。
2. 子どもの発達過程を捉えた観察や関わりの視点を明確にし、教育・保育の理解を深める。
3. 既習の教科や実習経験を踏まえ、保護者支援及び関係機関、地域社会との連携について総合的に学ぶ。
4. 指導計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、具体的に理解する。
5. 教諭、保育教諭等の業務内容や役割について具体的実践を通して理解する。
6. 教諭、保育教諭等としての自己の課題を明確化する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**
1. 幼稚園・認定こども園の役割や機能について理解し、具体的に説明することができる。
2. 子どもの発達過程を捉えた観察や関わりの視点を自分なりにまとめることができる。
3. 子どもの内面と行動における援助のあり方や適切な保護者支援について自分の考えを発表することができる。
4. 指導計画、実践について実際に取り組み、子どもの見方や捉え方、記録の書き方などを体的に理解する。
5. 教諭、保育教諭等の業務内容や役割について具体的に説明することができる。

**授業計画表**

| トピック名 | | 概要 |
|---|---|---|
| 基本実習の内容 | 幼稚園・認定こども園の役割と機能 | (1)幼稚園・認定こども園の生活と1日の流れ<br>(2)幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領の理解 |
| | 子ども理解 | (1)子どもの観察と一人ひとりを理解することの意味<br>(2)子どもへの援助やかかわりの実際 |
| | 援助のあり方 | (1)子どもの特性にそった援助や留意点 |
| | 保育の計画・観察・記録 | (1)指導計画から保育日誌記録までのつながりの理解<br>(2)保育日誌記録の書き方 |
| | 専門職としての教諭・保育教諭等の役割 | (1)教諭、保育教諭等の業務内容<br>(2)教諭、保育教諭等の役割 |
| 教育実習の内容 | 幼稚園・認定こども園の役割や機能の具体的展開 | (1)幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領の理解と展開<br>(2)幼稚園・認定こども園の社会的役割と責任 |
| | 観察に基づく教育・保育の理解 | (1)幼稚園・認定こども園の生活の様子や展開の把握<br>(2)子どもの心身の状態や活動の観察<br>(3)教諭・保育教諭等の動きや実践の観察 |
| | 教育・保育内容及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 | (1)計画に基づく子どもの発達過程に応じた教育・保育内容<br>(2)環境を通して行う教育・保育の理解<br>(3)子どもの保護者や地域社会等との連携 |
| | 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 | (1)観察や実践の記録に基づく考察<br>(2)カリキュラムに基づく指導計画の作成・実践・考察・評価の理解<br>(3)作成した指導計画に基づく実践と評価 |
| | 教諭・保育教諭等の業務 | (1)教諭・保育教諭等の業務内容<br>(2)職員間の役割分担と連携<br>(3)多様な教育・保育の展開 |
| | 自己の課題の明確化 | (1)子どもの観察とその記録 |

**単位の認定について**　実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。
**教科書・参考書**　講義中において別途紹介する。
**授業外学習について**　実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。
**課題に対するフィードバックの方法**　実習指導の中で行う。
※幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員や実習先の幼稚園教諭が、幼稚園・認定こども園の役割や機能について実践を通して指導する。

| 授業科目名 | 教育実習前後指導 （科目コード:TNEDU301） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 髙妻弘子(実務家教員) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年、２年 | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**教育実習は、幼稚園教諭免許状取得のために不可欠のものである。一定期間、幼稚園において園児と共に教育活動を展開することを通して、幼稚園教諭となるための実践的指導力を身につけていくものであり、大学での学びと実践を通して確認し理解を深める場でもある。教育現場において大学で学んだ理論や知識を生かすとともに教育の現場にふれながら教育の実践的な知識、技能、態度等の基礎と応用力を修得させたい。なお、教育実習前後指導については、１年次前期から２年次前期までの１年半の期間で、以下の授業内容のもと計画的に実施し、夏期休業中の体験実習も含み１単位とする。

1. 教育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 子ども理解、援助のあり方、様々な対象との関わりについて具体的に学ぶ。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。

また１年次 11 月上旬～中旬にかけて、宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園・清武みどり幼稚園にて３日間の基本実習を実施する。基本実習の目標については以下のとおりであり、教育実習前後指導の一環となる。

1. 認定こども園の役割や機能について具体的に学ぶ。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 子どもの内面と行動における保育教論等の援助のあり方を学ぶ。
4. 子どもの見方や捉え方、記録の書き方などを学ぶ。
5. 保育教諭等の業務内容や役割についての意識を持つ。
6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**幼児に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。

1. 教育実習の意義・目的を理解し、説明することができる。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
3. 子ども理解、援助のあり方、様々な対象との関わり等、知識、技術について自分なりにまとめることができる。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法を理解し、身につけることができる。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。

**授業計画表**

| トピック名 | | 概要 |
|---|---|---|
| 基本実習の内容 | 教育実習に臨むにあたって<br>意義・目的 | (1)教育実習生としての自覚と心構え<br>(2)勤務や保育についての心得(服務規程の厳守)<br>(3)実習園での人間関係について(教職員、幼児、保護者、実習生同士の関係) |
| | 幼児理解と様々な関わり | (1)幼児理解<br>(2)保育参観における観察の視点<br>(3)積極的な子どもとの関わり<br>(4)保護者との対応の仕方 |
| | 指導案・指導計画・保育日誌等の作成について | (1)保育指導案作成の実際<br>(2)保育日誌の記録<br>・ねらいの観点<br>・具体的援助や留意点の視点<br>・反省、考察 |
| | 教育実習の心構え | (1)「幼稚園教育実習についての実習生留意事項」の遵守 |
| | 事後指導における実習課題の明確化 | (1)実習後の自己評価<br>(2)課題の明確化 |

| | | |
|---|---|---|
| 教育実習の内容 | 幼稚園における幼児理解の方法 | (1)幼児一人一人を十分に理解することの意味<br>(2)個人差と発達段階について<br>(3)環境構成の大切さや保護者との関係 |
| | 幼児観察の具体的手立て | (1)幼児の内面と行動の関係<br>(2)観察の視点や教諭との関わりについて<br>(3)園内における安全教育の視点 |
| | 指導案・指導計画・保育日誌の具体的指導 | (1)幼稚園におけるカリキュラムの実際<br>(2)保育指導案作成の基本的視点と実際<br>(3)保育日誌記録の具体的指導 |
| | 教育実習生としての心得 | (1)教育実習生としての自覚と心構え<br>(2)勤務や保育についての心得(服務規程の厳守)<br>(3)衛生管理と健康管理について |
| | 事後指導における実習の総括と課題の明確化 | (1)実習の総括と自己評価<br>(2)課題の明確化 |
| ※毎時の具体的な内容については、実習指導計画を参照 | | |

**単位の認定について**　実習先評価と教育実習前後指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。
**教科書**　実習の手引き
**参考書**　講義中において別途紹介する。
**授業外学習について**　実習に必要な知識の調べ学習や実習に向けての準備（実習の課題の明確化)、指導者からの指導を受けて実習期間とその前後を通して行う。
**課題に対するフィードバックの方法**　実習指導の中で行う。
※幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員や、幼稚園、福祉施設、保育園に勤務している外部講師が、実習に対する心構えや円滑な実習が行えるよう指導する。

| 授業科目名 | 教育心理学 （科目コード:TNEDU114／TNNTC114） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤拓大 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**保育の教育過程における子どもの発達の特徴や学習過程を理解し、より効果的な保育を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。具体的には以下の授業目標を達成することを目指す。①従来の研究で明らかにされてきた理論や知見の理解を通して、子どもへの理解を深めることで、発達観、子ども観、保育観を形成する、②生涯発達の観点から発達の過程や初期経験の重要性について理解し、子どもが人との相互的なかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する、③各発達段階における子ども認知、思考、行動などの心的特徴を理解することで、保育実践に関わる心理学の知識を習得する、④障害のある幼児の心身の発達及び学習の過程を理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ ○ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標** ・効果的な保育を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解し、記述できる。
・適切な保育観、子ども観を持つことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育心理学とは何か | 心理学とはどのような学問かを含めて、教育心理学の目的や意義を学ぶ。 | シラバスを読み、授業目標と 15 回の授業のおおまかな流れを掴んでおく（30 分）。 |
| 2 | 子ども観と保育観・教育観 | 子ども観の歴史的変遷や、保育所と幼稚園における保育観（教育観）とはどのようなものかについて学ぶ。 | 現在の子ども観はどのようなものかについて考えてくる（30 分）。 |
| 3 | 発達と教育 | 発達とは何かについて学び、発達と教育（保育）の関わりについて学ぶ。 | 「発達過程を踏まえた教育」の意味について考えてくる（30 分）。 |
| 4 | 身体的機能と運動機能の発達 | 誕生から幼児期までの身体と運動機能の発達の特徴について学ぶ。 | 各発達段階でどのような運動ができるようになるのか大まかな目安を立てておく（30 分）。 |
| 5 | 子どもの発達と環境 | 環境が人の学習過程に及ぼす影響について学ぶ。 | 生後全く人間と接触のないままに育った人間がどのような大人になるかを考えてくる（30 分）。 |
| 6 | 初期経験としての学習 | 愛着が後の発達に及ぼす影響を生涯発達の観点から理解する。 | 子どもはどうして母親が好きなのかを考えてくる（30 分）。 |
| 7 | 知覚の発達 | 胎児期、乳児期、幼児期における外界を理解するための知覚の発達について学ぶ。 | 乳幼児の視覚、聴覚は私達と比べてどのぐらいかを考えてくる（30 分）。 |
| 8 | 学習 | 学習の基本的なメカニズムについて条件づけを中心に学ぶ。また動機づけについても学ぶ。 | 学びのメカニズムの違いは何かについて考えてくる（30 分）。 |
| 9 | 動機づけ | 動機づけの基本的なメカニズムについて学ぶ。 | 子どもにどのような言い方・やり方をしたら「やる気」が出る・出ないようになるかを考えてくる（30 分）。 |
| 10 | 言葉の発達と社会性 | それぞれの発達段階における言葉の特徴と社会性の発達との関連について学ぶ。 | 子どもはどうして言葉を話すようになるのか、どうしたら言葉を発するようになるか考えてくる（30 分）。 |
| 11 | 子どもの認知 | 子どもの外界の捉え方・考え方について学ぶ | 子ども考え方やものの観方について、大人との違いという観点から整理をしておく（30 分）。 |
| 12 | 感情の発達と自我 | 自我の芽生えと感情の発達について学ぶ。また、自己表現の発達についても学ぶ。 | 子どもが「反抗する」ことの意味について、考えてくる（30 分）。 |
| 13 | 遊びと発達 | 乳幼児期の遊びと発達の関係について学ぶ。 | 子どもは遊ぶことで何を身につけているか、子どもが遊ぶことの意味について考えてくる（30 分）。 |
| 14 | 子どもの発達障害 | 発達障害の特徴と対応について学ぶ。 | これまでに聞いたことのある発達障害の名称とその特徴について知っていることをまとめてくる（30 分）。 |
| 15 | まとめ | これまでに学んだ内容についてまとめ、記述する。 | これまでに学んだ授業内容を自分の言葉で、自分の考えを含め述べることができるようにしておく（30 分）。 |
| 16 | 学期末試験 | これまで学んだ内容の習得状況を確認、評価するための試験を行う。 | |

**単位の認定について：**試験 70%　授業態度 20%　授業外学習 10%
**教科書・参考書：**「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
**授業外学習について：**指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法：**提出された課題はチェック後に解説する。

| 授業科目名 | 教育方法と技術（科目コード：TNEDU213／TNNTC213） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目）<br>「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」認証に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 御手洗正文　工藤道子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　　授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**

幼稚園教育は幼児の自発的活動をもとに、教育課程を指針としながら行われるが、幼児の望ましい興味関心を引き出す環境の設定と活動を一層前進的なものとする為には、そのための方法と技術が不可欠である。本授業では下記の3項目を授業の目標としている。

①Society 5.0 社会を担う子どもたちに求められる資質･能力を育成するための教育方法について理解する。
②教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。
③IoT、ICT やプログラミングを活用した効果的な授業や適切な教材の作成･活用に関する能力を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**

・教育の方法の基礎概念について述べることができる。
・教育の目的に適した指導技術を理解している。
・情報機器（IoT、ICT）やプログラミングを活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育方法と技術の概要 | 幼児教育に関する教育方法と技術の原理と歴史について理解する。また、Society 5.0 社会における情報機器（IoT、ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用技術を理解する。 | Society 5.0 社会における幼児教育について事前に調査しておく。（60 分） |
| 2 | 視聴覚教育と保育内容 | 保育現場における視聴覚メディアの活用を、幼稚園教育要領や保育所保育指針と関連付けて理解する。 | 実習において、どのような視聴覚メディアを目にしたかをまとめる。（30 分） |
| 3 | 視聴覚メディア活用の有効性 | 言葉、情緒、道徳性、思考力、想像力等の発達を促す視聴覚メディアの働きについて理解する。 | 幼児の心理的特性について考える。（30 分） |
| 4 | 視聴覚メディアの活用<br>①絵カードの活用 | 幼児教育・障がい児保育において、絵カードがどのように活用されているかを理解する。 | 絵カードの使用場面について理解し、実際に作成する。（60 分） |
| 5 | 視聴覚メディアの活用<br>②テレビの活用 | 幼児教育において、視聴覚メディアの１つとしてテレビがどのように活用されているかを理解する。 | 子供向け教育番組の「ねらい」を考える。（30 分） |
| 6 | 視聴覚メディアの活用<br>③紙芝居の活用 | 伝統的な視聴覚メディアである紙芝居の、効果及び操作方法を理解する。 | 紙芝居の特性について調べる。（45 分） |
| 7 | 視聴覚メディアの活用<br>④紙芝居の活用 | 紙芝居の作成方法について理解し、実際に作成する。 | グループごとに紙芝居を作成する。（90 分） |
| 8 | 視聴覚メディアの活用<br>⑤紙芝居の活用 | 作品を発表する。 | グループごとに作品発表を行う準備を整える。（60 分） |
| 9 | IoT、ICT、AI を活用した保育園・幼稚園の教育と業務 | 幼稚園において利活用されているデータサイエンス・AI 利用事例として「保育業務支援システム」について学ぶ。また、幼稚園教育で利用されている IoT,ICT ならびに AI 機器を調査し、グループによる発表を行う（遠隔授業の場合は、Zoom による発表）。 | ICT、AI を活用した幼稚園業務システムや教育方法について、事前に調べておく。PC でのパワポ発表が出来るように復習しておく。（60 分） |
| 10 | ICT を活用した教材の作成① | スクラッチの拡張機能(合成音声)を使用して、紙芝居の読み聞かせ教材を作成（プログラミング）する。 | スクラッチプログラミングがすぐに理解できるように予習をしておく。事前に作成した紙芝居は写真を撮っておく。（60 分） |
| 11 | ICT を活用した教材の作成② | 作成した紙芝居（ビジュアル動画）のグループ発表を行う。 | グループごとに作品発表を行う準備を整えておく。（60 分） |
| 12 | ICT を活用した教材の作成③ | スクラッチを利用して幼稚園児の教育用音楽教材（ビジュアル動画）をプログラミングする。背景（舞台）に前半で作成した紙芝居等を取り入れる。 | 演奏する楽曲の旋律（楽譜）とコードを事前に調査しておく。（60 分） |
| 13 | ICT を活用した教材の作成④ | 作成した音楽教材（ビジュアル動画）のグループ発表を行う。 | グループごとに作品発表を行う準備を整えておく。（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | ICT を活用した教材の作成⑤ | スクラッチの拡張機能を使用して幼稚園児の算数教材（ビジュアル動画）をプログラミングする。 | ルーチン演算を行うためのアルゴリズムの予習をしておく。（60 分） |
| 15 | ICT を活用した教材の作成⑥ | スクラッチの拡張機能を利用して幼稚園児用のロボット制御プログラムを行う。 | ロボット制御に関するソフトを調査しておく。（60 分） |

**単位の認定について**　記述式課題 20%、授業への参加状況 20%、作成した作品 60%を総合して評価します。
教科書･参考書　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
上記以外を使用する場合は、別途指示します。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説します。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。
※本教科は、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」認証を受けた本学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」を構成する科目（その他）となっています。

| 授業科目名 | 教職概論(科目コード:TNEDU112／TNNTC112) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教職に関する科目（教職の意義等に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 南中道　隆　　間所あゆみ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力と職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適正を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅱ①◎ |

**到達目標：**・教職の意義及び教員の役割、教職に求められる使命感などについて、具体例を挙げて説明できる。
・教員の職務内容、資質向上と研修の重要性、服務内容、教員の現状と課題等についてノートにまとめそれを説明できる。

**授　業　計　画　表**

| 回 | トピック名 | 概　　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教職の意義１ | 教職概論を学ぶに当たって、学習内容と学習方法を理解する。「教職」「先生」という言葉から考える教職や先生の職務を考える。<br>(Zoomによる遠隔授業対応回) | なぜ教職を目指すのか、自分の言葉でまとめる。（60 分） |
| 2 | 教職の意義２ | 「教育」「学校」「教職」「学校種別」等について、現行学校教育制度と教育関係法規をグループワークで調べ理解する。(Zoomによる遠隔授業対応回) | 学校の種類を、関係法規をもとにでまとめる。（60 分） |
| 3 | 教職の意義３ | 「教職とは何か」を教師という言葉、法律から見た教職の範囲、教職の特殊性等からグループワークを通して考察する。<br>(Zoom による遠隔授業対応回) | 「教職とは何か」を文献等で調べてグループワークでまとめる。(60 分) |
| 4 | 教職の意義４ | 教職の意義を、子どもの人格形成・社会や国家等の発展への寄与・地域文化創造への貢献の観点からグループワークを通して考察する。<br>(Zoomによる遠隔授業対応回) | 教職の意義についてまとめ説明できるようにする。（60 分） |
| 5 | 教職の意義５ | 進路選択に向け教職と他の職業との比較等を通して、教職の職業的特長や特殊性を理解する。<br>(Zoom による遠隔授業対応回) | 教職と教職以外の就きたい職業とを比較してまとめる。（60 分） |
| 6 | 教員の役割１ | 江戸時代の寺子屋の教師から現代の教師までの日本の伝統的教師像を調べ、教師観や教職観の変遷からみた教師像を考察する。また、これまでの経験から尊敬する教師像を発表する。(Zoom による遠隔授業対応回) | 江戸時代から現在に至る教師観や教師像の変遷について、グループワークでまとめる。（60 分） |
| 7 | 教員の役割２ | 幼稚園の歴史、教員養成制度の歴史、幼稚園を改革してきた教員の思いや願い・使命感について理解する。<br>(Zoomによる遠隔授業対応回) | 幼稚園の歴史・教員養成制度の歴史と幼稚園教員の役割についてまとめる。（60 分） |
| 8 | 教員の役割３ | 幼稚園の制度的特徴、幼稚園教員の職種、幼稚園教員の職務内容についてグループワークを通して理解し、現場としての幼稚園での教育を学ぶ。(Zoom による遠隔授業対応回) | 幼稚園の制度的特徴と職種や職務内容についてまとめる（60 分） |
| 9 | 教員の役割４ | 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解する。<br>(Zoom による遠隔授業対応回) | 幼稚園教諭及び教職に求められる資質能力についてまとめる。（60 分） |
| 10 | 教員の職務内容１ | 幼児への指導及び指導以外の校務分掌等を含めた教員の職務内容の全体像を理解する。(Zoomによる遠隔授業対応回) | 幼稚園教諭及び教員の職務内容の全体像をまとめる。（60 分） |
| 11 | 教員の職務内容２ | 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。(Zoom による遠隔授業対応回) | 幼稚園教諭及び教員の研修の必要性及びその内容等についてグループワークでまとめる。（60 分） |
| 12 | 教員の職務内容３ | 教師の職能成長と研修の意義を理解し、具体的な研修の種類や研修の方法、研修機会等を把握し、研修への意欲をもつ。(Zoom による遠隔授業対応回) | 幼稚園教諭及び教員の研修の内容等についてまとめる。<br>（60 分） |
| 13 | 教員の職務内容４ | 幼稚園教員としての職務上の義務や身分上の義務について具体的に理解し、事例を通して幼稚園教員としての心構えをもつ。(Zoomによる遠隔授業対応回) | 幼稚園教員及び教員の職務上の義務や身分上の義務についてまとめる。<br>（60 分） |
| 14 | チーム学校への対応 | 多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、教員とこれらのものがチームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。(Zoomによる遠隔授業対応回) | チーム学校の重要性と関係機関等との連携についてグループワークでまとめる。（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15 | 学び続け信頼される教師を目指して | 教職の重要性、教職の意義、教員百割、教員の資質向上教員の職務内容等について振り返り教職への意欲を高めるとともに、学び続ける教員を目指す強い意欲をもつ。（Zoomによる遠隔授業対応回） | 将来の幼稚園教諭として学び続ける強い意欲と意思をレポートにまとめる。（60 分） |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　「記述試験 50%」「ノート評価・小テスト・レポート提出・授業態度 50%」60%以上で単位認定。
**教科書**　資料を準備して配布
**参考書**　「教職の意義と教員の職務」: 篠田信司著（三省堂）　「教職概論」: 佐藤晴雄著（学陽書房）
「幼稚園教育要領」「同解説書」文部科学省 :（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」: 内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館）
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、評価後に解説する。

※　この授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れて行います。
※　この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（４，８）を取り入れています。

| 授業科目名 | こども音楽療育演習(科目コード:TNCMT201) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 星﨑明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎と専門知識・技術技能について学習する。発達の援助のための音や音楽の使い方、障害種別、形態別（個別、集団など）の療育の具体的方法、楽器の活用法や身体活動と音楽との関連を視野に入れた実践方法について学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①○ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ |

**到達目標：**・障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践ができる。
・発達援助のために音や音楽の使い方を理解して、音楽を構成したり、療育活動を構成したりすることができる。
・グループワークにより発達に合わせた遊びを創造することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>アセスメントについて | シラバスに基づきオリエンテーションを行う。<br>アセスメントの方法について学ぶ。 | リズムムーブメントの練習を行う。(30分)<br>教科書p217～223を読む。(10分) |
| 2 | 音楽療法プログラムの<br>立て方と目的 | コ・ミュージックセラピーの流れを理解し、目的を持って計画を立てる力を身につける。 | 教科書p125～169を読む。(30分) |
| 3 | 基礎的技術の習得① | ハンドドラム挨拶、手遊び・歌遊びの実際を学ぶ。 | 手遊び5曲、歌あそびの曲の練習を行う。(30分) |
| 4 | 基礎的技術の習得② | 身体活動と音・音楽を学ぶ。 | リズムムーブメントの練習を行う。(30分) |
| 5 | 音楽の構成の方法 | 音や歌唱曲、CD の曲を聴いて、音楽の構成について考え、実際に楽器構成をする。 | 学習した曲の歌唱・伴奏の練習。<br>(30分) |
| 6 | 肢体不自由児への<br>音楽療法 | 肢体不自由児に対する個別音楽療育と集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 肢体不自由児の音楽療法に関する課題。<br>(30分) |
| 7 | 発達障害児への<br>音楽療法① | 発達障害児に対する個別音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 発達障害児の音楽療法に関する課題。<br>(30分) |
| 8 | 発達障害児への<br>音楽療法② | 発達障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 発達障害児の音楽療法に関する課題。<br>(30分) |
| 9 | 知的障害児への<br>音楽療法 | 知的障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。 | 知的障害児の音楽療法に関する課題。<br>(30分) |
| 10 | 視覚・聴覚障害児への<br>音楽療法 | 視覚障害児・聴覚障害児に対する集団音楽療法の具体的方法について学ぶ。 | 視覚障害、聴覚障害児の音楽療法に関する課題。(30分) |
| 11 | 発達援助のための遊びと<br>音楽① | 対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。 | 発達援助のための音楽遊びを考案する。<br>(60分) |
| 12 | 発達援助のための遊びと<br>音楽② | 対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。 | 発達援助のための音楽遊びを考案する。<br>(60分) |
| 13 | 模擬セッション① | グループごとに模擬セッションを行う。 | 計画を立て、練習する。(60分) |
| 14 | 模擬セッション② | グループごとに模擬セッションを行う。 | 計画を立て、練習する。(60分) |
| 15 | まとめ | 半期を振り返り、障がい児・者への音楽療法の実践方法のポイントを復習する。 | レポートを書く。(60分) |
| 16 | 試験 | 実技試験を行う。 | レポートを期限までに提出する。(60分) |

**単位の認定について**　授業記録10%、活動への取り組み20%、レポート30%、授業中及び終了時の試験40%。

**教科書**　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002年　春秋社
『はらっぱde楽譜集』中島恵子　2000年　こども音楽センター

**参考書**　『音楽療法ハンドブック』山下恵子共著（未来プロジェクト）星雲社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | こども音楽療育概論　（科目コード:TNCMT101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 星﨑明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業目標：**障がい児の音楽療法に関する基礎・専門理論を学ぶ。理解を深めるために、演習やグループ討議を交えて講義する。音楽療法実習や各論との繋がり、関連領域についても大まかに理解することを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**①障がい児の音楽療法の基本的理念を説明することができる。
②音楽療法時に見られる対象児の姿を発達的視点で理解し、援助することができる。
③関連領域の理論や方法を大まかに理解し、グループワークを行う。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業目標及び本授業の到達目標を確認する。○配信で行う。 | 0 歳児～5 歳児の心身の発達についてまとめる。(30 分) |
| 2 | 心身の発達と音楽的発達① | ０・１歳児の心身の発達と音・音楽遊びとの関係について学ぶ。＜映像＞ | 0・１歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてについてまとめる。（30 分） |
| 3 | 心身の発達と音楽的発達② | ２・３歳児の心身の発達と音・音楽遊びとの関係について学ぶ。＜映像＞ | ２・３歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてまとめる。（30 分） |
| 4 | 心身の発達と音楽的発達③ | ４・５歳児の心身の発達と音・音楽遊びとの関係について学ぶ。＜映像＞ | ４・５歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてまとめる。（30 分） |
| 5 | 音楽療育の基礎知識① | 音や音楽の中に見える子どもの発達や観察の視点について学ぶ。 | 音や音楽に見えるものについてまとめる。授業内容をワークシートにまとめる。（40 分）<br>学内実習に入り、エピソードを用紙に記入する。（以後随時）（30 分） |
| 6 | 音楽療育の基礎知識② | 音や音楽の多感覚性とその可能性について学ぶ。 | 音や音楽の可能性についてまとめる。（30 分） |
| 7 | 音楽療育の主な概念① | 同質と即興演奏について学ぶ。 | 同質と即興演奏についてまとめる。（30 分） |
| 8 | 音楽療育の主な概念② | 音と身体の動き、リラクセーションについて学ぶ。 | 音と動き、リラクセーションについてまとめる。（30 分） |
| 9 | 音楽療育の主な概念③ | 自己実現のための音楽／コミュニケーションについて学ぶ。 | 自己実現のための音楽／コミュニケーションについてまとめる。（30 分） |
| 10 | 音楽療育の主な概念④ | 言葉と音・音楽／認知の学習と音・音楽について学ぶ。○配信で行う。 | 言葉、認知の学習と音・音楽についてまとめる。（30 分） |
| 11 | 音楽療育の実際① | 発達障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。 | 個別の音楽療法、グループ音楽療法の展開方法についてまとめる。（30 分） |
| 12 | 音楽療育の実際② | 知的障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。 | 知的障害児の療育を見学し音や音楽の使い方についてまとめる。（30 分） |
| 12 | 音楽療育の実際③ | 肢体不自由児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。 | 肢体不自由児の療育を見学し音や音楽の使い方についてまとめる。（30 分） |
| 13 | 音楽療育の実際③ | 視覚・聴覚障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。 | 聴覚障害児に対する音楽療育の映像を見て、音や音楽をどのように捉えているかを考えまとめる。（30 分） |
| 14 | まとめ① | 障害のある子ども達への音楽療育の意義を考える。 | 音楽療法の意義についてまとめる。（30 分） |
| 15 | まとめ② | 障害のある子ども達への音楽療育の意義について振り返り、まとめる。 | まとめレポートを提出する。（60 分） |

**単位の認定について**　レポート提出 50%　、授業記録 20%、活動への取り組み 30%

**教科書**　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002　春秋社
配布資料

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | こども音楽療育実習 （科目コード:TNCMT301） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 後藤祐子　星﨑明里　中武紋子　折口奈津美　兒玉莉子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**宮崎学園短期大学こども音楽教育センター及び外部施設において、障害のあるこどもたちとの交流を通して障害児を理解し、更に、音や音楽を使った音楽療育の具体的実践方法を学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
・障害のあるこどもたちと積極的にかかわりを持つことが出来る。
・支援者の療育の意図を理解することができる。
・心身の発達過程と音楽的発達との関係を、現場を見て理解することができる。
・障害種別の具体的援助方法の意義を見出すことができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|
| オリエンテーション | 実習の具体的方法について理解する。 | 実習先について調べる。（60 分） |
| 記録の書き方 | 実習記録の書き方、提出方法について知る。 | 実習記録の書き方を復習する。（30 分） |
| 宮崎学園短期大学こども音楽教育センターにおいて年 7 回、更に、外部施設において 2 日間の学外実習を行う。<br><br>※前後指導では対象者の状態についての理解、部分実践のための計画立案・練習等の事前指導及び、セラピストと振り返りを行う事後指導を実施する。 | 1．実習の段階<br>①療育実習の 2 側面<br>受動的側面：障害児の観察と理解<br>能動的側面：障害児と積極的に関わりを持つことが出来る。<br>②実習の段階<br>見学・観察実習、参加実習<br><br>2．実習の内容<br>①見学・観察実習<br>障害児及び音楽療育の実際を理解する。<br>②参加実習<br>音楽療育場面に参加し、積極的にこども達と関わる。 | ・実習前に対象児を確認し、障害についての理解を深める。（30 分）<br><br>・実習後にセラピストとのミーティングを行い、実習内容について理解する。（30 分）<br><br>・外部施設の特徴を理解する。（60 分）<br><br>・実習記録を記入する。(60 分) |
| まとめ | ・実習事後指導を受ける。<br>・実習を終えて学んだこと、感想をレポートにまとめる。 | 実習後に、こども音楽療育実習記録簿をまとめ、提出する。（60 分） |

**単位の認定について**　実習記録簿の提出状況 50%、 実習参加状況 50%。
**参考書**　『音と人をつなぐ　コ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子著　2002　春秋社
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

| 授業科目名 | 子どもと絵本Ⅰ（科目コード:TNPBA101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 後藤祐子　髙妻弘子　佐藤由紀枝（メールアドレス:y-satou@mgjc.ac.jp）<br>田川一希（メールアドレス:ktagawa@edu.miyazaki-mic.ac.jp）　松木以喜子　木村浩子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 後藤祐子・髙妻弘子:火曜日の放課後　それ以外の教員:授業終了時 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年<br>現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**絵本に関する高度な知識・技能・感性を持ち、絵本を使ってその魅力や可能性を伝え、様々な場面で子ども達の豊かな読書活動推進の担い手として活動できる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ |

**到達目標：**
・絵本に関する基礎的な知識を身につけ、子どもの発達と絵本との関わりの特性について説明することができる。
・さまざまな絵本と接し、各ジャンルの絵本の特性について説明することができる。
・実際の書店において、どのように絵本が展示・流通されているのかを理解できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ・日本の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する<br>・受講生同士の相互理解を深めるとともに、認定絵本士の役割について確認する。 | 事前にシラバスを確認し、授業目標と科目の内容を把握する。授業後は授業内容を再確認し、読書推進活動に関する施策について復習する。(60分) |
| 2 | 絵本総論<br>(絵本とは何か) | ・「絵本」をめぐる行為について理解する<br>・「絵本」の定義の捉え方について理解する<br>・「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する | 好きな絵本を書き出し、絵本と自信のエピソードについてレポートを作成する。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 3 | 絵本各論①<br>(絵本の歴史、絵本賞について) | ・世界の絵本の歴史について理解する<br>・日本の絵本の歴史について理解する<br>・絵本賞について理解する | 絵本賞の受賞作を最低5作品読み、うち1つの感想文を作成する。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 4 | 絵本各論②<br>(視覚表現、言語表現から見た絵本) | ・絵本の視覚表現特性について理解する<br>・絵本の言語表現特性について理解する | テキストを読んで絵本の視覚表現及び言語表現の特性について事前に学習する。授業後は、本課で学んだ特性について整理し、自分の言葉で説明できるようにする。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 5 | 絵本各論③<br>(子供の知的・社会的発達と絵本との関わり) | ・各年齢期の子供の発達と絵本との関わりの特性について理解する<br>・絵本が子供の発達に及ぼす影響に関する学術的知見を理解する | 佐々木宏子の参考文献を参照し、佐々木氏が行った追跡調査について調べ、発達と絵本との関わりについて理解する。(60分) |
| 6 | 絵本各論④<br>(メディアとしての絵本の位置づけ) | ・情報メディアとしての絵本の特性について理解する<br>・絵本と著作権との関係について理解する<br>・電子書籍と子供の脳の関係について理解する | 事前にテキストに示された参考文献等を参照し、著作権について理解する。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 7 | さまざまなジャンルの絵本①<br>(物語の絵本) | ・物語を内容とした絵本の特性について理解する<br>・絵本における絵と言葉で語る技法を体得する | 物語絵本の歴史・特性について理解し、テキストに紹介されている絵本を実際に読みなぜその内容を絵本で表現しているのか考える。(60分) |
| 8 | さまざまなジャンルの絵本②<br>(昔話、童話を基にした絵本) | ・昔話及び童話を題材にした絵本の特性について理解する<br>・昔話及び童話を題材にした絵本における再話や絵本の質のあり方について理解する | 昔話と童話の違いについて事前に学習する。(60分) |
| 9 | さまざまなジャンルの絵本③<br>(科学絵本等) | ・自然科学・社会科学に関する絵本の特性について理解する<br>・科学絵本等の活用方法について理解する | 本課で紹介した絵本を実際に読み、自分が子どもに紹介したい絵本を探す。(60分) |
| 10 | 絵本と出会う①<br>(はじめての絵本との出会い) | ・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する<br>・乳幼児が絵本に触れるための具体的取組について理解する | 授業で学んだあかちゃん絵本の特徴について自分の言葉で説明できるようにする。(60分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 | 絵本と出会う②<br>(保育・教育の場での出会い) | ・保育・教育の場における絵本の意義について理解する<br>・保育・教育の場における絵本を用いた活動の具体的取り組みについて理解する | 幼稚園教育要領や保育所指針等で示されている領域「言葉」について事前に学習する。(60 分) |
| 12 | 絵本と出会う③<br>(図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～) | ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する<br>・地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する | 宮崎県生涯読書活動推進計画や県内市町村の子ども読書活動推進計画について調べる。(60 分) |
| 13 | 絵本と出会う④<br>(書店での出会い) | ・書店における絵本の売り場づくりの特性について理解する<br>・絵本の流通について理解する | 実際の書店での学びをレポートにまとめる。(60 分) |
| 14 | 絵本の世界を広げる技術①<br>(絵本を探す技術) | ・絵本を探す多様な手段(情報源)とキーワード(テーマや登場人物等)について理解する<br>・絵本検索に係る各手段の活用方法を体得する | 絵本のストーリーレファレンスを実践する。(60 分) |
| 15 | 絵本の世界を広げる技術②<br>(ワークショップ) | ・絵本を活用した表現活動について理解する<br>・絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する | モダンテクニックを活用した絵本を読み、自由な表現方法について自分の考えをまとめる。(60 分)<br>【事後課題有り】 |

**単位の認定について**　レポート 70%、ワークシートの記入状況 30%

**教科書**　『認定絵本士養成講座テキスト』
絵本専門士委員会　独立行政法人国立青少年教育振興機構発行　2020　中央法規出版株式会社

**参考書**

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

【留意事項】

・単位認定については本学が定める出席回数、及び課されたレポート内容の評価、及びワークシートの記入状況によって認定されるものとする。

・認定絵本士の資格取得には、8 割以上出席することが求められる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

| 授業科目名 | 子どもと絵本Ⅱ（科目コード:TNPBA102） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 後藤祐子　泰田久史 h-yasuda@mgjc.ac.jp　佐藤 由紀枝 y-satou@mgjc.ac.jp<br>松木 以喜子　木村 浩子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 後藤祐子:火曜日の放課後　それ以外の教員:授業終了時 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年<br>現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**絵本に関する高度な知識・技能・感性を身につけ、絵本を使ってその魅力や可能性を伝えることができる。様々な場面で子ども達の豊かな読書活動推進の担い手として活動できる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ |

**到達目標：**
・相談者に対して、様々な要望に応じた絵本を提案することができる。
・おはなし会の作成・運営について理解し、必要なテクニックを身につけることができる。
・絵本がうまれるまでの過程を理解し、様々な角度から絵本を見つめ、絵本の本質を理解できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 絵本の世界を広げる技術③<br>（絵本コンシェルジュ術） | ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する<br>・絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する | 授業で得た絵本コンシェルジュとして必要な知識・スキルを復習する。（60 分） |
| 2 | 絵本を紹介する技術①<br>（ブックトークの技術） | ・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する<br>・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する | 自分が紹介したい絵本を選び、その魅力が伝わる絵本の紹介文を作成する。（60 分）<br>【事前課題有り】 |
| 3 | 絵本を紹介する技術②<br>（書評・紹介文の書き方） | ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する<br>・書評及び紹介文の書き方を体得する | 本課で学んだことを整理し、書評・紹介文の書き方について理解を深める。（60 分） |
| 4 | 絵本を紹介する技術③<br>（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割） | ・障がい者、病児及び高齢者等、絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を要する人について理解する<br>・上記各者に対する絵本の役割や効果について理解する<br>・上記各者に対する適切な絵本選びと絵本の紹介方法を体得する | 様々な支援を必要とする人への絵本の役割について、授業で学んだことを踏まえて、自分の考える絵本の重要性についてレポートを作成する。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 5 | おはなし会の手法①<br>（おはなし会を開こう） | ・「おはなし会」について理解する<br>・「おはなし会」のプログラム作成及び運営に係る手法を体得する | おはなし会で読みたい絵本をジャンルの違うものを 2 冊以上選書し、講義の際に持参する。（60 分）<br>【事前課題有り】 |
| 6 | おはなし会の手法②<br>（おはなし会のテクニック） | ・「おはなし会」のテクニックについて理解する<br>・「おはなし会」のテクニックを体得する | 本課で学んだことを踏まえ、実際のおはなし会を見学する。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 7 | 絵本の持つ力<br>（さまざまな角度から絵本を見る） | ・絵本の持つ可能性及び相反する力について理解する<br>・絵本が子ども達に与える影響について多面的な視野から見つめることにより、批評力を体得する | 絵本＝絵+言葉+（　）に入る言葉は何か現時点での自身の考えをまとめる。（60 分） |
| 8 | 心に寄り添う絵本<br>（心のケアと絵本の可能性） | ・心のケアが求められている場面や場所における絵本活用の可能性について理解する | テキストに示された絵本の特徴を理解し、実際に読んでみる。（60 分） |
| 9 | 絵本のある空間<br>（絵本のある望ましい空間とは） | ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する | 宮崎県内にある図書館などの図書関連施設において、特徴のある空間を調べる。（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 | 子供の心をとらえるもの<br>（子供の心をとらえて離さないもの） | ・子ども達の興味について理解する<br>・絵本以外のメディアを知る | 本課で紹介する事例を見て、自身が感じたものをレポートにまとめる。（60 分） |
| 11 | 大人の心を豊かにする絵本<br>（人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を） | ・絵本が大人に与える影響について理解する | 宮崎県内で行われている絵本に関するイベントをまとめる。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 12 | ホスピタリティに学ぶ<br>（人を楽しませる為の手法を学ぼう） | ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する | 授業で紹介された様々なホスピタリティや読み聞かせの演習を通して感じたことをレポートにまとめる。（60 分） |
| 13 | 絵本が生まれる現場①<br>（作家の感性に触れる） | ・絵本の作り手の思いについて理解する | 本課の授業を通して学んだこと、感じたことをレポートにまとめる。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 14 | 絵本が生まれる現場②<br>（絵本の編集） | ・絵本の編集者の仕事について理解する | 本課の授業を通して学んだこと、感じたことをレポートにまとめる。（60 分） |
| 15 | ディスカッション<br>（認定絵本士としての今後の活動） | ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべきことを理解する | 他者との意見交換から得た考えをまとめる。（60 分） |

**単位の認定について** レポート 70%、ワークシートの記入 30%

**教科書** 『認定絵本士養成講座テキスト』
絵本専門士委員会　独立行政法人国立青少年教育振興機構発行　2020　中央法規出版株式会社

**参考書**

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

【留意事項】

・単位認定については本学が定める出席回数、及び課されたレポート内容の評価、及びワークシートの記入状況によって認定されるものとする。

・認定絵本士の資格取得には、8 割以上出席することが求められる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

| 授業科目名 | 子どもと環境(科目コード:TNEDU111／TNNTC111) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 満行 知花　　吉田 かおる | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**保育内容の領域「環境」では「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指している。この授業では、幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を身に付けていくことができる環境を構成する上で必要となる専門知識・技能を身につける。自然環境、動植物、標識・文字、情報・施設、数量・図形についての知識を習得するとともに関連する遊びを実践し、領域「環境」と関連する保育の実際について体験的に理解を深める。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | ③◎ | |

**到達目標：** 保育内容の領域「環境」に関連する、幼児をとりまく環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における基本的な知識・技能を習得する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 幼児をとりまく環境（吉田） | 幼児をとりまく環境の諸側面（物的環境、人的環境、自然環境等）とそれらが子どもの発達に与える影響についてグループワークを行う。 | 「環境」という言葉からイメージする内容をマインドマップで書く。（30 分） |
| 2 | 領域「環境」の目標と内容（吉田） | 領域「環境」の目標と内容を概観する。「環境」の重要な概念である好奇心と探究心について、心理学の側面から学ぶ。 | 保育所保育指針を読み、領域「環境」の目標と内容を確認する。（30 分） |
| 3 | 幼児の社会との関わりと遊び（吉田） | 幼児の生活に関わりの深い情報・施設と、それらへの興味関心・理解の発達について学ぶ。園と地域社会との連携・協力の意義について考察する。 | 幼児の生活に関係の深い施設を書き出し、分類する。（30 分） |
| 4 | 幼児の自然・生物概念の発達と遊び① 昆虫・小動物との関わり（吉田） | 幼児の昆虫・小動物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。擬人的な思考から科学的な思考へと発展させるための支援方法を考察する。 | 幼児が親しみをもって関われる身近な昆虫・小動物を書き出す（30 分） |
| 5 | 幼児の自然・生物概念の発達と遊び② 昆虫の採集と観察（吉田） | 構内で昆虫採集と観察のフィールドワークを行う。自らの体験をもとに、昆虫採集を通しての幼児の発達を「育ってほしい 10 の姿」の観点から考察する。 | 自身の昆虫との関わりを振り返り書き出す。（30 分） |
| 6 | 幼児の自然・生物概念の発達と遊び③ 昆虫を題材とした絵本づくり（吉田） | 昆虫採集と観察の経験を題材として、絵本づくりのグループワークを行う。 | 前時に採集した昆虫についての情報を収集する。図書館の絵本を参照し、表現上の工夫を書き出す。（60 分） |
| 7 | 幼児の自然・生物概念の発達と遊び④ 昆虫絵本の発表会（吉田） | 第 6 回で作成した絵本のプレゼンテーションを行う。 | グループで絵本づくりを行う。プレゼンテーションの準備・練習をする。（120 分） |
| 8 | 幼児の自然・生物概念の発達と遊び⑤ 植物との関わり （満行） | 幼児の植物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。構内で身近な植物を用いた遊びのフィールドワークを行う。 | 経験したことのある草花あそびを書き出し、その遊びを知った、または考案した経緯を書く（30 分） |
| 9 | 幼児の自然・生物概念の発達と遊び⑥ 作物の栽培（満行） | 保育現場で野菜や草花を栽培する上で必要となる基礎的な知識を習得する。作物の栽培を通した幼児の生物概念の発達について学ぶ。 | 自身の栽培経験を振り返り書き出す。（30 分） |
| 10 | 四季の変化と伝統行事・文化⑦（満行） | 季節による自然の変化に気づき、季節を感じる保育実践について学ぶ。季節と密接に関わる伝統行事・文化について学ぶ。 | 季節と関連する伝統行事・文化を書き出す。（30 分） |
| 11 | 幼児の標識・文字への興味関心と遊び⑧（満行） | 幼児の標識・文字に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。構内・周辺を探検し、標識・文字をピックアップする。そして、幼児の標識・文字の捉えを分析する。 | 町で見られる標識をまとめる。（30 分） |
| 12 | 幼児の数量・図形概念の発達と遊び（満行） | 幼児の数量・図形に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。図形に対する興味関心を育てる保育実践として、野菜を用いてスタンプづくりを行う。 | 生活の中で、幼児はどのような場面で数と出会うか考え、書き出す（30 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 自然環境の中での遊びと安全対策(満行) | 自然環境の中で遊ぶ際の安全対策を学ぶ。「森のようちえん」の実践映像を参照し、自然の中に潜むリスク・ハザードの実態と、保育者の対応方法についてグループで議論する。 | 自然環境で遊ぶ中で、どのような危険があるか書き出す(30 分) |
| 14 | 幼児をとりまく環境の現代的課題 情報化への対応と地球環境問題(満行) | 幼児をとりまく環境の変化について、電子情報との関わりの面と地球環境問題の面から学ぶ。持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs を意識した保育実践例を分析する。 | 幼児の電子情報機器(スマートフォンやタブレット等)の利用についてどのように考えるか、自身の意見を書く(30 分) |
| 15 | 幼小連携・接続(満行) | 幼稚園や保育所等と小学校との教育連携の考え方、進められ方を学ぶ。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムのカリキュラムデザインにおけるポイントについてグループで議論する。 | 幼稚園教育要領等で、幼小連携についてどのように書かれているか調べる(30 分) |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　毎回提出するレポートの内容 30%、プレゼンテーション 20%、期末試験の成績 50%で評価する。合計 60 点以上で単位を認定する。

**教科書**　なし。授業ごとにワークシートを配布する。

**参考書**　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
「演習 保育内容「環境」―基本的事項の理解と指導法―」（建帛社）
「新時代の保育双書 保育内容 環境 [第 3 版]」（サンメッセ株式会社）
「新・保育実践を支える 環境」（福村出版株式会社）
「シリーズ 知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・環境」（サンメッセ株式会社）
各種の昆虫・植物・動物図鑑や絵本など（図書館、担当教員の研究室で閲覧可能）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題の答案例やコメント、質問に対する回答は授業で取り上げる。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 子どもと健康 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 中川 志保 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**現代の乳幼児の健康とそれを取り巻く諸課題やその専門的事項を踏まえ、領域「健康」のねらいや指導上の留意点及び配慮事項について具体的に理解する。その上で、乳幼児の発達に即して、領域「健康」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想と指導方法を理解するとともに、保育の評価に基づく改善の重要性とその実際を理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：** 幼稚園教育要領に示された基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもの健康の全体構造を理解している。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本授業の進め方や授業方法などについて説明等、健康の定義等について学ぶ | 健康の定義を調べる。(30 分) |
| 2 | 保育内容・領域「健康」について | 保育・幼児教育の基本、保育内容の全体構成と領域「健康」、基本的事項、乳児保育の3つの視点、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の領域「健康」について理解を深める。 | 保育所保育指針等を調べ、3歳未満児及び 3 歳以上児の「健康」に関する内容を調べる。(30 分) |
| 3 | 保育内容・領域「健康」の展開について | 乳児保育・1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の領域「健康」の展開として事例を通し、保育者の関わりを知る。 | 教科書をまとめる。(30 分) |
| 4 | 保育の過程について | 保育の過程を学ぶ(保育計画・実践・省察・改善)中で、子どもの理解の方法を知る。 | 保育の過程について、幼稚園教育要領等で調べる。(30 分) |
| 5 | 大人との関わりの実践について | 乳児が心地よく生活すること、アタッチメントの形成の重要性、また乳児が楽しく遊ぶために乳児の成長に寄り添う保育者の関わり等の指導法を考える。 | 保育指導の事例のプリントを仕上げる。(30 分) |
| 6 | 保育における子どもの発達について | 子どもの発達の過程やその特徴を理解する。 | 子どもの動きから体操を考える。(30 分) |
| 7 | 身体との関わりの実践について | 安心・安全な生活の中で形成される生活リズムや全身を使い思い切り遊ぶ、手先を使いじっくり遊ぶ、他者とイメージの世界を楽しみながら遊ぶ等の中で、「自分で」という思いを大切にする保育者の関わりを理解する。 | 子どもの発達の姿を捉えて子どもの動きを考える(サーキット)。(30 分) |
| 8 | さまざまな遊びの実践について(1) | 子どもが遊びを通して育む健康、子どもの運動遊びの重要性、さまざまな遊びにおける保育者の関わりについて考える。 | 保育指導の事例からさまざまな遊びを考える。(30 分) |
| 9 | さまざまな遊びの実践について(2) | さまざまな遊びの指導法を理解する。 | さまざまな経験を踏まえた遊びのアイデアを考える(60 分) |
| 10 | さまざまな遊びの実践について(3) | 日本の文化の一つでもある伝承遊びを理解する | 日本の伝承遊び、世界の伝承遊びを調べる。(30 分) |
| 11 | 環境と関わりながら遊ぶ実践について | 環境と関わって遊ぶことの重要性、さまざまな戸外の環境に関わって遊ぶ、さまざまな人と関わって遊ぶ、自然と関わって遊ぶなどさまざまな環境と関わって遊ぶことを支える保育者との関わりや環境と関わりながら遊ぶ指導法を学ぶ。 | 自然と関わる遊びを考える。(30 分) |
| 12 | 健康や安全の実践について | 子ども自身が健康の大切さに気づき、子どもの安全な遊びや生活を支える健康と安全についての指導法を考える。 | 保育指導の事例のプリントを仕上げる。(30 分) |
| 13 | 遊びを通した総合的な指導の展開について | 子どもの遊びと保育内容5領域、主体的・対話的で深い学びにつながる活動実践について考える。 | 保育指導の事例のプリントを仕上げる。(30 分) |
| 14 | 小学校との連携・接続の実践について | 幼児期における学びと保育、接続期カリキュラムとその実践について学ぶ | 保育指導の事例のプリントを仕上げる。(30 分) |
| 15 | 領域「健康」に関わる現代的課題についてと本 | 現代の子どもの生きる社会の実態、子どもの遊びと対話の必要性を学び、保育における ICT活用法に | 子どもの現代的課題について他科目の学びを踏まえて整理する(45 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 授業の学びの確認 | ついて考える。 | |
| 16 | 定期試験 | 期末試験を行う。 | |

**単位の認定について**　最終試験 60%、授業と討議への積極的参加 20%、レポート提出 20%

**教科書**　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）、健康指導法（わかば社）、自作の教材を適宜配付する。

**参考書**　適宜紹介する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

※この授業では、SDG s に関する内容＜８，９，11＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 子どもと言葉 （科目コード:TNEDU108／TNNTC108） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 領域及び保育内容の指導法 | | | | | | | |
| 担当者 | 髙妻弘子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**言葉を発することは人間の特殊能力だと言われており、言葉は生活やコミュニケーション能力と密接な関係がある。その言葉を乳幼児がどのように獲得するのか発達過程を知り、言葉の意義や機能を理解する。また、領域「言葉」のねらいや内容を踏まえ、言葉の感覚を豊かにする関わりや言葉で表現する力を養う方法を考察する。さらに児童文化財について理解を深めるとともに、実演を通して保育における活かし方を体験的に学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ①言葉の意義と機能、乳幼児の言葉の発達過程を理解しているか
②領域「言葉」のねらい、内容を理解し、言葉の感覚を豊かにする関わりが身に付いたか
③児童文化財の意義や機能を理解し、基礎的知識や技術が習得できているか

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 言葉の意義と機能について | 人間特有の言葉にはどのような働きや意味があるのか、また、その言葉はどのように育まれていくのか考察し理解に繋げる | 私達人間にとって言葉とは何か、その働きや意味、言葉獲得の方法について考える（30 分） |
| 2 | 3 歳までの言葉の発達と絵本の活用について | 3 歳までの言葉の発達過程を知り、絵本の意義や言葉習得の関係性を理解し、絵本読み聞かせのポイント、その活用法について実演から学ぶ | 図書館にて、どのような絵本があるのか確認し絵本の読み聞かせの練習をする（60 分） |
| 3 | 3 歳以上児の言葉の発達と絵本の活用について | 3 歳以上児の言葉の発達過程を知り、絵本と豊かな感性の育成、語彙の広がりについて実演から学ぶ | 前の時間の復習をし、絵本の読み聞かせの練習をする。（60 分） |
| 4 | 領域「言葉」について①：3 歳までのねらい、内容 | 3 歳までの領域「言葉」のねらい、内容等について、視聴覚教材を使った事例等を参考にしながら理解する | 3 歳までの領域「言葉」に書かれている内容、解説を読んでおく。（60 分） |
| 5 | 領域「言葉」について②：3 歳以上児のねらい、内容 | 3 歳以上児の領域「言葉」のねらい、内容等について、実際の保育活動実践例を参考に視聴覚教材を通して理解する | 3 歳以上児の領域「言葉」に書かれている内容、解説を読んでおく。（60 分） |
| 6 | 言葉による世界の広がり | 言葉の楽しさや感覚を育むかかわり、主体的に言葉を発する保育について、視聴覚教材を用いた実践から身に付ける | 子どもにとっての楽しい言葉や伝えたくなる思いにはどんなものがあるか考えてくる（30 分） |
| 7 | 児童文化財（さまざまな絵本①） | 児童文化財の種類やよさを理解し、絵本（創作物語・昔話・民話・神話など）を使った保育活動への展開のあり方を、鑑賞（DVD）を通して学ぶ | 創作物語・昔話・民話・神話にはどんなものがあるか調べ、読み聞かせの練習をしてくる（60 分） |
| 8 | 児童文化財（さまざまな絵本②） | 仕掛け絵本・写真絵本・文字なし絵本などの実演を通し、絵本の魅力や効果を学ぶ | 仕掛け絵本・写真絵本・文字なし絵本にはどんなものがあるか調べ、読み聞かせの練習をしてくる（60 分） |
| 9 | 言葉の発達と人形劇① | 人形劇の種類と特徴を理解し、保育でどのように活用するのか視聴覚教材を通して学び、ペープサートを作成する | 人形劇にはどのような種類があるのか、その特徴は何か調べてみる。（60 分） |
| 10 | 言葉の発達と人形劇② | ペープサートを作成し、グループで保育の展開を検討する。実演練習後、振り返りをおこない改善点を工夫する | 作成に向けての下準備やおおまかなあらすじ作成をしてくる（60 分） |
| 11 | 言葉の発達と人形劇③ | ペープサートの発表をおこなう。参観者からの振り返りシートをもとによかった点、改善するとよくなる点を協議し実演のポイントを再確認する | 評価項目を念頭に置き発表ができるように練習してくる（60 分） |
| 12 | 言葉の広がりと素話① | ストーリーテリングの特徴と保育指導の展開について、視聴覚教材を通して保育実践例から学び、お話作りに挑戦する | ストーリーテリングについて調べてくる（30 分） |
| 13 | 言葉の広がりと素話② | グループで話し合いながら創作ストーリーテリングを完成させる | 発表に向けておおまかな役割とあらすじを決めてくる（60 分） |
| 14 | 言葉の広がりと素話③ | ストーリーテリングの発表をおこない、そのよさや効果等について考察する | 時間を計りながらストーリーテリング発表の練習をしてくる（30 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15 | 紙芝居について | 紙芝居の特徴と演じ方を理解し、保育の展開について実演を通して身に付ける | 絵本と紙芝居の読み方演じ方の違いについて調べ練習してくる（60 分） |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　※試験結果（50%）発表（20%）レポート、授業外学習、課題等（30%）を総合して評価する
**教科書**　※【シリーズ知のゆりかご】子どもの姿からはじめる領域・言葉
**参考書**　※「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
その他適宜資料を配付する
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 子どもと人間関係 （科目コード:TNEDU110／TNNTC110） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目） | | | | | | |
| 担当者 | 井上浩義　山下愛実 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**

子どもは、家庭や地域、幼稚園や保育所等の保育者や友達といった、様々な人とのかかわりの中で成長していく。豊かな人間関係は、子どもの成長の土台となるため、子どもの仲間関係の育ちは、保育における重要な課題となる。本授業では、乳幼児期の人間関係の育ちについて解説するとともに、現代の子どもたちが抱える人間関係にかかる諸問題を理解し、子どもの人間関係に関する諸能力の育ちや、子どもの気持ちをとらえる方法について、事例検討を通して理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | ③ | |

**到達目標：** ① 子どもを取り巻く環境と「人間関係」について理解することができる。
② 人間関係の発達の特徴を説明できる。
③ 子どもの人間関係の育ちを支える保育について、考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 領域「人間関係」について | 教育・保育要領における「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解する。 | 領域「人間関係」のねらいと内容を読む。(60 分) |
| 2 | 子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴と課題 | 乳幼児を取り巻く社会環境について、家族や地域との関わり等の人間関係の観点から考える。 | 子どもの関わる人について、「生態学的システム論」について調べ、まとめる。(60 分) |
| 3 | 人間関係にかかわる発達①：愛着形成、分離不安 | その後の人間関係の基盤となる愛着の形成について、その重要性を信頼関係と関連付けながら学ぶ。 | 愛着(アタッチメント)理論について調べ、まとめる(60 分) |
| 4 | 人間関係にかかわる発達②：自己制御 | 自己主張や自己抑制などの能力が、人間関係の中で磨かれ成長していくことについて理解する。 | 子どもの自己主張・自己抑制の発達について調べ、まとめる(60 分) |
| 5 | 人間関係にかかわる発達③：遊びの発達 | 子どもたちの関係性の発達と遊びのもたらす効果について理解する。 | パーテンの遊びの発達理論について調べ、まとめる。(60 分) |
| 6 | 人間関係にかかわる発達④：道徳性、規範意識 | 道徳性の発達理論について理解し、道徳性や規範意識をどのように子どもたちに育むのかを考える。 | 道徳性の発達理論について調べ、まとめる。(60 分) |
| 7 | 家庭や地域とのかかわりとその援助 | 家庭や地域とのかかわりが保育にもたらす効果について理解し、その連携方法について考える。 | 地域とのかかわりを育む保育行事について調べる。(60 分) |
| 8 | 中間試験 | ここまで学んだ内容について中間試験を受け、その振り返りを行い、後半の事例検討において活用できるようにする。 | これまでの講義で学んだことを振り返り、自分の言葉で説明できるようにする。(60 分) |
| 9 | 事例検討（乳児期）：大人とのかかわり | 愛着理論を土台として、保育者が子どもとの信頼関係をどのように構築していくのか、事例を通して考える。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 10 | 事例検討（3 歳）：友達への関心の芽生え | ３歳児の友だちへの関心の芽生えと、それを支える保育者のかかわりについて、事例を通して考える。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 11 | 事例検討（3 歳）：自己主張と自己抑制 | 子どもの意欲や自信を支える保育者のかかわり、ケンカを通じた心の育ちと保育者のかかわりについて、事例を通して考える。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 12 | 事例検討（4 歳）：依存と自立 | 関係の拡がりの中で、成長する子どもたちを支える保育者のかかわりについて、事例を通して考える。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 13 | 事例検討（4 歳）：イメージの共有 | イメージを共有し協同して遊ぶ喜びを味わい始める姿と、それを取り持つ保育者の直接・間接の指導・援助について、事例を通して考える。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 14 | 事例検討（5 歳）：仲間関係の深まり | 仲間関係の深まりの中で，自分たちで課題解決に取り組もうとする姿とそれを支える保育者の関わりについて、事例を通して考える。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 15 | 事例検討（5 歳）：思いやりと道徳心 | 友だちへの思いやりやルールの必要性に気づく子どもの姿について、園行事等の中で保育者がどのような支援を行っているのかについて、事例を通して考える。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　授業内での演習・グループワークへの参加 30%、レポート等 20%、期末試験 50%を総合して評価する。
**教科書・参考書**　『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』その他適宜紹介する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 子どもと表現(音楽)Ⅰ(科目コード:TNEDU103／TNNTC103) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 佐々木 由喜子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**領域「表現」の内容を理解し、幼児期の感性や創造性を育むのに必要な音楽的知識と実践力を培う。幅広い音楽の体験を通して、身体表現を伴った豊かな表現力を身につける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ①領域「表現」のねらいや内容について、体験を通して理解する。
②音楽の基礎知識を理解し、あそびうた、生活の歌、季節の歌などを正確に歌うことができる。
③子どもの発達の過程を理解し、子どもの姿に合った音楽表現遊びを実践するとともに、援助の留意点について理解する。
④保育教材や身体表現を伴った音楽の活動を計画、実践することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 領域「表現」のねらいと内容 | 子どもの表現活動を支える音楽的な表現技術について学び、本科目の到達目標について理解する。 | テキスト A「理論編」を読む。また、「実践編」①～⑤に目を通し、内容を把握する。(60 分) |
| 2 | 楽典(1)譜表と音名・階名・鍵盤の位置、音の強弱と速さについて | わらべうた・ふれあいうたあそびを使って楽譜の基本的な読み方を学ぶ。 | 楽典復習、テキストＡ実践編①予習復習(各 30 分) |
| 3 | 楽典(2)ハ長調の音階・拍と基礎的なリズムについて | 乳幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌（春）を題材に基本的なリズムを学ぶ。 | 楽典復習、乳幼児向けの手遊び歌の練習。(各 30 分) |
| 4 | 楽典(3)拍と拍子について | 幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌（春）を題材に拍と拍子について学ぶ。 | 楽典復習、幼児向けの手遊び歌の練習(各 30 分) |
| 5 | 楽典(4)拍子とリズム・リズムパターン | 幼児のあそびうた（食べ物編）・生活の歌・季節の歌（梅雨）を題材にリズムパターンを学ぶ | 楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分) |
| 6 | 楽典(5)臨時記号と音程 | 幼児のあそびうた（動物編）・生活の歌・季節の歌（初夏）を題材に臨時記号と音階を学ぶ。 | 楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分) |
| 7 | 楽典（6）音程と主要なコード | 幼児のあそびうた（からだ編）・生活の歌・季節の歌（夏）を題材に音程と主要なコードを学ぶ。 | 楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分) |
| 8 | 楽典（7）楽語（発想記号、反復記号など）について | これまで扱った題材（あそびうた・生活の歌・季節の歌）を基に楽語について復習をするとともに、発表を行う。 | 楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分) |
| 9 | 保育現場の音楽表現活動の実際を観る（視聴覚資料） | 身体表現や効果のためのピアノ奏法（グリッサンド・クラスター・全音音階等）を学ぶ。 | テキスト及び資料の予習復習(60 分) |
| 10 | 身近なものを使用した音楽のあそび(ボール・フラフープ等)（1） | 身体表現のために身近なもの（ボール・フラフープ等）を使った簡易楽器の効果的な使用法について学ぶ | テキスト及び資料の予習復習(60 分) |
| 11 | 身近なものを使用した音楽のあそび（布・ゴム　等）（2） | 身体表現のために身近なもの（布・ゴム等）を使った簡易楽器の効果的な使用法について学ぶ。 | テキスト及び資料の予習復習(60 分) |
| 12 | 音楽に合わせた紙芝居やペープサート等の効果的な演じ方（1） | ピアノによる効果音のつけ方について | 音楽を伴ったペープサートの演じ方の練習(60 分) |
| 13 | 音楽に合わせた紙芝居やペープサート等の効果的な演じ方（2） | 簡易楽器による効果音のつけ方について | 音楽を伴ったペープサートの演じ方の練習(60 分) |
| 14 | 保育教材を伴った音楽表現活動について | グループで、保育教材を伴った音楽の表現活動の流れを考え、発表し評価しあう。 | テキスト予習復習(60 分) |
| 15 | まとめ | あそびうた・季節の歌のまとめ | これまでの学習内容の全ての回を復習する。(60 分) |

**単位の認定について**　・実技発表（授業内）40%　・授業内外学修課題提出 40%　・グループ発表実施と振り返り 20%
**教科書**　A『新たのしい子どものうたあそび―現場で活かせる保育実践－第二版』(同文書院)
B『改訂　幼児のための音楽教育』(教育芸術社)　※その他の資料やワークシート等は、適宜配布する。
**参考書**　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
**その他の留意点**　①なるべく動きやすい服装で受講すること。

| 授業科目名 | 子どもと表現(音楽)Ⅱ （科目コード:TNEDU201／TNNTC201） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 佐々木由喜子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**領域「表現」のねらいや内容をよく理解し、子どもの発達にあった音楽表現活動を実践することができるようにする。歌、楽器、遊具、教具、身体表現などを用いた幅広い音楽の体験を通して、保育者としての豊かな表現力を身につける。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**

① あそびうた、生活の歌、季節の歌などを、一人で表情豊かに演じたり歌ったりすることができる。
② 楽譜を理解して、こどものうた等の習得に役立てることができる。
③ コード奏法や効果的な奏法などを、子どもの表現あそびに活用することができる。
④ 子どもの発達を考えながら、興味や関心を引き付ける活動を計画し実践することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 領域「表現」のねらいと内容について | 領域「表現」のねらいや内容について復習し、本科目の到達目標について理解する。<br>幼児のあそびうた・季節の歌（秋） | テキストを読み理論的な内容を復習する。授業内の課題を練習する。(各30分) |
| 2 | 楽典（1）<br>音階とコードについて | 乳幼児のあそびうた・季節の歌（秋）を題材に音階とコードについて学ぶ。 | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 3 | 楽典（2）<br>コードの活用について | 幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌（秋）を題材にコードの活用方法を学ぶ。 | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 4 | 楽典（3）<br>コードの活用について | 幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌（冬）を題材にコードの活用方法を学ぶ。 | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 5 | 効果音の即興とその活用法 | 様々な表現を支えるイメージ（効果音）の活用方法を学ぶ。 | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 6 | 視覚教材（パネルシアターやペープサート等）を用いた音楽表現の計画と実践（1） | グループ活動を通して視覚教材を用いた音楽表現の計画及びその実践方法を学ぶ。 | 教材の制作と課題の練習をする。(60分) |
| 7 | 視覚教材（パネルシアターやペープサート等）を用いた音楽表現の計画と実践（2） | 第６回での学びをより深く練習しまとめる。 | 教材の制作と課題の練習をする。(60分) |
| 8 | 視覚教材を用いた音楽表現のグループ発表 | 各グループの発表に対する感想をまとめ評価しあう。 | 教材の制作と課題の練習をする。(60分) |
| 9 | 保育現場の音楽表現活動について | 視聴覚資料等を見ながら、保育現場での音楽表現の実践の留意点を検討しまとめる。 | 保育現場の視聴覚資料により、留意点をまとめる。(60分) |
| 10 | クリスマスにちなんだ<br>音楽表現活動（1） | グループによる歌や楽器のアンサンブル | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 11 | クリスマスにちなんだ<br>音楽表現活動（2） | グループによる歌や楽器のアンサンブル　発表 | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 12 | 音楽あそびの実践（1） | これまで習得したあそびうた・季節の歌などを題材に、音楽あそびをグループで立案し実践する。 | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 13 | 音楽あそびの実践（2） | 幼児を対象として音楽あそびの展開をグループで立案・発表を行い、それぞれ感想をまとめ評価しあう | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 14 | 幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌発表 | これまでの学修から得たものを活かして、幼児のあそびうたを発表する。 | 授業内の課題を練習する。(60 分) |
| 15 | まとめ | 前・後期の演習を振り返り、子どもと表現の捉え方、子どもの発達にふさわしい音楽の表現指導法について総合的に理解する。 | これまでの学修内容の全ての復習をする。(60分) |

**単位の認定について**　・授業内における実技発表 40%・授業内外学修課題提出 40%・グループ発表実施と振り返り 20%

**教科書**　『新たのしい子どものうたあそび―現場で活かせる保育実践－第二版』(同文書院)
『改訂　幼児のための音楽教育』(教育芸術社)
※その他の資料やワークシート等は、適宜配布する。

**参考書**　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

**その他の留意点**　①なるべく動きやすい服装で受講すること。

| 授業科目名 | 子どもと表現(造形) I (科目コード:TNEDU106／TNNTC106) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目 | 領域および保育内容の指導法に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 泰田久史　瀬尾哲代 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** 基礎となる図形などを学び、造形表現を豊かに展開する知識や技術を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**評価指標：**領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の造形活動に必要となる基礎的な道具の扱いや材料などの性質等を理解して、保育者としての知識や技術を習得する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 領域「表現」について | 保育所保育指針などをもとにした資料を使い表現の基本的な考え方を理解する | 授業で用いた資料を復習する(30 分) |
| 2 | 幼児の発達と造形表現の特徴 | 発達段階に応じた幼児画の見方や指導について学ぶ | 授業で用いた資料を復習する(30 分) |
| 3 | 基本的な道具の使い方 | 描画材をはじめとする道具の使い方を学ぶ | 授業で用いた資料を復習する(30 分) |
| 4 | 色の特徴と表現 | 色の持つ特徴と活かし方 | 季節に合った色の表現を復習する。(30 分) |
| 5 | 形の表現方法 | 形を表す　1点透視図法 | 絵の表現を復習する。(30 分) |
| 6 | 道具の扱い(ハサミなど) | 切り絵作品を作りながら、ハサミやカッターの扱いを学ぶ① | 指導者としてのハサミなど刃物の扱いを復習する。(30 分) |
| 7 | 道具の扱い(紙、糊など) | 切り絵作品を作りながら、ハサミやのりの扱いを学ぶ② | 紙や糊の使い方や性質について復習する。(30 分) |
| 8 | 紙の折り方 | 折り紙や半立体動物作品を作る | 簡単にきれいに紙を折る方法の復習をする。(30 分) |
| 9 | 手作りおもちゃを作る① | 日用品や自然物を用い、ねらいや留意事項を考えおもちゃを作る | 作品に用いる材料を考え集める(60 分) |
| 10 | 手作りおもちゃを作る② | 日用品や自然物を用い、ねらいや留意事項を考えおもちゃを作る | 作品を仕上げる(30 分) |
| 11 | 表現と保育環境 | 幼児の造形表現と保育環境について学ぶ | 幼児の造形表現と保育環境について復習する(60 分) |
| 12 | 絵本作り① | 保育現場で使える絵本について構想する | 製作の計画を作る。(60 分) |
| 13 | 絵本作り② | 計画に沿って構想した絵本を製作する。 | 作品を仕上げる。(60 分) |
| 14 | 絵本作り③ | 計画に沿って構想した絵本を仕上げる。 | 作品を仕上げる。(60 分) |
| 15 | 授業のまとめ | 作った作品の鑑賞や授業で学んだことを整理する | 幼児の造形表現を復習する。(60 分) |
| 16 | 試験 | 「表現」の理解、幼児画の見方など | |

**単位の認定について**　課題作品など 70%（授業で学んだことや事前に調べたことをいかして表現し提出する)、レポート 30%

**教科書・参考書**　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 子どもと表現(造形)Ⅱ (科目コード:TNEDU204／TNNTC204) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 領域および保育内容の指導法に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 守川美輪(mmorikawa@edu.miyazaki-miu.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**クレヨン、水彩画、紙工作、木工作の基礎技能を習得する。感性を働かせて、自分の思いを生かして、作品に表現する。幼児が体験的に習得した知識・技能を使う機会を持つことで、思考力・判断力・表現力等を伸ばすことができることを体験的に学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標**：領域「表現」についての基本を学び、子どもの発達に応じた造形表現を理解している。自分の感性・技能・創造性を発揮した作品を製作できる。描画材や色彩についての問いに答えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 図画工作で育みたい力<br>紙工作 | 幼児の思考力、判断力、表現力を向上させるために、どのようにするか<br>伸びる花、魚釣り | **準備物**：はさみ、のり、折り紙、セロハンテープ、名前ペン<br>**課題**①折り紙を使った装飾(60分)<br>※作品集のための写真撮影(1花、2魚釣り) |
| 2 | 折り紙を使った製作<br>新聞紙を使った遊び | 星、桜、梅の切り紙、折り紙のくるくる<br>新聞紙のお話、帽子、紙鉄砲 | **準備物**：はさみ、のり、折り紙、セロハンテープ、新聞紙 |
| 3 | クレヨンの技法<br>クレヨンでの表現 | クレヨンの技法を使う(スクラッチ、フロッタージュ、写し絵、重色)模様を描く、「私の幼児教育観」を描く | **準備物**：クレヨン(クーピーペンシル不可)、落書き帳(B4)、木の葉2枚<br>**課題**②自然物を使った遊びや製作について(90分) |
| 4 | 自然物を使った製作 | **自然物を使った製作の良さを知る** | 準備物:課題②で調査した作品をつくるための材料・用具<br>※作品集のための写真撮影(3自然物を使った作品) |
| 5 | おみせごっこの商品 | お店ごっこの商品をつくることで、発想を生かし、試行錯誤しながら製作する良さを理解する。 | **準備物：はさみ、のり、セロハンテープ、折り紙**<br>**課題**③（前半）お店ごっこの商品をつくる際に、何をどのようにつくるかを、子どもに任せることの良さについて(30分)<br>**※作品集のための写真撮影（4 おみせごっこの商品）** |
| 6 | おみせごっこの道具 | お店ごっこの道具をつくることで、それらを操作しながら遊ぶことの価値を感じることができるようにする。 | **準備物：はさみ、のり、セロハンテープ、カッターナイフ、作りたい道具の製作に必要な箱など**<br>**※作品集のための写真撮影（5 おみせごっこの道具）**<br>**課題③（後半）お店ごっこの商品と道具をつくって遊んでみての評価と反省（30分）** |
| 7 | 透過光を楽しむ製作<br>紙剣をつくる | セロハンを使った製作をし、太陽光を使った遊びについて知る。 | **準備物：はさみ、のり、セロハンテープ**<br>**※作品集のための写真撮影（6 セロハンを使った作品・7 紙剣）** |
| 8 | 水彩絵の具の技法 | 水彩絵の具の技法を使う(染め紙、スタンピング、ステンシル、マスキング、バチック、デカルコマニー、ドリッピング、シャボン玉絵、糸引き絵) | **準備物**：八つ切り画用紙(白)5枚、工作用エプロン<br>**課題**④幼児が楽しむことができるクレヨンや絵の具を使った遊び(90分) |
| 9 | お話をつくる | 前回の作品を使ってお話をつくる | **準備物**：スケッチブック、はさみ、のり、クレヨン、名前ペン<br>作品集作成(90分) |
| 10 | 色彩を学ぶ | 色の三要素、24色相環、補色、純色、濁色(中間色)、清色<br>課題①～④と作品集の提出 | **準備物**：八つ切り画用紙(白)2枚、筆、水入れ、パレット<br>課題⑤24色相環と緑と青のバリエーション(30分) |
| 11 | 色彩調和<br>ポップアップカード | 同系の調和、類似の調和、対照の調和<br>配色のよいポップアップカード製作 | **準備物**：色鉛筆、落書き帳(B4)<br>**課題**：ポップアップカードの完成(30分) |
| 12 | スクラップブッキング① | 台紙を選びマットを貼る<br>課題⑤の提出<br>ポップアップカードの提出 | **準部物**：テーマを決めてプリントした写真5, 6枚、はさみ、スティックのり、定規、カッターナイフ<br>**課題**：マットの完成(30分) |
| 13 | 配置<br>スクラップブッキング② | 余白、揃える、他と関連づける<br>タイトル、ジャーナルを書く、配置を決め、貼り付ける | **準部物**：はさみ、スティックのり、定規、カッターナイフ<br>**課題**：スクラップブッキングの完成(30分) |
| 14 | 木育について<br>木工作 | 木育にはどのような活動があるか<br>のこぎり・紙やすりの使い方 | **準備物**：工作用エプロン |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 木を切る、研磨<br>**スクラップブッキング作品提出** | |
| 15 | 木工作 | 塗装・組み立ての仕方<br>塗装・組み立て | **準備物**：工作用エプロン |
| 16 | 試験 | 24 色相環、色の三要素（三属性）、色料の三原色、補色、純色、清色、濁色（中間色）<br>補色を混ぜるとどうなるか、たんぽのつくり方、筆の種類（面相筆、彩色筆、平筆）<br>クレヨンの技法（重色、フロッタージュ、スクラッチ）水彩絵の具の技法（にじみ、ドリッピング、かすれ、ステンシル、マスキング、バチック、デカルコマニー）<br>配色について（同系の調和、類似の調和、対照の調和）<br>幼児を対象とした木育にはどんなものがあるか<br>造形表現活動において子どもの思考力、判断力、表現力を育成するためにはどうしたらよいか<br>「こどもと表現（造形）Ⅱ」で向上させることができた技能や感性、創造性について<br>その他 | |

**単位の認定について**　試験 40%、課題①～④25%、作品集 15%、課題⑤5%、スクラップブッキング 10%、ポップアップカード 5%

**作品集について**　Word を使い、A4サイズ 1 枚で作成。タイトル、学籍番号・氏名、作品写真 1～7、気づきで構成する。

**製作・準備・片付け**　子どもの使う画材であっても、自分の感性を働かせて、今の自分の思いつくイメージを表現するよう努力してほしい。材料用具を準備して授業に臨むこと。共同で使う材料は無駄にしないこと。共同で使う用具は丁寧に扱い、片づけを進んですること。

**教科書・参考書**　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※ この授業ではアクティブラーニングを取り入れています。

| 授業科目名 | 子どもの健康と安全（科目コード:TNNTC205） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 保育士資格必修科目 | | | | | | |
| 担当者 | 桑迫 信子　武村 順子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**子どもの保健活動に関わる具体的な養護技術について、心身の発達を視点にした役割を理解しながら、演習を行う。また、疾病とその予防、アレルギーによる急変を含む救急時や事故、災害への適切な対応について、保育士としての行動を学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ◎ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**・子どもの発達段階や個性を理解し、保育を計画・実践・記録し適切な援助や支援ができるようになる。
・子どもの健康増進・心身の発育・発達を促す保健活動及び環境を学ぶとともに子どもの健康・安全に係わる保健活動の具体的援助の技術を習得する。
・子どもの疾病とその予防、救急時や事故防止への適切な対応、安全管理について具体的に説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 保健活動の計画及び評価 | 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価の概要を理解する。（遠隔授業対応） | 教科書全体を見ながら子どもの保健(前期内容)を復習し、授業の見通しをたてる。（30 分） |
| 2 | 子どもの生理的機能 | 子どもの生理的機能の特徴を理解し、グループ内で体温・脈拍・呼吸の正しい測定方法を習得する。（グループディスカッション） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 3 | 発育評価に必要な身体測定 | 発育評価に必要な身体測定の意義を理解し、グループ内で協力しながら正しく安全な測定方法を習得する。（グループディスカッション） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 4 | 基本的生活習慣の確立 | 子どもの基本的生活習慣の自立としつけの必要性を理解する。<br>基本的生活習慣の種類と主な行為の獲得時期を理解し、グループ内で各期の発育発達に応じた援助内容を整理することができる。<br>（インターネットによる検索）（遠隔授業対応） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 5 | 日常に必要な援助<br>（抱っこ・おんぶ） | 抱っこ、おんぶなどの補助具について理解し、安全に配慮し、正しく使えるよう演習を行う。 | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 6 | 日常に必要な援助<br>（哺乳・離乳・口腔衛生） | 哺乳、離乳食、口腔衛生について理解し、安全に援助できるよう技術を習得する。（遠隔授業対応） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 7 | 日常に必要な援助<br>（衣服） | グループ内で望ましい衣服の条件について意見交換することで理解を深め、衣服着脱の自立支援につながる技術を習得する。（グループディスカッション） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 8 | 日常に必要な援助<br>（おむつ・排泄の自立） | 子どもの排泄の特徴を理解し、排泄の自立につながる安全な援助技術を習得する。オムツ交換の演習を行う。 | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 9 | 日常に必要な援助<br>（沐浴） | 子どもの皮膚機能の特長を理解し、新生児の清潔保持の援助技術を習得する。沐浴の演習を行う。 | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 10 | 日常に必要な援助（アレルギーへの対応・スキンケア） | アレルギー疾患とスキンケアの関係性を学び、個別的な配慮を必要とする子どもへの配慮と自己の役割を理解する。（遠隔授業対応） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 11 | 子どもの特徴的疾病と適切な対応（事故やけがの理解） | 死因順位データから不慮の事故の現状を知り、子どもが事故を起こしやすい特性について理解する。また、事故やけが、熱傷について理解し救急処置についての技術を習得する。（遠隔授業対応） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 12 | 子どもの特徴的疾病と適切な対応（応急処置・事故防止と健康安全管理） | 誤飲時の救急処置応急処置の技術を習得する。<br>集団感染予防の重要性を理解し、手洗い・うがいの援助方法を習得する。 | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 13 | 子どもの特徴的疾病と適切な対応（救急蘇生） | 災害などの危機管理や家庭および専門機関との連携の必要性を理解し、救急処置・救急蘇生法の技術を習得する。 | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 14 | 特殊なケアの介助方法<br>（車イス） | グループ内で車いす体験や移動援助を行うことで個別的配慮の必要な子どもの対応について理解し、子どもの気持ちに沿った操作技術を習得する。（グループディスカッション） | 不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。(30分) |
| 15 | 子どもの心とからだ | 子どもの保健と安全を守るために必要な保育士の能力や自己の役割について考え表現できる。（遠隔授業対応） | 14 回の授業を振り返り、自分の考えを整理しておく。（30 分） |

**単位の認定について**

授業、実習に対する取り組みの姿勢40%(振り返りシート・忘れ物など) 小テスト評価 40% まとめレポート、ワークシート評価20%の６割点で単位が認められる。

**教科書：**子どもの保健と安全(中山書店)

**授業外学習について：**指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**参考書：**子どもの保健―理論と実際―、小児看護、子どもの保健・実習ビデオライブラリー、子どもの保健(保育士養成課程光生館)
小児のアレルギー疾患保健指導の手引き（富山大学大学院医学薬学研究部小児科学講座）

※学生は毎授業後、「振り返りシート」に質問や感想を記入し、次時の授業で教員が回答を行う。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 子どもの食と栄養Ⅰ（科目コード:TNNTC104） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 髙妻瑠弥乃 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** １．健康な生活の基本としての食生活のありかたや栄養素に関する基本的な知識を理解する。
２．子どもの成長に必要な栄養素の機能や食べる意義を理解する。
３．乳児期の発育・発達の特徴と食生活の関連について理解を深める。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**・健康な体をつくるための栄養素のはたらきや食品の摂取について理解することができる。
・乳児期の発達段階における食生活の課題やその解決のための方策について、具体的に説明できる。
・乳幼児の栄養摂取や食支援を考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「子どもの食と栄養」とは何か | 子どもの心身の健康と食生活の関連を知り、この科目の学習の意義や学習方法を理解して見通しを持つ。 | 保育者として「子どもの食と栄養」の学習で身につけたいことをまとめる。(30分) |
| 2 | 子どもの食生活の現状と課題 1 | 子どもの食生活の現状を知り、幼児期から正しい食生活を確立することが、生涯にわたって健康な生活を送ることに繋がるということを理解する。 | 食をテーマにした教材から「食育」の意義を考える。(30分) |
| 3 | 子どもの食生活の現状と課題 2 | 食育基本法や保育所保育指針から、保育者として食育を推進するための取組みや食育の意義について学ぶ。食品に含まれる栄養素が果たす基本的な働きを知る。オンデマンドによる遠隔授業対応。 | 栄養素について調べ図表にまとめる。(30分) |
| 4 | 栄養素に関する基本的知識 1 | 栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。①脂質とたんぱく質についてとそれを多く含む食品。 | 加工食品の成分表示について調べる。(30分) |
| 5 | 栄養素に関する基本的知識 2 | 栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。②炭水化物についてとそれを多く含む食品。 | 三色食品群について調べ、子どもに伝わるよう工夫して図にまとめる。(30分) |
| 6 | 栄養素に関する基本的知識 3 | 栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。③ミネラルとそれらを多く含む食品。 | 厚生労働省『健康日本 21』で推奨される野菜の摂取量について調べる。(30分) |
| 7 | 栄養素に関する基本的知識4 | 栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。④ビタミンとそれらを多く含む食品、水分について。 | ビタミン$B_1$を多く含む食品と献立を調べる。(30分) |
| 8 | 栄養素に関する基本的知識 5 | 栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。⑤食事摂取基準について。 | サプリメントの表示を調べ耐用上限量について学ぶ。(30分) |
| 9 | 栄養素に関する基本的知識 6 | 栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。⑥食物の摂取と体内での消化・吸収について。 | 五感を豊かに育む食事について考える。(30分) |
| 10 | 子どもの発育・発達と食生活 1 | 献立作成と食事バランスガイドについて理解する。オンデマンドによる遠隔授業対応。 | 食事バランスガイドを用いた献立作成について理解する。(30分) |
| 11 | 子どもの発育・発達と食生活 2 | 妊娠期と授乳中の栄養と食事を学ぶ。 | 基本的な調理技術について学ぶ。(30分) |
| 12 | 子どもの発育・発達と食生活 3 | 乳児期の栄養(乳汁栄養と人工栄養)を学ぶ。 | 育児用ミルクの種類・特徴を調べる。(30分) |
| 13 | 子どもの発育・発達と食生活 4 | 育児用調製粉乳の扱い方、調乳用具の消毒方法、無菌操作法による調乳方法を学ぶ。 | フォローアップミルクの特性について調べる。(30分) |
| 14 | 子どもの発育・発達と食生活 5 | 調乳実習(調乳法実践力を養成)を行う。 | 調乳実習を振り返りまとめる。(30分) |
| 15 | 前期のまとめ | 授業を振り返り、子どもの発育や生活に必要な栄養素の働きと摂取方法を理解する。 | この授業で学んだことを振り返り、簡潔にまとめる。(30分) |
| 16 | 定期試験 | 試験 | |

**単位の認定について**　試験 60%、学習課題の提出状況 30%、授業の取り組み状況 10%。60 点以上で単位を認定する。
**教科書**　「子どもの食と栄養」　飯塚美和子　桜井幸子編集　学建書院
**授業外学習の取り組みについて**　授業外学習にしっかり取り組み、次時の教科書の範囲を読み「予習・復習」に１時間以上取り組むこと。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（２、３、７、１２，１５）を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 子どもの食と栄養Ⅱ（科目コード: TNNTC104） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 髙妻瑠弥乃 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**1. 乳幼児期の食の現状と課題から食育の意義を理解し、保育現場での食育実践の基礎づくりを習得する。
2. 食育のための環境や地域社会・文化との関わりの大切さを理解し、家庭や児童福祉施設における食育を学ぶ。
3. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**・乳幼児期の食生活の課題やその解決のための食の指導について理解できる。
・食育の重要性を理解し、食育媒体などを使って個々への食の支援ができる。
・疾病や体調不良、アレルギーおよび障がいのある子どもへの食支援を配慮できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 食育の基本と内容１ | 離乳期の食べる機能の発達と食事を学ぶ。<br>①離乳前期、離乳中期について。 | 離乳食の献立を作成する。(30分) |
| 2 | 食育の基本と内容２ | 離乳期の食べる機能の発達と食事を学ぶ。<br>②離乳後期、離乳完了期について。 | 離乳食を調理し、試食する。(40分) |
| 3 | 食育の基本と内容３ | 幼児期の食べる機能の発達や食に関する問題行動を理解し、幼児食について学ぶ。 | 幼児期の食具について調べ、保護者支援について考えをまとめる。(30分) |
| 4 | 食育の基本と内容４ | 「食」のイメージを豊かにし、食事内容を想像する楽しみを味わえるような食育指導案について学ぶ。 | 正しい食事の配膳について調べる。(30分) |
| 5 | 食育の基本と内容５ | 食育指導のテーマを考え、食育指導計画を立案する。<br>オンデマンドによる、遠隔授業対応。 | 立案した食育指導案を振り返り、まとめる。(30分) |
| 6 | 食育の基本と内容６ | 「食育だより」作成に向けて、子どもの食生活の課題、家庭における食事の課題を知る。 | 食育だよりの参考作品の考察。(30分) |
| 7 | 食育の基本と内容７ | 食育だよりの作成。<br>オンデマンドによる遠隔授業対応。 | 作成した食育だよりを考察する。(30分) |
| 8 | 食育の基本と内容８ | クッキング保育計画の基本的な考え方を理解し、調理工程を通して楽しみながら食事づくりに取り組めるような計画を学ぶ。 | 保育所における誤嚥事故発生時の対応について調べる。(30分) |
| 9 | 食育の基本と内容９ | 調理実習（子どもの発達に見合った調理、衛生、安全指導の研究）を行う。 | 調理実習を振り返りまとめる。(30分) |
| 10 | 食育の基本と内容10 | 調理実習の振り返りと、保育所におけるクッキング保育の安全で効果的な実践方法を検討する。 | 保育所給食における保育士の役割をまとめる。(30分) |
| 11 | 食の安心・安全 | 食の安心・安全を理解し、家庭や保育所における食品衛生管理を学ぶ。 | 保育所における食中毒予防について調べる。(30分) |
| 12 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養１ | 食物アレルギーやのある子どもや病児への対応について学ぶ。 | 食物アレルギー、アナフィラキシーショックについて調べる。(30分) |
| 13 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養２ | 障がいのある子どもへの対応について学ぶ。 | 障がいのある子どもの食に関する問題行動を調べる。(30分) |
| 14 | 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 | 保育所で提供される行事食の食文化を学ぶ。外国人幼児や宗教による給食への配慮を学ぶ。 | 保育所における食事の役割について調べる。(30分) |
| 15 | まとめ | 子どもの発育・発達段階に合わせた栄養摂取と供食、子どもの「食を営む力」を育むための支援について、授業を通して学んだことを振り返り、まとめる。 | この授業を通して学んだことを振り返り、保育者の視点からみた食育の意義を踏まえてまとめる。(30分) |
| 16 | 定期試験 | 試験 | |

**単位の認定について**　試験 60%、学習課題の提出状況 30%、授業の取り組み状況 10%。60 点以上で単位を認定する。

**教科書**　「子どもの食と栄養」　飯塚美和子　桜井幸子編集　学建書院

**授業外学習の取り組みについて**　授業外学習にしっかり取り組み、次時の教科書の範囲を読み「予習・復習」に１時間以上取り組むこと。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（３，１２、１３、１４）を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 子どもの保健 （科目コード:TNNTC103） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 桑迫信子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：** ・子どもの正常な発育・発達段階について自分なりに理解し、説明でき、人と話し合うことができる。
・子どもの疾病と予防について自分なりに理解し、適切な対応について説明でき、人と話し合うことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 子どもの健康と保健の意義 | 健康な発育・発達と情緒の安定に係わる保健活動の意義と目的を学ぶ。 | 日常生活の中で「子どもの保健」について知っていることをノートにまとめる。(30 分) |
| 2 | 子どもの発育・発達と保健 | 生命の保持と子どもを取り巻く環境や社会の動向を学ぶ。 | 母子手帳の記載の実際をみて、ノートに自分の発育状態を転記する。(60 分) |
| 3 | 子どもの身体機能の発育・発達と保健 | 子どもの身体発育の特徴と経過を学ぶ。(Zoom 対応可) | 日常生活の中で周囲の子どもたちの成長を観察する。小テストの振り返り。(60 分) |
| 4 | 子どもの心身の健康状態とその把握 | 健康状態の把握方法と保護者との情報共有の重要性を学ぶ。(Zoom 対応可) | 自分自身の健康管理についての予防法と対処法をノートにまとめる。(60 分) |
| 5 | 生理機能の発育・発達と保健 1 | 子どもの正常な呼吸、循環、体温の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可) | 正常な機能をノートにまとめる。<br>小テストの振り返り。(60 分) |
| 6 | 生理機能の発育・発達と保健 2 | 子どもの正常な血液、免疫の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可) | 正常な機能をノートにまとめる。(60 分) |
| 7 | 生理機能の発育・発達と保健 3 | 子どもの正常な消化と栄養の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可) | 正常な機能をノートにまとめる。<br>小テストの振り返り。(60 分) |
| 8 | 生理機能の発育・発達と保健 4 | 子どもの正常な尿排泄と水分代謝の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可) | 正常な機能をノートにまとめる。(60 分) |
| 9 | 生理機能の発育・発達と保健 5 | 子どもの正常な内分泌、睡眠、感覚、神経の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可) | 正常な機能をノートにまとめる。<br>小テストの振り返り。(60 分) |
| 10 | 運動機能・認知機能の発育・発達と社会性 | 子どもの正常な運動機能・言葉・情緒・社会性の発育・発達を学ぶ。(Zoom 対応可) | 正常な運動機能・言葉・情緒・社会性等の発育・発達過程をノートにまとめる。<br>小テストの振り返り。(60 分) |
| 11 | 子どもの疾病の特徴と適切な対応 1 | 子どもの感染症を理解しその予防法や対応を学ぶ。 ①感染症、予防接種<br>(Zoom 対応可) | 子どもの感染症を理解し、予防法と予防接種の種類・時期をノートにまとめる。(60 分) |
| 12 | 子どもの疾病の特徴と適切な対応 2 | 子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。②先天異常、アレルギー性疾患<br>(Zoom 対応可) | 子どもの疾病とその症状と対処法をノートにまとめる。(60 分) |
| 13 | 子どもの疾病の特徴と適切な対応 3 | 子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。③消化器疾患、呼吸器疾患<br>(Zoom 対応可) | 子どもの疾病とその症状と対処法をノートにまとめる。(60 分) |
| 14 | 子どもの疾病の特徴と適切な対応 4 | 子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。④循環器疾患、血液疾患、腎・泌尿生殖器疾患<br>(Zoom 対応可) | 子どもの疾病とその症状と対処法をノートにまとめる。(60 分) |
| 15 | 子どもの疾病の特徴と適切な対応<br>5 | 子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。⑤皮膚疾患、感覚器疾患、内分泌・代謝疾患、その他<br>(Zoom 対応可) | 子どもの疾病とその症状と対処法をノートにまとめる。小テストの振り返り。(60 分) |
| 16 | 試験 | 前期試験 | |

**単位の認定について**　試験 80%、受講態度および課題提出 20%で評価する。
**教科書**　新版　子どもの保健　　ななみ書房出版
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　小テストは終了後に解説する。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 子ども家庭支援の心理学 （科目コード:TNNTC201） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 木村匡登 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 「家庭」について自分自身で深く考えられるセンスと、その上での支援を検討できる力を身に付けさせたい。

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：** 子育て支援の観点から、家庭をどうとらえるべきかを自分で考えることができる。
様々な事情を抱えた家庭に対する適切な支援のあり方を自分で考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生涯発達とは | 生涯発達の概要について | 生涯発達とは何か調べてくる(30 分) |
| 2 | 乳幼児期の発達 | 乳幼児期から学童期前期の発達について | 「乳幼児期から学童期前期」の発達段階の特徴について調べてくる(30 分) |
| 3 | 青年期の発達 | 学童期後期から青年期の発達について | 「学童期後期から青年期」の発達段階の特長について調べてくる(30 分) |
| 4 | 成人期の発達 | 成人期・老人期の発達について | 「発達しつづける」の意味について自分の考えをまとめてくる(30 分) |
| 5 | 現代社会の家族・家庭 | 現代社会の地域を取り巻く家庭状況について | 現代の家族・家庭について調べてくる(30 分) |
| 6 | 家族・家庭の意義と機能 | 「家族」と「家庭」の違いとその機能について | 「家族」と「家庭」の違いについて調べてくる(30 分) |
| 7 | 親子関係・家族関係 | 現代社会における家庭関係の変容とその対応について | 親と子の関係はどうあるべきか自分の考えをまとめてくる。(30 分) |
| 8 | 子育ての経験と親としての育ち | 子育ての経験と親としての育ちについて | 親になるとはどういうことかについて自分の考えをまとめる(30 分) |
| 9 | 子育て家庭の現状と課題 | 子育て家庭の現状と課題について | 現代社会の子育ての状況について調べてくる(30 分) |
| 10 | 子育ての社会的状況 | 子育てを取り巻く社会的状況について | 「子育ての社会化」とは何かを調べてくる(30 分) |
| 11 | ライフコースと仕事・子育て | 子育てと仕事、家庭の関係について | 「ワークライフバランス」について調べてくる(30 分) |
| 12 | 多様な家庭とその理解 | 多様な状況を抱えた児童と家庭と、そうした児童・家庭への支援について | 家庭の抱える諸問題について調べてくる(30 分) |
| 13 | 特別な配慮を要する家庭 | 社会的支援を必要とする家庭について | 特別な配慮を要する家庭の社会的支援にはどのようなものがあるか調べてくる(30 分) |
| 14 | 子どもの生活・生育環境 | 子どもの生活・生育環境とその影響について | 健全な育成に資する子どもの生育環境について調べてくる(30 分) |
| 15 | 子どもの心の健康 | 子どもの心の健康に関わる問題について | 子どもの心の問題について調べてくる(30 分) |
| 16 | 試験 | | |

**単位の認定について** 試験(70%)と普段の受講態度(授業外学習の発表評価含む 30%)を総合して評価する(詳細な評価基準は初回の講義で提示する)。

**教科書** 新基本保育シリーズ⑨「子ども家庭支援の心理学」 中央法規

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、授業最終週において解説する。

| 授業科目名 | 子ども家庭支援論 （科目コード:TNNTC207） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 木村匡登 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 「家庭」について自分自身で深く考えられるセンスと、その上での支援を検討できる力を身に付けさせたい。

1. 子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭の支援体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状と課題について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：** 子育て支援の観点から、家庭をどうとらえるべきかを自分で考えることができる。
様々な事情を抱えた家庭に対する適切な支援のあり方を自分で考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 家庭の意義と必要性 | 家庭という概念と、家庭の意義と必要性について。 | 「家庭」とは何か調べてくる。(30 分) |
| 2 | 子ども家庭支援の目的と機能 | 家庭を支援することがなぜ大事なのかについて。 | 現代の子育て家庭を取り巻く状況について、調べてくる。(30 分) |
| 3 | 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 | 子育て家庭を支援する施策のあり方とその登場経緯等について。 | 新聞記事等を調べて、子育て支援の施策が今後どう変わっていくか調べてくる。(30 分) |
| 4 | 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 | 家庭での子育てをより良くできる社会的な資源のあり方と、それらの活用方法について。 | 自分が住む地域には子育ての「社会資源」としてどのようなものがあるか調べてくる。(30 分) |
| 5 | 保育の専門性を活かした家庭支援 | 保育士も含めた保育者が、いかに家庭を支援すべきかについて。 | 保育の場で「家庭」をどのように支援していたか、実習体験等の振り返りからまとめてくる。(30 分) |
| 6 | 子どもの育ちの喜びの共有 | 子育て支援のプロセスについて。 | 子どもの育ちを共有するツールにはどのようなものがあるか調べてくる。(30 分) |
| 7 | 地域社会の変容と家庭支援 | 現代地域社会の変容の中で改めて地域社会の家庭を支援する力とについて。 | 「地域社会」の子育て力について、まとめてくる。(30 分) |
| 8 | 保育士に求められる基本的態度 | 保護者との信頼関係の構築について。 | 保護者に対する基本的信頼関係構築に必要なものは何か調べてくる。(30 分) |
| 9 | 家庭の状況に応じた支援 | 現代社会における家庭関係の変容とその対応について。 | 現在家庭がどういう状況にあり、それにどう対応すべきか自分の考えをまとめてくる。(30 分) |
| 10 | 子育て支援における関係機関との連携 | 家庭を支援する上で連携できる機関と、連携のあり方について。 | 子育て支援を実施する機関を調べてくる。(30 分) |
| 11 | 子育て支援サービスの概要 | 子育て家庭を支援する諸サービスについて。 | 自分が住んでいる地域にある子育て支援サービスを調べてくる。(30 分) |
| 12 | 保育所入所児童の家庭への支援 | 保育所で出会うさまざまな子どもとその家庭をどう支援するかについて。 | 世の中にいるさまざまな子ども・家庭が抱える問題を、新聞記事等から調べてくる。(30 分) |
| 13 | 地域の子育て家庭への支援 | 地域内で子どもとその家庭を支援する意義と、支援のあり方について。 | 地域の子育て家庭への支援として、どのような拠点があるか調べてくる。(30 分) |
| 14 | 要保護児童及びその家庭に対する支援 | 多様な状況を抱えた児童と家庭と、そうした児童・家庭への支援について。 | 「障害とは何か」、障害の意味を調べてくる。(30 分) |
| 15 | 子育て支援サービスの課題 | 現代の子育て支援サービスに残存する課題について。 | 現在ある課題をどうやれば解決できるか自分の考えをまとめてくる。(30 分) |
| 16 | 試験 | | |

**単位の認定について** 期末試験(60%)と演習課題・レポート提出(40%)を総合して評価し、60 点以上を合格とする。

**教科書** 「新基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論 第２版」中央法規

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、授業最終週において解説する。

| 授業科目名 | 子ども家庭福祉（科目コード:TNNTC209） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 保育士資格必修 | | | | | | | |
| 担当者 | 木村匡登 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** ※「子ども家庭福祉」に対する問題関心を育み、日常的に「子ども家庭福祉」を考える視点をもたせたい。

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ○ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：** 子ども家庭福祉に関連するさまざまな社会的事象について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、自分の体験に即して展開して考えられる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 子ども家庭福祉の理念 | オリエンテーション、子ども家庭福祉の概念・理念と意義。 | 「子ども家庭福祉」がどういうもので、なぜ必要か自分の考えをまとめる。(30 分) |
| 2 | 子ども家庭福祉の歴史 | 子ども家庭福祉がどのように変遷してきたか。 | 子ども家庭福祉が必要とされた背景と、現代社会とのつながりを調べてくる。(30 分) |
| 3 | 現代社会と子ども家庭福祉 | 現代の社会・諸外国における子ども家庭福祉のあり方とその役割。 | 現代社会でなぜ子ども家庭福祉が必要なのか考えてみる。(30 分) |
| 4 | 児童の人権擁護と子ども家庭福祉 | 児童の人権、あるいはそれを擁護することと子ども家庭福祉との関係について。 | 「子どもの人権」について、自分の考えをまとめてくる。(30 分) |
| 5 | 子ども家庭福祉の実施機関・施設・専門職 | 子ども家庭福祉を実施する機関・施設と、子ども家庭福祉の担い手である専門職について。 | 子ども家庭福祉に従事する人はどのような人がいるか調べてくる。(30 分) |
| 6 | 子ども家庭福祉の制度・法 | 子ども家庭福祉にまつわる制度と法体系について。 | 児童福祉の法律は、どのような法律があるか調べてくる。(30 分) |
| 7 | 少子化と子育て支援サービス | 少子化社会における子ども家庭福祉と、子育て支援サービスについて。 | 少子化の要因について、調べてくる。(30 分) |
| 8 | 母子保健と児童の健全育成 | 現代社会における母子保健と児童の健全育成について。 | 母子の健康を保つことと児童の育成について自分の考えをまとめる。(30 分) |
| 9 | 多様な保育ニーズへの対応 | 多様化する現代の保育ニーズとそれへの対応について。 | 世の中にいるさまざまな子ども・家庭の問題を、新聞記事等から調べて持ってくる。(30 分) |
| 10 | 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス | 社会問題化している児童虐待・ドメスティックバイオレンスとそれへの対応について。 | 虐待・DV の実態を新聞記事等から調べてもってくる。(30 分) |
| 11 | 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 | 「子どもの貧困」と外国にルーツのある子どもへの支援について。 | 「子どもの貧困」の現状について調べてくる。(30 分) |
| 12 | 社会的養護 | 社会的養護の仕組みと理念について。(非行問題含む) | 社会的養護がなぜ必要なのか、自分の考えをまとめてくる。(30 分) |
| 13 | 障害のある児童への対応 | 障害のある児童への対応について。 | 「障害とは何か」「現代社会で障害はどう位置づけられているか」を調べてくる。(30 分) |
| 14 | 次世代育成支援と子ども家庭福祉 | 次世代を育成するという視点から考えた諸外国の動向も踏まえた子ども家庭福祉について。 | 諸外国の子ども家庭福祉の動向を調べてくる。(30 分) |
| 15 | 他分野との連携とネットワーク | 関連する他分野との連携のあり方について。 | 保育の場で実際にどのような人々と、どう連携が取られているか調べてくる。(30 分) |
| 16 | 試験 | | |

**単位の認定について** 試験（70%）と毎回の受講態度（授業外学習の発表評価含む 30%）を総合して評価する。（詳細な評価基準は初回の講義で提示する）。

**教科書** 新基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉（第２版） 中央法規

**参考書** 講義中において別途紹介する。

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、授業最終週において解説する。

| 授業科目名 | 子育て支援 （科目コード:TNNTC204） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 保育士資格必修 | | | | | | | |
| 担当者 | 木村匡登　　樋口成樹 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** 「家庭」について自分自身で深く考えられるセンスと、その上での支援を検討できる力を身に付けさせたい。

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：** 子育て支援の観点から、家庭をどうとらえるべきかを自分で考えることができる。
様々な事情を抱えた家庭に対する適切な支援のあり方を自分で考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 子どもの保育と保護者支援 | 子どもの保育とともに行う保護者の支援について | 保護者支援の意義について調べてくる（30分） |
| 2 | 保護者との信頼関係 | 日常的・継続的なかかわりを通した保護者との相互理解と信頼関係の形成について | 保護者の信頼関係構築の必要性について調べてくる（30分） |
| 3 | 家庭の抱える支援ニーズ | 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解について | 「子育て家庭の抱える諸問題」について調べてくる（30分） |
| 4 | 子育て家庭の状況と把握 | 子ども及び保護者の状況・状態の把握について | 「アセスメント」について調べてくる（30分） |
| 5 | 支援計画 | 支援計画の作成と環境の構成について | 子育て環境について調べてくる（30分） |
| 6 | 支援過程・展開 | 支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて | 「支援の評価」の意義について調べてくる（30分） |
| 7 | 職員間の連携・協働 | チームワークアプローチについて | 職場のチームワークはどうあるべきか自分の考えをまとめてくる。（30分） |
| 8 | 社会資源と専門職との連携 | 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 | 専門職との連携はどうあるべきかについて自分の考えをまとめる（30分） |
| 9 | 保育所等における支援 | 保育所における子育て支援について | 保育所の子育て支援について調べてくる（30分） |
| 10 | 地域の子育て支援 | 地域の子育て家庭に対する支援について | 「在宅の子育て支援」とは何かを調べてくる（30分） |
| 11 | 障害児童への支援 | 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援について | 「障害児童への支援」に留意することについて調べてくる（30分） |
| 12 | 特別な配慮を要する家庭への支援 | 多様な状況を抱えた児童と家庭と、そうした児童・家庭への支援について | 特別な配慮を要する家庭の社会的支援にはどのようなものがあるか調べてくる（30分） |
| 13 | 子ども虐待の予防と対応 | 子ども虐待の予防と対応について | 「子ども虐待」の予防策について、自分の考えをまとめてくる（30分） |
| 14 | 要保護児童への支援 | 児童養護施設等要保護児童等の家庭への支援について | 要保護児童の社会的支援について調べてくる（30分） |
| 15 | 多様な支援ニーズへの対応 | 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭への支援について | 子育て家庭の多様なニーズについて調べてくる（30分） |
| 16 | 試験 | | |

**単位の認定について**　レポート（70%）と普段の受講態度（授業外学習の発表評価含む 30%）を総合して評価する（詳細な評価基準は初回の講義で提示する）。

**教科書**　新基本保育シリーズ⑲「子育て支援」 中央法規

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、授業最終週において解説する。

| 授業科目名 | 社会的養護Ⅰ （科目コード:TNNTC108） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 樋口成樹　　串間範一　　n-kushima@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後　授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**社会における家庭養護及び社会的養護の意義と歴史的変遷を踏まえ、その現状と課題について理解する。また、子どもと家族の置かれている社会実状を踏まえた社会的養護の基本について理解するとともに、社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、子どもの権利擁護等に関係する事象を理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標**　・社会的養護の目的とその実態に基づいた養護の基本原理を具体的に説明できる。
・保育士として、こどもとその家族に.関する支援の枠組みと権利擁護について理解する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会的養護の定義と理念 | 社会の変化に伴う、家族・子育て意識・子育て環境の変化を理解し、社会的養護の意義を理解する。 | 第 1 章　児童養護が必要な子どもの実情を施設職員経験者から聞く |
| 2 | 社会的養護の歴史と現在 | 社会的養護の歴史を理解し、明治からから現代の流れと代表的人物による事業を理解する。また、現代社会におけるこどもを取り巻く環境について考える。 | 第 2 章　石井十次、留岡幸助について先人の子ども家庭福祉に対する想いを探る |
| 3 | 子どもの人権擁護と社会的養護 | 子どもの権利条約と、日本の社会的養護における、児童の権利擁護の方向性を理解し、アドボケイトの機能を理解する。 | 第 3 章　岡山孤児院12則を理解し、ノートに具体例を記述する。 |
| 4 | 社会的養護の基本原則 | 社会的養護の基本原理である愛着再構築、自立支援、自己領域の活用について学ぶ。 | 第 4 章　個の尊重及び 4 種の児童虐待の内容を調べてノートにまとめる。 |
| 5 | 社会的養護の制度と法体系 | 家庭養護が困難となった子ども達に対して行われる社会的養護の法体系と児童福祉施設の種別を理解する。 | 第 4 章　制度化されている養育体系の運用の仕組みについて、児童相談所の機能をとおして確認する。 |
| 6 | 社会的養護の対象 | 施設種別ごとの対象像（入退所の背景を含む）、現状と課題について理解する。 | 第 5 章　授業で提示する 5 つの施設の根拠条文と対象を確認する。 |
| 7 | 社会的養護の仕組みと実施体系 | 社会的養護に至るルートの確認を通して、関連する組織・機関及び、施設の援助形態と職種を理解する。 | 第 7 章　虐待の発見から保護に至る過程に関わる組織をまとめる。(30 分) |
| 8 | 社会的養護の専門職 | 社会的養護施設の職員配置と、配置される専門職について学ぶ。 | 第 5 章　施設機能の中の各専門職における役割を国の施策の中から導く |
| 9 | 社会的養護の専門職 2 | 各専門職と保育士の関係、子どもの成長に合わせた支援目標の策定の在り方を学ぶ | 第 6 章　各専門職と、その中の保育士の役割についてまとめる。(30 分) |
| 10 | 家庭養護と施設養護 | 里親制度・養子縁組制度について学び、その課題を理解する。また、家庭的養護の概要について学ぶ。 | 第 7 章　家庭養護、施設養護の長所短所をまとめる。 |
| 11 | 措置児童のパーマネンシープラン | 施設入所に至る経緯と当事者である児童の想い、受け入れる保育士の役割について学ぶ。 | 第 7 章　家庭分離された子どもの想いを感じ取る。(GW) |
| 12 | 施設等の運営管理 | 措置制度における施設運営の概要を知り、子どもたちにとってのより良い環境づくり、そのための職種のチームによるケアの重要性と施設の安全管理について理解する。 | 第 8 章　社会的養護がなぜ措置制度なのか、施設管理運営上に必要な事柄について、行政監査項目を参考に整理する。 |
| 13 | 被措置児童等の虐待防止 | 施設における権利侵害と権利擁護について、その背景にある子どもの特性と職員の対応について考え、予防的対応の在り方を学ぶ。 | 第 8 章　事例をとおして、施設内虐待の起こる原因や背景についてまとめ、現場実践の報告を聞く。 |
| 14 | 社会的養護と地域福祉 | 施設の地域小規模化、子育て支援機能など地域との関わりとアフターケアについて理解する。 | リービングケアの実際について理解する。(事後学習 30 分) |
| 15 | 児童福祉施設の支援者としての資質 | 社会的養護領域を担う保育士として、その専門性とは何か、その知識と技量を向上させるための取り組みについて学ぶ。 | 第 9 章　自己研鑽に主体的に取り組む現職者の講話を聴く。 |
| 16 | 試験 | まとめとしての試験を行う。 | |

**単位の認定について**　単元ごとに行う小テストおよび、視聴覚教材の振り返り等の課題の提出と内容 30%、学期末試験 70%。

**教科書・参考書**　みらい　保育士をめざす人の社会的養護Ⅰ

**授業外学習について**　指示された授業外学習のほかに、教科書該当章を読み込み、重要な部分に下線を引くなど予習・復習に１時間をあてること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。

※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（1.3.8.10.11.17)）を取り入れます

| 授業科目名 | 社会的養護Ⅱ （科目コード:TNNTC202） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的位階に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 中村 秀子 h-nakamura@mgjc.ac.jp　　串間範一 n-kushima@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容の具体的理解を土台として、施設養護及び家庭養護の実際、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、相談援助の方法・技術、並びに子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**
・「養護児童」、「障害児童」に対する保育士としての幅広い役割が理解できる。
・児童養護の具体的援助プロセスを理解する事ができ、基本的援助方法の説明ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会的養護における子どもの理解 | 事例をもとに、社会的養護下の子どもの生活や、思いを理解する。<br>小グループによるディスカッションを行う | 木月保育園の赤ちゃん研究HPで「愛着形成」を調べる。(30 分) |
| 2 | 施設養護及び家庭養護の生活特性及び実際 | 入所施設における一日～一年の流れを、家庭や家庭養護の生活と比較しながら理解する。<br>小グループによるディスカッションを行う | 保育実習Ⅰb の実習先の日課や職員体制、業務等を調べる。(60 分) |
| 3 | 被虐待児童の特性の理解 | 被虐待児童の特性として、主に愛着障がいとPTSD について学ぶ。<br>小グループによるディスカッションを行う | メディカルノートHPでPTSDついて調べる。(60 分) |
| 4 | 被虐待児童に必要とされるケアの理解 | 愛着障がいやPTSD が見られる児童へのかかわりを理解する。<br>小グループによるディスカッションを行う | 岡田ｸﾘﾆｯｸHPで反応性愛着障害・急性ストレス障害を調べる。(30 分) |
| 5 | 日常生活支援と治療的支援 | 事例をもとに新入園児の支援のあり方を考えて、施設養護のプロセス(入所前後)と子どもの個別支援計画の重要性を理解する。<br>小グループによるディスカッションを行う | 感情を表す言葉を 20 個書き出し、どんな時にそう感じるかを説明できるようにする。(60 分) |
| 6 | 日常生活支援と自立支援 | 事例をもとに退所を控えた子どもの支援のあり方を、個別支援計画に基づく評価と施設養護のプロセス(退所前後)を通して理解する。<br>小グループによるディスカッションを行う | 「試し行動」をネットで調べ(予習)、これに対する保育士の関わりについてまとめる。(60 分) |
| 7 | 社会的養護における基本的援助と家庭支援①（養護系） | 養護系施設について調べ、各種支援の具体的内容を学び、保育士等の職業内容を理解する。<br>ICT の活用・グループワークを行う | 「健康的な環境」について身近な例を挙げる(予習)、これを維持する上での保育士の役割をまとめる。(60 分) |
| 8 | 社会的養護における基本的援助と家庭支援②（非行系） | 少年非行と非行系施設について調べ、多職種で支援する保育士等の職業内容を理解する。<br>ICT の活用・小グループによるディスカッションを行う | 養護系/非行系施設での実習課題を立案。授業を受けて修正する。(60 分) |
| 9 | 社会的養護における基本的援助と家庭支援③（障碍系） | 障がい系施設の、各種支援の具体的内容を学び、保育士他、多職種の職務内容を理解する。<br>ICT の活用・小グループによるディスカッションを行う | 障がい系施設での実習課題を立案。授業を受けて修正する。(60 分) |
| 10 | 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 | 治療的支援を要する児童の事例の場面で模擬保育を行い、意図や根拠について説明する。 | 場面と対応について「指導案」を作成し、授業を受けて修正する。(60 分) |
| 11 | アセスメントと個別支援計画の作成 | 事例をもとに、専門的知識、技術を踏まえたアセスメント・個別支援計画を作成する過程を学ぶ。<br>小グループによるディスカッションを行う | 事例研究を行うため、事前に事例を読み仮説をまとめる。(30 分) |
| 12 | 記録及び自己評価 | 子どもの変化を記録の方法を取りながら、検証し、実践を評価するプロセスを理解する。<br>グループワークを行う | 事例について場面を中心とした記録を、間接話法でまとめてみる。(40 分) |
| 13 | 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践① | 意図や根拠を持って模擬保育を行い、適用する技術や背景となる知識について説明する。<br>小グループによるディスカッションを行う | 場面と適用したい技術について「指導案」に準じたものを作成する。(60 分) |
| 14 | 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践② | 要保護児童を発見時の対応から関わり技法や組織的対応・他機関連携について説明する。<br>小グループによるディスカッションを行う | 保育所で虐待の兆候を発見したとき児童・保護者・関係機関にどう対応するかを考え、まとめる。(30 分) |
| 15 | 社会的養護の課題と展望 | 全体の振り返りを行い、社会的養護の今後のあ | 施設実習で用いる指導案を作成す |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | り方について理解を深める。<br>小グループによるディスカッションを行う | る。(60 分) |
| 16 | 試験 | 筆記試験 | |

**単位の認定について**　課題理解（小テスト、ノート等）20%、授業取組み 10%、試験 70%。
知識確認のため、適宜 universal passport または google forms による小テストを行う
**教科書・参考書**　みらい出版　保育士を目指す人の社会的養護Ⅱ　　その他授業内で指示します
**授業外学習について**　指示された授業外学習のほかに、教科書該当章を読み込み、重要な部分に下線を引くなど予習・復習に１時間をあてること。
**課題に対するフィードバックの方法**　　提出された課題、小テストはチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。
※この授業では、SDGsに関する内容(1.3.8.10.11.17)を取り入れます。

| 授業科目名 | 社会福祉論 （科目コード:TNNTC107） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 樋口　成樹 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** ※「福祉」を自分自身の生活と結び付けてとらえてもらいたい。

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：** 「社会」を視野に入れた（「個人」にとどまらない）考え方ができる。

「福祉」をめぐる概念や考え方を、自分なりに理解し説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会福祉の原理と政策 | オリエンテーション、「生活」に関わる、社会福祉の概念・理念と意義。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | 辞書で、「福祉」を調べておく。<br>テキスト第1章。まとめプリントの復習（60分） |
| 2 | 社会福祉の歴史的形成 | 社会福祉がどのように変遷してきたか。諸外国における社会福祉。社会保障の概要。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「戦災孤児」を調べる。<br>テキスト第 2 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 3 | 社会福祉の法律 | 社会福祉と社会保障の概念と制度の実際。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「福祉六法」「社会福祉法」を調べる。テキスト第3章。まとめプリントの復習（60分） |
| 4 | 社会福祉の制度と実施体系 | 社会福祉を実施する代表的な機関・施設とお金の動き。（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | 辞書で「富の再分配」を調べる。ネットで「社会保障給付費の推移」を調べる。<br>テキスト第4章。まとめプリントの復習（60分） |
| 5 | 社会福祉の民間活動 | 社会福祉の民間活動を学び、国、都道府県、市町村役割と、共助、自助の最適ミックスを考える<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「ACHA Project」を調べる。<br>テキスト第 5 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 6 | 社会福祉専門職 | 社会福祉を実施する機関・施設における専門職とそれぞれの役割。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「社会福祉士」、「PT、OT、ST の仕事」を調べる。<br>テキスト第 6 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 7 | ソーシャルワーク | 相談援助の意義・対象・援助過程・方法。各専門職との連携と保育士<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する | ネットで「児童福祉司」「社会福祉主事任用資格」「こども家庭センター」を調べる。<br>テキスト第 6 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 8 | 権利擁護を支える法制度 | （Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「成年後見制度」について調べる。<br>辞書で「アドボカシー」を調べる。<br>施設見学実習のまとめを読み返す。テキスト第 8 章。まとめプリントの復習（60分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9 | 子ども家庭福祉 | 現代の少子社会において、子どもと家庭を支援し、児童の福祉と「子どもの最善の利益」を実現する活動の具体的内容と課題<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | 辞書で「子どもの最善の利益」を調べる。保育所見学実習のまとめを読み返す。<br>テキスト第 9 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 10 | 高齢者保健福祉 | 人口問題と高齢化を踏まえた高齢者の保健福祉と、年金保険の概要<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで、「人生 100 年時代」、「地域包括ケア」を調べる。<br>テキスト第 10 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 11 | 障がい者福祉 | 障がい児・者に関わる施策や現状を踏まえ、課題を考える<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「身体障がい、知的障がい、精神障がい」、「被災障がい者」を調べる。<br>テキスト第 11 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 12 | 生活保護 | 格差・貧困、孤立を踏まえた生活保護の内容と課題<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「母子世帯の貧困率」を調べる。<br>テキスト第 12 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 13 | 地域福祉 | 現代社会における在宅福祉・地域福祉について<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | 宮崎市HPで「地域福祉計画」を調べる。ネットで「ヤングケアラー」について調べる。<br>第 13 章まとめプリントの復習（60分） |
| 14 | 医療福祉 | 日本における医療福祉医療・保険の概要。看護と社会福祉の連携。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。<br>Universal passport を使って小テストを行う。<br>次回授業内で解説する。 | ネットで「周産期を支える都城」、「医療的ケア児」を調べる。<br>テキスト第 14 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 15 | 社会福祉の今後の課題 | 共生社会の意義と、それを実現するための課題<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う。 | 辞書で「共生社会」を調べる。テキスト第 15 章。まとめプリントの復習（60分） |
| 16 | 試験 | | |

**単位の認定について**　定期試験の結果（70%）と毎回の受講態度及び課題・小テスト（30%）を総合して評価する。

**教科書**　勁草書房　社会福祉の拡大と形成［福祉の基本体系シリーズ］

**参考書**　ここでは特に指定しない。必要に応じて講義中で紹介する。

**授業外学習について**　予習としてシラバスに示すテキストの該当章を読み、重要と思われる部分に下線を引くこと。
毎回の課題、単元ごとに配布する復習まとめプリントに１時間の時間をあてること。適宜小テストを実施する。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック・採点後に適宜解説する。質問については、授業で解説するほか、質問内容により、メールにて回答する。

※この授業では、SDGsに関する内容（1.3.8.10.11.17）を取り入れます。

| 授業科目名 | 障がいのある子どもと保育 （科目コード:TNHCS101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 本学独自資格「発達障がい児サポーター」に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 三宅 浩子(h-miyake@mgjc.ac.jp)　高妻瑠弥乃 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了時　火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期(集中) | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**発達障がいや、発達障がいが心配される子どもの行動を発達的視点で理解して、適切な対応を学ぶ。また、多様な子どもたちが、安心して過ごせるクラス運営を社会モデルの視点で検討する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | ③○ |

**到達目標：**発達の多様性に寛容になり、子どもを思いやる温かいマインドを持つ。
子どもの行動の背景を発達特性と環境の相互作用として理解することができる。
多様な子どもたちが在籍するクラスの保育や個別の支援を、社会モデルの視点で工夫することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 多様化する保育社会の課題と、発達障がい児サポーターに期待されることを知り、どの子も主体的に育つ保育を実現する保育者としての心構えを持つ。 | これまでの実習を振り返り、保育が難しいと感じた子どもの行動と、保育者の対応について報告できるようにまとめておく。(60 分) |
| 2 | 発達の多様性<br>保育機関の現状と課題 | ・実習で出会った子どもの姿を想像しながら、発達多様性を学ぶ。<br>・保育実習・幼稚園実習を振り返り、保育機関の現状と課題を整理する。 | 実習日誌を読み返し、実習で出会った要支援の子どもの姿と、指導者の対応等を見直す。実習の自己評価を再チェックする。(60 分) |
| 3 | 発達の多様性(2) | ・施設実習を振り返り、一人ひとりのニーズに応じた対応を学ぶ。 | 実習日誌を読み返し、子どもたちの姿と、指導者の対応等を見直す。実習の自己評価を再チェックする。(60 分) |
| 4 | 行動観察と記録 | ・子どもの実態を把握するための観察と記録の方法を学ぶ。 | 本時の課題を完成させる。(60 分) |
| 5 | 感覚と記憶 | 園生活に馴染みにくい子どもの対応と、その背景、クラス運営を学ぶ。 | 子どもの特性に合わせた環境づくりを考えて図式化する(60 分) |
| 6 | 覚醒レベル | ぼーっとしがち、気分が高揚しがちな子どもの対応とその背景、個別の配慮を学ぶ。 | テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分) |
| 7 | 固有覚と前庭覚 | 動きが多い子どもや、動きたがらない子どもの対応とその背景、個別の配慮(環境の支援)を学ぶ。 | テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分) |
| 8 | 思考のくせ | 失敗に弱い、一番に拘る等の傾向が強い子どもの理解と対応を学ぶ。 | テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分) |
| 9 | コミュニケーション能力と注目のパワー | 子どもの困った行動の意味と対応を、行動・学習の理論を用いて学ぶ。 | テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分) |
| 10 | シングルフォーカスと心の理論 | 自己主張が強すぎて、他児とトラブルになりやすい子どもの理解と対応を学ぶ。 | テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分) |
| 11 | 視知覚と姿勢保持 | 保育者の話を聞いていられない、姿勢が崩れやすい等、集合する場面での対応が難しい子どもの理解と配慮を学ぶ。 | テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分) |
| 12 | 氷山モデル<br>行動観察のポイント | 子どもの言動を想定しながら、目に見えない部分(発達)をこれまで学んできた視点で理解する。 | 初回の授業外学習課題をワークシートに落とし込み、行動と発達の関係をまとめる。(60 分) |
| 13 | 個別の支援 | グループで仮想の事例を読み解き、その子どもの理解と支援について考える。 | 配布資料を読み、支援を要する子どもの姿を想定して、個別の支援計画を書いてみる。(60 分) |
| 14 | 保育計画 | クラスワイドの支援の観点でクラス全体に対する保育計画を立てる。 | グループワークで検討する子どもの行動をまとめておく。(60 分) |
| 15 | クラス運営と個別の支援計画 | 多様な保育の方法と個別の対応を学ぶ。 | 全ての回を復習してまとめる。(60 分) |

**単位の認定について**　ワークシート提出 50%　グループワーク及び発表 20%　　意欲・態度 30%
**教科書**　「多様な子どもたちの発達支援　なぜこの行動?　なぜこの対応?　理解できる 10 の視点」Gakken
**参考書**　授業内で適宜紹介
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れる。

| 授業科目名 | 身体表現及び即興演奏法（科目コード:TNMTH202/TNNTC222） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 星﨑明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 単位 | |

**授業概要：** 音や音楽と、子どもの心身の発達の関係を理解した上で音楽の遊びを展開するための技術と身体の動きについて学ぶ。また、子どもの動きや発する声、音を瞬時に捉え、即興的に返す表現法を学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**評価指標：** 子どもの発達を踏まえた作品を作り、声や音、身体の動きで表現することができる。
様々な楽器を選んで、心身の動きに合った音を即興的に作り出すことができる。
音や音楽、動きでコミュニケーションをとりながらグループワークができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>音と動きの活動① | 授業についてのオリエンテーションを行う<br>音や音楽を聴きながら動く活動を行う | 音付けの練習、授業の記録。(60 分) |
| 2 | 音と動きの活動② | 乳幼児の発達に合った身体遊びに音付けをする。<br>グループワークで行う「れんしゅう in はらっぱ」 | 乳幼児の遊びに合った音付けの練習を行う。(30 分) |
| 3 | 音と動きの活動③ | 乳幼児の発達に合った身体遊びに音付けをする。<br>グループワークで行う「○のはなし」 | 乳幼児の遊びに合った音付けの練習を行う。(30 分) |
| 4 | 絵譜による表現① | グループワークを行う「2 人はなかよし No.1、No.2」 | 作品発表の練習を行う。(60 分) |
| 5 | 絵譜による表現② | グループワークを行う「でてこいよ」 | 作品発表の練習を行う。(60 分) |
| 6 | 絵譜による表現③ | グループワークを行う「tipo の行進」「パンはいかが」 | 作品発表の練習を行う。(60 分) |
| 7 | 即興演奏① | 様々な楽器を使った即興演奏を行う。 | 音の出し方を練習する。(30 分) |
| 8 | 即興演奏② | 音や音楽の即興演奏と動きの即興活動を行う。 | 音の出し方を練習する。(30 分) |
| 9 | 素材と音、動き① | 様々な感触・素材・形・大きさに合った音と動きの活動を行う。 | 課題を行う。(30 分) |
| 10 | 素材と音、動き② | 様々な感触・素材・形・大きさに合った音と動きの活動を行う。 | 課題を行う。(30 分) |
| 11 | 声や音と動きの作品① | 絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う | 作品発表の練習、授業の記録(60 分) |
| 12 | 声や音と動きの作品② | 絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う | 作品発表の練習、授業の記録(60 分) |
| 13 | 声や音と動きの作品③ | 絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う | 作品発表の練習、授業の記録(60 分) |
| 14 | 声や音と動きの作品④ | 絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う | 作品発表の練習、授業の記録(60 分) |
| 15 | 作品発表 | グループごとの発表を行う | レポートを提出する(60 分) |

**単位の認定について**

実技試験 50%、活動への取り組み 30%、授業記録・レポートの提出 20%

**教科書**

「はらっぱ de 楽譜集」 中島恵子 (2010 第 3 版改訂版)こども音楽センター遊音印刷
「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」中島恵子 山下恵子 春秋社

**授業外学習** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業の準備をすること。

※この授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れています。

| 授業科目名 | 声楽（科目コード:TNMTH102） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 音楽療法士２種に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 太田宏美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** 正しい発声法に基づき、練習曲、日本歌曲、外国歌曲、童謡、ポピュラー曲などを教材としながら、歌うことに慣れ親しみ、豊かな表現力を養う。また、音楽療法の実践場面でどのように生かしていくかを実践的に学ぶことを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | ① ○ | ② | ③ | | | |

**到達目標：** ・練習曲、日本歌曲、外国曲を豊かに表現できる。
・音楽療法実践場面で、歌の指導ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、発声法、呼吸法の基本 | 授業の概要を説明。発声、呼吸の基本の習得、練習曲の取り組み | 楽譜の準備と発声練習(60分) |
| 2 | 発声法の基本、歌唱実技①練習曲 | 発声法、呼吸法、歌い方① | 発声練習、読譜(60 分) |
| 3 | 発声法の基本、歌唱実技②練習曲 | 発声法の習得、歌い方② | 発声練習、読譜(60 分) |
| 4 | 歌唱実技③練習曲、日本曲 | 日本曲の歌い方① | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 5 | 歌唱実技④練習曲、日本曲 | 日本曲の歌い方② | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 6 | 歌唱実技⑤練習曲、外国曲 | 外国曲の歌い方① | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 7 | 歌唱実技⑥練習曲、外国曲 | 外国曲の歌い方② | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 8 | 歌唱実技⑦練習曲、童謡 | 童謡の歌い方① | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 9 | 歌唱実技⑧練習曲、童謡 | 童謡の歌い方② | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 10 | 歌唱実技⑨練習曲、ポピュラー | ポピュラー曲の歌い方① | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 11 | 歌唱実技⑩練習曲、ポピュラー | ポピュラー曲の歌い方② | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 12 | 歌唱実技のまとめ① | 音楽劇での歌唱と表現① | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 13 | 歌唱実技まとめ② | 音楽劇での歌唱と表現② | 発声練習、読譜、歌唱(60 分) |
| 14 | 歌唱実技まとめ③ | 音楽劇での歌唱と表現③ | 発声練習、歌唱(60 分) |
| 15 | 歌唱実技まとめ④ | 音楽劇での歌唱と表現④ | 発声練習、事前の歌と伴奏合わせ(60 分) |

**単位の認定について** 実技試験(30%)、受講状況(練習状況、態度等)(40%)、授業外学習・提出課題(30%)により評価

**教科書・資料** 授業内で配布する。

**授業外学習について** 授業外学習の他に、予習・復習(実技練習)を１時間やり、授業に備えること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 特別支援教育Ⅰ（科目コード:TNEDU116/TNNTC116） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 松田昭憲　(a-matsuda@mgjc.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 | |

**到達目標：**発達障害をはじめとする様々な障害のある子どもの「発達」や「障害特性」についての理解を深め、特別な教育的ニーズを持った子どもを含むノーマライゼーションにおける障害児保育を支える理念(インテグレーション、インクルージョン)を学ぶとともに、その子どもの生活上の困難や個別の教育的ニーズに対して保育士の役割、関係機関との連携について必要な知識や支援方法を理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**評価指標：**
・発達障害をはじめとする障害の原因、特性について理解し、障害名ありきではなく正しい認識の下に、障害のある幼児に愛情を持って接する態度を身につける。
・発達障害についての基礎的特徴を理解し、保育をする上で基本的対応の理解ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「障害児保育」の基本について | 自分の障害に対する意識を見つめなおし、国際生活機能分類(ICF)の障害の概念と合わせて障害に対する考えを深め、障害児に寄り添う態度を考える。 | これまでの障害児・者との出会いや、日常生活での体験についてまとめる。(30 分) |
| 2 | 障害児保育の理念とあゆみ | 統合保育におけるノーマライゼーションの基礎知識と、日本が歩んできた障害児保育の歴史について学ぶ。 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説から、障害児に関する箇所を調べる。(30 分) |
| 3 | 視覚障害の基本的な理解と支援 | 基本的な障害の原因と特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 視覚障害の特性、対応の基本について調べる。(30 分) |
| 4 | 聴覚障害の基本的な理解と支援 | 障害原因と障害特性を理解し、具体的支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 聴覚障害の特性、対応の基本について調べる。(30 分) |
| 5 | 発音障害の基本的な理解と支援 | 障害原因と障害特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 発音の障害について調べる。(30 分) |
| 6 | 肢体不自由の基本的な理解と支援 | 障害原因と障害特性を理解し、基本的支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 身体障害の特性、対応の基本について調べる。(30 分) |
| 7 | 知的障害の基本的な理解と支援 | 障害原因と障害特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 知的障害について調べる。(30 分) |
| 8 | 重度重複障害・情緒障害の基本的な理解と支援 | 障害原因と障害特性を理解し、基本的支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 重度重複障害・情緒障害の特性、対応の基本について調べる。(30 分) |
| 9 | 発達障害の基本的な理解と支援①学習障害(LD) | 障害原因と障害特性を理解し、その発達支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 学習障害(LD)の特性、対応の基本について調べる。(30 分) |
| 10 | 発達障害の基本的な理解と支援②注意欠如多動性障害(ADHD) | 障害原因と障害特性を理解し、その発達支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 注意欠陥性多動障害(ADHD) の特性、対応の基本について調べる。(30 分) |
| 11 | 発達障害の基本的な理解と支援③自閉症スペクトラム | 障害原因と障害特性を理解し、その発達支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 自閉症スペクトラム障害の特性、対応の基本について調べる。(30 分) |
| 12 | 発達障害の傾向のある「気になる子」や「特別な教育的ニーズをもつ子」の基本的な理解 | 発達障害の判断はつかないが、グレーゾーンと呼ばれる「気になる子」や、学習や生活の面で特別な配慮を要する子どもについて理解を深め、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | どのような子どものことが「気になる子」なのかを、まとめる。(30 分) |
| 13 | 障害児保育の実際①TEACCH プログラム等の療育技法 | TEACCH プログラム等の療育技法から、構造化された基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | インターネット等を活用しながら TEACCH プログラムについて調べる。(80 分) |
| 14 | 障害児保育の実際②家庭や関係機関との連携 | 家族の障害受容を見極めながら家庭や関係機関との連携の重要性について学び、理解する。グループ毎に、家庭と関係機関についてマップに表す。 | 相談支援、子育て支援についての関係機関を調べる。(30 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15 | 障がい児支援の整理とまとめ | 発達障害をはじめ様々な障害のある子どもの発達や障害特性、障害児保育を支える理念や個別の教育的ニーズに対する保育士の役割､関係機関との連携について、整理し理解を深める。 | これまでの学びから、障害別の支援方法についてまとめる。(60 分) |
| 16 | 試験 | まとめとしての試験を行う。 | |

**単位の認定**　期末試験 70%､学習課題レポート提出(ワークシート)20%､授業に取り組む態度 10%。60%以上で単位認定。

**教科書**　『よくわかる！保育士エクササイズ９　障害児保育演習ブック』松本峰雄監修　増南太志編著(ミネルヴァ書房)

**参考書**　『実践事例を通して具体的なかかわりを学ぶ　保育現場における特別支援』松井剛太・七木田敦編著（教育情報出版建帛社)

『コンパス　障害児の保育・教育』武藤久枝・小川英彦　編著（建帛社)

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』(フレーベル館)

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

※この授業では、インターネット等を活用して調査しレポートや発表を行います。

| 授業科目名 | 特別支援教育Ⅱ （科目コード:TNEDU212/TNNTC212） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 松田昭憲　(a-matsuda@mgjc.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 | |

**到達目標：**発達障害や特別な教育的ニーズをもつ、様々な障害のある子どもの「発達」や「障害特性」、障害特性に応じた個別支援のあり方、他の子どもたちとの関わり合いの中で育ちあう保育実践について理解する。また、保護者の障害受容、保護者支援のあり方や関係機関(教育・医療・労働・福祉　他)との連携について理解を深める。特別の支援を要する子どもを、達成感を得させながら、自己肯定感を高めるための基本的な支援ができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**評価指標：**気になる子どもの行動特性と、生育環境や障害との関係を理解し、保育のあり方を「集団」「環境」「友人形成」の面から考えることができる。
障害受容を、親・兄弟・保育者・社会の面から捉え、個別支援のあり方を園内、園外の支援体制・就学援助への保育関連施策を考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「障害児保育Ⅰ」のふりかえり | 「障害児保育Ⅰ」で学んだ発達障害をはじめとする様々な障害のある子どもの「障害特性」や「発達」についての理解、特別な教育的ニーズを持った子どもを含むノーマライゼーションにおける障害児保育を支える理念(インテグレーション、インクルージョン)、その子どもの生活上の困難や個別の教育的ニーズに対して保育士の役割、関係機関との連携について復習する。 | 障害児保育Ⅰで学んだ、全ての障害の特性についてまとめる。（30 分） |
| 2 | 障害児の保育方法①保育者の基本姿勢 | 障害のある子どもの将来の自立や社会参加を目指し、集団の保育活動の中で個別に支援を行う意義や方法について理解する。 | 子どもの個別支援についての考えをまとめる。（30 分） |
| 3 | 視覚障害児・肢体不自由児の理解と具体的支援 | 障害の原因と特性を理解し、支援について学び、具体的支援について理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 視覚障害の特性、具体的な対応について検討しグループで協議し発表する。（60 分） |
| 4 | 聴覚障害児と発音の障害がある子どもの理解と具体的支援 | 障害原因と障害特性を理解し、支援について学び、具体的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 発音障害・聴覚障害児の特性、具体的な対応について検討しグループで協議し発表する。（60 分） |
| 5 | 知的障害児の理解と具体的支援 | 障害原因と障害特性を理解し支援について学び、具体的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 知的障害児について検討しグループで協議し発表する。（60 分） |
| 6 | 重度重複障害児の理解と支援の実際 | 障害原因と障害特性を理解し、基本的支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | ビデオを視聴し、支援の実際を理解する。具体的支援について検討しグループで協議し発表する。(60 分) |
| 7 | 発達障害児の理解と具体的支援①学習障害(LD) | 障害原因と障害特性を理解し、その発達支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 学習障害(LD)の特性、対応の基本について検討しグループで協議し発表する。（60 分） |
| 8 | 発達障害児の理解と具体的支援②注意欠如多動性障害(ADHD) | 障害原因と障害特性を理解し、その発達支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 注意欠陥性多動障害(ADHD) の特性、対応の基本について検討しグループで協議し発表する。（60 分） |
| 9 | 発達障害児の理解と具体的支援③自閉症スペクトラム | 障害原因と障害特性を理解し、その発達支援について学び、基本的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 自閉症スペクトラム障害の特性、対応の基本について検討しグループで協議し発表する。（60 分） |
| 10 | 発達障害と混同される子どもの理解と具体的支援 | 発達障害の判断はつかないが、グレーゾーンと呼ばれる「気になる子」や、学習や生活の面で特別な配慮を要する子どもについて理解を深め、具体的な支援方法を理解する。グループで対応について協議し、発表する。 | 「気になる子」の具体的な支援について、検討しグループで協議し発表する。（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 | 障害児へのアセスメント①行動観察 | ABC 分析を中心に、行動観察の方法を学び、行動特性を理解する。行動観察の方法を、具体的な例を挙げてグループ毎に発表する。 | 子どもの ABC 分析を行い、発表する。(30 分) |
| 12 | 障害児へのアセスメント②心理検査 | 田中ビネー、WISC 等の心理検査の概要を学び、アセスメントの理解を深める。 | 検査結果を基に、子どもの特性を分析する。(60 分) |
| 13 | 発達支援の技法 ソーシャルスキルトレーニング | 社会生活の中で人と関わる場面において、相手に適切に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人行動のトレーニング方法を、支援に役立てるために理解する。グループ毎に発表する。 | インターネット等を用いてソーシャルスキルトレーニングについて調べる。(80 分) |
| 14 | 重度重複障害児のコミュニケーション指導の実際 | 重度の障害(聴覚障害、肢体不自由　知的障害等)のある子どもの、写真カードによるコミュニケーション指導の実際を学ぶ。 | 重度重複障害についてこれまでの講義内容を振り返る。写真カードの活用について調べる。(60 分) |
| 15 | 障がい児保育の整理とまとめ | 発達障害をはじめ様々な障害のある子どもへの、基本的な理解と具体的支援について整理し、保育士としての実践的な知識とする。 | これまでの講義で取り扱った障がいのある子どもへの、具体的支援について整理する。(60 分) |
| 16 | 試験 | まとめとしての試験を行う。 | |

**単位の認定**　　期末試験 70%、学習課題レポート提出(ワークシート)20%、授業に取り組む態度 10%。60%以上で単位認定。

**教科書**　『よくわかる！保育士エクササイズ９　障害児保育演習ブック』松本峰雄監修　増南太志編著(ミネルヴァ書房)

**参考書**　『実践事例を通して具体的なかかわりを学ぶ　保育現場における特別支援』松井剛太・七木田敦編著(教育情報出版建帛社)

『コンパス　障害児の保育・教育』武藤久枝・小川英彦　編著(建帛社)

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』(フレーベル館)

**授業外学習について**　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

※この授業では、インターネット等を活用して調査しレポートや発表を行います。

| 授業科目名 | 乳児保育Ⅰ （科目コード:TNNTC106） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 小川美由紀 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及びその役割等について理解する。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭においた保育を示す。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**評価指標：** 乳児保育の意義や目的、役割を理解し、乳児保育の現状と課題について説明できる。
保育者間の連携・協働、及び地域の関係機関との連携に必要な知識が身についている。
3 歳未満児の発育・発達を踏まえた手作り玩具を作ることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>乳児保育とは何か | 乳児保育の役割と機能を知り、乳児保育Ⅰの授業目標と意義を理解し、15 回の学修の見通しを持つ。 | 「母性神話」と「三歳児神話」について調べ、まとめる。(60 分) |
| 2 | 乳児保育の歴史と理念 | 乳児保育の歴史的変遷と「児童福祉法」における乳児保育の理念について学ぶ。 | 「児童福祉法第 39 条」「保育所保育指針・第 1 章」の穴埋め課題に取り組む。(30 分) |
| 3 | 「保育所保育指針」における乳児保育の概要 | 「保育所保育指針」における乳児保育の概要について学ぶ。 | 「保育所保育指針」の第 2 章「保育の内容」について穴埋め課題に取り組む。(30 分) |
| 4 | 乳児保育の基礎知識 1・2 | 0 歳児保育の 3 つの視点と、1・2 歳児保育、3 歳以上児保育の 5 領域の関連について理解する。 | 教科書 35・43 ページをもとに 0～3 歳ごろの発達の特徴と、0 歳児の 3 つの視点についてまとめる。(60 分) |
| 5 | 6 ヶ月未満の子どもの育ちとあそび | 6 ヶ月未満児の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。 | 「新生児期に見られる反射行動」について調べ、まとめる。(30 分) |
| 6 | 6 ヶ月以上 1 歳未満の子どもの育ちとあそび | 6 ヶ月以上 1 歳未満児の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。 | 乳児前期から後期までの運動発達、手指の発達、言語発達、対人関係についてまとめる。(60 分) |
| 7 | 1 歳以上 2 歳未満の子どもの育ちとあそび | 1 歳以上 2 歳未満児の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。 | この時期の子どもが楽しめる絵本を探し、リストアップする。(30 分) |
| 8 | 2 歳～3 歳の子どもの育ちとあそび | 2 歳から 3 歳の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。 | 食物アレルギーについて調べ、まとめる。(60 分) |
| 9 | 乳児保育の基礎知識 3 | 保育の実施における配慮事項と、特別な配慮が必要な子どもへの支援について学ぶ。 | 食物アレルギーのある子どもへの対応について、教科書 57 ページをもとに考え、まとめる。(30 分) |
| 10 | 保育所・認定こども園における乳児保育 1・2 | 乳児保育における物的環境と人的環境、保育の体制について学ぶ。 | 異年齢児保育の DVD を視聴しての学びをまとめる。(30 分) |
| 11 | 保育所・認定こども園以外の保育事業における乳児保育 1 | 乳児院及び家庭的保育事業、その他の保育事業における乳児保育の現状と課題をグループで調べる。 | グループで役割分担し、担当する部分について調べる。(60 分) |
| 12 | 保育所・認定こども園以外の保育事業における乳児保育 2 | 引き続き、発表準備を進める。<br>(録画での遠隔授業対応回) | 発表準備を進める。(30 分) |
| 13 | 保育所・認定こども園以外の保育事業における乳児保育 3 | 発表を通して情報の共有を行うことで、乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について学ぶ。 | 教科書 101 ページの演習テーマ 3 の事例を読み、子育て支援についての自分の考えをまとめる。(60 分) |
| 14 | 乳児保育における保護者支援 | 乳児保育に必要な保護者とのパートナーシップについて学ぶ。 | 教科書 108～109 ページの演習課題に取り組む。(30 分) |
| 15 | 3 歳未満児向け手作り玩具の計画と製作 | 目的にあった衛生的で安全な玩具製作について考え、具体的な計画を作成する。 | 製作に必要な材料等について考え準備を行う。(60 分) |
| 16 | 単位試験 | 前期試験 | |

**単位の認定について** 試験 50%、授業外学習・振り返りシート 30%、グループ発表 20%で評価。60 点以上で単位を認める。
**教科書** 「乳児保育演習ブック〔第 2 版〕」 ミネルヴァ書房
**参考書** 「保育所保育指針」 フレーベル館 「乳児の保育 新時代」 乳児保育研究会
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。
※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 乳児保育Ⅱ （科目コード:TNNTC203） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 小川美由紀 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** 1. 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**評価指標：** 子どもの主体性を尊重した乳児保育についての考えを深め、健やかな生活や遊びを支える環境や保育内容、保育者の対応について発表することができる。
玩具製作の経験や子どもの興味・関心と捉えた保育内容の立案を行い、乳児保育のねらいや活動内容について具体的に考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 手作り玩具の発表・評価<br>「乳児保育Ⅰ」の振り返り | 玩具の特徴と安全面への配慮点及び製作を通し感じた乳幼児への思いを発表し、実際に手に取り、安全面への配慮や遊び方の工夫について学びを深める。 | 発表を終えての感想と他者の作品からの気づきをまとめる。「養護に関する基本的事項」の穴埋め課題に取り組む。(60 分) |
| 2 | 3つの視点と乳児の生活 | 睡眠、栄養摂取、離乳食の概要、離乳の開始、排泄、衣服選びや着替えの援助についての知識を深める。 | 6ヶ月未満児、6ヶ月以上 1 歳未満児の「発育・発達のめやす」を見直す。(30 分) |
| 3 | 乳児の保育内容とその実際 | 保育内容の実際について、映像の観察、記録を通して学ぶ。 | 教科書 172 ページをもとに、トイレトレーニングの進め方についてまとめる。(30 分) |
| 4 | 1 歳以上 2 歳未満児の生活 | 睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全についての知識を深める。 | 1 歳以上 2 歳未満児の「発育・発達のめやす」を見直す。(30 分) |
| 5 | 1 歳児の保育内容とその実際 | 保育の「導入」についてグループで考え、実践する。 | 2 歳～3 歳の子どもの「発育・発達のめやす」を見直す。(30 分) |
| 6 | 2 歳～3 歳の子どもの生活 | 睡眠、食事、排泄、着替え、安全についての知識を深める。 | 附属園の 0・1・2 歳児の姿や保育者とのかかわり、保育環境において印象に残ったことをまとめる。(30 分) |
| 7 | 2 歳児の保育内容と<br>その実際 1 | 保育ウェブを用いて、クリスマス関連の保育内容についてグループで考える。 | 発表準備を進める。(60 分) |
| 8 | 2 歳児の保育内容と<br>その実際 2 | グループで立案した保育内容を発表する。 | 立案用紙に基づき、保育の計画を立てる。(60 分) |
| 9 | 2 歳児の保育内容と<br>その実際 3 | グループで立案した保育内容を発表する。 | 発表時の指導・助言をもとに、実習指導案を立てる。(60 分) |
| 10 | 乳児保育における指導計画 1 | 指導・助言を受けた内容で、実習指導案を作成する。 | 発表時の指導・助言をもとに、実習指導案を立てる。(60 分) |
| 11 | 乳児保育における指導計画 2 | 全体的な計画に基づく指導計画と個別計画について具体的に理解する。<br>〔Zoom による遠隔授業対応〕 | 附属認定こども園の 0・1・2 歳児クラスで使われている実際の指導計画を見て、気付いたことをまとめる。(30 分) |
| 12 | 観察・記録及び自己評価<br>※フィールドワーク回 | 乳児保育における観察の視点及び記録のポイントについて理解する。〔課題提出〕 | 教科書 206～207 ページの演習課題に取り組む。(60 分) |
| 13 | 職員間・地域の関係機関との<br>連携 | 職員間・地域の関係機関との連携が必要な場合の対応について、事例から学ぶ。 | 教科書 125 ページの演習課題に取り組む。(60 分) |
| 14 | 子どもの生活と遊びが<br>豊かになる保育環境 | 保育所で工夫されている「魅力ある環境」について知り、保育現場での実践につなげる。 | 教科書 213 ページの演習課題に取り組む。(60 分) |
| 15 | まとめ<br>～3 歳未満児の主体性を<br>尊重する保育のために～ | 子どもの主体性を尊重した乳児保育についての考えを深め、健やかな生活や遊びを支えるための保育者の在り方について考える。 | 自分が目指す保育者像についての発表原稿を作成する。(30 分) |
| 16 | 単位試験 | 後期試験 | |

**単位の認定について** 試験 50%、授業外学習・振り返りシート 30%、グループ発表・レポート提出 20%で評価。60 点以上で単位を認める。
**教科書** 「乳児保育演習ブック〔第 2 版〕」 ミネルヴァ書房
**参考書** 「保育所保育指針」 フレーベル館 「乳児の保育 新時代」 乳児保育研究会
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。
※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 発達障がい児支援実習(科目コード:　　) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 高妻　瑠弥乃 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**発達障がい児及び発達障がいの傾向があり、支援が必要な園児が在籍する保育所や幼稚園等で、その園児の言動や他の園児との関わり、保育者の配慮などを観察し理解を深めたい。
実習を通して、発達障がいやその傾向がある幼児がどのように過ごしているのか、個の育ちを保障しながら周りの幼児との関係性はどうなのか等、支援に必要な知識・能力の育成を図りながら、学内での学びとは異なる気づきや新たな学びを促進する。また、保育者の具体的な支援の方法を学ぶ。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標**

１．対象児と積極的に関わりをもつことができる。
２．大学での学びと実際の園での学びを結びつけて考えることができる。
３．個別日誌の書き方ができるようになる。

**授　業　計　画　表**

**概　　要**

実習前指導
1. オリエンテーション:実習先の希望調査を行う。
2. 発達障がい児支援実習の概要の説明、及び日誌の書き方、配当表の確認を行う。

実習期間
1. 原則夏季休業中 4 日間の支援実習を実施する。
2. 実習先の担当者に毎日、日誌を提出し、コメントしていただく。

実習後指導
1. 実習についての振り返り

**単位の認定について**
実習先からの評価、実習記録簿の提出等を総合して評価する。

**参考書**
必要に応じて配布する。

**授業外学習について**
業務上必要な知識の修得、受け入れ先の担当者からの指導に伴う学修等。

**課題に対するフィードバックの方法**
面談等を行い、実習内容についての振り返りを行う。

| 授業科目名 | 保育・教職実践演習（幼稚園）<br>（科目コード:TNEDU303/TNNTC303） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 大坪祥子　久松尚美　髙妻弘子　椎葉恵子　木村匡登　小澤真美子　中川志保　松田昭憲<br>南中道隆　菊田恭子　間所あゆみ　土田悦子　甲斐磨有美　日高彩子　熊田原匡子　山口清美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 常勤教員は火曜日の放課後、非常勤教員は授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** これまで学んできたことが現場で生かせるよう、具体的な実践演習を通して、その資質・能力・態度を身に付ける。また自己を顧みることにより自己課題を自覚し、自分に必要な知識や技能等を身に付け、現場で円滑にスタートすることができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**①保育者として身につけておくべき基本的知識や技術が身に付いているか
②現場で起こりうる様々な事態への対応の仕方などを理解し、実践することができるか
③自己課題の克服に向けて真摯に向き合い、自己を向上させることができたか

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>クラス担任の役割 | 授業のねらい、具体的な内容、学び方などについて理解する（教職課程履修カルテの記入）<br>クラス担任としての心構えや仕事内容を理解し、園生活一年間の見通しをもつ | 保育者として現場で必要な素養と自己課題について考える<br>1年間の園生活についてどのような行事があるか調べる（30 分） |
| 2 | 保育者の職務内容及び<br>子どもに対する責務 | 幼稚園・保育所・認定こども園それぞれの職務内容（特に要録などの記録について具体的に学ぶ）や服務について学ぶ | 幼稚園・保育所・認定こども園の職務内容について調べノートにまとめる（45 分） |
| 3 | 保育の計画の実際 | 教育課程、全体的な計画の編成から日案・日誌の作成までの流れやその実際について学ぶ | 就職先や実習先の園の教育課程や保育課程について調べる（30 分） |
| 4 | 研究保育の実施<br>及び事後研究会 | 保育指導案をもとに保育の実践を行い、保育の改善へ繋げる研究会のあり方について学ぶ | 模擬授業を行うための事前準備や打合せを行った上で臨む（60 分） |
| 5 | 研究保育の実施<br>及び事後研究会 | 保育指導案をもとに保育の実践を行い、保育の改善へ繋げる研究会のあり方について学ぶ | 模擬授業を行うための事前準備や打合せを行った上で臨む（60 分） |
| 6 | 気になる子どもへの対応 | 子どもの「気になる行動」の捉え方や支援体制について学ぶ（家庭、地域、各専門機関との連携のとり方など） | LD、ADHD・ASDの特徴について調べまとめる（45 分） |
| 7 | 保護者への対応 | 子育て支援を視野に入れた対応の仕方について、グループ討議やロールプレイングなどの方法を活用し学ぶ<br>※連絡帳の書き方 | 保護者からどのような相談が寄せられるのかを考え、ノートにまとめる（30 分） |
| 8 | 自己課題の補完① | 現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ | それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分） |
| 9 | 自己課題の補完② | 現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ | それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分） |
| 10 | 自己課題の補完③ | 現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ | それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分） |
| 11 | 自己課題の補完④ | 現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ | それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分） |
| 12 | 自己課題の補完⑤ | 現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ | それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分） |
| 13 | 組織的に行われる保育の実際 | 学年、学級経営などを含む職員間の連携の在り方や保育カンファレンスについて実習を振り返りながら意見交換し視野を広げる | 学級経営や保育における昨今の子どもの育ちの課題について調べる （30 分） |
| 14 | 保育と人権教育 | 人権教育の大切さについて学び、ロールプレイングの実践から子ども、保護者の気持ちに気付く | 人権教育の基本認識と具体的事象について考える （45 分） |
| 15 | 保育者の倫理観 | 保育者としての目標や決意をまとめる（教職課程履修カルテの記入） | 自分の目指す保育者像についてレポートをまとめる （60 分） |

**単位の認定について**　ワークシート等の記入、グループ活動への参加度、課題の提出、レポートなど毎時間評価を行い、60 点以上で単位認定。

**教科書**　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

**参考書**　適宜紹介

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する。

**その他**　ＩＣＴを活用した授業内容アンケートを実施し、授業内でフィードバックする。

※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れておこないます。

※　幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員が、具体的な実践演習を通して、保育者としての資質・能力・態度を身につける。

| 授業科目名 | 保育の心理学 （科目コード:TNEDU211/TNNTC211） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤拓大 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**「教育心理学」の講義で学習した内容を基礎とし、子どもの心身の発達と保育実践について、学生同士の話合いやグループでの協同学習といった演習形式の学習方法により理解することを目指す。また、日常の生活と遊びなどにおける経験から子どもは何をどのように学んでいるのかについて、子どもの学習の過程を理解する。さらに、こうした保育場面における子どもの発達を促すために保育者はどのような発達支援を行えばよいのかについて学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | | |

**到達目標：**
・子どもの発達や発達支援について理解できる。
・適切な保育観、子ども観を持つことができる。
・協同学習を通じて、仲間と協力し合いながら学ぶことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 発達の理解 | 子どもの発達を理解するために、発達をどのように捉え、またその様子をどのように観察するのかについて学ぶ。 | 保育をする上で発達をどのように捉えたらよいかを考えてくる(30 分)。 |
| 2 | 個人差と発達過程 | 人格、情動、認知的側面における子どもの個人差について、発達との関わりから理解する。 | 子どもの個人差についてどのように向き合うべきかについて考えてくる(30 分)。 |
| 3 | 運動と環境 | 運動をはじめとする身体感覚を伴う多様な経験が環境との相互作用を通して、子どもの発達にどのように影響するのかについて学ぶ。 | 子どもの身体的機能と運動機能の発達についてまとめておく(30 分)。 |
| 4 | 保育者との関係 | 保育者との愛着の形成をはじめ、保育者との関係はどのように作られ、どのように発達するのかについて学ぶ。 | 子どもにとって保育者はどのような存在であるべきかを考えてくる(30 分)。 |
| 5 | 仲間との関係 | 子ども同士の相互の関わりと関係づくりについて、自己主張と自己統制の発達との関連から理解する。 | 子どもの仲間との関係について考え、発表することができるようにしておく(30 分)。 |
| 6 | 子ども集団と保育の環境 | 保育場面における子ども集団の特徴とその発達的変化について、環境との関わりを中心に理解する。 | 保育場面における子ども集団の特徴について自分の意見をまとめてくる(30 分)。 |
| 7 | 子どもの生活と学び | 子どもの日常生活における学びとはどのようなものか、またどのような過程で学んでいくのかについてディスカッションを通して考える。 | 子どもの学びについて自分なりに考えを持ち、他者に主張ができるようにしてくる(30 分)。 |
| 8 | 子どもの遊びと学び | 遊びを通して、子どもの発達はどのように理解され、また促されるかについて、実践場面を参照しながらディスカッションを通して学ぶ。 | 教育心理学で学習した遊びの内容を基に、子どもの発達と遊びの関係についてまとめてくる(30 分)。 |
| 9 | 発達援助のあり方1 | 子どもが基本的生活習慣を獲得する過程における発達援助についてディスカッションを通して学ぶ。 | 子どもの基本的生活習慣における発達援助について、意見をまとめてくる(30 分)。 |
| 10 | 発達援助のあり方2 | 子どもの主体性形成における発達援助についてディスカッションを通して学ぶ。 | 子どもの主体性形成における発達援助について、自分の考えを整理してくる(30 分)。 |
| 11 | 発達課題と援助 | 子どもの発達課題に応じた援助はいかに行われるべきかについてディスカッションを通して学ぶ。 | 子どもの発達課題に応じた援助はいかに行われるべきかについて考えてくる(30 分)。 |
| 12 | 就学への支援 | 小学校への環境移行における問題点とその対策としての発達援助のあり方について学ぶ。 | 小学校への環境移行時における問題について、まとめてくる(30 分)。 |
| 13 | 発達援助のための協働 | 子どもの発達を支援する上で、保育者同士の協働はいかに行われるべきかに、その課題と実践についてディスカッションを通して学ぶ。 | 保育者同士の協働について、その意味と重要性について考えてくる(30 分)。 |
| 14 | 発達と保育の課題 | 子どもの発達における保育の今日的課題について、心理学の立場から理解する。 | 保育の今日的課題について、グループ内で意見が出し合えるように準備をしてくる(30 分)。 |
| 15 | まとめ | これまで学んだ内容についてまとめ、記述する。 | これまでに学んだ授業内容を自分の言葉で、自分の考えを含め述べることができるようにしておく(30 分)。 |
| 16 | 試験 | これまで学んだ内容の習得状況を確認、評価するための試験を行う。 | |

**単位の認定について**　試験 70%　授業態度 20%　授業外学習 10%。
**教科書・参考書**　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
その他、必要に応じて担当者が伝える。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

| 授業科目名 | 保育原理 （科目コード:TNNTC102） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 大坪祥子　　久松尚美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**誕生から就学前の乳幼児の保育についての基本的な見方や考え方、保育の理論を学び、保育所が担う社会的な役割や子どもの主体性を尊重した保育について解説する。また、保育の思想や歴史的な背景、保育にかかわる法律や制度などについて解説する。タブレット端末を利用した双方向型授業を展開する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：**乳子どもを取り巻く社会状況や環境を踏まえた保育の意義や目的、社会的な役割について理解する。また保育の思想や歴史について理解し、子どもの主体性を尊重した保育について、自分なりの見方や考え方をもつことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>保育の理念や概念 | 「保育」「子ども」「遊び」などを大きな骨組みがわかり、「保育原理」を学ぶ意義を理解する。 | 保育原理でどのようなことを学ぶか、シラバスを読んでくる。（30 分） |
| 2 | 保育所の保育 | 保育所保育指針とは何か、また保育所における養護や子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ。 | 保育所保育指針の第 1 章「総則」1・2 を読んでくる。（30 分） |
| 3 | 保育の意義・目標 | 生きる力の基礎を培うためにどのような目標のもと、保育がなされていくのかについて学ぶ。 | ニュースや新聞の記事など保育に関する記事について調べる。（30 分） |
| 4 | 保育の社会的役割と責任 | 子ども家庭福祉の観点から保育の役割や虐待防止等について学ぶ。 | 児童虐待の種類や現状について調べる（60 分） |
| 5 | 保育の実施体系 | 保育施設の設置及び運営の基準や、支給認定、教育・保育給付の仕組みについて学ぶ。 | 子どもが保育を受けるまでの流れやその要件について調べる。（60 分） |
| 6 | 保育所・幼稚園・認定こども園 | 保育を支える法規や保育所・幼稚園・認定こども園の特性・目的などを理解する。 | 保育所と幼稚園、認定こども園の違いについて調べる。（60 分） |
| 7 | 子どもの発達の特性① | 乳児、1 歳以上 3 歳未満児それぞれの発達の特性を理解し、発達の連続性を踏まえた保育について学ぶ。 | 保育所保育指針の第 2 章「保育の内容」1.2 を読んでくる。（30 分） |
| 8 | 子どもの発達の特性② | 3 歳以上児の保育の基礎を理解するとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活用した保育の可視化について考える。 | 保育所保育指針の第 2 章「保育の内容」3 を読んでくる。（30 分） |
| 9 | 子どもの主体性を尊重した保育 | 乳幼児期において育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりに、主体的で対話的で深い学びとは何かを考える。 | 保育所保育指針総則の「幼児教育を行う施設において共有すべき事項」を読む。（30 分） |
| 10 | 保育方法 | 保育の目的や目標を達成するため方法や“個と集団”について学ぶ。（オンデマンド対応） | ニュースや新聞の記事など保育に関する記事について調べる。（30 分） |
| 11 | 保育の環境 | 保育における「環境」、「環境による保育」とは何かを理解する。 | 保育の 4 つの環境について、園内にどのようなものがあるか調べる。（60 分） |
| 12 | 保育と遊び | 乳幼児期の遊びの特徴や生活や遊びを通しての育ちについて考える。 | 子どもの頃にしていた遊びについて調べる。（30 分） |
| 13 | 保育のあゆみ（諸外国） | 保育の歴史や保育制度の変遷について学ぶ。（オンデマンド対応） | ニュースや新聞の記事など保育に関する記事について調べる。（30 分） |
| 14 | 保育のあゆみ（日本） | 保育の歴史や保育制度の変遷について学ぶ。 | どのような流れで保育の考え方が伝わっていったのかまとめる。（30 分） |
| 15 | 保育の現状と課題 | 現代の保育における課題とその展望について、グループワークを行い考える。 | 現代の保育における課題について考えをノートにまとめる。（30 分） |
| 16 | 試験 | 期末試験を行う。 | |

**単位の認定について**　最終試験 80%、受講姿勢・小テスト・ワークシート等 20%、計 60 点以上獲得で単位認定。
**教科書**　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
**参考書**　適宜紹介する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 保育実習Ⅰa（科目コード:TNNTC302） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 小川美由紀(実務家教員) | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**

※保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障害者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の保育士としての資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力を身につけることを目的とする。

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** 児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。
1.保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明することができる。
2.観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、子どもの発達について説明することができる。
3.既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。
4.保育の計画・観察・記録及び自己評価等の方法について身につけることができる。
5.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明することができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 |
|---|---|
| 保育所の役割と機能 | (1)保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり<br>(2)保育所保育指針に基づく保育の展開 |
| 子どもの理解 | (1)子どもの観察とその記録による理解<br>(2)子どもの発達過程の理解<br>(3)子どもへの援助や関わり |
| 保育内容・保育環境 | (1)保育の計画に基づく保育内容<br>(2)子どもの発達過程に応じた保育内容<br>(3)子どもの生活や遊びと保育環境<br>(4)子どもの健康と安全 |
| 保育の計画・観察・記録 | (1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解<br>(2)記録に基づく省察・自己評価 |
| 専門職としての保育士の役割と職業倫理 | (1)保育士の業務内容<br>(2)職員間の役割分担や連携・協働<br>(3)保育士の役割と職業倫理 |

**単位の認定について** 実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。

**教科書** 「実習の手引き」「実習記録簿」その他、講義中において別途紹介する。

**参考書** 講義中において別途紹介する。

**授業外学習について** 実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

**課題に対するフィードバックの方法** 実習指導の中で行う。

※保育士・幼稚園教諭等の勤務経験を持つ教員や、実習先の保育者が、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を指導するとともに、保育士の業務内容や職業倫理を指導する。

| 授業科目名 | 保育実習Ⅰb（科目コード:TNNTC303） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 樋口成樹 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**

※保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障害者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の「保育士取得」に対する保育士の資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力をもたせたい。

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ○ | Ⅱ①○ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ |

**到達目標：** 児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。
1.保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明することができる。
2.観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深め、子どもの発達について説明することができる。
3.既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。
4.保育の計画・観察・記録及び自己評価等の方法について身につけることができる。
5.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明することができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 |
|---|---|
| 施設の役割と機能 | (1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり<br>(2)施設の役割と機能 |
| 子どもの理解 | (1)子どもの観察とその記録<br>(2)個々の状態に応じた援助や関わり |
| 施設における子どもの生活と環境 | (1)計画に基づく活動や援助<br>(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応<br>(3)子どもの活動と環境<br>(4)健康管理、安全対策の理解 |
| 計画と記録 | (1)支援計画の理解と活用<br>(2)記録に基づく省察・自己評価 |
| 専門職としての保育士の役割と職業倫理 | (1)保育士の業務内容<br>(2)職員間の役割分担や連携<br>(3)保育士の役割と職業倫理 |

**単位の認定について** 実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。

**教科書** 講義中において別途紹介する。

**参考書**

**授業外学習について** 実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

**課題に対するフィードバックの方法** 実習指導の中で行う。

※福祉施設において児童指導員の勤務経験を持つ教員や、実習先における福祉施設指導員が、施設における子どもの保育及び保護者への支援について総合的に指導する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。

※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（1.3.4）を取り入れます

| 授業科目名 | 保育実習Ⅱ （科目コード:TNNTC304） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 小川美由紀(実務家教員) | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障害者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の保育士としての資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力を身につけることを目的とする。

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**自らの実践を通して具体的に学びながら、保育所の役割や機能、保育の計画―実践―記録と省察について、実際に体験しながら理解を深めることができる。

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深め、説明することができる。
2. 子どもとの観察や関わりの視点を明確にし、保育の理解を深めることができる。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解することができる。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、取り組みを通して身につけることができる。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
6. 実習における自己の課題を明確化することができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 |
|---|---|
| 保育所の役割や機能の具体的展開 | (1)養護と教育が一体となって行われる保育<br>(2)保育所の社会的役割と責任 |
| 観察に基づく保育の理解 | (1)子どもの心身の状態や活動の観察<br>(2)保育士等の援助や関わり<br>(3)保育所の生活の流れや展開の把握 |
| 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 | (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育<br>(2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援<br>(3)関係機関や地域社会との連携・協働 |
| 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 | (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解<br>(2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価 |
| 保育士の業務と職業倫理 | (1)多様な保育の展開と保育士の業務<br>(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理 |
| 自己の課題の明確化 | 自らの実践を振り返り、反省会での指導内容を受け止めながら課題を整理し、保育士を目指す自己の課題を明確化する。 |

**単位の認定について**　実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。

**教科書**　「実習の手引き」「実習記録簿」その他、講義中において別途紹介する。

**参考書**　講義中において別途紹介する。

**授業外学習について**　実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

**課題に対するフィードバックの方法**　実習指導の中で行う。

※保育士・幼稚園教諭等の勤務経験を持つ教員や、実習先の保育者が、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を指導するとともに、保育士の業務内容や職業倫理を指導する。

| 授業科目名 | 保育実習Ⅲ （科目コード:TNNTC305） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 樋口成樹 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**

保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障害者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の「保育士取得」に対する保育士の資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力をもたせたい。

1.既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童養護施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2.家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する
4.実習における自己の課題を理解する

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**

児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。

1.既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童養護施設等（保育所以外）の役割や機能について説明することができる。
2.家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につけることができる。
3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて身につけることができる。
4.実習における自己の課題を明確にすることができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 |
|---|---|
| 児童福祉施設等の役割と機能 | (1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり<br>(2)施設の役割と機能 |
| 施設における支援の実際 | (1)受容し、共感する態度<br>(2)個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズ把握と子ども理解<br>(3)個別支援計画の作成と実践<br>(4)子ども(利用者)の家族への支援と対応<br>(5)各施設における多様な専門職との連携・協働<br>(6)地域社会との連携・協働 |
| 保育士の多様な業務と職業倫理 | (1)保育士の業務内容<br>(2)職員間の役割分担や連携<br>(3)保育士の役割と職業倫理 |
| 保育士としての自己課題の明確化 | (1)記録に基づく省察・自己評価 |

**単位の認定について** 実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）

**教科書** 講義中において別途紹介する。

**参考書**

**授業外学習について** 実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

**課題に対するフィードバックの方法** 実習指導の中で行う。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。

※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（1.3.4）を取り入れます

| 授業科目名 | 保育実習指導Ⅰ（科目コード:TNNTC306） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 小川美由紀(実務家教員)　星﨑明里<br>後藤祐子　久松尚美　樋口成樹　小澤拓大　髙妻弘子(実務家教員)　小澤真美子　伊東朋子　髙妻瑠弥乃<br>松田昭憲　南中道隆　山本優子　中川志保（実務家教員） | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年･2 年 | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障害者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の「保育士取得」に対する保育士の資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力をもたせたい。そこで、保育実習にあたっての事前・事後指導として「保育実習指導Ⅰ」を実施する。これは保育実習Ⅰa 及び保育実習Ⅰb にあたっての事前・事後指導として、学内における実習指導を保育実習に併せて行うものである。

1.保育実習の意義・目的を理解する。
2.実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3.実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4.実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。

1.保育実習の意義･目的を説明することができる。
2.実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
3.実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができる。
4.実習の計画･実践･観察･記録･評価の方法を身につけることができる。
5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 |
|---|---|
| 保育実習の意義 | (1)実習の目的<br>(2)実習の概要 |
| 実習の内容と課題の明確化 | (1)実習の内容<br>(2)実習の課題 |
| 実習に際しての留意事項 | (1)子どもの人権と最善の利益の考慮<br>(2)プライバシーの保護と守秘義務<br>(3)実習生としての心構え |
| 実習の計画と記録 | (1)実習における計画と実践<br>(2)実習における観察。記録及び評価 |
| 事後指導における実習の総括と課題の明確化 | (1)実習の総括と自己評価<br>(2)課題の明確化 |

※毎時の具体的な内容については、実習指導計画を参照

**単位の認定について**　実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）

**教科書**　実習の手引き

**参考書**　講義中において別途紹介する。

**授業外学習について**　実習に必要な知識の調べ学習や実習に向けての準備（実習の課題の明確化）、指導者からの指導を受けての学習は実習期間とその前後を通して行う。

**課題に対するフィードバックの方法**　実習指導の中で行う。

※幼稚園教諭や保育士としての勤務経験を持つ教員や、幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設に勤務している外部講師が、講義・演習形式にて実施し、実習に対する心構えや留意事項を踏まえながら、円滑な保育実習が行えるよう指導する。

| 授業科目名 | 保育実習指導Ⅱ （科目コード:TNNTC307） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 小川美由紀(実務家教員)　星﨑明里<br>後藤祐子　久松尚美　樋口成樹　小澤拓大　髙妻弘子(実務家教員)　小澤真美子　伊東朋子　髙妻瑠弥乃<br>松田昭憲　南中道隆　山本優子　中川志保(実務家教員) | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**保育実習指導Ⅱでは、保育実習Ⅰa(保育所)で気づいた自己の課題及び既習の教科目の内容をもとに、新たな目標を設定し、総合的に保育をとらえる意識をもって保育実習Ⅱに臨み、実習の総括と課題の明確化を行うことを目的とする。

1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**保育実習Ⅰaで気づいた自己の課題及び既習の教科目の内容をもとに、新たな目標を設定し総合的に保育をとらえる意識をもって保育実習Ⅱに臨むことができる。また、保育実習Ⅱ終了後、実習の総括と自己評価を通して、今後の課題を明確にすることができる。

1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解することができる。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できる。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解を深めることができる。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 |
|---|---|
| 保育実習による総合的な学び | (1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解<br>(2)子どもの保育と保護者支援 |
| 保育の実践力の育成 | (1)子ども(利用者)の状況に応じた適切な関わり<br>(2)保育の知識・技術を活かした保育実践 |
| 計画と観察、記録、自己評価 | (1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践<br>(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 |
| 保育士の専門性と職業倫理 | 「全国保育士会倫理綱領」などを参照し、実習中に保育士の言動を観察したり、自ら体験したりする中で、保育士の職業倫理の意義を考察できるようにする。 |
| 事後指導における実習の総括と評価 | (1)実習の総括と自己評価<br>(2)課題の明確化 |

※毎時の具体的な内容については、実習指導計画を参照

**単位の認定について**　保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する。）
**教科書**　実習の手引き
**参考書**　講義中において別途紹介する。
**授業外学習について**　実習に必要な知識の調べ学習や実習に向けての準備（実習の課題の明確化）、指導者からの指導を受けての学習は実習期間とその前後を通して行う。
**課題に対するフィードバックの方法**　実習指導の中で行う。

※幼稚園教諭や保育士としての勤務経験を持つ教員や、幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設に勤務している外部講師が、講義・演習形式にて実施し、実習に対する心構えや留意事項を踏まえながら、円滑な保育実習が行えるよう指導する。

| 授業科目名 | 保育者論 （科目コード:TNNTC109） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 大坪祥子　　中川志保 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**近年、子どもや家庭を取り巻く環境の変化や保護者の就労状況等の多様化などにより、保育現場においては業務量の拡大や業務内容の多様化などがもたらされている。そこで保育者が子どもとのかかわりの中で大切にすべきことや、保育の計画について学ぶ。また同僚、保護者、地域の関係機関との連携や子育て支援など、役割を果たす上で必要な知識や、多様な専門性を持つ人々との協働などについて学ぶ。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：**保育者の役割や保育者に必要な倫理や専門性について理解する。また子どもの健康や安全を守るための環境や体制について理解する。子育て支援の方法や考え方を理解する。保育者の資質向上の重要性と組織的な取り組みについて理解する。タブレット端末を利用した双方向型授業を展開する。

**授　業　計　画　表**

| 回 | トピック名 | 概　　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 「保育者論」を学ぶ意義について学ぶ。 | 保育者論でどのようなことを学ぶか、シラバスを見ておく。(30 分) |
| 2 | 保育者の職務内容 | 保育所における保育士の1日及び1年の流れから具体的な職務内容について学ぶ。 | 保育に関する仕事や保育以外の仕事について調べる。(30 分) |
| 3 | 保育者の役割と倫理（子どもの人権） | 保育者にはどのような役割があるのか、また保育者に必要な倫理観とは何かを学ぶ。 | 全国保育士会倫理綱領を読んで、プリントを仕上げる。(30 分) |
| 4 | 保育士の制度的位置づけ | 保育士の定義や必要な資格や要件、また告示化されたことで明確になった責務について学ぶ。 | 児童福祉法における保育士の定義について調べる。(30 分) |
| 5 | 保育所保育の特性 | 養護と教育が一体となって展開される保育所保育の特性について学ぶ。 | 保育所で行われている「養護」についてどのような活動があるか調べる。(60 分) |
| 6 | 保育士の資質・能力 | 保育士に求められる資質や能力にはどのようなものがあるのかについて、グループワークを行い考える。 | 保育士に求められる資質や能力についてどのようなものがあるか調べる。(60 分) |
| 7 | 保育士の専門性 | 保育所の役割や機能が適切に発揮されるために必要な専門的な知識、技術について、グループワークを行い考える。 | 保育所保育指針の第1章「総則」を読んでおく。(30 分) |
| 8 | 保育の計画・全体的な計画 | 保育の計画、活動、評価、改善など保育の一連の流れを理解し、全体的な計画との関連について学ぶ。 | 保育所保育指針の第 1 章「総則」3.4 を読んでおく。(30 分) |
| 9 | 保育の展開と自己評価 | 自己評価、組織としての評価を通して改善され保育の質が向上していく仕組みを理解し、それに必要な記録や評価について学ぶ。<br>(ZOOM での遠隔授業対応回) | 保育所保育の取り組みのプリントを仕上げる。(30 分) |
| 10 | 健康及び安全 | 子どもの健康・安全を守るための必要な知識や体制について学ぶ。(ZOOM での遠隔授業対応回) | 登園時の子どもの健康状態の把握の視点について考える。(60 分) |
| 11 | 保育と子育て支援 | 子育て支援の在り方について学ぶ。また信用失墜行為や秘密保持 | 保護者が保育者に対して相談する内容についてどのようなものがあるか調べる。(60 分) |
| 12 | 保育者の連携・協働 | 保育所における職員間の連携・協働について学ぶ。 | 保育所内の専門職とその役割について調べる。(60 分) |
| 13 | 保護者及び地域社会との協働 | 保護者との協働や地域の専門職員や専門機関との連携の考え方や方法について学ぶ。 | 地域にどのような子育て支援に関する機関があるか調べる。(60 分) |
| 14 | 専門性の発達 | 保育の専門家として保育指導を高めて行くため取り組みについて学ぶ。 | 保育指導の事例プリントを仕上げる。(30 分) |
| 15 | 職員の資質向上 | キャリア形成の意義とそのために必要な組織としてあるいは個人としての取り組みについて学ぶ。 | キャリアアップのための国の取組について調べる。(30 分) |
| 16 | 期末試験 | 期末試験を行う。 | |

**単位の認定について**　最終試験 80%、授業への取り組み・受講姿勢・ワークシート等で 20%、計 60 点以上獲得で単位認定。

**教科書**　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

**参考書**　適宜紹介する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間あて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 保育内容「環境」の指導法 （科目コード:TNEDU207/TNNTC207） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目） | | | | | | |
| 担当者 | 城戸佐智子 skido@miu..ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**保育内容「環境」の指導法では、子どもを取り巻く「環境」とは何か、その意味を理解する。また、具体的な保育の場面や子どもの姿を想定し、環境へのかかわり方や保育者の支援の在り方について考え、主体的活動を引き出す環境やそれを構成する力を身に付けることを目標とする。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**①子どもを取り巻く様々な環境（人、物等）について理解できたか。
②子どもの興味・関心を引き出す環境構成の大切さについて理解できたか。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>領域「環境」のねらいと内容（1） | 授業の内容と評価等について知る。<br>「乳児保育に関するねらい及び内容」及び「1 歳以上 3 歳未満児の保育に関するねらい及び内容」等について理解する。 | 保育所保育指針を読み、どのように変化していくか書いてくる。（30 分） |
| 2 | 領域「環境」のねらいと内容（2） | 「3 歳以上児の保育に関するねらい及び内容」等について理解する。小学校における学びとのつながりについても理解する。 | 保育所保育指針を読み、小学校とどのようにつながるか考える。（30 分） |
| 3 | 指導案作成（1） | 子どもの姿からどのようなねらいで、どのような計画にしていくのかを考える。 | 指導案作成に必要な参考文献を考える。（30 分） |
| 4 | 指導案作成（2） | 活動の流れや使用する教材について研究する。 | 教材研究に必要なものを考える。（60 分） |
| 5 | 指導案作成（3） | ねらいと子どもの活動する姿、環境構成を考えながら指導案を書く。 | 子どもの興味・関心を引き出す環境構成について考え、必要な参考文献を持参する。（30 分） |
| 6 | 指導案作成（4） | 子どもの活動する姿や発達にあった配慮であるか、また子どもの動線や活動内容にあった環境構成であるかを考えながら指導案を仕上げる。 | これまで指導を受けた書き方をもとに指導案を完成させる。（30 分） |
| 7 | 模擬保育からの改善及びまとめ作成 | 作成した指導案をもとに実際に使用する用具や材料を使って保育したイメージを持って振り返る。（ICT の活用） | パワーポイントにて発表資料を作成する。（30 分） |
| 8 | 模擬保育報告会（1） | 模擬保育を振り返り、相互に質問し、ねらい、内容、環境構成などを自己評価し、改善につなげる。 | 発表の練習をする。また実際使用するものを準備する。司会など役割の準備をする。（30 分） |
| 9 | 模擬保育報告会（2） | 模擬保育を振り返り、相互に質問し、ねらい、内容、環境構成などを自己評価し、改善につなげる。 | 発表の練習をする。また実際使用するものを準備する。司会など役割の準備をする。（30 分） |
| 10 | 模擬保育報告会（3） | 模擬保育を振り返り、相互に質問し、ねらい、内容、環境構成などを自己評価し、改善につなげる。 | 発表の練習をする。また実際使用するものを準備する。司会など役割の準備をする。（30 分） |
| 11 | 領域「環境」の指導<br>「人的環境」 | 子どもを取り巻く人々の存在とかかわりを通して、子どもがどのように成長していくかについて理解する。 | 子どもを取り巻く人的環境について書く。（30 分） |
| 12 | 領域「環境」の指導<br>「物的環境」① | 子ども自身が興味を示し、手に取り、かかわりが生まれるには、どのようにしたらよいかについて事例を通して理解する。 | 子どもを取り巻く物的環境について書く。（30 分） |
| 13 | 領域「環境」の指導<br>「物的環境」② | 子ども自身が興味を示し、手に取り、かかわりが生まれるには、どのようにしたらよいかについて事例を通して理解する。 | 事例プリントをまとめる。（30 分） |
| 14 | 領域「環境」の指導<br>「社会的環境」 | 子どもの育ちを支える社会的環境について事例を通して理解する。 | 園の地域における役割についてまとめる。（60 分） |
| 15 | 領域「環境」の指導<br>「自然環境」 | 子ども自らが自然にかかわり、身近なものとして感じられる仕組みについて、事例を通して理解する。 | 子どもを取り巻く自然環境について書いてくる。（30 分） |

**単位の認定について** 筆記試験 50%、ワークシート等 30%、教材研究等の実際、研究会発表 20%、合計 60 点以上で単位認定。
**教科書・参考書** 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
**授業外学習について** 予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 保育内容「健康」の指導法 （科目コード:TNEDU205／TNNTC205） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 中川志保 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**
子どもの発達を領域「健康」の観点からとらえ、自ら健康で安全な生活を作り出す資質的能力が主体的・対話的体験を通して育まれることを理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**
・領域「健康」におけるねらい及び内容を理解している。
・幼児の健康の育ち（発育・発達）、問題点、対応等について理解ができている。
・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想すること（模擬保育）ができる。
・情報機器を活用した情報の収集と記録、指導案の作成、情報機器等を活用した保育構想ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション／健康の定義 | 健康の定義についてWHO憲章をもとに再考し、現代の子どもの健康を取り巻く状況について意見交換しながらその課題を考える。 | 自分自身の健康観や健康に関する問題意識を明確にするとともに、WHO憲章について調べる（30 分）。 |
| 2 | 幼稚園教育要領等の領域「健康」のねらい及び内容① | 3 歳未満児の領域「健康」のねらい及び内容はどのような子どもの姿を目指しているのか意見交換しながら理解する。 | 3 歳未満児の領域「健康」に関する教育要領、保育指針等を読み十分理解する（30 分）。 |
| 3 | 領域「健康」のねらい及び内容② | 3 歳以上児の領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点について、具体的な指導場面をイメージしやすい映像等を参考にしながら理解する。 | 3 歳以上児の領域「健康」に関する教育要領、保育指針等を読み十分理解する（30 分）。 |
| 4 | 領域「健康」のねらい及び内容③ | 領域「健康」のねらい及び内容に関連した事例を実習体験の中から振り返り、子どもが経験し身に付けていくことをより深く理解する。 | 実習中に行われた「健康」に関する指導の際の子どもの姿、その後の子どもの変化を思い出し整理する（60 分）。 |
| 5 | 健康異変と環境<br>子どもの生活習慣の現状と課題 | 乳幼児の健康異変と子どもを取り巻く環境状況について調べ、問題点・生活リズム・睡眠・排泄・活動・食事などその対策や保育者の役割について考える。 | 今日の子どもの健康問題（家庭環境含む）にどのようなことがあるか、他科目の学びを踏まえて整理する（60 分）。 |
| 6 | 幼児の発育・発達<br>基本的生活習慣の理解と形成 | 幼児の発育の概念や特徴、体・心・社会性・脳の発達について学び、子どもの実態と関連付けて理解する。基本的生活習慣の形成におけるポイントを考察し、保育士としての対応をグループで協議しながら視野を広げる。 | 体・心・社会性・脳の発達の特徴、基本的生活習慣の形成で考えられる問題点について、ICTなどで調べまとめておく（60 分）。 |
| 7 | 子どもの健康管理<br>感染症の対策と指導 | 子どもの健康状態把握の仕方や日々の健康観察の大切さ、集団感染しやすい感染症や子どもに多い疾病と生活の中での指導や対策について具体的な場面をとらえながら理解する。 | 子どもの健康状態把握の仕方や子どもの感染症について、実習経験、図書館や情報機器を活用しながら予習、考察する（60 分）。 |
| 8 | 食育について | 実習体験の振り返りから保育者の関わりについて具体的場面をとらえ理解し、食育を通して育みたい力について子どもの心情、認識、思考及び動き等を踏まえ発達を見通した計画・実践について、映像等により学ぶ。 | 子どもの具体的な食育の方法について実習経験を参考にしながら、自分なりのアイデアを考える（60 分）。 |
| 9 | 身体活動の現状と課題、運動遊びの効果 | 身体活動の現状と課題、運動遊びの効果を理解し、保育者の関わりについて具体的な場面をとらえて考察する。さくらんぼリズムの紹介をおこなう。 | 子どもの運動遊びの援助方法について、これまでの授業や実習経験を踏まえて考察する（30 分）。 |
| 10 | 室内・室外遊びの援助・配慮 | 子どもの発達の特性を踏まえた室内遊び・戸外遊びの援助について考え、他の領域と関連性を持ち総合的に遊びが展開することを理解する。 | 室内・室外の遊びにはどんなものがあるか考え、それに対する援助や発展をまとめてくる。（60 分） |
| 11 | 指導案作成 | 対象児の発達に沿った指導の留意点と保育者の役割を具体的な場面に基づいて考え指導案を作成し、環境構成や準備物など模擬保育に向けての準備をする。 | 子どもの生活習慣確立や運動遊びなど具体的な保育活動について、自分なりのアイデアを考える（60 分）。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 12 | 模擬保育及び研究会① | 模擬保育指導案の発表を通して、子ども、保育者の立場から意見交換し、良かった点や疑問点など、研究会をおこなう中で、次に活かすことの意味を理解する。 | 模擬保育指導案発表に必要な用具等の準備とシミュレーションをする(60 分)。 |
| 13 | 模擬保育及び研究会② | 模擬保育指導案の発表を通して、子ども、保育者の立場から意見交換し、良かった点や疑問点など、研究会をおこなう中で、次に活かすことの意味を理解する。 | 模擬保育指導案発表に必要な用具等の準備とシミュレーションをする(60 分)。 |
| 14 | 安全管理について | 事故の発生場所や安全管理について学び、危険に対する判断力と行動力を身につける重要性を理解する。 | 子どもの事故への対応と予防について「健康」に関連する保育が果たせる役割について考える(60 分)。 |
| 15 | 小学校とのつながり<br>まとめ | 小学校とのつながりについてカリキュラムや映像等から、幼児が経験し身に付けていく内容とのつながりを理解する。 今まで学んできたことの復習とまとめ。 | 10 の姿および小学校教育に対して「健康」に関連する保育が果たせる役割について考える(60 分)。 |
| 16 | 定期試験 | 定期試験をおこなう。 | 全講義を振り返り、内容をまとめておく。 |

**単位の認定について**　定期試験 70%、課題提出、授業準備、取組 10%　指導案、発表 20%　合計 60 点以上で単位認定
**教科書・参考書**　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)
「実践例から学びを深める健康指導法」(わかば社)
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間あて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する
**その他**　ＩＣＴを活用した授業内容アンケートを実施し、授業内でフィードバックする。
※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れておこないます。

| 授業科目名 | 保育内容「言葉」の指導法（科目コード:TNEDU208／TNNTC208） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 髙妻弘子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**幼児期の言葉をどのように育むか、「言葉」の領域におけるねらいや内容を踏まえ、言葉の発達や言語獲得による心の成長等と関連付けて理解する。また、言葉を育む保育者の役割とは何か、具体的な活動場面を想定した実践や指導案作成、模擬保育のなかで振り返りをおこない、個に応じた援助のあり方や評価の観点、環境構成の意味や保育を改善する視点を身に付ける。さらに、配慮の必要な子どもの特性に応じた関りや情報機器、教材を活用した保育方法について学びを深める。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | ③ |

**到達目標：** ①領域「言葉」のねらい及び内容を幼児の発達や学びの過程と関連付け、知識理解に繋げる
②指導案作成や模擬保育等を通して、保育の連続性や評価の考え方、保育改善の視点を身につける
③幼児の特性に応じた関わり、情報機器や教材を活用した保育のあり方等について学びを深める

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 乳幼児と言葉 | 言葉とは何か。人にとっての言葉、乳幼児にとっての言葉、言葉がなかったら…等、言葉の存在や5領域に「言葉」が含まれている意味について考察する | 言葉の獲得とはどのような手段を得ていくことなのか、言葉の存在や5領域に「言葉」が含まれている意味について考察する（30分） |
| 2 | 領域「言葉」のねらいと内容 | 領域「言葉」のねらいと内容について乳幼児の発達過程や実態と結びつけ、保育活動の実践例等を参考にしながら視聴覚教材を通して理解する | 領域「言葉」に書かれている内容を読んでおく。（60分） |
| 3 | 言葉のめばえと乳児期の保育 | 初語が出現する1歳頃までの発達や、その基盤には信頼関係が不可欠なこと、非言語的なコミュニケーションの重要性等について映像資料や事例から理解する | 1歳頃までの言葉獲得までの発達過程について事前に調べ、まとめておく。（各30分） |
| 4 | 言葉を育む保育者の関わり（1） | 3歳頃までの語彙の拡大と話し言葉の発達過程を知り、言葉を遊びの中でどのように育み、関わり、援助していくのか、そのあり方や保育について考える | 3歳頃までの言葉の発達過程を調べ、語彙を広げる遊びや関わりについてまとめる（60分） |
| 5 | 言葉を育む保育者の関わり（2） | 3歳以上児の言葉の発達過程を映像や事例で具体的に理解し、幼児が相互に思いを伝え合うための援助のあり方や関わりについて考える | 3歳以上児の言葉の発達過程を調べ、思いを伝え合うためにどのような関わりが必要か考察する（30分） |
| 6 | 言葉の感覚やイメージを育む保育 | 言葉の感覚やイメージを育む保育にはどんな活動があるかグループ協議し、実演する中で言葉あそびの面白さや意義について理解する | これまで体験した保育現場の具体的な子どもの姿に基づき、言葉を広げる教材、遊びについてまとめる。（各60分） |
| 7 | 絵本を用いた保育の展開と保育指導案 | 絵本を用いてどのような保育展開ができるかグループ協議し、発表を通して多角的視点から保育を構想する力をつける | 絵本からどのような保育活動が生まれるか、子どもの姿をイメージしながらウェヴ作成をする（30分） |
| 8 | 保育指導案の作成 | 子どもの姿を仮定し、現在の姿から活動の流れにそった環境構成や援助・配慮の在り方を多角的にとらえながら保育指導案を作成する。 | 保育指導案作成に向けておおまかに構想をまとめておく（60分） |
| 9 | 保育指導案の見直しと模擬保育準備 | 前回計画した保育指導案を見直し、加筆修正を加えながら適切な教材準備をおこなう。また、模擬保育に向けての役割分担をする | 保育の中にＩＣＴを取り入れる方法を検討し、具体的にまとめる（60分） |
| 10 | 模擬保育①<br>保育の実際と保育者の役割 | グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行い、振り返りのなかで幼児の実態に合った保育計画や保育者の役割に気付く | 模擬保育に対するシミュレーションや教材研究を行ない、事後の振り返りを次の実践へとつなげる。（90分） |
| 11 | 模擬保育②<br>保育の実際と援助・配慮のあり方 | グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行い、振り返りのなかで幼児の実態に合った援助・配慮のあり方、保育を改善する視点に気付く | 模擬保育に対するシミュレーションや教材研究を行ない、事後の振り返りを次の実践へとつなげる。（90分） |
| 12 | 模擬保育③<br>保育の実際と評価のあり方 | グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行い臨機応変な対応や援助のあり方、評価の観点、環境構成の意味や保育を改善する視点に気付 | 模擬保育に対するシミュレーションや教材研究を行ない、事後の振り返りを次の実践へとつなげる。（90分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | く | |
| 13 | 読み・書き言葉と記号 | 遊びや生活の中で文字や記号の有用性、必要性に気付き、読み・書き言葉への興味や関心を育てる環境の構成や保育活動など、視聴覚教材や事例を通して理解する | 読み書きへの興味・関心を高める保育活動についてまとめ、グループ内での演習に生かす。（各 60 分） |
| 14 | 10の姿と小学校との連携 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と小学校での学習のつながりについて考察する。また、ＩＣＴを使った保育事例を通して活用法を習得する | 10 の姿の見直しをする。<br>ＩＣＴを使った保育のメリット、デメリットについてまとめる（60 分） |
| 15 | 言葉の面で特別なニーズをもつ子ども | 言葉の面で配慮が必要とされる子どもの特徴や心情を理解し、事例を通して教師の援助のあり方を具体的に学ぶ | 言葉の遅れや障がいに気づくための視点について考えてみる。（60 分） |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　※試験結果（60%）発表（30%）レポート、授業外学習、課題等（20%）を総合して評価する。
**教科書**　※【シリーズ知のゆりかご】子どもの姿からはじめる領域・言葉
**参考書**　※「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
その他適宜資料配付
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 保育内容「人間関係」の指導法 （科目コード:TNEDU212／TNNTC203） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目 | 教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 井上浩義（メールアドレス:h-inoue@mgjc.ac.jp） | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**乳幼児期における「基礎的な人とかかわる力」についての基本的な考え方や意義について理解する。また、領域「人間関係」のねらい・内容や子どもの発達について理解するとともに、具体的な場面を想定した指導・援助のあり方を実践的に身に付ける。保育指導案の作成方法を理解し、発達に応じた指導案が作成できる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**乳幼児における「人とかかわる力」について基本的な考え方や意義を理解し、「人間関係」の領域におけるねらいや内容、子どもの社会性の発達やコミュニケーション能力の発達について、実践例を通して理解する。さらに、具体的な場面を想定した援助方法等のあり方を配慮した保育指導案を作成する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 領域「人間関係」を学ぶ意義について理解を深める。 | 保育所について知っていることをプリントにまとめる。(30 分) |
| 2 | 領域「人間関係」のねらいと内容(1) | 幼稚園教育要領等における3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容について、理解する。 | 養護に関わるねらい及び内容についての理解を深め、まとめる。(30 分) |
| 3 | 領域「人間関係」のねらいと内容(2) | 幼稚園教育要領等における3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容について、理解する。また小学校における学びとの関連についても考える。 | 教育に関わるねらい及び内容についての理解を深めまとめる。(30 分) |
| 4 | 保育指導案の作成 | 保育指導案の形式を理解し、「人とのかかわり」に関する具体的な保育実践例により、指導場面と指導案の関係を理解する。 | 保育指導案について理解し、具体的な実践例を調べ、模擬保育の指導案を考える。(90 分) |
| 5 | 保育指導案の実践(模擬保育) | 作成した指導案の実践(模擬保育)を通して、保育指導案には必要な記述がなされていることを理解し、言葉を選んで記述することの大切さを理解する。 | 指導案の実践(模擬保育)に必要な準備を行う。(60 分) |
| 6 | 乳幼児期の人間関係の発達(1) | 0･1･2 歳児の発達の特性(自我、愛着、安全基地)について事例を通して理解する。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 7 | 乳幼児期の人間関係の発達(2) | 3 歳児の発達の特性(居場所、共感)について事例を通して理解する。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 8 | 乳幼児期の人間関係の発達(3) | 4 歳児の発達の特性(自己主張、自己抑制、いざこざ)について事例を通して理解する。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 9 | 乳幼児期の人間関係の発達(4) | 5歳児の発達の特性(共同性の育ち)について事例を通して理解する。 | 子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分) |
| 10 | 子どもと保育者の関わり | 保育者の援助とは何か、人とかかわる力を育む保育者の役割と、そこで活用できる情報機器をはじめとした教材についてディスカッションを通して学ぶ。 | 子どもと保育者のかかわりを育む教材について調べる。(60 分) |
| 11 | 遊びの中の人とのかかわり | 遊びの中で生じる子ども同士のさまざまな関係について学ぶ。また、視聴覚教材をはじめとした友達とのかかわりを深める教材やその活用について研究する。 | 子ども同士のかかわりを育む教材について調べる。(60 分) |
| 12 | 生活を通して育つ人とのかかわり | 子どもが生活を通して、どのような人間関係を形成していくか、またその際に活用できる教材について、ディスカッションを通して学ぶ。 | 地域とのかかわりを育む保育行事について調べる。(60 分) |
| 13 | 保護者とのかかわり | 保育者の専門性を生かし、保護者との良好な関係性を構築する大切さについて、事例のディスカッションを通して学ぶ。 | 保護者との関係性構築に関する事例を読み、考えをまとめる。(30 分) |
| 14 | 保育者同士のかかわり | 保育者が共通理解の下で協働して保育を進める大切さについて、保育カンファレンス等の事例を通して理解する。 | 保育者同士の連携に関する事例を読み、考えをまとめる。(30 分) |
| 15 | まとめ | 領域「人間関係」のねらいと内容が十分に実現されるよう、教育・保育することが「人とかかわる力」を養うことの礎を培うことについて自分の言葉でまとめを行う。 | 「人とかかわる力」を養う礎を培うことについてまとめる。(45 分) |

**単位の認定について**　授業内での演習・グループワークへの参加 30%、レポート等 20%、期末試験 50%を総合して評価する。
**教科書・参考書**　『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』その他適宜紹介する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、準備すること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェック後に解説する。
**※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。**

| 授業科目名 | 保育内容「表現」の指導法Ⅰ （科目コード:TNEDU215／TNNTC206） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目 | 教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 佐々木由喜子　　後藤祐子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**子どもの発達に合わせた様々な音楽表現遊びを学生自身が体験し、領域「表現」のねらい及び内容についての理解を深める。また、子どもの音楽遊びの実践を行うことにより、具体的な指導場面の経験を通して子どもの主体的な表現を促す手法を身につける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**・領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが体験し身につけていく内容と指導・援助の留意点を理解している。
・子どもの発達の過程を理解し、子どもの姿に合った音楽表現遊びを実践することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 領域「表現」のねらい及び内容について理解する。（録画での遠隔授業対応回） | 領域「表現」に書かれている内容を読んでくる。 |
| 2 | 音や音楽と動きの遊び(1) | 音や音楽に合わせて動くことの意味を考え、幼児の表現について音遊びの体験を通して考える。 | 幼児の表現遊びにどのようなものがあるのかを調べてくる。(60 分) |
| 3 | 音や音楽と動きの遊び(2) | 子どもの動きとピアノ伴奏について身体表現遊びの実践を通して学ぶ。 | 表現の手がかりとなるピアノ伴奏譜を練習する。(60 分) |
| 4 | 音や音楽と動きの遊び(3) | 楽器の音と子どもの動きについて考え、発達段階に応じた使用方法を学ぶ。 | 発達段階について調べ、年齢ごとにまとめる。(40 分) |
| 5 | 音や音楽と動きの遊び(4) | 多様な素材・道具を使った遊びの体験を通して、子どもの遊びと音楽のつながりについて考える。 | 素材・道具を使った遊びの展開をグループで考え練習する。(60 分) |
| 6 | 音や音楽と動きの遊び(5) | 音楽を聴いて描く体験を通して多様な表現方法について知る。 | 幼児の表現に音楽がどのように活用されているのか調べてくる。(60分) |
| 7 | 音や音楽と動きの遊び(6) | ノンバーバル・コミュニケーションを体験し、楽器の活用方法について知る。 | 打楽器の奏法、名称について調べる。(60 分) |
| 8 | 子どもの歌と楽器の遊び(1) | 多様な打楽器に触れ、打楽器基礎奏法を知る。また音や音楽と身体表現の繋がりについて理解する。 | 楽器を用いた動きと音の身体表現の遊びをグループで考え練習する。(60 分) |
| 9 | 子どもの歌と楽器の遊び(2) | 幼児の発達に応じた音楽遊びの体験を通して、子どもの遊びの企画を行う。 | 乳幼児の音遊びの意義について考えレポートにまとめる。(60 分) |
| 10 | 子どもの歌と楽器の遊び(3) | より豊かに歌を表現する方法を考え、楽器や道具を用いて表現する。 | 年齢や発達段階にふさわしい音楽について調べる。(60 分) |
| 11 | 子どもの歌と楽器の遊び(4) | ピアノやその他鍵盤楽器、打楽器の活用法を知り、幼児の表現遊びの展開を考える。 | 幼児の音遊びの実践の映像を観て感想をまとめる。(60 分) |
| 12 | 子どもの音楽遊びの実際(1) | 子どもの発達段階と表現のねらいをグループごとのディスカッションにより理解する。 | こどもの音楽遊びの資料などをもとに計画を立てる。(90 分) |
| 13 | 子どもの音楽遊びの実際(2) | 発達に合わせた音楽表現あそびの企画をグループで行い、音や音楽の使い方について吟味する。 | 計画案の内容にそって活動が展開できるように練習する。(90 分) |
| 14 | 子どもの音楽遊びの実際(3) | 企画した音楽表現あそびの実践練習を行い、グループワークを通してあそびの目的を明確にする。 | 計画案もとに音遊びの活動を仕上げる。(60 分) |
| 15 | 子どもの音楽遊びの実際(4) | 音楽表現あそびの実践をグループで行い、改善点に気づく。 | 幼児の発達と音楽表現についてまとめる。(60 分) |

**単位の認定について**　活動への参加状況(20%)　授業内での実技試験(60%)　毎時間の授業記録及び感想(20%)
**教科書・参考書**　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)
参考資料等は適宜配布する
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間あて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する。
※この授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れています。

| 授業科目名 | 保育内容「表現」の指導法Ⅱ （科目コード:TNEDU210／TNNTC210） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目 | 教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 後藤祐子　泰田久史 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後　授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**子どもが豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするためには乳幼児期における主体的・対話的体験が不可欠であることを理解し、子ども一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**評価指標：**領域「表現」のねらい及び内容を理解している。
乳幼児の身体表現活動及び造形表現活動の発達と特徴について理解している。
造形で用いる素材及び造形表現活動の特性を理解し、製作の表現遊びの具体的な保育を構想することができる。
身体表現活動で用いる教材および身体表現活動の特性を理解し、身体表現遊びの具体的な保育を構想することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 領域「表現」のねらい及び内容 | 造形・身体表現を行う幼児の映像から、その表現における幼児の気付きや思いを読み取ることを通して、幼稚園教育要領に示される領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達を理解するために必要な教師の視点について考える。（録画での遠隔授業対応回） | 領域「表現」に関する教育要領、保育指針等を読み十分理解する。（60 分） |
| 2 | 乳幼児の身体表現の特徴 | 模倣遊びの事例および実践を通して、幼児が身近にある植物や空、興味のある生き物の形や色や大きさに気付き、イメージを豊かにするための環境構成と言葉掛けについて考える。（録画での遠隔授業対応回） | 表現の手掛かりとなる、身の回りの自然、動物、機械、乗り物などをよく観察し、動きのデッサンをする。（60 分） |
| 3 | 身体表現の指導（表現遊び） | 音楽を活用した表現遊びの実践を通して、子どもが自分なりに表現する姿を導く言葉掛けや、より楽しめる遊びの工夫について考え、学生相互に共有する。（zoom での遠隔授業対応回） | 園で実践されている音楽を活用した身体表現遊びについて、情報機器を活用して調べる。（60 分） |
| 4 | 身体表現活動の教材 | 視聴覚教材などの ICT を活用し、幼児の身体表現活動の意欲を高めたり、幼児の様々な表現を引き出す教材の活用方法についての理解を深める。（zoom での遠隔授業対応回） | 保育における ICT の活用について図書館および情報機器を活用して調べる。（60 分） |
| 5 | 身体表現活動の発展 | グループにて絵本をテーマに身体表現遊びを工夫して実践する活動を通して、乳幼児の表現活動を様々な視点から考える機会を持つ。（zoomでの遠隔授業対応回） | 身体表現遊びに発展できそうな絵本を調べ、活動展開を考える。（60 分） |
| 6 | 身体表現活動の指導案 | 身体表現遊びをテーマとした表現活動指導について小グループで議論し、指導案を作成する。（zoom での遠隔授業対応回） | グループで事前に相談し、活動案について予め決める。（90 分） |
| 7 | 身体表現活動の模擬保育の実践① | 幼児の生活経験や発達に応じた身体表現の保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育を行う。 | 自分なりの身体表現活動の指導案を作成し、模擬保育に必要な用具等を準備する。（120 分） |
| 8 | 身体表現活動の模擬保育の実践② | 幼児の生活経験や発達に応じた身体表現の保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育を行い、グループワークを通して振り返りを行う。 | 模擬保育の振り返りを行い、乳幼児の豊かな表現を引き出すための指導についてレポートにまとめる。（60 分） |
| 9 | 幼児の造形活動の発達と特徴 | 幼児の造形活動の発達と特徴について具体的な作品を通して学ぶとともに、ふさわしい援助について考える。 | 配布資料や情報機器を活用して幼児の造形活動について調べる。（60 分） |
| 10 | 子どものおもちゃ作り（基礎） | 子どもの年齢別グループに分かれ、材料や用具を工夫しながら幼児の発達にふさわしいおもちゃを製作する。 | 年齢や発達段階にふさわしい製作物について調べ、材料を用意する。（90 分） |
| 11 | 子どものおもちゃ作り（応用） | 材料や用具を工夫しながら幼児の発達にふさわしいおもちゃを各自製作する。 | 基礎で製作した作品の反省をいかし、より幼児の発達段階にふさわしい内容を考え材料を準備する。（60 分） |
| 12 | 造形表現活動の指導案 | 幼児の姿をイメージしながら環境構成や援助のあり方を考え、指導案を作成する。 | 指導案の具体例について資料などをもとに計画を立てる。（90 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 造形表現活動の模擬保育の実践 | 作成した指導案をもとに保育者役と設定した年齢の子ども役に分かれ模擬保育と振り返りを行う。 | 指導案の内容にそって活動しやすいように教材を準備する。(90 分) |
| 14 | 造形表現活動の実践と援助 | 前回の反省をいかし、改善した指導案をもとに保育者役と設定した年齢の子ども役に分かれ模擬保育と振り返りを行う。 | 前回使用した指導案を改善し、仕上げる。(60 分) |
| 15 | 幼児造形の現状と小学校教育との関連 | 各地で行われている様々な幼児の造形の実践活動や小学校の図工の内容や活動を知り、自らの保育観に基づいた幼児造形について考える。 | 本や情報機器を活用して実践例を調べる。(60 分) |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　定期試験 60%、提出物 40%

**教科書・参考書**　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)
参考資料等は授業中に適宜配布する

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間あて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 保育内容総論 （科目コード:TNNTC101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 久松尚美　泰田久史(h-yasuda@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：** １．保育所保育指針における「保育の目標」、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。
４．保育の多様な展開について具体的に理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：** １．保育所保育指針における「保育の目標」、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連について説明できる。
２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できている。
３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷について説明できる。
４．子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解できている。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>保育の基本的な考え方 | 「保育内容総論」の内容及び学ぶ意義を理解する。保育の基本と保育者の役割について考える。 | 保育の基本と保育者の役割について、自分の考えをまとめる。(30 分) |
| 2 | 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解(1) | 養護について考え、「養護に関わるねらい及び内容」の概要を理解する。 | 発達段階と養護にかかわる「ねらい」や「内容」を踏まえ、「生命の保持」と「情緒の安定」を図るために保育者が行う援助やかかわりについてまとめる。(30 分) |
| 3 | 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解(2) | 教育について考え、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、指針解説等を用いてまとめる。(60 分) |
| 4 | 保育内容の歴史的変遷とその社会的背景 | 保育内容の歴史的変遷を理解し、保育者に求められる保育内容の基準について学ぶ。 | 保育の発展に寄与した歴史上の人物について調べ、概要をまとめる。(60 分) |
| 5 | 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方 | 保育所保育指針をもとに、乳幼児期の発達特性と各年齢における発達の過程、それに応じたふさわしい保育の内容や環境について理解する。 | これまで観察した子どもの様子、保育における環境について、体験をエピソードとしてまとめる。(30 分) |
| 6 | 養護及び教育が一体的に展開する保育 | 遊びを通して行われる養護と教育が一体となった保育について考える。 | 「養護」と「教育」について、指針解説等を用いてまとめる。(30 分) |
| 7 | 子どもの主体性を尊重する保育 | 子どもの主体性を尊重する保育とは何か、また保育者としてどのようなことに留意すればよいのか考える。 | これまでの子どもとの関わりのなかで、子どもの気持ちを尊重したいが、上手く対応できなかった事例について、エピソードをまとめる。(30 分) |
| 8 | 環境を通して行う保育 | 環境を通して行う保育とは何かを理解し、保育者の役割を考える。 | 「どのような環境を整えたらよいのか」、「どのようなことに留意して環境を整えるのか」について、書き出し整理をする。(60 分) |
| 9 | 生活や遊びによる総合的な保育 | 生活や遊びによる総合的な保育について考える。 | 子どもにとって、遊びとはどのような意味があるのか、その必要性についてまとめる。(30 分) |
| 10 | 個と集団の発達を踏まえた保育 | 子ども一人ひとりの育ちと、友だち同士との集団での育ちについて考える。 | 発達過程における、「個の発達」と「集団の発達」について、まとめる。(60 分) |
| 11 | 家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育 | 家庭、地域・関係する他機関、小学校との連携・接続を踏まえた保育の意義や方法について学ぶ。 | 家庭や地域、小学校等との連携において、どのようなことが保育者に求められているのか考え、まとめる。(30 分) |
| 12 | 幼児の理解と保育の理 | 幼児の発達的特徴や保育理念等、保育の発展に | 発表に向けての役割分担を行い、事 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 念 | 寄与した歴史的人物について、調べた内容をグループにて発表する(グループワーク・プレゼンテーション)。 | 前準備(発表資料作成・原稿作成)を整える。(60 分) |
| 13 | 保育の多様な展開(1) | 長時間保育の実施にあたっての配慮事項について理解する。 | 長時間保育における、子どもに対する配慮、保護者に対する支援として、考えられることをまとめる。(30 分) |
| 14 | 保育の多様な展開(2) | 特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育について考える。 | 配慮を要する子どもの保育及び多文化共生の保育について、自分の考えをまとめる。(30 分) |
| 15 | まとめ | 保育所保育指針、子どもの発達過程の概要、総合的に展開される保育について振り返り、保育における課題や自分の考えをまとめる。 | 現代の保育における課題について自分の考えをまとめる。(30 分) |
| 16 | 定期試験 | 期末試験を行う。 | |

**単位の認定について**　期末試験:50%、演習課題・レポート・演習への取組 50%から総合的に評価し、60 点以上を合格とする。
**教科書**　講義において別途紹介する。
**参考書**　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェックの後、必要に応じて個別にコメントを記載する。
また、全体に対してもフィードバックを行う。
※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて行う。

| 授業科目名 | 幼児教育相談 （科目コード:TNEDU225/TNNTC231） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 久松尚美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** 幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児を理解するための原理や対応の方法を学ぶ。さらに幼児の発達の状況に即しつつ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基本的知識）を修得することを目的とする。授業内ワークにおいては、ディスカッションやグループワークを取り入れ実施する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | ③◎ | |

**到達目標：** １．幼児の実態に即して、理解するための原理や対応の方法について説明できる。
２．支援（教育相談）を進める際に必要な基礎的知識を理解し、具体的な進め方やポイントについて説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>幼児教育相談の意義 | 子育てをめぐる現状と課題、幼児理解や教育相談の意義について考える。 | 幼児理解を基盤とした教育相談の意義と必要性について、自分の考えをまとめる。（30 分） |
| 2 | 幼児理解の意義と原理1 | 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解する。 | 子どもを理解する方法について、これまでの実習を振り返り、まとめる。（30 分） |
| 3 | 幼児理解の意義と原理2 | 幼児理解を深めるための保育者の基本的な態度について考える。 | 幼児理解を深めるための、保育者の姿勢や態度について、まとめる。（30 分） |
| 4 | 幼児理解の方法1 | 幼児理解を深めるための、保育者の姿勢や態度について、まとめる。（30 分） | 観察や記録の意義、方法についてまとめる。（60 分） |
| 5 | 幼児理解の方法2 | 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解する。 | 個と集団の関係を捉える幼児理解の方法についてまとめる。（180 分） |
| 6 | 幼児理解の方法3 | 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解する方法を学ぶ。 | 自我の発達にかかわるつまずきと、保育者の具体的なかかわりや配慮について、まとめる。（30 分） |
| 7 | 幼児理解の方法4 | 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解する。 | 保護者対応における課題についてまとめる。（30 分） |
| 8 | 教育相談の意義と理論1 | 幼稚園・認定こども園・保育所における教育相談の意義と課題を理解する。 | 教育相談の意義と課題をまとめる。（60 分） |
| 9 | 教育相談の意義と理論2 | 教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。 | 教育相談に関わる基礎的な理論・概念をまとめる。（60 分） |
| 10 | 教育相談の方法1 | 幼児の不適応や問題行動の背景や要因、並びにそれらに気づき把握する方法を理解する。 | 遊戯療法・絵画療法・箱庭療法について調べ、まとめる。（60 分） |
| 11 | 教育相談の方法2 | 幼児教育におけるカウンセリングマインドの必要性や、カウンセリングの基本的な姿勢や技法を理解する。 | カウンセリングにおける基本姿勢や技法について、自分の言葉で説明できるよう、まとめる。（30 分） |
| 12 | 教育相談の展開1 | 幼児及び保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を学ぶ。 | カウンセリングの基本的な進め方や内容についてまとめる。（30 分） |
| 13 | 教育相談の展開1 | 不登園・虐待等の課題に対する幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解する。 | 事例を通した保育現場での対応について、まとめたり疑問点を調べたりする。（60 分） |
| 14 | 教育相談の展開3 | 教育相談の計画の作成や必要な園内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解する。 | 居住する地域の子育てに関連する関連機関等について調べまとめる。（60 分） |
| 15 | 教育相談の展開4 | 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する。 | 調べてまとめた地域の子育てに関連する関連機関等を基に、マップを作成する。（60 分） |
| 16 | 定期試験 | 期末試験を行う。 | |

**単位の認定について**　期末試験:60%、演習課題・レポート・演習への取組 40%から総合的に評価し、60 点以上を合格とする。
**教科書**　講義において別途紹介する。

**参考書**　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題はチェックの後、必要に応じて個別にコメントを記載する。
また、全体に対してもフィードバックを行う。

※幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員が、幼児理解についての知識や考え方、基礎的態度を指導する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて行う。

| 授業科目名 | 医科診療報酬請求実務Ⅰ（科目コード:TCMCL211） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） 上級秘書士〈メディカル秘書〉（選択科目） | | | | | | |
| 担当者 | 犬塚美鈴 m-inuzuka@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**医科及び歯科の診療録（カルテ）から診療報酬明細書（レセプト）を作成するまでの一連の事務処理を、実務演習を通して修得するとともに介護保険についても理解し、全国医師会の主催による医療保険請求事務実技試験に対応できる知識と技術を身に付ける。また、医療秘書実技演習（医療機関実習）での請求事務業務に必要な実技能力を身に付ける。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ |

**到達目標：**医療法規と医療処置、各種検査の知識を応用し、カルテから正確なレセプトを作成できる。
グループ内の他者と協力し、より正確なレセプトを作成できる。
レセプト作成に必要な知識を他者に説明できる。
条例改正に伴う作業の変更を正しく実行することができる。
介護保険についての説明、記述ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 医療保険制度のしくみ | 医療保険制度、保険の種類、公費負担医療について概要を学ぶ。 | 社保や国保の加入対象者を確認する。（60 分） |
| 2 | 窓口業務、一部負担金 | 被保険者証の見方、給付率と負担率、一部負担金について学ぶ。 | 窓口業務の流れをノートにまとめる。（60 分） |
| 3 | 診療報酬点数と請求 | 診療報酬点数の構成、保険請求のしくみについて学ぶ。 | 診療～保険請求までの流れをまとめる。（60 分） |
| 4 | 初診料 | 診療報酬の仕組みを理解し、基本的なカルテを理解する。 | 練習問題を解きながら、初診料算定のルールを理解する。（60 分） |
| 5 | 初診料 | 初診料算定の原則と加算の仕組みを理解する。 | 練習問題を解きながら、初診料算定のルールを理解する。（60 分） |
| 6 | 初診料 | 練習問題を解き、レセプトに記載できるようにする。 | 練習問題を解きながら、初診料算定のルールを理解する。（60 分） |
| 7 | 再診料 | 再診料や外来診療料について算定の原則を理解する。 | 条件により、正しい点数が算定できるか確認の為、練習問題を解く。（60 分） |
| 8 | 再診料 | 加算の仕組みを理解する。 | 条件により、正しい点数が算定できるか確認の為、練習問題を解く。（60 分） |
| 9 | 再診料 | 練習問題を解き、レセプトに記載できるようにする。 | 条件により、正しい点数が算定できるか確認の為、練習問題を解く。（60 分） |
| 10 | 投薬料 | 院内処方と院外処方の違いを理解する。<br>薬価表の見方について学ぶ。 | 内服薬、屯服薬、外用薬の練習問題を解き、理解度を確認する。（120 分） |
| 11 | 投薬料 | 内服薬、屯服薬、外用薬について、カルテの読み方と薬剤ごとの算定方法について学ぶ。 | 内服薬、屯服薬、外用薬の練習問題を解き、理解度を確認する。（120 分） |
| 12 | 投薬料 | 点数化の方法、調剤料・処方料の算定、加算について学ぶ。 | 内服薬、屯服薬、外用薬の練習問題を解き、理解度を確認する。（120 分） |
| 13 | 投薬料 | 練習問題を解き、レセプトに記載できるようにする。 | 内服薬、屯服薬、外用薬の練習問題を解き、理解度を確認する。（120 分） |
| 14 | 医学管理料 | 医学管理料算定の原則を理解する。 | 頻出する医学管理料の問題を解く。（60 分） |
| 15 | 医学管理料 | 練習問題を解き、レセプトに記載できるようにする。 | 頻出する医学管理料の問題を解く。（60 分） |
| 16 | 注射料 | 注射料の種類と算定の原則を理解する。 | 注射の手技によって正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。（120 分） |
| 17 | 注射料 | 皮下筋肉内注射、静脈内注射の算定法について学ぶ。 | 注射の手技によって正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。（120 分） |
| 18 | 注射料 | 点滴注射とその他注射の算定法について学ぶ。 | 注射の手技によって正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。（120 分） |
| 19 | 注射料 | 練習問題を解き、レセプトに記載できるようにする。 | 注射の手技によって正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。（120 分） |
| 20 | 在宅医療 | 在宅医療算定の原則、往診料と訪問診療料について学ぶ。 | 往診料と訪問診療の違いをノートにまとめる。（60 分） |
| 21 | 在宅医療 | 在宅療養指導管理料について理解し、練習問題を解く。 | 往診料と訪問診療の違いをノートにまとめる。（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 22 | 処置料 | 処置料算定の原則を理解する。手術との関連について学ぶ。 | 条件により、正しい点数が算定できるか確認の為、練習問題を解く。(60 分) |
| 23 | 処置料 | 処置内容ごとに、具体的な算定法を学び、レセプトに記載できるようにする。 | 条件により、正しい点数が算定できるか確認の為、練習問題を解く。(60 分) |
| 24 | 処置料 | 処置医療機器等加算(酸素料の算定等)について学ぶ。 | 条件により、正しい点数が算定できるか確認の為、練習問題を解く。(60 分) |
| 25 | 処置料 | 練習問題を解き、レセプト作成について復習する。 | 条件により、正しい点数が算定できるか確認の為、練習問題を解く。(60 分) |
| 26 | 手術料 | 手術料算定の原則を理解する。 | 加算の重複があった場合の正しい算定ができるか、練習問題を解き確認する。(120 分) |
| 27 | 手術料 | 各種加算について理解する。手術医療機器等加算について学ぶ。 | 加算の重複があった場合の正しい算定ができるか、練習問題を解き確認する。(120 分) |
| 28 | 手術料 | 手術内容ごとに、具体的な算定法を学び、レセプトに記載できるようにする。 | 加算の重複があった場合の正しい算定ができるか、練習問題を解き確認する。(120 分) |
| 29 | 手術料 | 練習問題を解き、レセプト作成について復習する。 | 加算の重複があった場合の正しい算定ができるか、練習問題を解き確認する。(120 分) |
| 30 | まとめ | これまで学習した内容のレセプト作成演習を通して、習熟度を確認する。 | 前期に学習した内容の復習をする。(120 分) |

※同じ項目については、事例の難易度をあげ演習を行うものとする。また、この科目は、医療機関実習前学修としての演習を含むものとする。

**単位の認定について**　授業内での確認テスト 50%　グループワークへの参加状況 20%　レポート課題の提出と内容 20%　授業への取り組み 10%

**教科書**　①『診療点数早見表 2024 年版』医学通信社　②『資料ブック』ソラスト

**参考書**　①『医療秘書講座 4　医療関係法規概論』メヂカルフレンド社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に授業内で解説する。

| 授業科目名 | 医科診療報酬請求実務Ⅱ(科目コード:TCMCL211) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目) 上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 犬塚美鈴 m-inuzuka@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要:** 医科及び歯科の診療録(カルテ)から診療報酬明細書(レセプト)を作成するまでの一連の事務処理を、実務演習を通して修得するとともに介護保険についても理解し、全国医師会の主催による医療保険請求事務実技試験に対応できる知識と技術を身に付ける。また、医療秘書実技演習 (医療機関実習) での請求事務業務に必要な実技能力を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ | |

**到達目標:** 医療法規と医療処置、各種検査の知識を応用し、カルテから正確なレセプトを作成できる。
グループ内の他者と協力し、より正確なレセプトを作成できる。
レセプト作成に必要な知識を他者に説明できる。
条例改正に伴う作業の変更を正しく実行することができる。
介護保険についての説明、記述ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 輸血料 | 輸血の種類と算定の決まり事を理解する。 | 輸血の種類や方法についてノートにまとめる。(60 分) |
| 2 | 輸血料 | 練習問題を解き、算定ができるようになる。 | 輸血の種類や方法についてノートにまとめる。(60 分) |
| 3 | 麻酔料 | 麻酔料算定の決まり事を理解する。 | 麻酔の種類について正しい算定ができるか、また手術料との関係に留意し、練習問題を解き理解する。(120 分) |
| 4 | 麻酔料 | 麻酔の種類について学ぶ。 | 麻酔の種類について正しい算定ができるか、また手術料との関係に留意し、練習問題を解き理解する。(120 分) |
| 5 | 麻酔料 | 時間外等加算と年齢の加算について学ぶ。 | 麻酔の種類について正しい算定ができるか、また手術料との関係に留意し、練習問題を解き理解する。(120 分) |
| 6 | 麻酔料 | 練習問題を解き、レセプト作成ができるようになる。 | 麻酔の種類について正しい算定ができるか、また手術料との関係に留意し、練習問題を解き理解する。(120 分) |
| 7 | 神経ブロック料 | 神経ブロック算定の決まり事を理解する。 | 練習問題のプリントを解く。(60 分) |
| 8 | 検体検査 | 検体検査算定の決まり事を理解する。 | 検体の別により、検査料や判断料の正しい算定ができるよう、練習問題を解く。(120 分) |
| 9 | 検体検査 | 検体検査実施料と検体検査判断料について学ぶ。 | 検体の別により、検査料や判断料の正しい算定ができるよう、練習問題を解く。(120 分) |
| 10 | 検体検査 | 併算定不可の検査。時間外等における加算について学ぶ。 | 検体の別により、検査料や判断料の正しい算定ができるよう、練習問題を解く。(120 分) |
| 11 | 検体検査 | 練習問題を解き、レセプト作成ができるようになる。 | 検体の別により、検査料や判断料の正しい算定ができるよう、練習問題を解く。(120 分) |
| 12 | 生体検査 | 生体検査算定の決まり事を理解する。 | 生体検査の算定ルールが理解できるか確認の為、練習問題を解く。(60 分) |
| 13 | 生体検査 | 年齢加算。逓減についてについて学ぶ。 | 生体検査の算定ルールが理解できるか確認の為、練習問題を解く。(60 分) |
| 14 | 生体検査 | 練習問題を解き、レセプトの書き方を覚える。 | 生体検査の算定ルールが理解できるか確認の為、練習問題を解く。(60 分) |
| 15 | 病理診断 | 病理診断料算定の決まり事を理解する。 | 練習問題を解き、正しい算定ができるようになる。(60 分) |
| 16 | 病理診断 | 練習問題を解き、レセプトの書き方を覚える。 | 練習問題を解き、正しい算定ができるようになる。(60 分) |
| 17 | 画像診断料 | 画像診断料算定の決まり事を理解する。 | 撮影方法ごとに正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |
| 18 | 画像診断料 | X 線診断(単純、造影剤使用、特殊、乳房撮影)について学ぶ。 | 撮影方法ごとに正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 19 | 画像診断料 | コンピューター断層撮影診断(CT、MRI)について学ぶ。 | 撮影方法ごとに正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |
| 20 | 画像診断料 | 練習問題を解き、レセプトの書き方を覚える。 | 撮影方法ごとに正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |
| 21 | リハビリテーション料 | 疾患別リハビリテーション料の算定をする。 | 練習問題のプリントを解く。(60 分) |
| 22 | 精神科、放射線治療料 | 精神科専門療法と放射線治療料算定の決まり事について学ぶ。 | 練習問題のプリントを解く。(60 分) |
| 23 | 入院基本料 | 入院基本料算定の決まり事を理解する。 | 届出による入院料の違いについて、正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |
| 24 | 入院基本料 | 初期加算。外泊時の算定。入院基本料等加算について学ぶ。 | 届出による入院料の違いについて、正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |
| 25 | 入院基本料 | 地域加算、年齢の加算についてについて学ぶ。 | 届出による入院料の違いについて、正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |
| 26 | 入院基本料 | 練習問題を解き、レセプトの書き方を覚える。 | 届出による入院料の違いについて、正しい算定ができるか確認の為、練習問題を解く。(120 分) |
| 27 | 入院時食事療養費 | 入院時食事療養費と標準負担額について学ぶ。 | 食事代の正しい算定ができるか練習問題を解く。(60 分) |
| 28 | 入院時食事療養費 | 練習問題を解き、レセプトの書き方を覚える。 | 食事代の正しい算定ができるか練習問題を解く。(60 分) |
| 29 | まとめ | これまで学習した内容のレセプト作成演習を通して、習熟度を確認する。 | 外来、入院それぞれのレセプト作成練習を通して、1年間の復習をする。(120 分) |
| 30 | まとめ | 1 年間の学習内容のまとめ(学科、レセプト作成)を行う。 | 練習問題のプリントを解く。(120 分) |

※同じ項目については、事例の難易度をあげ演習を行うものとする。また、この科目は、医療機関実習前学修としての演習を含むものとする。

**単位の認定について**　授業内での確認テスト 50%　グループワークへの参加状況 20%　レポート課題の提出と内容 20%　授業への取り組み 10%

**教科書**　①『診療点数早見表 2024 年版』医学通信社　②『資料ブック』ソラスト

**参考書**　①『医療秘書講座 4　医療関係法規概論』メヂカルフレンド社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に授業内で解説する。

| 授業科目名 | 医科診療報酬請求実務Ⅲ(科目コード:TCMCL210) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目）　　上級秘書士〈メディカル秘書〉（選択科目） | | | | | | |
| 担当者 | 犬塚 三鈴(実務家教員)(メールアドレス:m-inuzuka@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**医科診療録(カルテ)から診療報酬明細書(レセプト)を作成するまでの一連の事務処理を、演習を通して修得し、実務での医事コンピュータ処理による診療報酬請求業務に必要な知識、また全国医師会の主催による医療保険請求事務実技試験に対応できる知識と技術を身に付ける。また、医療秘書実技演習（医療機関実習）での請求事務業務に必要な実技能力を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | ③○ | |

**到達目標：** 医療法規と医療処置、各種検査等の知識を応用し、カルテから正確なレセプト作成ができる。
グループ内の他者と協力し、より正確なレセプトを作成できる。
レセプト作成に必要な知識を他者に説明できる。
条例改正に伴う作業の変更を正しく実行することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 年前期にあたっての導入 | 1 年生での学びの復習を行い、医療保険制度のしくみについての確認を行う。被保険者証から正しくカルテやレセプトの上書きができる。 | 基本的な用語を調べてノートに記載する。(60 分) |
| 2 | 診察料 | 初診料、再診料について算定の原則および加算のルールを理解し、医療機関の規模の違いにより点数が変わることを理解する。 | 初診料、再診料の課題を解く(60 分) |
| 3 | 診察料 | 初診料、再診料についてレセプトの表記法を覚える。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 4 | 医学管理料 | 医学管理料の各管理料の疾病との関わり、また標榜する病床数や診療科により算定が異なること、および点数構成について覚える。 | 医学管理料の課題を解く(60 分) |
| 5 | 医学管理料 | 上記について、点数化の方法を理解し記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 6 | 投薬料 | 内服薬、頓服薬、外用薬について、薬剤ごとに算定の原則を理解し、正しい薬剤料の算定ができる。 | 投薬料の課題を解く(60 分) |
| 7 | 投薬料 | 上記について、点数化の方法を理解し記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 8 | 投薬料 | これまでに学習した内容が記載されているカルテより、正しくレセプトを作成する。（まとめ） | 算定誤りのあった箇所を訂正してレセプトを作成する。(60 分) |
| 9 | 注射料 | 皮下・筋肉内注射、静脈内注射、その他注射について、算定の原則を理解する。 | 注射料の課題を解く(60 分) |
| 10 | 注射料 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 11 | 処置料 | 処置料について算定の原則および加算のルールを理解し、正しく算定できる。 | 処置料の課題を解く(60 分) |
| 12 | 処置料 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 手術・麻酔料 | 手術、麻酔について算定の原則および加算のルールを理解し、正しく算定できる。 | 手術・麻酔料の課題を解く(60 分) |
| 14 | 手術・麻酔料 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 15 | 手術・麻酔料 | これまでに学習した内容のカルテ記載より、レセプトを作成する。（まとめ） | 算定誤りのあった箇所を訂正してレセプトを作成する。(60 分) |
| 16 | 輸血・及放射線料・リハビリテーション料 | 輸血・放射線科・リハビリテーション料の点数構成について覚える。 | 輸血・及放射線料・リハビリテーション料の課題を解く(60 分) |
| 17 | 輸血・及放射線科・リハビリテーション料 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 18 | 病理・医療材料料・精神科 | 病理・医療材料料・精神科療法料の点数構成について覚える。 | 病理・精神科の課題を解く(60 分) |
| 19 | 病理・医療材料料・精神科 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 20 | 検査料 | 検体検査料、生体検査料について、算定の原則を理解する。 | 検査科の課題を解く(60 分) |
| 21 | 検査料 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 22 | 画像診断料 | 画像診断料について、算定の原則を理解する。 | 画像診断科の課題を解く(60 分) |
| 23 | 画像診断料 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 24 | 画像診断料 | これまでに学習した内容のカルテ記載より、レセプトを作成する。（まとめ） | 算定誤りのあった箇所を訂正してレセプトを作成する。(60 分) |
| 25 | 在宅医療 | 在宅患者の往診料、在宅療養の点数について覚える。 | 在宅医療科の課題を解く(60 分) |
| 26 | 在宅医療 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 27 | 入院料 | 入院料の種類、算定の仕方について覚える。 | 入院科の課題を解く(60 分) |
| 28 | 入院料 | 上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。 | 例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分) |
| 29 | まとめ | 診療報酬について、請求業務の流れを理解する。 | レセプト提出時の点検の流れを覚える。(60 分) |
| 31 | まとめ | ここまでの演習を再確認する。 | カルテからレセプトの流れを確認する。(60 分) |
| 31 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　授業内での確認テスト 50%　グループワークへの参加状況 20%　レポート課題の提出と内容 20%　授業への取り組み 10%

**教科書**　「診療点数早見表 2024 年版」医学通信社　「資料ブック」ソラスト

**参考書**　「診療報酬完全マスタードリル」医学通信社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 医科診療報酬請求論Ⅰ（科目コード:TCMCL109） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 黒野 伸子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 1 年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** 医療保障の体系、医療保険の体系について学び、保険請求・審査・支払いについての過程を理解する。
また、診療報酬明細書（レセプト）を作成するための、基本となる知識を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①○ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：** 診療報酬請求事務についての役割と医療機関での位置付けについて説明することができる。
保険請求・審査・支払いチャートについての説明することができる。
医療保険カルテからレセプトを作成する過程を説明することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに | 医療制度、介護制度について基本的な用語を学ぶ。 | 基本的な用語を調べてノートに記載する（60 分） |
| 2 | 医療保障の体系 | 医療保障の体系の中での、医療保険について理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 3 | 医療保障の体系 | 医療保障の概要、仕組みについて学ぶ。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 4 | 医療保険制度の概要 | 医療保険の種類（社会保険）について、保険者、対象者について理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 5 | 医療保険制度の概要 | 医療保険の種類（国民健康保険）について、保険者、対象者について理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 6 | 医療保険制度の概要 | 医療保険の種類（後期高齢者医療制度）について、保険者、対象者について理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 7 | 医療保険の仕組み | 被保険者・保険者・審査支払い機関、医療機関の関係について理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 8 | 医療保険の仕組み | 被保険者・保険者・審査支払い機関、医療機関の関係について理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 9 | 診療報酬請求の仕組み | 診療報酬制度の概要と保険請求の流れを理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 10 | 診療報酬制度の仕組み | 診療行為ごとのコード番号、使用する帳票について理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 11 | 診療報酬算定の原則 | 医科診療報酬点数表を用いて、保険点数算定の原則を理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 12 | 診療報酬算定の原則 | 診療報酬点数を理解するための専門用語、カルテ用語、レセプト略称の意味を理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 13 | 施設基準の原則 | 診療報酬を算定するために必要な基準があることを知る。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 14 | 施設基準の原則 | 基準の読み取りを行い、医療機関の経営にどのような関連があるのかを知る。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60 分） |
| 15 | まとめ | 知識の習得状況についての確認のために、日本医師会認定試験程度の問題を解く。 | 試験問題に対応するための準備を行う。（120 分） |

**単位の認定について**　最終試験 70 点、授業態度 20 点、学生同士の協調性 10 点
**教科書**　①「診療点数早見表 2024 版」医学通信社　②「レセプト管理論」同友館
**参考書**　①資料ブック（ソラスト）
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 医科診療報酬請求論Ⅱ（科目コード:TCMCL110） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 黒野 伸子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 1年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**医科診療報酬請求論Ⅰを踏まえ、医療保障の体系、医療保険の体系、保険請求・審査・支払いについての過程を深く理解する。また、施設基準、療養担当規則等、医療機関の運営に関係する法令について理解し、これらの知識を医療秘書実技演習（医療機関実習）につなげられるようにする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①○ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：** 保険請求・審査・支払いチャートについての説明ができる。
療養担当規則、病床種別について理解している。
診療報酬の解釈について説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに | 医科診療報酬請求論Ⅰについての復習を行う。 | 医科診療報酬請求論Ⅰについて復習をしておく。（60分） |
| 2 | 受付業務の流れ | 実際の保険証から受付業務がイメージできるようになる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 3 | 療養担当規則 | 療養担当と診療方針の意味を理解し、説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 4 | 療養担当規則 | 療養担当規則における掲示事項の内容を理解し、説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 5 | 保険外併用療養費 | 評価療養の内容と特徴、掲示義務について理解し、説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 6 | 保険外併用療養費 | 選定療養の内容と特徴、掲示義務について理解し、説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 7 | 保険外併用療養費 | 患者申出療養の内容と特徴、掲示義務について理解し、説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 8 | 病院の病床種別と基準 | 一般病床、療養病床、精神病床、感染症病床、結核病床についての定義と人員配置基準について学ぶ。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 9 | 病院の病床種別と基準 | 病床の特徴と診療報酬算定の留意点を理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 10 | 高額療養費制度 | 年齢ごとの制度の違い、受付上の留意点、必要書類などを理解する。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 11 | 診療報酬の解釈 | 診察、医学管理、投薬について、算定の解釈を行い、他者に説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 12 | 診療報酬の解釈 | 注射、処置、手術について、算定の解釈を行い、他者に説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 13 | 診療報酬の解釈 | 検査、画像診断、放射線について、算定の解釈を行い、他者に説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 14 | 診療報酬の解釈 | 入院、在宅医療について、算定の解釈を行い、他者に説明できる。 | 指示された課題を行いファイルに綴じる。（60分） |
| 15 | まとめ | 知識の習得状況についての確認を行う。 | 確認のための準備を行う。（120分） |

**単位の認定について**　最終試験70点、授業態度20点、学生同士の協調性10点
**教科書**　①「医科診療点数早見表2024年版」医学通信社　②「レセプト管理論」同友館
**参考書**　①「レセプト算定ガイド」日本能力開発推進協会　②「医療事務実践対応ハンドブック2022年版」医学通信社
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 医事コンピューターⅠ（科目コード:TCMCL213） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） 上級秘書士〈メディカル秘書〉（選択科目） 情報処理士（選択科目） | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**診療記録の記載方法である SOAP を活用したカルテの代行入力や各種診断書、紹介状、意見書などの代行作成など、医師事務作業補助を想定した医療分野の代表的な書類を整えられるよう、演習を行う。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
・医師事務作業補助者の役割と禁止行為について理解し説明できる。
・代表的な医療関係書類について理解し作成の目的について説明できる。
・今までに修得した医療知識を駆使し書類を作成することができ、指示された提出場所にデータ提出ができる。
・他者からの意見を取り入れ、書類の作成に反映できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 電子カルテについて | 電子カルテのメリットやデメリットについて学ぶ | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 2 | 記録方法について | 医療用語を使用した SOAP 記録方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 3 | 記録の演習 | 事例（急性腹症）から、SOAP 法で記録を行う。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 4 | 記録の演習 | 事例（急性腹症）から、SOAP 法で記録を行う。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 5 | 記録の演習 | 作成した書類について、グループワークや意見や感想を交換し、より精度の高い記録を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 6 | 医療用語の復習 | 今までに学んだ、診療録や病歴管理、症状詳記に必要な知識を復習する。<br>介護分野との連携について学び、介護申請の際の主治医意見書の構造や役割を学ぶ。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 7 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例（整形外科）から、診療録を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 8 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例（外科）から、診療録を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 9 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例（整形外科）から、職場提出用の診断書を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 10 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例（内科）から、任意保険会社提出用の診断書を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 11 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例（小児科）から、手術承諾書を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 12 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例から、手術について患者説明用資料を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 13 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例（小児科）から、入院について患者説明用資料を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 14 | 医師事務作業補助実務の演習 | 事例（産婦人科）から、出産証明書を作成する。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 15 | 医療系事務作業全般についてのまとめ | 診療科別の特徴的な用語や書類について整理しまとめる。 | 指示された課題を行う。(60 分) |

**単位の認定について**　授業内での小テスト４０％　授業態度２０％　提出物４０％　の６割点で単位が認められる。
**教科書**
**参考書**　「診療報酬請求事務　早引きＱ＆Ａ」ダイエックス出版、「厳選レセプト作成問題集」ネットスクール出版、「医療秘書技能検定問題集」土屋書店出版、「新医療秘書医学シリーズ1～6」建帛社出版
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※提出物の作成については、講義時間内に終了できない場合、自己学修にて必ず補うこと。提出はデータで行う。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 医事コンピューターⅡ(科目コード:TCMCL211) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書認定資格(必修科目) | | | | | | |
| 担当者 | 谷元さつき s-tanimoto@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**医療機関における医療情報システムを理解し、診療報酬レセプトソフト（ORCA）の正しい操作を習得する。
カルテの指示を読みとり入力処理をし、正しいレセプト作成ができるようになる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①○ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**医科診療録（カルテ）を見て、診療報酬レセプトソフト（ORCA）を操作し、診療報酬明細書（レセプト）を正しく作成できる。ORCAにおける他の情報処理（システム管理や収納業務など）についても説明することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | PCの準備とソフトの起動と終了<br>レセコンとORCA概要 | 医療保険制度(社保と国保の違い等)について確認しておく。(60分) |
| 2 | 患者登録 | 患者登録と保険情報の入力方法(社保・国保) | 後期高齢者医療制度について確認する。(60分) |
| 3 | 患者登録 | 後期高齢者の登録方法<br>情報訂正の仕方 | ORCAにおける患者登録の手順を自分でまとめる。(60分) |
| 4 | 病名登録 | 病名の入力方法。レセ電について。移行病名、廃止病名について。練習問題を使い病名登録演習。 | 病名開始日と初・再診料との関わりを確認しておく。(プリント使用－60分) |
| 5 | 病名登録 | 病名や診療開始日の訂正方法<br>便利な登録方法 | 初・再診料の時間外等加算について確認する。(プリント使用－60分) |
| 6 | 診療行為 | 診療行為入力画面の説明。診療行為の入力方法。<br>収納業務について。 | 各診療行為の算定ポイントを確認しておく。(60分) |
| 7 | 投薬 | 院内、院外処方の入力方法。入力演習。<br>薬剤情報提供書と処方箋。(グループワーク) | ORCAにおける院内処方と院外処方の方法についてまとめる。(60分) |
| 8 | 投薬 | 練習問題を使い投薬(院内処方)の入力演習 | 調剤料や処方料の加算について確認する。(60分) |
| 9 | 投薬 | 練習問題を使い投薬(院外処方)の入力演習 | 特定疾患における処方の加算についてまとめる。(60分) |
| 10 | 投薬 | カルテを見て患者登録、病名登録、行為入力演習 | 時間外等による加算対象の診療行為と基準となる所定点数について確認する。(60分) |
| 11 | 注射 | 皮内及び皮下筋肉内注射の入力方法<br>(グループワーク) | 各注射手技料の算定条件等について復習する。(60分) |
| 12 | 注射 | 点滴注射とその他の注射。練習問題を使い演習。 | 点滴注射の算定条件が異なることをまとめる。(60分) |
| 13 | 処置 | 処置行為と処置薬剤の入力方法<br>(グループワーク) | ORCAにおける処置手技ｺｰﾄﾞと処置薬剤ｺｰﾄﾞを確認する。(30分) |
| 14 | 手術 | 手術行為と手術薬剤の入力方法<br>(グループワーク) | ORCAにおける手術手技ｺｰﾄﾞと手術薬剤ｺｰﾄﾞを確認する。(30分) |
| 15 | まとめ | 今までの復習。カルテを見て情報を正しく登録する。 | コメント入力ｺｰﾄﾞと方法を確認しておく。(30分) |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　試験(70%)、入力演習後のレセプト提出(20%)、授業の取り組み(10%)
**教科書**　診療報酬点数早見表（医学通信社）
**参考書**　医科医療事務講座　資料ブック（株式会社ソラスト）
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。

※医療事務員としての勤務経験のある教員が、診療報酬レセプトソフトの正しい操作方法を指導する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 医事コンピューターⅢ(科目コード:TCMCL212) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 谷元さつき(メールアドレス:s-tanimoto@mgjc.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**医事コンピュータⅡを踏まえ、さらに医療機関における医療情報システムを理解し、診療報酬レセプトソフト（ORCA）の正しい操作を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①○ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**医科診療録（カルテ）を見て、診療報酬レセプトソフト（ORCA）を操作し、正しいレセプトを作成すると同時に保険請求業務を修得する。ORCA における他の情報処理（システム管理や収納業務など）についても説明することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 復習 | カルテ練習問題を使い演習<br>(投薬、注射、処置、手術)(グループワーク) | 院内・院外処方、各注射手技料、手術後の創傷処置の算定期間について復習する。(60 分) |
| 2 | 基本診療料 | 時間外等加算の設定方法<br>初診から再診、再診から初診への切り替え方法 | 時間外等加算の設定方と初・再診の切り替え方法をまとめる。(60 分) |
| 3 | 検査 | 検体検査の入力方法。検査項目の検索方法。 | 検体検査の種類を確認する。(30 分) |
| 4 | 検査 | 練習問題を使い、検体検査の入力演習<br>(グループワーク) | 生体検査の算定について確認する。<br>(30 分) |
| 5 | 画像診断 | 画像診断の入力方法(単純撮影)(グループワーク) | 各種撮影方法を確認しておく。(30 分) |
| 6 | 画像診断 | 画像診断(造影剤使用撮影、CT、MRI) | 注入手技料について確認する。(30 分) |
| 7 | リハビリテーション | リハビリテーションの入力方法・入力演習 | レセに記載が必要な項目を確認する。<br>(30 分) |
| 8 | 医学管理料 | 特定疾患、特定薬剤治療管理料、悪性腫瘍特異物質治療管理料の入力方法 | 算定条件とレセに記載が必要な項目を確認する。(60 分) |
| 9 | 総合練習問題 | 今までの復習(カルテ練習問題)(グループワーク) | 入力方法が不明な点を書き出す。(30 分) |
| 10 | 明細書の作成 | レセプト発行までの操作と印刷方法 | 発行～印刷までをまとめる。(30 分) |
| 11 | 公費(患者登録) | 公費単独と公費併用の保険 | 公費単独と公費併用の意味を確認する。(30 分) |
| 12 | 公費 | 生保、指定難病、乳幼児医療(地方公費)の登録方法(グループワーク) | 公費負担医療制度について確認する。(60 分) |
| 13 | データチェック | 概要と流れ。データチェックの操作方法。 | レセプトをデータチェックすることの意味について確認する。(30 分) |
| 14 | システム管理 | マスタ登録やシステム管理の操作方法。 | システム管理の詳細について確認する。(30 分) |
| 15 | まとめ | 1 年間の復習。カルテを見て情報を正しく登録する。 | 患者登録から保険請求までの流れを確認する。(60 分) |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　試験(70%)、入力演習後のレセプト提出(20%)、授業の取り組み(10%)

**教科書**　診療報酬点数早見表（医学通信社）

**参考書**　医科医療事務講座　資料ブック（株式会社ソラスト）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。

※医療事務員としての勤務経験のある教員が、診療報酬レセプトソフトの正しい操作方法を指導する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 医療マネジメント論(科目コード:TCMCL209) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 黒野 伸子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** 医療機関における多様な業務について理解するとともに、これまでに学んだ専門的知識やスキルを業務に活かすためのマネジメント力をつけることを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ | |

**到達目標：** ・医療機関組織について体系的に理解できる。
・チーム医療に貢献するために、医療事務・医療秘書として必要なマネジメントとは何かを考察できる。
・医療業界におけるマネジメントとは何かを説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 科目ガイダンス。 | 教科書を読んでおく。（30 分） |
| 2 | マネジメントの歴史 | マネジメントの考え方が導入された背景について学び、その重要性を理解する。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 3 | マネジメントとは | マネジメントの意味を知る。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 4 | 医療サービスマネジメント | 円滑なマネジメントを遂行するために必要なことは何かを考察する。〈話し合い１回目〉 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 5 | 医療サービスマネジメント | 円滑なマネジメントを遂行するために必要なことは何かを考察する。〈話し合い２回目〉 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 6 | 医療サービスマネジメント | グローバルな視点から、円滑なマネジメントを遂行するために必要なことは何かを考察する。〈話し合い１回目〉 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 7 | 医療サービス | グローバルな視点から、円滑なマネジメントを遂行するために必要なことは何かを考察する。〈話し合い２回目〉 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 8 | レセプトマネジメント | レセプトを活用したマネジメントの概略を理解する。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 9 | レセプトマネジメント | 帳簿等のデータ保管等の事例から物的管理の手法を学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 10 | レセプトマネジメント | レセプトコンプライアンス等の事例から、質的管理の手法を学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 11 | マネジメントにおける病院の事例 | 病院のマネジメント事例を検討し、実務に活かす。〈事例の読み込み１〉 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 12 | マネジメントにおける病院の事例 | 病院のマネジメント事例を検討し、実務に活かす。〈話し合い〉 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 13 | マネジメントにおける病院の事例 | 病院のマネジメント事例を検討し、実務に活かす。〈事例の読み込み２〉 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 14 | マネジメントにおける病院の事例 | 病院のマネジメント事例を検討し、実務に活かす。〈話し合い〉 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。（30 分） |
| 15 | まとめ | 学んだことについての確認を行う。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分） |

**単位の認定について** 討議課題発表 30%、研究課題レポート 50%、確認小テスト 10%、授業への取組 10%の6割点で単位が認められる。

**教科書** 『レセプト管理論』(同友館)

**参考書** 『病院管理学』建帛社

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 医療関係法規Ⅰ（科目コード:TCMCL207） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 黒野 伸子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**医療秘書としての幅広い一般的な教養と技術を身につけるとともに、わが国の医療保障制度である「医療保険」「公費負担医療」と中心とした各種法令に関して、制度のしくみと基本を理解することを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**保険、医療、福祉に関する法律、制度の概要を述べることができる。
日本医師会認定試験程度の問題に対応できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 法規の概念 | 社会生活を営むうえで必要な法律の種類を学ぶ | 法規の種類をノートに書いて理解する(30 分) |
| 2 | 衛生法規 | 衛生法規の分類についておぼえる | 衛生法規の分類について理解する(30 分) |
| 3 | 医事法規 | 医療法の定義、開設、病院等の人員、広告規制について学ぶ | 医療法の定義について理解する(60 分) |
| 4 | 医事法規 | 医療計画、公的医療機関、医師法、保健師助産師看護師法、その他の医療関係者の法規について学ぶ | 医療計画、医師法、看護師法等についてノートに書いて理解する(60 分) |
| 5 | 医事法規 | 医療計画、公的医療機関、医師法、保健師助産師看護師法、その他の医療関係者の法規について学ぶ | 上記以外の医事法規についてノートに書いて理解する(30 分) |
| 6 | 薬事法規 | 薬事法、薬剤師法について学ぶ | 薬剤師の法規についてノートに書いて理解する(30 分) |
| 7 | 薬事法規 | 麻薬、向精神薬取締法等について学ぶ | 麻薬、向精神薬等の法規についてノートに書いて理解する(30 分) |
| 8 | 健康保険法 | 健康保険法の仕組みについて学ぶ | 健康保険法についてノートに書いて覚える(60 分) |
| 9 | 健康保険法 | 被用者保険の対象者、特徴を理解する | 被用者保険についてノートに書いて理解する(60 分) |
| 10 | 健康保険法 | 国民健康保険について学ぶ | 国民健康保険についてノートに書いて覚える(30 分) |
| 11 | 保険衛生法規 | 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、精神福祉法、母子保健法、老人保健法について学ぶ | 精神保健法、母子保健法、老人保健法についてノートに書いて理解する(60 分) |
| 12 | 福祉関係法規 | 健康保険、労働災害、介護保険について学ぶ | 健康保険、労災保険、介護保険法についてノートに書いて理解する(60 分) |
| 13 | 福祉関係法規 | 社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法等について学ぶ | 福祉関係法規についてノートに書いて理解する(60 分) |
| 14 | その他の法規 | 労働基準法、自賠責保険等について学ぶ | 労働基準法、自賠責保険についてノートに書いて理解する(30 分) |
| 15 | まとめ | 日本医師会認定試験(概論)程度の問題を解く | 試験問題に対応するための準備を行う(120 分) |

**単位の認定について**　最終試験 60 点、授業態度 30 点、学生同士の協調性 10 点

**教科書**　①『医療秘書講座　医療関係法規』メジカルフレンド社　②『医療関連法の完全知識 2024 年版』医学通信社
**参考書**　①『医療関係法規』建帛社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 医療関係法規Ⅱ（科目コード:CMCL208） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 黒野 伸子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**医療関係法規Ⅰを踏まえ、卒後医療関係（病院・医院等）への就職をめざす学生にとって実務上必須となる関係法規について、必要な知識を身につけることを目標とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**保険、医療、福祉に関する法律、制度の概要を述べることができる。
日本医師会認定試験程度の問題に対応できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 医療法 | 医療提供の理念や定義について学ぶ | 医療機関の種類をノートに書いて覚える(30 分) |
| 2 | 医療法 | 医療機関の人員配置や構造規定について学ぶ | 人員、設備基準について覚える(30 分) |
| 3 | 医療法 | 医療関係者に関する個々の定義について学ぶ | 医療関係者の仕事内容について覚える(60 分) |
| 4 | 予防衛生法規 | 感染症、予防接種、結核等の予防について学ぶ | 地域保健法、健康増進法などについてノートに書いて覚える(60 分) |
| 5 | 保健衛生法規 | 疾病予防、感染症対策及び疾病対策に関連する法規について学ぶ | 感染症や疾病などについてノートに書いて覚える |
| 6 | 医療品関係法規 | 医薬品製造販売等に関する規則について学ぶ | 医薬品の表示、薬物等についてノートに書いて覚える(30 分) |
| 7 | 医療品関係法規 | 麻薬、向精神薬取締等について学ぶ | 麻薬、向精神薬の法規についてノートに書いて覚える(30 分) |
| 8 | 社会保障 | 医療、年金、雇用等に関する法規について学ぶ | 医療、年金、雇用などの規則についてノートに書いて覚える(60 分) |
| 9 | 社会保障 | 生活保護、社会福祉等について学ぶ | 生活保護、社会福祉等についてノートに書いて覚える(60 分) |
| 10 | 福祉関係法規 | 社会福祉関連の法規について学ぶ | 身体障害者福祉などについてノートに書いて覚える(60 分) |
| 11 | 介護保険法 | 介護保険の制度及び法規について学ぶ | 介護保険制度についてノートに書いて覚える(60 分) |
| 12 | 介護保険法 | 介護保険の制度及び法規について学ぶ | 介護保険制度についてノートに書いて覚える(60 分) |
| 13 | 雇用・労働に関する法規 | 労働基準法、労働関係法規について学ぶ | 労働基準法などについてノートに書いて覚える(60 分) |
| 14 | 生活衛生・環境保全に関する法規 | 食品衛生、環境保全等に関する法規について学ぶ | 食品衛生などについてノートに書いて覚える(30 分) |
| 15 | まとめ | 日本医師会認定試験（概論）程度の問題を解く | 試験問題に対応するための準備を行う（120 分） |

**単位の認定について**　最終試験 60 点、授業態度 30 点、学生同士の協調性 10 点

**教科書**　①『医療秘書講座　医療関係法規』メジカルフレンド社　②『医療関連法の完全知識 2024 年版』医学通信社
**参考書**　①『医療関係法規』建帛社
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 医療機関実習Ⅰ（科目コード:TCMCL212） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） 上級秘書士〈メディカル秘書〉（必修科目）<br>実践キャリア実務士（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子（実習先担当者） 黒野 伸子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 2月 5日間 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 1 |

**実習の目的**

・医療機関実習Ⅰ・Ⅱは日本医師会認定の医療秘書受験資格並びに上級秘書(メディカル秘書)資格取得のために不可欠のものであり、臨地実習を通して医療機関の概要や各専門職の業務内容、専門職間の連携のあり方などを具体的に体験し、医療秘書というチーム医療の構成員として、情報管理の中心的役割を果たすことのできる資質を養うことをねらいとする。
・学内で学んだ知識や技能を医療の現場において、より明確化し実践能力として身につける。
・各医療機関の多大な協力を得て実施されるものであるから、資格取得への意思のある者だけが、この実習に参加できるものとする。

**授業概要**

**医療機関実習Ⅰ（基礎実習）**

病院の組織、形態、他職種の業務を知ることにより、医療機関の社会的役割について理解し、また、接遇マナー・コミュニケーション力・専門的スキルを高める努力の必要性を学ぶことができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標**

・実習Ⅰの理解の状況 ・調べ学習への取り組み ・主体的な実習先事前訪問 ・実習生としての自覚
・実習医療機関についての理解 ・コミュニケーション能力 ・実習記録簿の記録と提出状況 ・実習態度と勤務状況
・実習報告会での発表と参加 ・実習Ⅱに向けた自己目標 ・提出物、実習記録の内容 ・主体的な礼状作成

**授業計画表**

| 実習名 | 概要 |
|---|---|
| 医療機関実習Ⅰ（基礎実習） | 実習前指導（2コマ）<br>1.実習Ⅰについて理解する 2.実習目標を立てる 3.事前訪問指導<br>4.実習医療機関の検索学習（インターネット検索） |
| | 1.病院の機能と役割を理解する<br>(1)病院の組織 (2)病院内の構造・安全管理システム (3)地域への貢献<br>2.事務部門の実際を見て、事務の機能と役割を理解する<br>(1)事務部門の主たる役割を知る (2)外来・病棟での事務業務を理解する<br>3.対人関係の基礎を身につける<br>(1)接遇の基礎を用いて患者対応ができる (2)自分から声をかけることができる<br>(3)電話対応の必要性について理解する<br>4.患者の受診行動の支援について学ぶ<br>(1)初診受付 (2)再診・再来受付 (3)会計窓口の業務 (4)入退院受付<br>5.保険請求事務の実際を知る<br>(1)診療明細書について (2)外来・入院用レセプトについて |
| | 実習後指導（2コマ）<br>1.グループワーク 2.実習報告会(グループ) 3.礼状作成<br>4.実習報告書作成（データ提出） |

**単位の認定について** 実習前指導 10 点 本実習 50 点 記録内容・提出物 30 点 実習後指導 10 点

**参考書** 「医療秘書講座 1～4」メヂカルフレンド社出版

**授業外学習について** 実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録の作成などは、実習期間を通して必ず行う。

**課題に対するフィードバックの方法** 実習後指導の中で、解説を行う。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 医療機関実習Ⅱ(科目コード:TCMCL212) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　上級秘書士〈メディカル秘書〉(必修科目)<br>実践キャリア実務士(必修科目)　プレゼンテーション実務士(必修科目) | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子(実習先担当者)　黒野 伸子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 9月 10日間 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**実習の目的**

・医療機関実習Ⅰ・Ⅱは日本医師会認定の医療秘書受験資格並びに上級秘書(メディカル秘書)資格取得のために不可欠のものであり、臨地実習を通して医療機関の概要や各専門職の業務内容、専門職間の連携のあり方などを具体的に体験し、医療秘書というチーム医療の構成員として、情報管理の中心的役割を果たすことのできる資質を養うことをねらいとする。
・学内で学んだ知識や技能を医療の現場において、より明確化し実践能力として身につける。
・各医療機関の多大な協力を得て実施されるものであるから、資格取得への意思のある者だけが、この実習に参加できるものとする。

**授業概要**

医療事務・医療秘書の役割や医療チームの一員としての自覚と課題を認識し、学内で学んだ知識・技能を基に、応用発展に努めることができ、職場の即戦力としてより一歩踏み込んだ体験を積み、就業を見据えたスキルを身に付けることができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標**

・実習Ⅱの理解の状況　・車いす体験演習への参加状況　・実習Ⅰの経験を踏まえた調べ学習への取り組み
・主体的な実習先事前訪問　・実習生としての自覚　・実習医療機関での実務の経験の様子
・状況に応じたコミュニケーション対応の様子　・実習記録簿の記録と提出状況　・実習態度と勤務状況
・実習報告会での発表と参加　・今後に向けた自己目標　・提出物実習記録の内容　・主体的な礼状作成

**授業計画表**

| 実習名 | 概要 |
|---|---|
| 医療機関実習Ⅰ(基礎実習) | 実習前指導(2コマ)<br>1.実習Ⅱについて理解する　2.実習目標を立てる　3.車いすの体験演習<br>4.実習Ⅰでの経験を踏まえての検索学習(インターネット検索) |
| | 1.事務部門での実務経験<br>(1)事務部門での実務 … 病歴管理業務　医療情報管理　カルテ管理<br>(2)外来・病棟での事務業務 … クラーク業務　秘書業務　(3)安全対策についての理解<br>2.対人関係の実際<br>(1)患者の状況に応じてコミュニケーションの方法の選定<br>(2)患者の言動を確認しながらの対応　(3)電話対応　(4)得られた情報に対しての対応<br>3.患者の受診行動の支援についての経験<br>(1)初診受付ができる　(2)再診・再来受付ができる<br>(3)会計窓口の業務ができる　(4)入退院受付ができる<br>4.保険請求事務の実際<br>(1)診療明細書についての実務　(2)外来・入院用レセプトの作成<br>5.その他 … 各種伝票の作成 |
| | 実習後指導(2コマ)<br>1.実習報告会(個人発表)　2.礼状作成　3.実習報告書作成(データ提出) |

**単位の認定について**　実習前指導10点　本実習50点　記録内容・提出物30点　実習後指導10点

**参考書**　「医療秘書講座1～4」メヂカルフレンド社出版

**授業外学習について**　実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録の作成などは、実習期間を通して必ず行う。

**課題に対するフィードバックの方法**　実習後指導の中で、解説を行う。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 医療情報学（科目コード:TCMCL203） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　情報処理士(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 谷元　淳（実務家教員）（メールアドレス:a-tanimoto@mgjc.ac.jp） | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**医療現場における医療情報活用についての概要を学ぶ。また、医療秘書として、医療に関わる情報の取扱いについて知識を習得し、収集した情報を理解し、目的に応じて処理できるための能力を身に付ける。さらに、情報管理業務の中で、それらの能力を活かせるようイメージを持って学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・医療情報の役割を理解できる。
・病院情報システムについての知識を身に付けている。
・目的に応じて情報検索をすることができる。
・医療情報活用の展望についてまとめることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 医療情報学とは何か | 医療情報学の定義の理解<br>授業の目的と目標の説明 | 医療情報学の定義について復習する。（30 分） |
| 2 | 医療情報学とは何か | 医療情報学の意味と役割 | 医療情報学とは何か自分の言葉で述べられるように復習する。（30 分） |
| 3 | 医療情報の活用 | 医師や医療機関にとっての医療情報<br>診療プロセスへの関わり | インフォームドコンセント、守秘義務、情報倫理について、まとめる。（30 分） |
| 4 | 医療情報の活用 | 受診者から見た医療情報<br>患者意思決定への関わり | インフォームドコンセント、守秘義務、情報倫理について、まとめる。（30 分） |
| 5 | 病院情報システム 1 | 病院情報システムの概要<br>カルテと患者情報 | カルテ業務の内容について、予習をする。（30 分） |
| 6 | 病院情報システム 1 | インターネットとセキュリティ<br>安全管理に関するガイドライン | インターネットについて基礎的な事項を確認する。（30 分） |
| 7 | 病院情報システム 2 | 紙カルテ、電子カルテでの運用の実際<br>オーダリングシステムの概要 | 紙カルテ､電子カルテの違いについてまとめる。（30 分） |
| 8 | 病院情報システム 2 | 検査・看護・その他の部門システム | 病院システムについて調べ､実習先での経験をまとめる。（30 分） |
| 9 | 病院情報システム 3 | 医事会計システムの実際 | 病院システムについて調べ､実習先での経験をまとめる。（30 分） |
| 10 | 病院情報システム 3 | DPC コーディング | 指示された課題を行う。（30 分） |
| 11 | 病院情報システム 3 | 疾病分類 | 指示された課題を行う。（30 分） |
| 12 | 病院情報システム 3 | DPC データの 2 次活用 | 指示された課題を行う。（30 分） |
| 13 | 医療情報のこれから | 情報の収集と加工、活用、保存について<br>タブレット端末を利用(Excel、PowerPoint) | 医療情報に必要な用語をまとめる。(30 分) |
| 14 | 医療情報のこれから | 医療情報の標準化の動向<br>地域医療連携・遠隔医療システム | 医療情報に必要な用語をまとめる。(30 分) |
| 15 | まとめ | 15 回の授業のまとめを行う | 全授業についての要点をまとめ､復習を行う。（60 分） |

**単位の認定について**　評価は､「授業態度:20%　レポート課題:30%　記述試験:50%」で行う。
課題は各コマで指示し､レポート形式で提出する。

**教科書**　「医療秘書講座 4」 日本医師会編　メヂカルフレンド社

**参考書**

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※診療情報管理士としての勤務経験を持つ教員が、医療情報を目的に併せて情報収集し、分析結果を適切に送付・発信できるよう教授する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 医療秘書学概論(科目コード:TCMCL101) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　上級秘書士〈メディカル秘書〉(必修科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 黒野　伸子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科　1年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 医療秘書の職務や行動について理論的に理解し、専門的知識やスキルを駆使して、医療秘書業務を目的に沿って的確に処理する能力を習得する。また、医療機関実習Ⅰにおいて必要な医療機関の知識を学修する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
・医療機関組織について理解できる。
・医療秘書に必要な医学・看護の知識の必要性を理解できる。
・医療秘書業務の遂行のための知識やスキルについて、説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 医療秘書について学ぶべき課題を確認する。 | 教科書を読んでおく。（30分） |
| 2 | 医療秘書の歴史 | 秘書との関係性や医療秘書の出現について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 3 | 医療秘書とは | 医療秘書の役割について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 4 | 医療機関とは | 医療機関の組織や構成する医療専門資格者、医療機関の種類について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 5 | チーム医療・地域連携 | チーム医療の中での医療秘書や医療事務職者の立場について学ぶ。また、地域連携の中での医療秘書の必要性について考える。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 6 | クラーク業務との関係 | 医療秘書から派生する職務について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 7 | 医療事務との関係 | 医療秘書職と一般の医療事務職との違いについて考える。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 8 | 病院システム管理 | 診療情報管理について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 9 | 医療秘書の形態 | 秘書のサポート業務の概要を理解し、職種ごとの違いを学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 10 | 医療秘書の業務 | サポートする対象が違っても変わらない、医療秘書の大切な業務について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 11 | 業務に必要な資質・能力 | どのような資質と能力が必要なのか、グループワークを通して、意見の交換や討議を行う。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 12 | 実践に必要な技術 | マナーや立ち居振る舞いについて、現場を想定しながら考える。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 13 | 実践に必要な技術 | マナーや立ち居振る舞いについて、現場を想定しながら考える。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 14 | これからの医療秘書 | 医師事務作業補助者、治験業務、地域連携における医療秘書の役割を学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |
| 15 | まとめ | 学んだことについての確認を行う。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。（30分） |

**単位の認定について**　討議課題発表30%、研究課題レポート50%、確認小テスト10%、授業への取組10%の6割点で単位が認められる。

**教科書**　『最新医療秘書講座5　医療秘書概論・実務』(メヂカルフレンド社)

**参考書**　『現代医療秘書　役割と実務』(西文社)

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 医療秘書実務Ⅰ（科目コード：TCMCL201） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 節政 沙弥香(s-setsumasa@mgjc.ac.jp) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** 患者接遇の重要性を認識した上で、医療秘書業務を正しく遂行するために必要な知識・技能を修得する。
この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ |

**到達目標**①医療現場の仕事環境を説明できる。
②医療現場にふさわしい言葉で話すことができる。
③秘書実務に関してのケース問題に、正しい対応を説明できる。
④秘書業務の流れがわかり、秘書業務が実践できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 医療現場の理解 | 現場実習を振り返り、学ぶべき課題を確認する。 | テキストを読み、学び・発表の内容を把握する（60 分） |
| 2 | 医療現場の理解 | 研究課題の担当を決めて、発表の手順を説明する。聞き手が興味を持つ発表の仕方について考察する。 | 教科書ｐ.48～ｐ.129 を読み、質問事項を各章ごとに紙に書く（50 分） |
| 3 | プレゼンテーション技法 | 研究発表の仕方（プレゼンテーション設計・表現内容など）を学び、計画を立てる。 | 担当分野の発表をどのように準備するか、計画をシートに書く（40 分） |
| 4 | 職場でのマナーとコミュニケーション | 第１章　ｐ.48～　身だしなみ、挨拶<br>職場でのコミュニケーションと言葉遣い | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 5 | 接遇 | 第２章　ｐ.55～<br>接遇、医療機関での応対 | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 6 | 受付業務 | 第３章　ｐ.62～<br>受付業務の基本、受付の流れ | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 7 | 電話応対 | 第４章　ｐ.72～<br>電話の受け方、かけ方 | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 8 | スケジュール管理 | 第５章　ｐ.80～<br>スケジュール作成、アポの取り方と受け方 | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 9 | 会議 | 第６章　ｐ.91～<br>会議の準備、会議の種類 | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 10 | 文書作成 | 第７章　ｐ.99～<br>文書とは、　社内・社外・社交文書 | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 11 | 通信業務 | 第８章　ｐ.112～<br>郵便業務、秘文書 | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 12 | 文書管理 | 第９章　ｐ.123～<br>ファイリングの意義 | 担当者の発表をシートにまとめ、質問したことについては解説を書く（30 分） |
| 13 | 医療事務の心構えとマナー | 医療現場での接遇・コミュニケーション、身だしなみ、第一印象の重要性を理解する | 教科書ｐ.７ 理解度チェック２をシートにまとめる（30 分） |
| 14 | 好感・安心感を高めるコミュニケーション | 非言語メッセージの影響について考察する | 教科書ｐ.30 理解度チェック１．２の表現をシートに書いておく（30 分） |
| 15 | 好感・安心感を高めるコミュニケーション | 言語メッセージ役割について学ぶ | 教科書ｐ.33 ケース１．２の考察をまとめ、シートに書いておく（40 分） |

**単位の認定について**　研究課題発表評価 40%、課題シート提出評価 30%、発表･ロールプレイング評価 30%、の6割点で、単位が認められる。

**教科書**　１．『医療秘書講座４　医療秘書実務』（メヂカルフレンド社）
２．『医療事務スタッフのためのケアコミュニケーション』（ウイネット）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 医療秘書実務Ⅱ(科目コード:TCMCL202) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 節政 沙弥香(s-setsumasa@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：** 患者接遇の重要性を認識した上で、医療秘書業務を正しく遂行するために必要な知識・技能を修得することを目指す。アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ | |

**到達目標**①医療現場の仕事環境を説明できる。
②医療現場にふさわしい言葉で話すことができる。
③秘書実務に関してのケース問題に、正しい対応を説明できる。
④秘書業務の流れがわかり、秘書業務が実践できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 好感・安心感を高めるコミュニケーション | 受容と共感について理解する。 | 教科書ｐ.40、41 ケース１、２の考察をシートに書いておく（40 分） |
| 2 | 電話応対 | 電話の受け方をケースで学ぶ。 | 教科書ｐ.47、48 ケース１、２の考察をシートに書いておく（40 分） |
| 3 | 電話応対 | 電話のかけ方をケースで学ぶ | 教科書ｐ.50 演習のスクリプトをシートに書いておく（40 分） |
| 4 | 電話応対実践演習 | 電話応対をロールプレイで実践する。 | 伝言メモの書式をシートにまとめて、確認しておく（30 分） |
| 5 | 電話応対実践演習 | 電話の取り次ぎ・伝言について、ケースで確認する。 | 教科書ｐ.62 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 6 | 来客応対 | 来客応対の基本について理解を深める。 | 教科書ｐ.75 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 7 | 来客応対 | 来客の「見送り」について考察する。 | 教科書ｐ.82 ケース２の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 8 | 受付・会計窓口での応対 | 患者応対の基本と受付の仕方をケースで学ぶ。 | 教科書ｐ.92 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（40 分） |
| 9 | 受付・会計窓口での応対 | 会計応対の仕方をケースで学ぶ。 | 教科書ｐ.98、99 ケース１、２の考察をシートに書いておく（40 分） |
| 10 | 受付・会計窓口での応対 | 入退院の応対の仕方をケースで学ぶ。 | 教科書ｐ.108 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 11 | 苦情・クレーム対応 | 苦情・クレーム対応の基本を理解する。 | 教科書ｐ.115 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 12 | 苦情・クレーム対応 | 要求に応えられない場合のクレーム対応を理解する。 | 教科書ｐ.123 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 13 | チーム・コミュニケーション | 医師や看護師とのチーム・コミュニケーションをケースで学ぶ。 | 教科書ｐ.136 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 14 | 患者様の状況に応じた応対 | 高齢の患者・身体に障がいを持つ患者様への応対をケースで理解する。 | 教科書ｐ.149 ケース１の考察をまとめシートに書いておく（30 分） |
| 15 | 患者様の状況に応じた応対 | 小児患者の応対をケースで学ぶ。 | 課題シートを整理し見出しを付けファイルする（30 分） |

**単位の認定について**　発表・ロールプレイング評価 60%、ケーススタディの課題シート評価 30%、ファイリング評価 10%、の6割点で、単位が認められる。

**教科書**　１．『医療秘書講座４　医療秘書実務』（メヂカルフレンド社）
２．『医療事務スタッフのためのケアコミュニケーション』（ウイネット）

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 医療用語Ⅰ（科目コード:TCBMS107） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目）　上級秘書士〈メディカル秘書〉（必修科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 武村　順子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**大学で学ぶ医療専門的知識や技能を理解するための用語を理解し、チーム医療の一員として医療専門スタッフと連携がとれるよう医療知識を習得する。また、医療秘書認定試験に対応した知識を修得できるよう授業を進める。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**・医療に関する基礎知識を身につけ、口頭での質問に答えたり説明したりできる。
・検索学修を行い、出典や引用元を明示し成果をレポートにまとめることができる。
・調べたことをグループワークでの作業に活かすことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 医療機関について | 医療事務・医療秘書の職務について知る。<br>「医療法」定められた医療機関の種類について理解する。 | 病院と診療所の違いについて調べ、まとめる。(40 分) |
| 2 | 医療機関について | 医療機関の構造について理解する。 | 医療機関は、どのような部署から成り立っているのか、まとめる。(40 分) |
| 3 | 診療過程について | 診察技法の名称や内容､大枠での検査の種類や名称などを学ぶ。 | 診療支援、診察について調べまとめる。(40 分) |
| 4 | 診療過程について | 診察に用いられる反射の種類とその意味について学ぶ。 | 電子カルテの特徴や、法的保存期間について調べ､まとめる。(40 分) |
| 5 | 診療過程について | 放射線検査、臨床検査に用いられる検査を学ぶ。<br>病床区分、医療圏について学ぶ。 | 指示された事例の記録を行う。(40 分) |
| 6 | 診療過程について | 電子カルテの特徴を理解し､診療録に使われる用語を学ぶ。 | バイタルサインに含まれる項目について調べまとめる。（40 分） |
| 7 | 診療過程について | SOAP による記録法を理解し、事例について情報を整理し、記載の方法を学ぶ。 | 症状と検査について調べ、レポートにまとめる。(40 分) |
| 8 | 全身の症状についての理解 | バイタルサインの考え方を理解する。 | 症状と検査について調べ、レポートにまとめる。(40 分) |
| 9 | 疾患の理解のための用語 | 急性腹症の症例をもとに、医療用語を学ぶ。 | 指摘を受けた箇所の訂正や加筆を行いデータで提出する。(40 分) |
| 10 | 疾患の理解のための用語 | 急性腹症における症状や治療法について検索し､レポートにまとめる。 | 指示された問題を解く。(40 分) |
| 11 | 全身の症状・診察に使う用語 | 急性腹症について､他者に説明ができるよう､理解する。 | 指示された問題を解く。(40 分) |
| 12 | 全身の症状・診察に使う用語 | 急性腹症の患者の対応についてディスカッションをし、医療事務職者としての対応を考える。 | 病態生理について調べ、レポートにまとめる。(40 分) |
| 13 | 全身の症状・診察に使う用語 | 胸腹部、頭頸部についての医療用語を学ぶ。 | 頭頸部の解剖・眼の構造について調べレポートまとめる。(40 分) |
| 14 | 全身の症状・診察に使う用語 | 眼、精神症状についての医療用語を学ぶ。 | 精神科領域の疾病についてレポートにまとめる。（40 分） |
| 15 | まとめ | 認定試験過去問程度の問題を解き、習熟度の確認を行う。 | 授業資料をもとに、予習を行う。（40 分） |

**単位の認定について**　記述試験 50%　授業態度 20%※ファイルの綴じ方や授業内のメモも含む　レポート評価 30%
6 割点で単位が認められる。

**教科書**　「医療秘書講座３　医療にかかわる用語」メヂカルフレンド社出版　「医療事務のおしごと超入門」ぱる出版

**参考書**　「病院で受ける検査がわかる本」法研出版　「病院の言葉を分かりやすく」勁草書房出版

**授業外学習について**　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　　提出された課題は、チェック後に解説する。

※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 医療用語Ⅱ(科目コード:TCBMS108) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目) 上級秘書士〈メディカル秘書〉(必修科目) | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**医療用語Ⅰを踏まえ、大学で学ぶ専門的知識や技能を理解するための用語の理解力を深める。また、チーム医療の一員として医療専門スタッフと連携がとれるよう、更に、医療知識を習得する。医療秘書認定試験に対応した知識を修得できるよう授業を進める。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ | |

**到達目標：**・医療に関する基礎知識を身につけ、口頭での質問に答えたり説明したりできる。
・健康保険制度、介護保険制度、年金保険制度、公衆衛生の基礎知識を習得できる。
・検索学修を行い、出典や引用元を明示し成果をレポートにまとめることができる。
・調べたことをグループワークでの作業に活かすことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 疾患理解のための用語 | 精神科の症状・診察の用語について理解する。 | 病態生理について調べ、レポートにまとめる。(40分) |
| 2 | 疾患理解のための用語 | 周産期の異常やその防止対策について理解する。 | 病態生理について調べ、レポートにまとめる。(40分) |
| 3 | 疾患理解のための用語 | 腫瘍、創傷の症状・診察の用語について理解する。 | 褥創について調べ、レポートにまとめる。(40分) |
| 4 | 症状理解のための演習 | 体温・脈拍・血圧の計測、手指洗浄の演習を行う。 | 学ぶ目的や計測の必要性についてまとめる。(40分) |
| 5 | 医療職関連と医療制度の用語 | 医療機関の目的やそこで働く医療専門職について学び、医療制度に関連する用語について理解する。 | 関係する用語について、理解する。(40分) |
| 6 | 医療保険制度の用語 | 標榜診療科と疾患の関連について学ぶ。 | 家族、自分の健康保険について理解する。(40分) |
| 7 | 診療報酬制度の用語 | 保険者と被保険者、医療制度、医療保険、健康保険、後期高齢者医療制度、公費医療制度に関連する用語について理解する。 | 保険診療における診療報酬の流れについて調べる。(40分) |
| 8 | 介護保険制度の用語 | 介護保険制度の目的や構造について理解する。要介護の審査のしくみや介護施設に関連する用語について理解する。 | 特定疾患について調べレポートにまとめる。(40分) |
| 9 | 介護保険制度の用語 | 介護保険制度と医療保険制度の関連について理解する。 | 要介護の種類や状況について調べまとめる。(40分) |
| 10 | 患者支援のための演習 | 介護支援の用語について学ぶ。車イス支援の体験をする。 | 看護と介護の違いについての考えをまとめる。(40分) |
| 11 | 社会福祉の用語 | 社会福祉制度について理解する。日本における社会福祉制度の矛盾や問題について討議を行う。 | 社会福祉制度について調べまとめる。(40分) |
| 12 | 年金制度の用語 | 年金制度について理解する。 | 年金制度について調べまとめる。(40分) |
| 13 | 公衆衛生の用語 | 公衆衛生、疾病予防、食中毒、精神保健、環境に関連する用語について理解する。 | 公衆衛生の役割について調べまとめる。(40分) |
| 14 | 公衆衛生の用語 | 関係機関の機能について理解する。 | 関係機関について調べまとめる。(40分) |
| 15 | まとめ | 認定試験の過去問、練習問題を解き、習熟度の確認を行う。 | 授業資料をもとに、予習を行う。(40分) |

**単位の認定について** 記述試験50% 授業態度20%※ファイルの綴じ方や授業内のメモも含む レポート評価30%の6割点で単位が認められる。

**教科書** 「医療秘書講座3 医療にかかわる用語」メヂカルフレンド社 「医療事務のおしごと超入門」ぱる出版

**参考書** 「病院で受ける検査がわかる本」法研 「病院の言葉を分かりやすく」勁草書房

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　　提出された課題は、チェック後に解説する。
※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 介護報酬請求演習(科目コード:TCMCL213) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 介護事務資格 | | | | | | |
| 担当者 | 犬塚 三鈴（実務家教員）（メールアドレス:m-inuzuka@mgjc.ac.jp） | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**介護報酬のしくみを理解するとともに、介護報酬明細書（介護レセプト）を作成するまでの一連の事務処理を、実務演習を通して修得する。また、請求事務に係る帳票についても理解し医療機関、介護関連施設での事務業務に役立つようにする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ | |

**到達目標：**提供票から正確な介護レセプトを作成できる。
グループ内の他者と協力し、より正確なレセプトを作成できる。
レセプト作成に必要な知識を他者に説明できる。
条例改正に伴う作業の変更を正しく実行することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 介護報酬のなりたちと歴史 | 介護保険がなぜ必要になったか、まとめる。(60 分) |
| 2 | 介護保険制度 | 介護保険制度について概要を学ぶ。 | 介護保険の加入対象者を確認する。(60 分) |
| 3 | 介護サービスの種類 | 介護サービスの種類について学ぶ。 | 介護サービスの種類をノートにまとめる。(60 分) |
| 4 | 介護報酬のしくみ | 介護報酬のしくみとサービスコードの見方を学ぶ。 | サービスコードの引き方を復習する。(60 分) |
| 5 | 居宅サービスにおける介護レセプト作成 | 居宅サービスのレセプトを作成する。<br>訪問介護 | 練習問題を解きながら、居宅介護サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 6 | 居宅サービスにおける介護レセプト作成 | 居宅サービスのレセプトを作成する。<br>訪問リハビリ、通所介護 | 練習問題を解きながら、居宅介護サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 7 | 居宅サービスにおける介護レセプト作成 | 居宅サービスのレセプトを作成する。<br>短期入所療養介護 | 練習問題を解きながら、居宅介護サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 8 | 居宅サービスにおける介護レセプト作成 | 居宅サービスのレセプトを作成する。<br>短期入所生活介護 | 練習問題を解きながら、居宅介護サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 9 | 居宅サービスにおける介護レセプト作成 | 居宅サービスのレセプトを作成する。<br>居宅療養管理指導 | 練習問題を解きながら、居宅介護サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 10 | 施設サービスにおける介護レセプト作成 | 施設サービスのレセプトを作成する。<br>介護老人保健施設 | 練習問題を解きながら、施設サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 11 | 施設サービスにおける介護レセプト作成 | 施設サービスのレセプトを作成する。<br>介護老人福祉施設 | 練習問題を解きながら、施設サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 12 | 施設サービスにおける介護レセプト作成 | 施設サービスのレセプトを作成する。<br>介護医療院 | 練習問題を解きながら、施設サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 13 | 居宅介護支援における介護レセプト作成 | 居宅介護支援の介護報酬とレセプト | 練習問題を解きながら、施設サービス算定のルールを理解する。(60 分) |
| 14 | 総合練習 | まとめの問題を解く。 | 居宅、施設の総合問題を解き、正しい算定ができるか、確認する。(60 分) |
| 15 | まとめ | 科目のまとめ | 学修内容を復習する。(60 分) |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　授業内での確認テスト 50%　グループワークへの参加状況 20%　レポート課題の提出と内容 20%　授業への取り組み 10%

**教科書**　介護保険制度の理解（資格のキャリカレ）

参考書

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 解剖生理学Ⅰ（科目コード:TCBMS103） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 武村　順子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**解剖学では、ヒトのからだの形態とその組立て、各器官の正常な位置、形状、構造を理解する。生理学では、ヒトのからだの働き、正常な機能を理解する。人体を系統的に区別してこれらを熟知し、医療秘書に求められる医学の基礎知識を身につける。また、これらの基礎知識を、授業内でのディスカッションで深めるものとする。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**・系統別に分けられた内容を適切な解剖学用語を用いて説明できる。
・基本的な形態学的構造を図示できる。
・ディスカッションにおいて、解剖学用語を用い討論できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 人体の概観 | 人体各部の名称、体位を示す用語を理解する。 | 基本的な解剖学用語を覚える。（30 分） |
| 2 | 人体の概観 | 人体を構成する細胞、組織、器官、器官系について学ぶ。 | 人体を理解する上での基本単位を理解する。（30 分） |
| 3 | 人体の概観 | 安全に生命活動を維持する仕組みを学ぶ。 | 人体を理解する上での基本単位を理解する。（30 分） |
| 4 | 流動する物質<br>体液 | 主要な電解質、血液、リンパ液について、その成分や働きについて学ぶ。 | 血液の成分を覚え、役割を説明できる。<br>自分の一日の水分出納バランスを調べる。（60 分） |
| 5 | 流動する物質<br>体液 | 主要な電解質、血液、リンパ液について、その成分や働きについて学ぶ。 | 血液の成分を覚え、役割を説明できる。<br>自分の一日の水分出納バランスを調べる。（60 分） |
| 6 | 呼吸する仕組みと<br>生命活動 | 呼吸器系に属する肺およびその導管にあたる気道について、その構造と機能について学ぶ。 | 呼吸器系の各部位の名称と生理的役割を説明できるようにする。（60 分） |
| 7 | 呼吸する仕組みと<br>生命活動 | 呼吸の役割を理解し、呼吸の生理について学ぶ。 | 自分の呼吸運動について確認する。<br>（30 分） |
| 8 | 循環システム | 体循環と肺循環について理解する。<br>心臓の構造、機能を理解する。 | 心臓の構造を理解し、心臓に分布する血管や神経を説明できるようにする。<br>（60 分） |
| 9 | 循環システム | 血管の種類と構造、その分布、血液の循環について理解する。 | 血管の名称を覚え、血液の循環について説明できるようにする。（60 分） |
| 10 | 循環システム | 血圧の作用についての説明ができるよう理解する。 | 自分の血圧を調べる。（30 分） |
| 11 | 体温 | 体熱の産生･放散､体温調節のメカニズムを学ぶ。 | 体熱はどのように産生され、どのように放散されるかを理解し、体温調節の仕組みを説明できるようにする。（30 分）<br>自分の平熱（体温）を調べる。 |
| 12 | 食べて身体を構成し､エネルギーを出すしくみ | 消化吸収のメカニズムを理解する。<br>各器官、付属腺の構造、機能について学ぶ。 | 消化器系の解剖学用語を覚える。<br>消化・吸収について各器官の構造や特徴を踏まえ説明できるようにする。(60 分) |
| 13 | 食べて身体を構成し､エネルギーを出すしくみ | 消化吸収のメカニズムを理解する。<br>各器官、付属腺の構造、機能について学ぶ。 | 消化器系の解剖学用語を覚える。<br>消化・吸収について各器官の構造や特徴を踏まえ説明できるようにする。(60 分) |
| 14 | 老廃物を排泄し身体の中を浄化するしくみ | 体内に取り込まれた物質が体外に排出されるまでの循環の仕組みを学ぶ。<br>排泄にかかわる器官について学ぶ。 | 排泄の必要性と重要性についてまとめ説明できるようにする。（60 分） |
| 15 | まとめ | まとめとして確認を行う。 | まとめに対応できるように準備する。<br>（60 分） |

**単位の認定について**　記述試験 50%、授業態度およびディスカッションへの参加 30%、レポート課題 20%の 6 割点で単位が認められる。

**教科書 参考書**　「最新医療秘書講座」 日本医師会編　メヂカルフレンド社

**授業外学習について**　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 解剖生理学Ⅱ(科目コード:TCBMS104) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目) | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**解剖生理学Ⅰを踏まえ、解剖学では、ヒトのからだの形態とその組立て、各器官の正常な位置、形状、構造を理解する。生理学では、ヒトのからだの働き、正常な機能を理解する。人体を系統的に区別してこれらを熟知し、医療秘書に求められる医学の基礎知識を身につける。また、これらの基礎知識を授業内でのディスカッションで深めていく。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**・系統別に分けられた内容を適切な解剖学用語を用いて説明できる。
・基本的な形態学的構造を図示できる。
・ディスカッションにおいて、解剖学用語を用い討論できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 情報をキャッチする感覚器 | ヒトが活動するために必要な情報収集器官としての5種の感覚器の構造および機能を理解する。 | 皮膚と特殊感覚器について説明できるようにノートにまとめる。(60分) |
| 2 | 情報をキャッチする感覚器 | ヒトが活動するために必要な情報収集器官としての5種の感覚器の構造および機能を理解する。 | 皮膚と特殊感覚器について説明できるようにノートにまとめる。(60分) |
| 3 | 情報をキャッチする感覚器 | 収集した情報と神経系とのつながりについて理解する。 | 感覚がどのように伝わるかを説明できるようにする。(30分) |
| 4 | 考える・調整する神経系 | 中枢神経系：脳と脊髄の構造と機能を理解する。 | 中枢神経系に関する解剖学用語を覚え、刺激や情報を処理する役割を理解する。(30分) |
| 5 | 考える・調整する神経系 | 末梢神経系:脳神経、脊髄神経、自律神経の構造と機能、およびその分布について理解する。 | すべての脳神経と主要な神経の名称と役割を理解する。(30分) |
| 6 | 考える・調整する神経系 | 末梢神経系:脳神経、脊髄神経、自律神経の構造と機能、およびその分布について理解する。 | 自律神経とは何かを説明できるようにする。(30分) |
| 7 | 移動する・動く骨格系 | 骨の種類と特徴を把握する。 | 主な骨の名前を覚える(30分) |
| 8 | 移動する・動く骨格系 | 骨の構造、形状、骨がつくり替えられるプロセスについて学ぶ。 | 骨の役割について調べる。(30分) |
| 9 | 移動する・動く骨格系 | 骨の連結の仕方と関節のつくりについて学ぶ。 | 関節の役割を調べる。<br>自分の生活上の動きと関節の動き方について調べる。(30分) |
| 10 | 移動する・動く筋肉系 | 筋の名称、分類、神経支配、補助装置を学ぶ。 | 筋の名称と神経支配を覚える。(30分) |
| 11 | 移動する・動く筋肉系 | 筋がどのような働きをするか理解し、筋の刺激、興奮のメカニズムについて学ぶ。 | 骨格筋の収縮の仕組みを説明できるようにする。(30分) |
| 12 | 休息と睡眠 | 睡眠現象が起こる機序と生理的・精神的・心理的な意義について学ぶ。 | 生体にとって睡眠の重要性をまとめる。(30分) |
| 13 | 再生・修復<br>生殖・遺伝 | 傷ついた皮膚や粘膜の再生・修復のプロセスと、生殖器の機能を理解し生殖の生理について学ぶ。 | 皮膚の損傷修復の 3 つのステップについてまとめる。(30分)<br>男女生殖器の違いを理解し、生殖器系の役割を説明できるようにする。(30分) |
| 14 | 発達と成長、老化 | ヒトが誕生し生命活動が終わるまでの過程を理解する。 | 「尊厳死」についての書籍や雑誌等を読み考えをまとめる。(30分) |
| 15 | まとめ | まとめとして確認を行う。 | まとめに対応できるように準備する。(60分) |

**単位の認定について** 記述試験50%、授業態度およびディスカッションへの参加30%、レポート課題20%の6割点で単位が認められる。

**教科書 参考書** 「最新医療秘書講座」 日本医師会編 メヂカルフレンド社

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 看護概論(科目コード:TCBMS109) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 社会福祉主事任用資格(選択) | | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年生 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**個人の健康保持・増進の取組が、将来的に収益等を高める投資であると考え、 健康管理をマネジメント的視点から実践することの重要性を学ぶ。また、個人のヘルスマネジメント力の向上のために、看護の考え方や知識を習得し、自分を含めた「人」の支援について基本となる姿勢を学べるよう授業を展開する。この授業は、ビジネス系コース在籍者をも含めて広く開講している授業である。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①○ | Ⅱ② | Ⅲ | |

**到達目標：**
・健康経営と看護の概念についての関連を理解できる。
・自分の体調について説明することができ、セルフケアの重要性を理解できる。
・社会福祉の視点で、自分にどのような支援ができるのかを考え説明できる。
・グループの中で看護、健康、社会福祉といった観点で意見を述べることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康経営 | 健康経営の目的、目指しているものについて学ぶ。 | 自分や家族の健康についての疑問を考え、まとめる。（30 分） |
| 2 | 健康経営 | 健康経営銘柄、健康経営優良法人の取り組み事例から企業での取り組みについて学ぶ。 | 出された課題についてレポートにまとめる。（30 分） |
| 3 | 看護の本質 | ナイチンゲール的病気理解について学ぶ。看護のなすべきものについて理解する。 | 生命力の消耗となることがらについて考えまとめる。（30 分） |
| 4 | 看護の役割と機能 1 | 皮膚(清潔・スキンケアも含む)に関することについて学ぶ。企業が取り組む動向を知る。 | 清潔のケアがもたらす効果について考えまとめる。（30 分） |
| 5 | 看護の役割と機能 2 | ダイエット（食事、血液を含む）に関することについて学ぶ。企業が取り組む動向を知る。 | 自分の身体情報、体調から健康レベルの整理を行う。（30 分） |
| 6 | 看護の役割と機能 3 | 生理や月経前症候群 PMS（痛み、頭痛を含む）に関することについて学ぶ。企業が取り組む動向を知る。 | 自分の生理サイクルを記録し、体調との関係を探る。（30 分） |
| 7 | 看護の役割と機能 4 | 睡眠(休息を含む)について学び、セルフケアの実践体験を行う。企業が取り組む動向を知る。 | 1 週間の睡眠について記録する。（30 分） |
| 8 | 疾病の成立 1 | 悪性新生物（がんの正体）について学ぶ。 | 疾病との関連について調べまとめる。（30 分） |
| 9 | 疾病の成立 2 | 神経系疾患(脳の機能、迷走神経反射)について学ぶ。 | 疾病との関連について調べまとめる。（30 分） |
| 10 | 疾病の成立 3 | 腹部の疾患(便秘)について学び、セルフケアの実践体験を行う。企業が取り組む動向を知る。 | 1 週間の体調変化について記録する。（30 分） |
| 11 | 人間の理解 1 | メンタルケア(心身症、精神疾患を含む)について学ぶ。 | 心が原因となる身体の不調について調べまとめる。（30 分） |
| 12 | 人間の理解 2 | 死(安楽死、尊厳死、自殺幇助、自死)について学ぶ。 | ニュースなどで報道された事案を検索し、自分の考えをまとめる。（30 分） |
| 13 | 看護と社会福祉 1 | 社会的弱者と呼ばれる人たちへの支援のあり方を考え、セルフケア支援について学ぶ。 | 社会的弱者にはどのような人が含まれるのか調べまとめる。(30 分) |
| 14 | 看護と社会福祉 2 | 地域包括システム(介護、福祉、医療システムを含む)を始めとするや国の施策について学ぶ。 | SDGs の目標「すへての人に健康と福祉を」で解決できることは何かを考えてまとめる。（60 分） |
| 15 | まとめ | 看護的視点から自身や他者の健康管理についての考えをまとめる。 | 社会的弱者への支援に対する姿勢や考え方をまとめ、準備しておく。（60 分） |

**単位の認定について**　記述試験 50%　授業態度 20%　レポート類 20%　資料の管理 10%の 6 割点で単位が認められる。
**教科書**　授業内で資料を配布する。
**参考書**　「看護学概論」医学書院出版　「なぜ、どうして？　基礎看護」メディックメディア出版
「経営戦略としての健康経営」合同株式会社出版　「ナイチンゲールの看護覚え書」西東社出版
**授業外学習について**　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバック**　　提出された課題は、チェック後に解説する。
※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。
※この授業では、SDGs に関する内容を取り入れている。

| 授業科目名 | 患者論と医の倫理(科目コード:TCBMS202) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**患者の抱える問題を理解し、社会的、精神的に及ぼす影響を考え、患者と医師、患者と看護師、患者とその家族の橋渡しができるように学修することを目指す。また、倫理の本質を学び、医療に携わる職業人としての役割や社会的な使命を認識でき、現行の医療体制の問題や課題について深く考え、自分の見解を示すことができるよう授業を進める。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ | |

**到達目標：**
・患者の身体的、精神的苦痛を知り、患者の潜在的な悩みは何かを理解し説明できる。
・医療に携わる職業人として、患者の人権を守るための責務を、自分の言葉で表すことができる。
・医療専門分野の倫理要綱を理解し、事例などから自分の考えをまとめ、発表できる。
・グループで話しあうことで、自分の考えを深めることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 病気と医療の歴史 | 歴史の変遷を理解し、患者とは何かを考える。 | 医療倫理の歴史を調べまとめる。(40 分) |
| 2 | 患者の心理・権利 | ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言を学び、患者の権利の必要性を理解する。 | 倫理の基本となっている歴史的事実を調べ、ノートにまとめる。(40 分) |
| 3 | 患者の心理・権利 | 余命を宣告された患者の心理過程について事例から学ぶ。セカンドオピニオンについて、患者の権利の視点でディスカッションを行う。 | 死にゆく患者の心理過程を調べまとめる。(40 分) |
| 4 | 患者と社会との関係 | 患者と家族や職場、地域などの関係を学ぶ。患者になることで影響される「社会的活動」について、ディスカッションを行う。 | 患者になるということの社会的影響を考えまとめる。(40 分) |
| 5 | 患者と医療者との関係 | インフォームドコンセントをしっかり機能させることの重要性を学ぶ。糖尿病の事例について考え、ディスカッションを行う。 | 自分が患者となった場合のことを考えまとめる。(40 分) |
| 6 | 患者と医療者との関係 | 治療としてのメディカルケアの中にもセルフケアが重要であることを知る。患者がその役割を果たすための関わりについてディスカッションを行う。 | 患者の役割行動について考えまとめる。(40 分) |
| 7 | 終末期の患者ケア | 治療・ケアの場の違いによる患者像、緩和ケア、ターミナルケアについて、事例より学ぶ。人生最後の段階で、大切にしなくてはならないことは何なのか「人生会議」の模擬体験の後ディスカッションを行う。 | 積極的治療を行うことの弊害について調べまとめる。(40 分) |
| 8 | 倫理 4 原則 | アメリカ型やヨーロッパ型など、国や地域による考えの違いを学ぶ。また、日本の医療においても、医療機関の種類、診療領域の違いなどからくる倫理の問題について考えディスカッションを行う。 | 医療秘書(医療系事務職)として求められる倫理観について考えまとめる。(40 分) |
| 9 | 出生前診断・生殖補助医療の医療倫理 | 命の始まりに関わる倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。 | 出生前診断・生殖補助医療の医療倫理について調べ、まとめる。(40 分) |
| 10 | 遺伝子検査・治療の医療倫理 | 遺伝カウンセリングについて学び、倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。 | 現在実施されている遺伝子検査について調べまとめる。(40 分) |
| 11 | 再生医療の医療倫理 | 再生医療について学び、倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。 | 再生医療の種類について調べまとめる。(40 分) |
| 12 | 脳死・臓器移植の医療倫理 | 脳死、臓器移植について学び、倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。 | 脳死・臓器移植の医療倫理について調べまとめる。。(40 分) |
| 13 | 積極的安楽死・尊厳死・終末期における医療倫理 | 自殺幇助、慈悲殺、医療行為中止による患者の死について学び、ディスカッションを行う。 | 積極的安楽死・尊厳死、終末期における医療倫理について調べまとめる。。(40 分) |
| 14 | 災害時の医療倫理 | 災害医療においては、医療専門職のマネジメントが必要となること、また、DMAT には事務職人材もメンバ | 災害拠点病院、災害基幹病院について調べまとめる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ーとして加わることを知り、患者だけではなく医療サービス提供者も含む倫理について学ぶ。 | |
| 15 | まとめ | 医療に関わる職業人としての倫理的態度について、また、医療機関のあるべき姿を考える。 | 新聞やインターネットでの検索の結果などをレポートにまとめる。(40 分) |

**単位の認定について**　記述試験 50%　授業態度・発表 30%※ディスカッションへの参加についての評価を重視する
レポート・ノート 20%の 6 割点で単位が認められる。

**教科書**　「医療秘書講座 1　患者論と医の倫理」　メヂカルフレンド社

**参考書**　「看護学概論」医学書院出版、「看護倫理」医学書院出版、「社会福祉と権利擁護」NHK 出版、
「ケースブック医療倫理」医学書院出版　「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 企業実習Ⅰ（科目コード:TCBSC321） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 実践キャリア実務士（選択科目） ビジネス実務士（必修科目） 上級ビジネス実務士（選択科目）<br>プレゼンテーション実務士（選択科目） | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀 彩子　　河野 美香子（実務家教員）　　・実習先担当者 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 1 |

**実習の目的：** 実際に職場で就業体験することにより、高等教育での学習内容を深めるとともに、将来の進路選択の参考にすることを目的としている。

**授業概要：** インターンシップを通して、社会的自立や職業生活に必要な能力の育成を図り、日常の学修とは異なる一般社会からの気付きや新たな学びを促す。さらに、自らの専攻や将来希望する職業に関連した職場で業務を体験することを通じ、高等教育での学びと社会との関連性や課題を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、専門知識の有用性や職業自体について具体的に理解することを目指す。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標**

1．実社会における実際的な知識・技術を学ぶことができる。
2．大学での学びと職業を結びつけて考えることができる。
3．進路選択能力や働くことに対する望ましい見方・考え方ができる。
4．様々な世代の人たちとのコミュニケーション能力を高め、社会人としてのマナーを身につけることができる。

**授業計画表**

**概要**

実習前指導（2コマ）
1. インターンシップの意義について　2. インターンシップの実施について　3. インターンシップ終了後の活動内容について
4. ビジネスマナー研修　5. インターンシップノートの記入方法ならびに報告書の作成について
※ 1～5については、学内の前指導で実施。
※ インターンシップ先の登録については、前指導以前に宮崎県総合政策部フードビジネス推進課、宮崎県経営者協会の実施するインターンシップ募集に伴い、それぞれの募集要項に沿って決定する。
※ 前指導の一環として、宮崎コンソーシアム主催のインターンシップ研修会への参加も必須とする。

実習期間（12コマ）
1. 受入れ事業所で就業体験
前期終了後ならびに夏休み期間中に5日間以上の就業体験を実施。
2. 実習中の記録
日々の活動を記録し（インターンシップノート）、受け入れ事業所のインターンシップ担当者よりコメントを頂戴する。
3. 報告書の作成
実習終了後、1週間以内に、報告書を作成し（インターンシップノート）、担当教員に提出する。

実習後指導（1コマ）
1. 実習の報告
担当教員への報告書提出に際し、実習の報告を行う。
2. 実習についての振り返り

**単位の認定について**
・実習前指導（20%）、受け入れ企業からの評価（50%）、インターンシップノート（20%）、実習後指導（10%）

**参考書**
企業実習Ⅰ（インターンシップ）手引き

**授業外学習について**
業務上必要な知識の修得、受け入れ先企業の担当者からの指導に伴う学修、実習記録の作成等。

**課題に対するフィードバックの方法**
実習後指導の中で、個人面談を行い実習内容についての振り返りを行う。

【単位認定の詳細】
・実習前指導（20%）：学内外前指導、実習中の態度等　・受け入れ企業からの評価（50%）：実習先からの評価を点数化
・インターンシップノート（20%）：実習中の記録　・実習後指導（10%）：担当教員からの後指導、お礼状、報告書等
※一般企業での勤務経験のある教員や、実習先企業の担当者が、実社会における実際的な知識・技術を指導する。

| 授業科目名 | 企業実習Ⅱ(科目コード:TCBSC322) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀彩子　　河野　美香子(実務家教員)　・実習先担当者 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**実習の目的：**

実際に職場で就業体験することにより、高等教育での学習内容を深めるとともに、将来の進路選択の参考にすることを目的としている。

**授業概要：**

包括連携協定を通して学生が企業の就業に参加することで課題解決を図り、組織の構成員としての役割を理解し、適切な行動をとることができる実践的な人材に成長することを目指す。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**

1．実習先組織における個々の役割を理解し、役割に応じた行動をとることができる。
2．役割に応じた行動をとるために自己の目標を設定し、目標の達成を目指して実践することができる。

**授業計画表**

**概要**

実習前指導(2コマ)

1. インターンシップの意義について　2. インターンシップの実施について　3. インターンシップ終了後の活動内容について
4. 企業実習Ⅰの振り返り　5. ビジネスマナーの確認　6．企業研究　7．自己の目標設定
8．インターンシップノートの記入方法ならびに報告書の作成についての確認

※ 1～8については、学内の前指導で実施。

※ インターンシップ先については、宮崎商工会議所連合会の協力の下、決定する。

実習期間

1. 受入れ事業所で就業体験

前期終了後ならびに夏休み期間中に10日間以上の就業体験を実施。

2. 実習中の記録

日々の活動を記録し(インターンシップノート)、受け入れ事業所のインターンシップ担当者よりコメントを頂戴する。

3. 報告書の作成

実習終了後、1週間以内に、報告書を作成し(インターンシップノート)、担当教員に提出する。

実習後指導(1コマ)

1. 実習の報告

担当教員への報告書提出に際し、実習の報告を行う。

2. 実習についての振り返り

**単位の認定について**

実習前指導(20%)、受け入れ企業からの評価(50%)、インターンシップノート(20%)、実習後指導(10%)

**参考書**　企業実習Ⅱ（インターンシップ）手引き

**授業外学習について**

業務上必要な知識の修得、受け入れ先企業の担当者からの指導に伴う学修、実習記録の作成等。

**課題に対するフィードバックの方法**

実習後指導の中で、個人面談を行い実習内容についての振り返りを行う。

【単位認定の詳細】

・実習前指導(20%)　：　学内外前指導、実習中の態度等
・受け入れ企業からの評価(50%)　：　実習先からの評価を点数化
・インターンシップノート(20%)　：　実習中の記録
・実習後指導(10%)　：　担当教員からの後指導、お礼状、報告書等

※一般企業での勤務経験のある教員や、実習先企業の担当者が、実社会における実際的な知識・技術を指導する。

| 授業科目名 | 企業実習Ⅲ(科目コード:TCBSC) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀彩子　　河野美香子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**実習の目的：**

広い視野に立って、より具体的な社会的使命を持った即戦力人材として社会人スタートするために、就職内定企業とは違った業種、あるいは内定企業先で役だつスキル向上を目指しての現場体験を行う。

**授業概要：**

将来の宮崎を担う人材育成教育で包括的連携協定を結んでいる宮崎県中小企業家同友会と連携して、実習企業選定、実習内容・日程調整を行い実施する

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**

1．社会人基礎力を身に付け、即戦力人材として期待される資質も身に付ける。
2．役割に応じた行動をとるために自己の目標を設定し、目標の達成を目指して実践することができる。

**授業計画表**

**概要**

実習前指導(1コマ)

1. 現場実習の意義について
2. 実施計画作成
3. ビジネスマナーの確認
4. 企業研究
5. 自己の目標設定
6. 実習記録簿の記入方法ならびに報告書の作成についての確認

実習期間

1. 受入れ事業所で現場体験

参加学生の後期の空き曜日、午前午後の半日の空き曜日、土日等を利用して、10日間以上実施。

2. 実習中の記録

日々の活動を記録し、受け入れ事業所の実習担当者より、総合的に評価して頂く。

3. 報告書の作成

実習終了後、1週間以内に、報告書を作成し、担当教員に提出する。

実習後指導(1コマ)

1. 実習の報告

担当教員への報告書提出に際し、実習の報告を行う。

2. 実習についての振り返り

**単位の認定について**

実習前指導(5%)、受け入れ企業からの評価(70%)、実習記録簿(20%)、実習後指導(5%)

**参考書**　企業実習Ⅲ（現場実習）手引き

**授業外学習について**

業務上必要な知識の修得、受け入れ先企業の担当者からの指導に伴う学修、実習記録の作成等。

**課題に対するフィードバックの方法**

実習後指導の中で、個人面談を行い実習内容についての振り返りを行う。

※一般企業での勤務経験のある教員や、実習先企業の担当者が、実社会における実際的な知識・技術を指導する。

| 授業科目名 | 企業実習Ⅳ(科目コード:TCBSC) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀彩子　　河野美香子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**実習の目的：**

広い視野に立って、より具体的な社会的使命を持った即戦力人材として社会人スタートするために、就職内定企業とは違った業種、あるいは内定企業先で役だつスキル向上を目指しての現場体験を行う。

**授業概要：**

将来の宮崎を担う人材育成教育で包括的連携協定を結んでいる宮崎県中小企業家同友会と連携して、実習企業選定、実習内容・日程調整を行い実施する

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**

1．社会人基礎力を身に付け、即戦力人材として期待される資質も身に付ける。
2．役割に応じた行動をとるために自己の目標を設定し、目標の達成を目指して実践することができる。

**授業計画表**

**概要**

実習前指導(1コマ)

1. 現場実習の意義について
2. 実施計画作成
3. ビジネスマナーの確認
4. 企業研究
5. 自己の目標設定
6. 実習記録簿の記入方法ならびに報告書の作成についての確認

実習期間

1. 受入れ事業所で現場体験

参加学生の後期の空き曜日、午前午後の半日の空き曜日、土日等を利用して、10日間以上実施。

2. 実習中の記録

日々の活動を記録し、受け入れ事業所の実習担当者より、総合的に評価して頂く。

3. 報告書の作成

実習終了後、1週間以内に、報告書を作成し、担当教員に提出する。

実習後指導(1コマ)

1. 実習の報告

担当教員への報告書提出に際し、実習の報告を行う。

2. 実習についての振り返り

**単位の認定について**

実習前指導(5%)、受け入れ企業からの評価(70%)、実習記録簿(20%)、実習後指導5%)

**参考書**　企業実習Ⅲ（現場実習）手引き

**授業外学習について**

業務上必要な知識の修得、受け入れ先企業の担当者からの指導に伴う学修、実習記録の作成等。

**課題に対するフィードバックの方法**

実習後指導の中で、個人面談を行い実習内容についての振り返りを行う。

※一般企業での勤務経験のある教員や、実習先企業の担当者が、実社会における実際的な知識・技術を指導する。

| 授業科目名 | 企業実習Ⅴ(科目コード:TCBSC) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀彩子　河野美香子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 2 |

**実習の目的：**

広い視野に立って、より具体的な社会的使命を持った即戦力人材として社会人スタートするために、就職内定企業とは違った業種、あるいは内定企業先で役だつスキル向上を目指しての現場体験を行う。

**授業概要：**

将来の宮崎を担う人材育成教育で包括的連携協定を結んでいる宮崎県中小企業家同友会と連携して、実習企業選定、実習内容・日程調整を行い実施する

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**

1．社会人基礎力を身に付け、即戦力人材として期待される資質も身に付ける。
2．役割に応じた行動をとるために自己の目標を設定し、目標の達成を目指して実践することができる。

**授業計画表**

**概要**

実習前指導(1コマ)

1. 現場実習の意義について
2. 実施計画作成
3. ビジネスマナーの確認
4. 企業研究
5. 自己の目標設定
6. 実習記録簿の記入方法ならびに報告書の作成についての確認

実習期間

1. 受入れ事業所で現場体験

参加学生の後期の空き曜日、午前午後の半日の空き曜日、土日等を利用して、10日間以上実施。

2. 実習中の記録

日々の活動を記録し、受け入れ事業所の実習担当者より、総合的に評価して頂く。

3. 報告書の作成

実習終了後、1週間以内に、報告書を作成し、担当教員に提出する。

実習後指導(1コマ)

1. 実習の報告

担当教員への報告書提出に際し、実習の報告を行う。

2. 実習についての振り返り

**単位の認定について**

実習前指導(5%)、受け入れ企業からの評価(70%)、実習記録簿(20%)、実習後指導5%)

**参考書**　企業実習Ⅲ（現場実習）手引き

**授業外学習について**

業務上必要な知識の修得、受け入れ先企業の担当者からの指導に伴う学修、実習記録の作成等。

**課題に対するフィードバックの方法**

実習後指導の中で、個人面談を行い実習内容についての振り返りを行う。

※一般企業での勤務経験のある教員や、実習先企業の担当者が、実社会における実際的な知識・技術を指導する。

| 授業科目名 | 企業簿記Ｉa(科目コード:TCBSC106) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 簿記検定試験初級 | | | | | | |
| 担当者 | 鶴田 雄一　　y-tsuruta@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**複式簿記の基本的な仕組について理解するとともに、簿記一巡の概要及び手続きを演習を交えながら学習する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：**企業活動に伴う取引について記録・計算・整理するための仕訳・帳簿記入・決算手続・財務諸表作成までの一連の流れに関する知識と技術を身につけている。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>簿記とは | 企業経営活動に役立つ簿記の意味や必要性を学ぶ。簿記の目的、種類を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 2 | 資産、負債、資本と貸借対照表 | 資産、負債、資本の意味や内容を具体的に学ぶ。資本等式と貸借対照表等式を理解する。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 3 | 純利益の計算 | 貸借対照表の意味を学ぶ。財産法と純損益を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 4 | 貸借対照表作成 | 問題演習 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 5 | 収益と費用<br>損益計算書 | 収益や費用の意味を学ぶ。収益総額と費用総額を比較し純損益の算出方法を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 6 | 損益計算書作成 | 問題演習 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 7 | 取引、勘定 | 簿記上の取引、取引の８要素を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 8 | 取引要素の結合関係 | 取引要素と仕訳の関係について学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 9 | 仕訳 | 演習問題を解く。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 10 | 転記 | 転記の仕組み及び内容を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 11 | 仕訳帳とその記入法 | 主要簿としての仕訳帳の役割と記入法を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 12 | 総勘定元帳とその記入法 | 主要簿としての総勘定元帳の役割と記入法を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 13 | 試算表 | 仕訳帳の意味と役割を理解し、試算表の種類とそれぞれの作成方法を学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 14 | 簿記一巡の手続き | 簿記一巡の手続きを学ぶ。 | 毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだ内容の確認を行う。 | 検定試験合格に向けたまとめ。(30 分) |

**単位の認定について**　最終課題７０点、授業に取り組む意欲・姿勢１０点、課題・レポート・その他提出物２０点　６０点以上が合格。

**参考書**　３級簿記に対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、点検後に要点や必要事項を解説する。

| 授業科目名 | 企業簿記Ｉb(科目コード:TCBSC107) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 簿記検定試験３級 | | | | | | |
| 担当者 | 鶴田 雄一　　y-tsuruta@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**小規模企業における経理担当者として必要とされる簿記に関する基本的な知識･技術を身につける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ | |

**到達目標：**簿記に関する基本的な知識･技術を身につけ、経営活動に伴う各種取引を正確、明瞭に記録･計算･整理するための知識と技術を習得している。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 商品売買 | ３分法、掛取引、返品に関する記帳方法を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 2 | 現金預金、小口現金 | 現金、当座預金、当座借越、小口現金を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 3 | 約束手形 | 売買に関する約束手形の仕組や貸付・借入に関する記帳方法について学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 4 | 補助簿の作成(１) | 売掛金･買掛金元帳、商品有高帳等の作成方法を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 5 | 補助簿の作成(２) | 売掛金･買掛金元帳、商品有高帳等の作成方法を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 6 | 有形固定資産 | 有形固定資産の取得、売却、賃貸の仕訳を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 7 | その他の取引 | 仮払金、仮受金、未収入金、未払金、修繕、改良を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 8 | 給与、訂正仕訳 | 給与、訂正の仕訳を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 9 | 試算表 | 試算表の仕訳、作成方法を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 10 | 決算、決算整理 | 決算整理の意味、未処理事項の仕訳を学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 11 | 残高試算表 | 決算整理後残高試算表を学び作成をする。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 12 | 精算表 | 精算表を学び作成をする。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 13 | 締め切り | 帳簿、勘定の締め切りを学習する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 14 | 財務諸表の作成 | 貸借対照表と損益計算書を学び作成する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだ内容の確認を行う。 | まとめのプリント。(30 分) |

**単位の認定について**　最終課題７０点、授業への関心･意欲･態度１０点、課題・レポート・その他提出物２０点　６０点以上が合格。

**参考書**　３級簿記に対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、点検後に要点や必要事項を解説する。

| 授業科目名 | 企業簿記Ⅱa(科目コード:TCBSC208) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 簿記検定試験２級　工業簿記 | | | | | | |
| 担当者 | 鶴田 雄一　　y-tsuruta@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**生産活動に必要な材料・労務費・経費の内容とその取引を記録･計算･整理するための知識と技術を習得し、工業簿記ならず広く生産業の簿記の考え方及び技能を身につけ合理的な処理を行う態度を身につけることができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ | |

**到達目標：**
･費用分類や仕訳について理解し、元帳記入を適切に行うことができる。
･製品に至るまでの一連の振替を理解するとともに、原価計算表の仕組みを理解し記入することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>工業簿記とは | 企業簿記Ⅰ、及び商業簿記との違いについて理解し、工業簿記の流れを大局的に理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 2 | 工業簿記のアウトライン① | 材料、労務費、経費が投入され製品として完成に至るまでの各勘定の役割を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 3 | 工業簿記のアウトライン② | 材料、労務費、経費が投入され製品として完成に至るまでの各勘定の関係性についてＴフォームで理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 4 | 材料費会計 | 材料費の構成とその消費金額の算定方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 5 | 労務費会計 | 労務費の構成とその消費金額の算定方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 6 | 経費 | 経費の構成とその消費金額の算定方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 7 | 製造間接費 | 製造間接費の役割とその消費金額の算定方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 8 | 総合演習 | これまでに学習した内容についてまとめを行い、大まかな流れについて理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 9 | 個別原価計算① | 原価計算表の内容とその計算方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 10 | 個別原価計算② | 材料・労務費・経費の投入から製品販売に至るまでの一連の仕訳処理及び勘定記入ができる。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 11 | 総合原価計算① | 材料費と加工費の概念を理解するとともに、総合原価計算の体系について理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 12 | 総合原価計算② | 平均法･先入先出法による仕掛品勘定の処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 13 | 総合原価計算③ | 単純総合原価計算の処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 14 | 工業簿記における<br>簿記一巡の手続き | 簿記一巡の手続きを学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだ事柄の確認を行う。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |

**単位の認定について**　最終課題７０点、授業への関心･意欲･態度１０点、課題・レポート・その他提出物２０点
６０点以上が合格。

**参考書**　２級工業簿記に対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、点検後に要点や必要事項を解説する。

| 授業科目名 | 企業簿記Ⅱb(科目コード:TCBSC209) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 簿記検定試験２級　商業簿記 | | | | | | |
| 担当者 | 鶴田 雄一　　y-tsuruta@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**株式会社の経営活動に伴う取引を記録・計算・整理するための知識と技術を習得し、複式簿記システムの原理と帳簿実践の原理を理解するとともに、合理的な会計処理を行う態度を身につける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ | |

**到達目標：**・即戦力として、必要なビジネスに直結した知識・能力を身につけ、帳簿記入ができる。
・株式会社の簿記に関する基本的な知識・技術を身につけ、経営分析に活かすことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 企業簿記Ⅰで学習した内容を振り返るとともに、この科目で学習する概要を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 2 | 商品売買① | 売上原価対立法に関する仕訳を理解するとともに、移動平均法による商品有高帳の記帳方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 3 | 商品売買② | 仕入諸掛や値引き、クレジット売掛金、他店商品券等の商品売買の処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 4 | 当座預金とその他の預金 | 当座借越と当座勘定の仕組みを理解するとともに外貨預金についてその処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 5 | 手形等の処理① | 手形の割引・裏書き・更改・不渡りに関する処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 6 | 手形等の処理② | 手形記入帳の記載方法を理解するとともに、電子記録債権・電子記録債務の処理方法について理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 7 | 有価証券 | 売買目的有価証券の評価替えの意味、及びその処理方法について理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 8 | 固定資産 | 企業簿記Iの復習と建物の建設時や期中売却についての処理方法について理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 9 | 引当金 | 貸倒引当金の復習を行い、修繕引当金、賞与引当金等の処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 10 | 株式の発行 | 株式会社の資本構成、及び株式発行、剰余金の配当についての処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 11 | 決算① | 売上原価の算定と損益勘定について復習を行い、期末商品の処理方法について理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 12 | 決算② | 収益・費用の見越し・繰延べ、及び決算整理における処理方法を理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 13 | 決算③ | 株式会社の財務諸表の仕組み及び処理方法について理解する。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 14 | 簿記一巡の手続き | 簿記一巡の手続きを学ぶ。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだ内容の確認を行う。 | 授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30 分) |

**単位の認定について**　最終課題７０点、授業への関心・意欲・態度１０点、課題・レポート・その他提出物２０点　６０点以上が合格。
**参考書**　２級商業簿記に対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、点検後に要点や必要事項を解説する。

| 授業科目名 | 基礎経済(科目コード:TCBSC124) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 実践キャリア実務士、上級ビジネス実務士に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**ミクロ経済:家計の消費活動や企業の生産活動といった個別経済を分析し、市場を通じて財の配分や価格決定がどのように調整されているかを考察する学問。
マクロ経済:国家や国民、市場といった大きな視点から経済のメカニズムを研究する学問。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**経済学はミクロ経済とマクロ経済に分類される。
ミクロ経済においては、家計、企業、それらが経済的な取引を行う市場をその分析対象とし、世の中に存在する希少な資源配分について理解する。
マクロ経済においては、一国の経済全体にかかわる事象について理解する。
毎回の授業において、公務員試験や一般常識問題を中心に演習を行う。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 経済学のはじまりについて理解する。 | ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 2 | 需要と供給 | 需要と供給について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 3 | 家計の行動 | 無差別曲線と予算線、上級財と下級財、所得効果ついて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 4 | 企業の行動 | 費用と収入、損益分岐点と操業停止点について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。。(30 分) |
| 5 | ゲーム理論 | 囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、パレート最適について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 6 | パレート最適 | エッジワースボックス、パレート最適とパレート改善、社会厚生水準と比較について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 7 | 余剰 | 総余剰、課税の場合、厚生の損失について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 8 | ミクロ経済演習 | ミクロ経済の問題を解くことにより理解を深める。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 9 | 比較優位論 | 交易条件ついて考察する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 10 | GDPと三面等価の原則 | GDP とGNPの概念、三面等価の原則について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 11 | 経済成長と景気循環 | ＧＤＰと経済成長率、景気循環の波、インフレーションとデフレーションについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 12 | 財政政策と金融政策 | に財政政策と金融政策、貨幣市場、貨幣需要と貨幣供給、日銀による金融政策ついて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 13 | ＩＳＬＭ曲線 | 財市場と貨幣市場、クラウディング・アウト、流動性のわなについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 14 | 貿易と海外投資 | 国際収支と経常収支、変動相場制下の貿易収支の不均衡是正、為替レートと金利の関係について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |
| 15 | マクロ経済演習 | マクロ経済の問題を解くことにより理解を深める。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。(30 分) |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度(30%)　学期末テスト(70%)
**教科書**　授業内で指定する。
**参考書**　授業内で指定する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 経営学総論(科目コード:TCBSC220) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士(必修) | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**本講義では、経営、企業、組織といった概念の理解や仕組みについて学習する。また、経営学を体系的に理解するために、経営管理や経営戦略の変遷等についても学ぶ。これらの知識を基に、組織で働く上で、様々な経営事象を捉えられる経営学的視点を養うことを目的とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**・経営学に関わる基本的な用語(経営学、会社、組織形態、経営戦略など)を説明できる。
・経営学の概念や株式会社をはじめとする会社の種類と特徴について解説できる。
・経営管理や経営戦略の変遷を理解し説明できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 経営学の考え方を学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 2 | 企業論 | 企業形態論、所有と経営の分離コーポレート・ガバナンスについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 3 | 経営管理論(1) | 伝統的管理論と人間関係論について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 4 | 経営管理論(2) | 行動科学的モチベーションと近代組織論について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 5 | 経営組織論(1) | 経営組織の基本構造と形態について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 6 | 経営組織論(2) | 組織設計の理論について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 7 | 経営戦略論(1) | 経営戦略の定義・構造・展開のための資源獲得、企業戦略について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 8 | 経営戦略論(2) | 多角化戦略について学習する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 9 | 経営戦略論(3) | 競争戦略について学習する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 10 | M&Aと買収防衛策 | 水平的・垂直的・コングロマリット的 M&A について理解する。M&A の買収防衛策について学ぶ | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 11 | 企業のグローバリゼーション | 国際化とグローバリゼーションの違いについて理解する。多国籍企業、EPRG プロフィール、ハイブリッド経営、異文化経営について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 12 | 企業経営と情報化 | コンピュータとインターネットの出現が企業経営にどのようなインパクトを与えてきているか理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 13 | 企業の社会的責任と企業倫理 | 企業の社会的責任と企業倫理について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 14 | 経営環境 | 環境マネジメント技術、環境パフォーマンスについて学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 15 | まとめ | 授業内で学んだ内容の振り返り。 | 振り返りをする。(30 分) |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度（15%）小テスト(15%)　学期末テスト（70%）

**教科書**　授業内で指定する。

**参考書**　授業内で指定する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 健康と疾病(科目コード:TCBMS201) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目)　上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目)<br>社会福祉主事任用資格(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**健康とは何かを考え、健康維持増進のための政策や取り組みについて学ぶ。また、日本社会の疾病構造から、生活環境や社会環境の変化による人体への影響やライフサイクルの各ステージにおける健康障害について理解し、それらを支援する仕組みを知る。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ○ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**・健康とは何かを説明できる。
・身体の正常、異常の判定基準を具体的に説明ができる。
・疾病成立についてレポートにまとめることができる。
・健康維持増進のための政策や社会の取り組みを理解し説明ができる。
・公衆衛生や疫学についての理解を深め説明ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康概念の歴史的変遷 | 健康とは何か、健康の定義から基礎知識を学ぶ。<br>健康政策や疾病の歴史について学ぶ。 | 自分の言葉で考えや説明ができるようにする。(30分) |
| 2 | 健康政策 | 健康の維持増進、国民の健康づくり推進プログラムを学び、一次予防、二次予防について理解する。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 3 | 健康政策 | 健康づくり推進についての指標を理解する。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 4 | 疾病の基準 | 検査値の見方や考え方について学ぶ。 | 指示された練習問題を行う。(30分) |
| 5 | 疾病の理解(糖尿病) | 生活習慣と疾病の関係、合併症による障害を学ぶ。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 6 | 疾病の理解(感染症) | 感染症の成立と、疾病の診断と治療の基礎知識を学ぶ。病原微生物、寄生虫及び有害動物と疾病の関わりを学ぶ。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 7 | 疾病の理解(免疫) | 免疫の仕組みとその異常について学ぶ。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 8 | 疾病の理解(職業性疾患) | 身近な環境因子と疾病のつながりを学ぶ。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 9 | 障害とは何か | 障害者の捉え方とＩＣＦについて理解し、福祉について学ぶ。リハビリテーションについて学ぶ。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 10 | 障害の理解(難病) | 難病について理解し、医療費助成との関連を学ぶ。 | 指示された課題について調べ、まとめる。(30分) |
| 11 | 精神保健(精神疾患) | 精神保健活動について学ぶ。<br>医療との関わりについてディスカッションを行う。 | 具体的な活動について調べまとめる。(30分) |
| 12 | 成人保健・高齢者保健 | 成人保健・高齢者保健活動について学ぶ。<br>医療との関わりについてディスカッションを行う。 | 具体的な活動について調べまとめる。(30分) |
| 13 | 学校保健・母子保健 | 学校保健・母子保健活動について学ぶ。<br>医療との関わりについてディスカッションを行う。 | 具体的な活動について調べまとめる。(30分) |
| 14 | 地域保健・産業保健 | 地域保健・産業保健活動について学ぶ<br>医療との関わりについてディスカッションを行う。 | 具体的な活動について調べまとめる。(30分) |
| 15 | まとめ | 健康と疾病について考え、まとめる。<br>医療秘書認定試験レベルの問題を解く。 | 自分たちの立場で、できることは何かを考える。(30分) |

**単位の認定について**　記述試験50%　授業態度20%　レポート類30%の6割点で単位が認められる。
**教科書**　「医療秘書講座1　健康と疾病」メヂカルフレンド社
**参考書**　「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会　「公衆衛生が見える」メディックメディア出版
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 現代ビジネス論(科目コード:TCBSC115) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | ビジネス実務士(選択科目)　上級ビジネス実務士(必修科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 河野 美香子（実務家教員） | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**第四次産業革命と言われる現代、あるいは地域創生が叫ばれる時代、そしてグローバル化や技術革新がより一層進む時代など、ビジネスに関する諸課題を深く考え、課題解決をはかろうとする態度と意欲を育成する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ①宮崎の産業、グローカルビジネス、地域振興とビジネスの関係を理解し、発展的な方策を考えることができる。
②現代社会の課題、技術革新による社会の変化に応じたビジネスのあり方を考えることができる。
③仕事をとおして自己実現することの意義を見つめ、実践できるスキルを身につける。

**授　業　計　画　表**

| 回 | トピック名 | 概　　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 学習内容、学び方を理解し、ビジネスに関する諸情勢を深く考え、探求しようとする姿勢を持つ。 | 宮崎の産業について調べる。(30 分) |
| 2 | 宮崎の産業とビジネス① | 宮崎の産業構造及びビジネスの特徴を知る。 | 特色ある地元企業について調べる。(30 分) |
| 3 | 宮崎の産業とビジネス② | 宮崎の産業を支える地元企業及びビジネス展開の特長や強みを探求する。(グループワークを行い発表する。) | 宮崎県内の輸出品目について調べる。(30 分) |
| 4 | グローカルビジネスの展望① | 地方に居てもビジネスフィールドを世界に広げ、グローバルなビジネス展開をすることのできるグロ-カルビジネスの可能性と将来性を考える。 | 全国のグローカルビジネスの実態を調査する。(30 分) |
| 5 | グローカルビジネスの展望② | グローカルビジネスの先進事例を知り、新たなグローカルビジネス展開を創造する視点を学ぶ。(グループワークを行い発表する。) | 地場産品の商品開発に成功している事例を調べる。(30 分) |
| 6 | 地域振興とビジネス① | 地域振興をはかる人々の様々な取組と地域の特性を生かした商品開発などの地域振興ビジネスの課題と将来性について考える。 | 全国の地域創生の取組について調べる。(30 分) |
| 7 | 地域振興とビジネス② | 地域の特産物や地域の観光資源等を生かした商品開発の成功例を知り、地域振興に繋がるビジネス展開のあり方を考察する。(グループワークを行い発表する。) | 現代社会の課題を5つ述べることができるように調査する。(30 分) |
| 8 | 現代社会の課題とビジネスチャンス① | 社会の課題はビジネスチャンスであり、社会的ニーズが隠れていることを知り、ビジネスの視点で、現代社会の課題解決を考える。 | 社会的な課題をビジネスチャンスと捉えて成功した事例を調査する。(30 分) |
| 9 | 現代社会の課題とビジネスチャンス② | 社会的な課題をビジネスのビッグチャンスに変えた事例を知り、地域の課題をビジネスチャンスの視点で考察する。(グループワークを行い発表する。) | 将来消えていく仕事はどのような仕事かをレポートにまとめる。(60 分) |
| 10 | 技術革新とビジネスの変容とその展望① | 技術革新により、これまでに存在しなかったビジネスが生まれ、職業や仕事が生まれるとともに、多くの仕事がなくなっていく。技術革新とビジネスの変容や今後の展望を考える。 | 本格的なAI時代とはどのような時代かをレポートにまとめる。(60 分) |
| 11 | 技術革新とビジネスの変容とその展望② | 本格的なAI時代を逞しく生きるビジネスワークを考える。(グループワークを行い発表する。) | 仕事で自己実現するとはどのようなことかを発表できるようしておく。(30 分) |
| 12 | ビジネス実践と自己実現 | 社会人としてのビジネス実践を通しての自己実現のあり方を探求する。 | 自分でやってみたい起業について考えておく。(30 分) |
| 13 | スモールビジネスと女性起業家 | 地域や時代、趣味趣向のニーズを生かしたスモールビジネス展開を女性の起業について学ぶ。 | 新聞や雑誌等でよく見かけるビジネス用語について検索をする。(30 分) |
| 14 | ビジネス新用語にみる現代ビジネス動向 | 現代ビジネスの新用語について理解し、現代ビジネス動向を知る。 | まとめのレポートを作成しデータ提出を行う。(60 分) |
| 15 | 今後のビジネス展望 | これまで学修した事項をもとに、自身の今後のビジネス展望を考察する。 | 振り返りをする。(30 分) |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度（20%）　課題等の提出（30%）　学期末テスト（50%）
**教科書　参考書**
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出物は、チェックを行い、解説の後に点数化し返却する。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。
※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（項目を入れて）取り入れます。

| 授業科目名 | 子どもと絵本Ⅰ（科目コード:TNPBA101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 認定絵本士（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 後藤祐子　髙妻弘子　佐藤由紀枝（メールアドレス:y-satou@mgjc.ac.jp）<br>田川一希（メールアドレス:ktagawa@edu.miyazaki-mic.ac.jp）　松木以喜子　木村浩子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 後藤祐子・髙妻弘子:火曜日の放課後　それ以外の教員:授業終了時 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年<br>現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**絵本に関する高度な知識・技能・感性を持ち、絵本を使ってその魅力や可能性を伝え、様々な場面で子ども達の豊かな読書活動推進の担い手として活動できる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ |

**到達目標：**
・絵本に関する基礎的な知識を身につけ、子どもの発達と絵本との関わりの特性について説明することができる。
・さまざまな絵本と接し、各ジャンルの絵本の特性について説明することができる。
・実際の書店において、どのように絵本が展示・流通されているのかを理解できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ・日本の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する<br>・受講生同士の相互理解を深めるとともに、認定絵本士の役割について確認する。 | 事前にシラバスを確認し、授業目標と科目の内容を把握する。授業後は授業内容を再確認し、読書推進活動に関する施策について復習する。(60分) |
| 2 | 絵本総論<br>(絵本とは何か) | ・「絵本」をめぐる行為について理解する<br>・「絵本」の定義の捉え方について理解する<br>・「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する | 好きな絵本を書き出し、絵本と自信のエピソードについてレポートを作成する。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 3 | 絵本各論①<br>(絵本の歴史、絵本賞について) | ・世界の絵本の歴史について理解する<br>・日本の絵本の歴史について理解する<br>・絵本賞について理解する | 絵本賞の受賞作を最低5作品読み、うち1つの感想文を作成する。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 4 | 絵本各論②<br>(視覚表現、言語表現から見た絵本) | ・絵本の視覚表現特性について理解する<br>・絵本の言語表現特性について理解する | テキストを読んで絵本の視覚表現及び言語表現の特性について事前に学習する。授業後は、本課で学んだ特性について整理し、自分の言葉で説明できるようにする。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 5 | 絵本各論③<br>(子供の知的・社会的発達と絵本との関わり) | ・各年齢期の子供の発達と絵本との関わりの特性について理解する<br>・絵本が子供の発達に及ぼす影響に関する学術的知見を理解する | 佐々木宏子の参考文献を参照し、佐々木氏が行った追跡調査について調べ、発達と絵本との関わりについて理解する。(60分) |
| 6 | 絵本各論④<br>(メディアとしての絵本の位置づけ) | ・情報メディアとしての絵本の特性について理解する<br>・絵本と著作権との関係について理解する<br>・電子書籍と子供の脳の関係について理解する | 事前にテキストに示された参考文献等を参照し、著作権について理解する。(60分)<br>【事後課題有り】 |
| 7 | さまざまなジャンルの絵本①<br>(物語の絵本) | ・物語を内容とした絵本の特性について理解する<br>・絵本における絵と言葉で語る技法を体得する | 物語絵本の歴史・特性について理解し、テキストに紹介されている絵本を実際に読みなぜその内容を絵本で表現しているのか考える。(60分) |
| 8 | さまざまなジャンルの絵本②<br>(昔話、童話を基にした絵本) | ・昔話及び童話を題材にした絵本の特性について理解する<br>・昔話及び童話を題材にした絵本における再話や絵本の質のあり方について理解する | 昔話と童話の違いについて事前に学習する。(60分) |
| 9 | さまざまなジャンルの絵本③<br>(科学絵本等) | ・自然科学・社会科学に関する絵本の特性について理解する<br>・科学絵本等の活用方法について理解する | 本課で紹介した絵本を実際に読み、自分が子どもに紹介したい絵本を探す。(60分) |
| 10 | 絵本と出会う①<br>(はじめての絵本との出会い) | ・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する<br>・乳幼児が絵本に触れるための具体的取組について理解する | 授業で学んだあかちゃん絵本の特徴について自分の言葉で説明できるようにする。(60分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 | 絵本と出会う②<br>(保育・教育の場での出会い) | ・保育・教育の場における絵本の意義について理解する<br>・保育・教育の場における絵本を用いた活動の具体的取り組みについて理解する | 幼稚園教育要領や保育所指針等で示されている領域「言葉」について事前に学習する。(60 分) |
| 12 | 絵本と出会う③<br>(図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～) | ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する<br>・地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する | 宮崎県生涯読書活動推進計画や県内市町村の子ども読書活動推進計画について調べる。(60 分) |
| 13 | 絵本と出会う④<br>(書店での出会い) | ・書店における絵本の売り場づくりの特性について理解する<br>・絵本の流通について理解する | 実際の書店での学びをレポートにまとめる。(60 分) |
| 14 | 絵本の世界を広げる技術①<br>(絵本を探す技術) | ・絵本を探す多様な手段(情報源)とキーワード(テーマや登場人物等)について理解する<br>・絵本検索に係る各手段の活用方法を体得する | 絵本のストーリーレファレンスを実践する。(60 分) |
| 15 | 絵本の世界を広げる技術②<br>(ワークショップ) | ・絵本を活用した表現活動について理解する<br>・絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する | モダンテクニックを活用した絵本を読み、自由な表現方法について自分の考えをまとめる。(60 分)<br>【事後課題有り】 |

**単位の認定について**　レポート 70%、ワークシートの記入状況 30%

**教科書**　『認定絵本士養成講座テキスト』
絵本専門士委員会　独立行政法人国立青少年教育振興機構発行　2020　中央法規出版株式会社

**参考書**

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

【留意事項】

・単位認定については本学が定める出席回数、及び課されたレポート内容の評価、及びワークシートの記入状況によって認定されるものとする。

・認定絵本士の資格取得には、8 割以上出席することが求められる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

| 授業科目名 | 子どもと絵本Ⅱ（科目コード:TNPBA102） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 認定絵本士（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 後藤祐子　泰田久史　佐藤 由紀枝（メールアドレス:y-satou@mgjc.ac.jp）<br>松木 以喜子　木村 浩子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 後藤祐子・泰田久史:火曜日の放課後　それ以外の教員:授業終了時 | | | | | | |
| 授業対象 | 保育科１年<br>現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**絵本に関する高度な知識・技能・感性を身につけ、絵本を使ってその魅力や可能性を伝えることができる。様々な場面で子ども達の豊かな読書活動推進の担い手として活動できる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ |

**到達目標：**
・相談者に対して、様々な要望に応じた絵本を提案することができる。
・おはなし会の作成・運営について理解し、必要なテクニックを身につけることができる。
・絵本がうまれるまでの過程を理解し、様々な角度から絵本を見つめ、絵本の本質を理解できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 絵本の世界を広げる技術③<br>（絵本コンシェルジュ術） | ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する<br>・絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する | 授業で得た絵本コンシェルジュとして必要な知識・スキルを復習する。（60 分） |
| 2 | 絵本を紹介する技術①<br>（ブックトークの技術） | ・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する<br>・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する | 自分が紹介したい絵本を選び、その魅力が伝わる絵本の紹介文を作成する。（60 分）<br>【事前課題有り】 |
| 3 | 絵本を紹介する技術②<br>（書評・紹介文の書き方） | ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する<br>・書評及び紹介文の書き方を体得する | 本課で学んだことを整理し、書評・紹介文の書き方について理解を深める。（60 分） |
| 4 | 絵本を紹介する技術③<br>（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割） | ・障がい者、病児及び高齢者等、絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を要する人について理解する<br>・上記各者に対する絵本の役割や効果について理解する<br>・上記各者に対する適切な絵本選びと絵本の紹介方法を体得する | 様々な支援を必要とする人への絵本の役割について、授業で学んだことを踏まえて、自分の考える絵本の重要性についてレポートを作成する。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 5 | おはなし会の手法①<br>（おはなし会を開こう） | ・「おはなし会」について理解する<br>・「おはなし会」のプログラム作成及び運営に係る手法を体得する | おはなし会で読みたい絵本をジャンルの違うものを 2 冊以上選書し、講義の際に持参する。（60 分）<br>【事前課題有り】 |
| 6 | おはなし会の手法②<br>（おはなし会のテクニック） | ・「おはなし会」のテクニックについて理解する<br>・「おはなし会」のテクニックを体得する | 本課で学んだことを踏まえ、実際のおはなし会を見学する。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 7 | 絵本の持つ力<br>（さまざまな角度から絵本を見る） | ・絵本の持つ可能性及び相反する力について理解する<br>・絵本が子ども達に与える影響について多面的な視野から見つめることにより、批評力を体得する | 絵本＝絵+言葉+（　）に入る言葉は何か現時点での自身の考えをまとめる。（60 分） |
| 8 | 心に寄り添う絵本<br>（心のケアと絵本の可能性） | ・心のケアが求められている場面や場所における絵本活用の可能性について理解する | テキストに示された絵本の特徴を理解し、実際に読んでみる。（60 分） |
| 9 | 絵本のある空間<br>（絵本のある望ましい空間とは） | ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する | 宮崎県内にある図書館などの図書関連施設において、特徴のある空間を調べる。（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 | 子供の心をとらえるもの<br>（子供の心をとらえて離さないもの） | ・子ども達の興味について理解する<br>・絵本以外のメディアを知る | 本課で紹介する事例を見て、自身が感じたものをレポートにまとめる。（60 分） |
| 11 | 大人の心を豊かにする絵本<br>（人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を） | ・絵本が大人に与える影響について理解する | 宮崎県内で行われている絵本に関するイベントをまとめる。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 12 | ホスピタリティに学ぶ<br>（人を楽しませる為の手法を学ぼう） | ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する | 授業で紹介された様々なホスピタリティや読み聞かせの演習を通して感じたことをレポートにまとめる。（60 分） |
| 13 | 絵本が生まれる現場①<br>（作家の感性に触れる） | ・絵本の作り手の思いについて理解する | 本課の授業を通して学んだこと、感じたことをレポートにまとめる。（60 分）<br>【事後課題有り】 |
| 14 | 絵本が生まれる現場②<br>（絵本の編集） | ・絵本の編集者の仕事について理解する | 本課の授業を通して学んだこと、感じたことをレポートにまとめる。（60 分） |
| 15 | ディスカッション<br>（認定絵本士としての今後の活動） | ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべきことを理解する | 他者との意見交換から得た考えをまとめる。（60 分） |

**単位の認定について** レポート 70%、ワークシートの記入 30%

**教科書** 『認定絵本士養成講座テキスト』
絵本専門士委員会　独立行政法人国立青少年教育振興機構発行　2020　中央法規出版株式会社

**参考書**

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

【留意事項】

・単位認定については本学が定める出席回数、及び課されたレポート内容の評価、及びワークシートの記入状況によって認定されるものとする。

・認定絵本士の資格取得には、8 割以上出席することが求められる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

| 授業科目名 | コミュニケーションデザイン演習Ⅰ（科目コード:TCCRE101） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | プレゼンテーション実務士（選択） | | | | | | |
| 担当者 | 河野　美香子（実務家教員） | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：** デザインの基礎を学び、表現に必要な様々な技法を知り、身の周りの物を観察し表現できることを習得する。また、感じた事を相手に伝わる表現について学修する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** 視野の広い自由な発想で、モノの形を捉え描くことができ、画面・色彩構成に関しても理解することができる。
構成要素について理解し、自分の表現について考えることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 色について（RGB カラーと CMYK カラー） | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 2 | 色・形の表現1 | 色鉛筆や絵の具、コピックを用い、表現方法を学ぶ | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 3 | 色・形の表現2 | 身近なものを観察し、表現する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 4 | 色・形の表現3 | 色から連想し、表現する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 5 | 構成要素の理解1 | 図形機能を使い幾何学模様をデザインする | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 6 | 構成要素の理解2 | 手書きをスキャニングし、解像度について学ぶ | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 7 | 構成要素の理解3 | テーマに沿った幾何学模様をデザインする | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 8 | イラスト制作1 | ベジェ曲線の基礎を学び、イラストを制作する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 9 | イラスト制作2 | PhotoShop で画像処理の基礎を学ぶ | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 10 | イラスト制作3 | デザインのルールや著作権について学ぶ | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 11 | 文書デザイン制作1 | 最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 12 | 文書デザイン制作2 | 最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 13 | 文書デザイン制作3 | 最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。（30 分） |
| 14 | 文書デザイン制作4 | 最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する | 発表の準備を行う。（60 分） |
| 15 | まとめ | 成果発表とまとめ | 授業のまとめを行う。（30 分） |

**単位の認定について**
制作物の提出（50%）　表現力発表（30%）　授業態度(20%)
**教科書**　プリント資料配布
**参考書**　授業内で指定
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

| 授業科目名 | コミュニケーションデザイン演習Ⅱ（科目コード:TCCRE202） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | プレゼンテーション実務士（選択科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 河野 美香子（実務家教員） | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**テーマに対して問題を見つけ出し、デザインを通じて解決策を示し伝えることができる。
コンセプトを明確にし、作品に関する自分の考えを相手に伝えることができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**コンセプトを常に考えながら、制作したデザインで意図を表現することができる。
作品の制作時に、考え、感じた事を相手に伝えることを身につけ、表現することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ヴィジュアルデザインについて | ヴィジュアルデザインとは<br>DTPやレイアウトの基本について | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 2 | デザインの法則 | デザインの基本となる4つの法則について | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 3 | 構成① | 引き出し線や袋文字をマスターする | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 4 | 構成② | 見せるための「表」を作成する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 5 | 書体① | 声の大きさやトーンを文字で表現する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 6 | 書体② | 内容に合った書体を選択し、効果的な広告を制作する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 7 | 書体③ | 制作したデザインを基に、グループワークで他者からの意見を聴取する | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 8 | 配色① | 色を効果的に使い、素材を引き立たせる | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 9 | 配色② | イメージに合わせた色の表現をする | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 10 | 配色③ | 画像解像度や色調補正について | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 11 | 商用印刷について | 商用印刷についての基礎知識やデータの取り扱いを学ぶ | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 12 | トータルデザイン① | ポスターのラフデザインを考える | 毎時の授業で学んだことについて、振り返りや予習をする。(30 分) |
| 13 | トータルデザイン② | ポスターを制作する | 制作の準備を行う。(30 分) |
| 14 | トータルデザイン③ | ポスターを制作する | 制作を進める。(30 分) |
| 15 | 発表 | 作品発表・講評や意見の交換を行う | 発表の準備を行う。(30 分) |

**単位の認定について**　授業への取組み（20%）　作品のコンセプト（30%）　作品（50%）
**教科書**　プリント資料配布
**参考書**　授業内で指定
**授業外学習について**　作品を仕上げること。また、指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバック**　提出された課題は、チェック後に解説する。
ネットワーク環境を利用し、双方向型授業を展開する。
※Web・DTP デザイナーとしての勤務経験を持つ教員が、デザインに関する知識や技能を指導し、販売促進につながる効果的なデザイン方法を身につけさせる。

| 授業科目名 | コンピュータ会計Ⅰ（科目コード:TCBSC110） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 兒玉 京子 k-kodama@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**情報技術の普及により、多くの企業がコンピュータ会計を導入している。現在では、コンピュータ会計を操作できることを前提として、会計処理に携わる社員が会計に関するデータに基づいて、ボトムアップで提案することで、経営者や管理者のマネジメント上の意思決定に貢献することが求められる。この講義では、コンピュータ会計の操作の習得だけでなく、マネジメント上の意思決定に貢献できる人材の育成を目的とする。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：**・コンピュータ会計の仕組み、操作方法等について説明できる。
・会計に関するデータから、マネジメント上の意思決定に貢献できる知識を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、会計情報の考え方を理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 2 | 会計データの作成 | 弥生会計を用いて、会計データを作成する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 3 | 事業所・消費税設定 | 弥生会計を用いて、事業所・消費税設定する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 4 | 勘定科目・補助科目・部門登録 | 弥生会計を用いて、勘定科目・補助科目・部門登録する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 5 | 固定資産・手形の登録 | 弥生会計を用いて、固定資産・手形を登録する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 6 | 伝票入力 | 弥生会計を用いて、伝票入力する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 7 | 摘要辞書登録 | 弥生会計を用いて、摘要辞書登録する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 8 | 伝票・仕訳辞書 | 弥生会計を用いて、伝票・仕訳辞書に登録する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 9 | 帳簿・伝票設定 | 弥生会計を用いて、帳簿・伝票設定する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 10 | 振替伝票からの検索・訂正 | 弥生会計を用いて、振替伝票からの検索・訂正を行う。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 11 | 仕訳日記帳 | 弥生会計を用いて、仕訳日記帳を確認する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 12 | 入金伝票・伝票の複製 | 弥生会計を用いて、入金伝票の作成伝票の複製を行う。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 13 | 給与明細書の作成 | 弥生会計を用いて、給与明細書を作成する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 14 | 手形一覧表からの仕訳作成 | 弥生会計を用いて、手形一覧表からの仕訳作成を行う。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 15 | まとめ | 授業で学んだ内容の振り返り。 | 振り返りをする。（30 分） |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度（30%） 学期末テスト（70%）

**教科書**　授業内で指定する。

**参考書**　授業内で指定する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 実践ビジネス演習Ⅰ（科目コード:TCBSC216） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士（必修科目） 実践キャリア実務士（必修科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 河野 美香子（実務家教員） 伊賀 彩子 長尾 清美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**近隣地域の様々な団体と連携し、実際のビジネスの場を体験することや地域の方々と共に活動することを通して、実践力の向上を目指す。また、様々なグループ活動を通して、企業現場で求められるＰＤＣＡサイクルのあり方を学修する。実践ビジネス演習の初学者として、先輩からの助言を受けながら、実践ビジネス演習のあり方について理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ・ビジネス実務に求められる応用的な知識・技術などの実践能力を身につけることができる。
・ビジネス現場に求められるコミュニケーションや適応力を身につけることができる。

**授 業 計 画 表**

| 回 | トピック名 | 概 要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション① | 実践ビジネス演習の活動内容について理解する。 | 授業で学んだ内容について復習する。（30 分） |
| 2 | オリエンテーション② | グループの割り振りを決定し、相互交流を図る。 | 授業で学んだ内容について復習する。（30 分） |
| 3 | グループ活動のあり方について | ブレインストーミングの方法などを学びグループ活動のあり方について理解する。 | 授業で学んだ内容について復習する。（30 分） |
| 4 | グループ活動の企画・計画 | グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。（30 分） |
| 5 | グループ活動の企画・計画 | グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。（30 分） |
| 6 | グループ活動の企画・計画 | グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。（30 分） |
| 7 | グループ活動の準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。（30 分） |
| 8 | グループ活動の準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。（30 分） |
| 9 | 講演会事前準備 | 講演を聴く上での前準備として、企業研究を行う。 | 調査した内容について確認する。（30 分） |
| 10 | 講師招聘① | 講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。 | 講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。（30 分） |
| 11 | 講師招聘② | 講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。 | 講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。（30 分） |
| 12 | 企業見学準備 | 企業見学を行う上での前準備として、企業研究を行う。 | 調査した内容について確認する。（30 分） |
| 13 | 企業見学① | 企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。 | 企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。（30 分） |
| 14 | 企業見学② | 企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。 | 企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。（30 分） |
| 15 | グループ活動準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。（30 分） |
| 16 | グループ活動準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。（30 分） |
| 17 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。（30 分） |
| 18 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。（30 分） |
| 19 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。（30 分） |
| 20 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。（30 分） |
| 21 | 反省会 | グループごとに、実践した内容について評価を行う。 | 各自グループ活動について振りを行いまとめる。（30 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 22 | 報告会準備 | グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。 | 報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分) |
| 23 | 報告会準備 | グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。 | 報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分) |
| 24 | 報告会 | グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。 | 他グループの報告内容をまとめる。(30 分) |
| 25 | 報告会 | グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。 | 他グループの報告内容をまとめる。(30 分) |
| 26 | グループ報告書の作成 | グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。 | 報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分) |
| 27 | グループ報告書の作成 | グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。 | 報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分) |
| 28 | 個人報告書の作成 | 実践ビジネス演習を通しての個人報告書を作成する。 | 報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分) |
| 29 | まとめ | 総括ならびに、最終報告書を提出する。 | 実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分) |
| 30 | まとめ | 総括ならびに、最終報告書を提出する。 | 実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分) |

**単位の認定について**　グループ活動の企画・運営(60%)、感想・報告書の作成など(30%)、取り組み態度(10%)

**教科書**　授業内で指定

**参考書**　授業内で指定

**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題について、難しい箇所などがある場合には、チェック後に解説をする。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※一般企業での勤務経験のある教員や、地元企業等に勤務する講師が企業で働くために必要な知識や技術について指導する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 実践ビジネス演習Ⅱ（科目コード:TCBSC217） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士（必修科目） 実践キャリア実務士（選択科目） | | | | | | | |
| 担当者 | 河野 美香子（実務家教員） 伊賀 彩子 長尾 清美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**近隣地域の様々な団体と連携し、実際のビジネスの場を体験することや地域の方々と共に活動することを通して、実践力の向上を目指す。実践ビジネス演習の既学者として、後輩への助言を行いながら組織を牽引し、グループ組織のあり方について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ・ビジネス実務に求められる応用的な知識・技術などの実践能力を身につけることができる。
・ビジネス現場に求められるコミュニケーションや適応力を身につけることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション① | 実践ビジネス演習の活動内容について理解する。 | 授業で学んだ内容について復習する。（30分） |
| 2 | オリエンテーション② | グループの割り振りを決定し、相互交流を図る。 | 授業で学んだ内容について復習する。（30分） |
| 3 | グループ活動のあり方について | ブレインストーミングの方法などを学び、グループ活動のあり方について理解する。 | 授業で学んだ内容について復習する。（30分） |
| 4 | グループ活動の企画・計画 | グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30分) |
| 5 | グループ活動の企画・計画 | グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30分) |
| 6 | グループ活動の企画・計画 | グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30分) |
| 7 | グループ活動の準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30分) |
| 8 | グループ活動の準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30分) |
| 9 | 講演会事前準備 | 講演を聴く上での前準備として、企業研究を行う。 | 調査した内容について確認する。(30分) |
| 10 | 講師招聘① | 講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。 | 講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30分) |
| 11 | 講師招聘② | 講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。 | 講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30分) |
| 12 | 企業見学準備 | 企業見学を行う上での前準備として、企業研究を行う。 | 調査した内容について確認する。(30分) |
| 13 | 企業見学① | 企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。 | 企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30分) |
| 14 | 企業見学② | 企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。 | 企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30分) |
| 15 | グループ活動準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30分) |
| 16 | グループ活動準備 | グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。 | グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30分) |
| 17 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30分) |
| 18 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30分) |
| 19 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30分) |
| 20 | グループ活動実践 | グループごとに立案した企画を実践する。 | グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30分) |
| 21 | 反省会 | グループごとに、実践した内容について評価を行う。 | 各自グループ活動について振りを行いまとめる。(30分) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 22 | 報告会準備 | グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。 | 報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分) |
| 23 | 報告会準備 | グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。 | 報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分) |
| 24 | 報告会 | グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。 | 他グループの報告内容をまとめる。(30 分) |
| 25 | 報告会 | グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。 | 他グループの報告内容をまとめる。(30 分) |
| 26 | グループ報告書の作成 | グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。 | 報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分) |
| 27 | グループ報告書の作成 | グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。 | 報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分) |
| 28 | 個人報告書の作成 | 実践ビジネス演習を通しての個人報告書を作成する。 | 報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分) |
| 29 | まとめ | 総括ならびに、最終報告書を提出する。 | 実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分) |
| 30 | まとめ | 総括ならびに、最終報告書を提出する。 | 実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分) |

**単位の認定について**　グループ活動の企画・運営(60%)、感想・報告書の作成など(30%)、取り組み態度(10%)
**教科書**　授業内で指定
**参考書**　授業内で指定
**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題について、難しい箇所などがある場合には、チェック後に解説をする。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※一般企業での勤務経験のある教員や、地元企業等に勤務する講師が企業で働くために必要な知識や技術について指導する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 児童サービス論(科目コード:TGSSC106) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格（必修） | | | | | | | |
| 担当者 | 佐藤 由紀枝　y-sato@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**子ども時代の読書の意義と重要性を理解し、公共図書館における児童サービスに必要な基本的な知識と技術について理解を深め、読み聞かせやブックトークなどの実践的なサービスを行う事ができる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**1 子どもの成長と読書の関連性について説明ができる。
2 公共図書館の児童サービスの意義と役割、関係機関等との連携のあり方を理解する。
3 児童サービスの具体的な方法と技術を習得する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>児童サービスとは何か | 児童サービスの概要を理解する。 | 自分の子ども時代の絵本、本との関わりを回想し、まとめる。(30 分) |
| 2 | “子ども”への理解 | 子どもの各発達段階を理解する。 | 子どもの成長と各発達段階の特徴をまとめる。(30 分) |
| 3 | 児童サービスの資料と特徴①絵本とは | 絵本というメディアの仕組みや基礎的な知識を学ぶ。 | 電子メディアとの違いについて考える。(60 分) |
| 4 | 児童サービスの資料と特徴②絵本の種類について | 資料の種類、特色などについて理解する。 | 発達段階ごとに必要な資料について調べ、自身の読書経験などをふまえてまとめる。(60 分) |
| 5 | 児童サービスのコレクションの構成、<br>環境づくりと児童図書館員のあり方 | 児童サービスならではの特色・注意点について理解するとともに、相応しい環境や児童図書館員としての専門性や相応しいパーソナリティーなどについて学ぶ。 | 近隣の公共図書館での児童サービスについて、種類や具体的な活動について調べる。(60 分) |
| 6 | 資料や情報の提供に関する　サービス① | 閲覧や貸出だけでなく、読書アドバイスや育児支援・乳幼児サービスなど、多岐にわたる情報の提供について理解する。 | 近隣の公共図書館での児童サービス活動について調べた事を踏まえ、改善点や新たに取り組むべきサービスについて考察する。(60 分) |
| 7 | 資料や情報の提供に関する　サービス② | 特別支援や多文化サービスなどの必要性と方法、具体的な事例などを学ぶ。 | 近隣の公共図書館における特別支援や多文化サービスに関する取り組みを調べ、まとめる。(60 分) |
| 8 | 子どもと本を繋ぐ活動<br>①読み聞かせについて | 読み聞かせの仕方、発声方法など実技を学ぶ。 | グループでおはなし会のプログラムを考える。(30 分) |
| 9 | 子どもと本を繋ぐ活動<br>②読み聞かせについて | おはなし会等に関わる著作権について（オンライン含む）学び、企画・選書を行う。（グループワーク） | グループでおはなし会のプログラムを考え、選書・練習を行う。(90 分) |
| 10 | 子どもと本を繋ぐ活動<br>③ブックトークについて | ブックトークについて学び、企画・選書を行う。 | ブックトークを作成する。(90 分) |
| 11 | 子どもと本を繋ぐ活動<br>④その他活動について | アニマシオンやストーリーテリングなどについて学ぶ。 | 近隣の公共図書館で行われている児童向けのイベントについて調べる。(60 分) |
| 12 | 子どもと本を繋ぐ活動<br>⑤実演 | おはなし会、ブックトークの実演、評価を行う。 | 近隣の公共図書館で行われているおはなし会に参加する。(30 分) |
| 13 | ヤングアダルトサービス | ヤングアダルトサービスについて理解する。 | 近隣の公共図書館で行われているヤングアダルトサービスを利用してみる。(60 分) |
| 14 | 学校図書館について | 学校図書館の特性について学び、公共図書館との連携について理解する。 | 学校図書館の特性と公共図書館の連携について整理する。(30 分) |
| 15 | まとめ | 児童サービス全体について復習すると共に、児童サービスにおける電子資料の可能性と問題点を考える。 | 児童サービスの運営について、サービス内容をまとめる。(30 分) |

**単位の認定について**　授業への取り組み（30%）、企画や実演に関する評価（70%）
**教科書**　授業内容についてはプリントを配布する。
**参考書**　『児童サービス論』JLA テキストシリーズ　日本図書館協会　（2020）
『児童サービス論』図書館情報学 7　学文社　（2022）など。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。
※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 情報機器利用プレゼンテーション演習 （科目コード:TCITC104） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 情報処理士（選択科目） プレゼンテーション実務士（必修科目） | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀 彩子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**プレゼンテーション用ソフトウェアを用いたスライドの作成を通じて、プレゼンテーションに有効な視覚資料の作成方法を身につける。また、他のアプリケーションとのリンク等の応用技術を身につける。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① ◎ | Ⅱ② ◎ | Ⅲ ◎ |

**到達目標：**・Canva や PowerPoint を用いて、プレゼンテーションに有効な視覚資料の作成ができる。
・ビデオやオーディオの挿入、特殊効果の応用など、スライド作成に必要な応用操作ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について理解する。プレゼンテーションとは何か、ソフトウェア活用のメリット等について理解する。 | 指定された資料を読み、プレゼンテーションの準備や心構えについて理解を深める。 |
| 2 | Canva を使ったスライド作成(1) | Canva の概観と基本的な操作方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 3 | Canva を使ったスライド作成(2) | Canva を使って作成したスライドを共有する方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 4 | PowerPoint を使ったスライド作成(1) | PowerPoint の概観と基本的な操作方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 5 | PowerPoint を使ったスライド作成(2) | アウトラインを使った効率的なスライド作成方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 6 | PowerPoint を使ったスライド作成(3) | 図やクリップアート、写真を挿入して、表現力を高める方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 7 | PowerPoint を使ったスライド作成(4) | Excel で作成した表やグラフ、SmartArt を挿入し、説得力を高める方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 8 | PowerPoint を使ったスライド作成(5) | アニメーションの設定や画面切り替え効果の設定など、プレゼンテーションの特殊効果に関する機能を理解する。 | 指示された課題を行う |
| 9 | プレゼンテーションをサポートする機能 | ノートやペン、リハーサルなど、プレゼンテーションをサポートする機能を理解する。 | 指示された課題を行う |
| 10 | 総合問題演習 | ドリルを解き、PowerPoint 操作の実践力と応用力を養う。 | 指示された課題を行う |
| 11 | ビデオとオーディオの挿入 | ビデオやオーディオの挿入、編集方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 12 | オリジナルデザインのスライド作成(1) | スライドマスターの設定やスライドデザインの挿入方法を学び、スライドをカスタマイズする方法を理解する。 | 指示された課題を行う |
| 13 | オリジナルデザインのスライド作成(2) | スライドマスターの設定やスライドデザインの挿入方法を学び、スライドをカスタマイズする方法を理解する。 | 指示された課題を行う |
| 14 | プレゼンテーションの録画と公開 | プレゼンテーションを録画し、動画配信する方法を学ぶ。 | 指示された課題を行う |
| 15 | まとめ | 授業の振り返りと最終課題の説明 | 最終課題に取り組む |

**単位の認定について**　取り組み状況(10%)、毎時の課題(40%)、最終課題(50%)
**教科書**　授業内で指定
**参考書**　授業内で指定
**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題について、難しい箇所などがある場合には、チェック後に解説をする。

| 授業科目名 | 情報サービス演習Ⅰ（科目コード:TCLSC203） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格（必修） | | | | | | |
| 担当者 | 佐藤 由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**情報サービスの設計から評価に至る各種の業務を学ぶ。情報検索サービスだけでなく利用者の質問に対するレファレンスインタビューなどの技法も学び、演習を通じて実践的な能力を身につけ、レファレンスワークを中心とする情報サービスを行う事が出来る。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：** レファレンスサービスと情報検索サービスの演習を通して実践的な能力を習得している。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | レファレンスコレクションの構成 | 情報源の評価と組織化。 | 図書館のレファレンスブックの蔵書構成を見てみる。（30 分） |
| 2 | 文献検索 | 文献探索：図書・叢書情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 3 | 文献検索 | 文献探索：新聞・雑誌情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 4 | 文献検索 | 文献探索：データベース情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 5 | 事実検索 | 事実探索：言葉・情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 6 | 事実検索 | 事実探索：事柄・事象情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 7 | 事実検索 | 事実探索：人物・団体情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 8 | 事実検索 | 事実探索：歴史・日時情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 9 | 事実検索 | 事実探索:地理・地名・統計情報の探索。 | 検索課題に取り組む。（30 分） |
| 10 | レファレンスサービス演習① | レファレンスサービス演習①<br>レファレンスインタビューの技法と実際。 | 接客に必要なマナーを調べ、実践する。（30 分） |
| 11 | レファレンスサービス演習① | レファレンスサービス演習②<br>利用者への応対ロールプレイ。 | レファレンスのプロセスを振り返る。（30 分） |
| 12 | レファレンスサービス演習① | レファレンスサービス演習②<br>利用者への応対ロールプレイ。 | レファレンスのプロセスを振り返る。（30 分） |
| 13 | レファレンスサービス演習① | 文献・事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | 実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 14 | レファレンスサービス演習① | 文献・事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | 実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 15 | レファレンスサービス演習① | レファレンス回答集の作成、評価。 | レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考える。（30 分） |

**単位の認定について**　授業、演習への取り組み姿勢（40%）、課題（60%）

**教科書**　授業内容についてはプリントを配布する

**参考書**　『情報サービス演習』樹村房（2021）　『情報サービス論及び演習』学文社（2023）など。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書として勤務経験のある教員が、図書館におけるレファレンスインタビューなどの技法を指導する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 情報サービス演習Ⅱ（科目コード:TCLSC203） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格（必修） | | | | | | |
| 担当者 | 佐藤　由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**情報サービスの設計から評価に至る各種の業務を学ぶ。情報検索サービスだけでなく利用者の質問に対するレファレンスインタビューなどの技法も学び、演習を通じて実践的な能力を身につけ、レファレンスワークを中心とする情報サービスを行う事が出来る。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** レファレンスサービスと情報検索サービスの演習を通して実践的な能力を習得している。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | レファレンスサービス演習② | レファレンス回答集の評価。 | レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考える。（30 分） |
| 2 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 3 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 4 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 5 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:データベース･インターネットでの探索。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 6 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:データベース･インターネットでの探索。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 7 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 8 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 9 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 10 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 11 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 12 | レファレンスサービス演習② | 文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）。 | より実践的な課題に取り組む。（30 分） |
| 13 | レファレンスサービス演習② | レファレンス回答集の作成・評価。 | レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考える。（30 分） |
| 14 | レファレンスサービス演習② | レファレンス回答集の評価。 | レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考える。（30 分） |
| 15 | まとめ | 図書館、情報サービスについてのまとめ、最新の動向について学習する。 | 今までの復習、まとめをする。（30 分） |

**単位の認定について**　授業、演習への取り組み姿勢（40%）、課題（60%）

**教科書**　授業内容についてはプリントを配布する。

**参考書**　『情報サービス演習』樹村房（2021）　『情報サービス論及び演習』学文社（2023）など。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書として勤務経験のある教員が、図書館におけるレファレンスインタビューなどの技法を指導する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 情報サービス論(科目コード:TCITC103) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格（必修） | | | | | | | |
| 担当者 | 佐藤 由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**図書館の情報サービスの本質・種類を理解し、直接サービスの中核であるレファレンスサービスについて、検索方法やレファレンスプロセスを学び、レファレンスインタビューなどのテクニックを習得し、実践に役立つ能力を養成する。また、各種図書館における情報サービスの運営やレファレンスコレクションの形成などの間接サービスについても理解を深め、図書館の情報サービスについて理解したうえで、実践する事ができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**図書館の情報サービスの本質・種類を理解し、直接サービスであるレファレンスサービスのスキルを習得。また、レファレンスサービスを支える基盤となるレファレンスコレクションの形成、維持、評価の方法を解説できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 情報社会と図書館 | 情報社会の中での図書館の果たすべき役割と情報サービスの意義を学習する。 | 今と昔の図書館の違いについて調べる。(30 分) |
| 2 | 情報サービスの内容① | レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントウエアネスサービスなどについて学習する。 | 図書館以外の情報機関について調べる。(30 分) |
| 3 | 情報サービスの内容② | 読書相談やビジネス支援などの専門的な情報提供について学習する。 | 情報社会ならではの図書館の役割を考える。(30 分) |
| 4 | 情報サービスの内容③ | バリアフリー法の促進の為に必要なツールなどについて学習する。 | LL ブックや、やさしい日本語で書かれたものを探し、読んでみる。(60 分) |
| 5 | 発信型情報サービス | 発信型情報サービス、非来館サービスの展開と課題について学習する。 | SNS などを使ったサービスの可能性について考える。(30 分) |
| 6 | 情報サービスの範囲 業務としての情報サービス、組織について | 館種の違いによるサービス範囲の違いや、図書館組織について学習する。 | 利用者の目線になり、各図書館ごとの利用の仕方を考える。(30 分) |
| 7 | 図書館員としての資質と、その向上について | 担当者の資質、担当職員の研修の必要性などについて学習し、接遇のロールプレイなどを行う。 | 担当者の資質を踏まえ、自己ＰＲをしてみる。(30 分) |
| 8 | レファレンスコレクションとその構成、管理① | レファレンスコレクションの選択、排架、更新、破棄の仕方について。館内表示、ユニバーサルデザイン等について学習する。 | フィールドワークをして、色々な表示、看板を集める。(60 分) |
| 9 | レファレンスコレクションとその構成、管理② | 自館作成ファイル（パスファインダー）、自館収集ファイル、館外情報ファイルの構成について学習する。 | パスファインダーを作成する。(60 分) |
| 10 | 情報探索のプロセス① | 情報ニーズを持っている利用者の問題状況、情報の必要性、質問内容の理解の仕方を学び、レファレンスプロセスを理解する。 | ビジネスマナーについて調べる。(30 分) |
| 11 | 情報探索のプロセス② | レファレンスインタビューの必要性とそのテクニックを学習する。 | ビジネスマナーについて調べ、実践してみる。(30 分) |
| 12 | 情報の検索と回答 | 検索作業と第一次回答の仕方、回答の受容を学習する。 | ネット検索とＯＰＡＣ検索の違いを体感する。(30 分) |
| 13 | レファレンスサービスの評価と広報 | インタビュー、直接観察法、アンケートなどでの評価の方法と、広報の重要性を学習する。 | 公告と広報の違いとは。図書館広報のあり方について考える。(30 分) |
| 14 | 図書館の情報サービスについて | 実際の事例や、最新の動向などについて学習する。 | 図書館の情報サービスの可能性について考える。(30 分) |
| 15 | まとめ | まとめ　要点の整理。 | 図書館の情報サービスの可能性について考える。(30 分) |

**単位の認定について**　授業への取り組み（30%）、課題（30%）、試験（40%）

**教科書**　授業内容についてはプリントを配布する

**参考書**『情報サービス論』樹村房（2019）『情報サービス論』学文社（2023）　『情報サービス論』ミネルヴァ書房（2018）など

**授業外学習について**　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※この科目はアクティブラーニングを取り入れています。

| 授業科目名 | 情報資源組織演習Ⅰ　(科目コード:TCLSC205) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格(必修) | | | | | | | |
| 担　当　者 | 山田　幸紀　s-fukuda@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** 書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語の適用等の具体的な演習を通して、情報資源組織業務について実践的な技能を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：** 1.資料に対して適切な分類記号、件名を付与し目録を作成することができる。
2.演習問題を応用し、様々な資料の目録を作成することができる。
3.身近な図書館の分類に関心を持ち、書誌情報を読み解くことができる。

**授　業　計　画　表**

| 回 | トピック名 | 概　　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 図書館資料の組織化について、その技術の現状と必要性を理解する。 | 情報資源組織論について復習し、NDC10 版、BSH、NCR についてまとめる。（30 分） |
| 2 | 目録法について | 日本目録規則の総則について理解する。 | 日本目録規則の特徴を整理する。（30 分） |
| 3 | 記述総則１ | タイトル、責任表示の記述について学び、演習を行う。 | 例題のタイトル、責任表示までの目録を作成する。（60 分） |
| 4 | 記述総則２ | 版、出版・頒布の記述について学び、演習を行う。 | 例題の版、出版・頒布までの目録を作成する。（60 分） |
| 5 | 記述総則３ | 形態、シリーズ、注記、標準番号の記述について学び、演習を行う。 | 例題の形態、シリーズ、注記、標準番号までの目録を作成する。（60 分） |
| 6 | 図書資料 | 図書資料の記述について学び演習を行う。 | 図書資料の特徴を理解し、目録を作成する。（60 分） |
| 7 | 継続資料１ | 継続資料の逐次刊行物と更新資料の記述について学び、演習を行う。 | 逐次刊行物と更新資料の違いを理解し、整理する。（30 分） |
| 8 | 継続資料２ | 形態から所蔵・更新事項について学び、演習を行う。 | 継続資料の特徴を理解し、目録を作成する。（60 分） |
| 9 | 記述付則 | 様々な記載様式について学び、演習を行う。 | レベル毎の違いを理解し、目録を作成する。（60 分） |
| 10 | 標目１ | 標目、タイトル標目について学び、演習を行う。 | これまで作成した目録にタイトル標目の標目指示を記載する。（60 分） |
| 11 | 標目２ | 著者、件名、分類標目について学び、演習を行う。 | これまで作成した目録に著者、件名、分類標目の標目指示を記載する。（60 分） |
| 12 | 排列 | 各目録の排列の特徴について理解する。 | 同一排列順位などを整理する。（30 分） |
| 13 | 書誌データの管理・検索 | コンピュータ目録の意義と問題について、コピーカタロギングについて理解する。 | MARC や OPAC の画面を比較し、気付いたことを整理する。（60 分） |
| 14 | 総合演習 | 目録に関する総合演習を行う。 | 目録に関する総合演習を行い、インターネット等で所蔵館と比べてみる。（60 分） |
| 15 | まとめ | 目録について試験を実施。 | NCR の特徴を理解し、これまでの演習問題を復習する。(60 分) |

**単位の認定について**　試験・演習問題の取り組みの評価 100％
**教科書**　『図書館資料の目録と分類　増訂第５版』　日本図書館研究会
**参考書**　『日本十進分類法　新訂 10 版』『基本件名標目表第 4 版』
『日本目録規則 1987 年版　改訂 3 版』
『日本目録規則 2014 年版』
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。公共図書館の HP を活用すること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 情報資源組織演習Ⅱ　(科目コード:TCLSC205) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格(必修) | | | | | | | |
| 担当者 | 山田　幸紀　s-fukuda@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語の適用等の具体的な演習を通して、情報資源組織業務について実践的な技能を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：** 1.資料に対して適切な分類記号、件名を付与し目録を作成することができる。
2.演習問題を応用し、様々な資料の目録を作成することができる。
3.身近な図書館の分類に関心を持つ。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 主題組織法 | 主題組織法について復習し、主題分析の演習を行う。 | 概論の「件名法」「分類法」について復習し、主題分析を行う。（60 分） |
| 2 | 分類法について | NDC の概要と構成、要目表について学び、演習を行う。 | NDC９版の要目表に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 3 | ＮＤＣの構成 | 細目表、分類項目、注記について学び、演習を行う。 | NDC９版の細目表に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 4 | 補助表１ | 相関索引、一般補助表の形式区分について学び、演習を行う。 | 形式区分に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 5 | 補助表２ | 一般補助表の地理区分、海洋区分について学び、演習を行う。 | 地理区分、海洋区分に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 6 | 補助表３ | 一般補助表の言語区分について学び、演習を行う。 | 言語区分に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 7 | 分類作業 | 資料の内容理解と主題の把握、分類記号の与え方について学び、演習を行う。 | NDC の理解に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 8 | 分類規程１ | 主題の形式や関連性に応じた分類記号の与え方について学び、演習を行う。 | 複数主題や主題と主題の関連性に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 9 | 分類規程２ | 主題の形式や関連性に応じた分類記号の与え方について学び、演習を行う。 | 主材と材料や新主題に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 10 | 各類１ | 哲学・宗教１類、歴史・地理２類の特徴を学び、演習を行う。 | 1.2 類に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 11 | 各類２ | 社会科学３類、自然科学４類、技術５類、産業６類の特徴を学び、演習を行う。 | 3.4.5.6 類に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 12 | 各類３ | 芸術７類、言語８類、文学９類、総記０類の特徴を学び、演習を行う。 | 7.8.9.0 類に関する演習問題を行う。（60 分） |
| 13 | 図書記号、別置記号、総合演習 | 図書記号、別置記号について学び、分類に関する総合演習を行う。 | 分類に関する演習を行い、インターネット等で所蔵館の分類と比べてみる。（60 分） |
| 14 | 基本件名標目表について | 基本件名標目の特徴を理解する。細目や件名規定について学び、件名に関する総合演習を行う。 | 件名の階層や参照について整理する。（30 分） |
| 15 | まとめ | 図書の分類及び件名についてまとめる。 | NDC や BSH の特徴を理解し、これまでの演習問題を復習する。（60 分） |

**単位の認定について**　試験・演習問題の取り組みの評価 100％
**教科書**　『図書館資料の目録と分類　増訂第５版』　日本図書館研究会
**参考書**　『日本十進分類法　新訂 10 版』『基本件名標目表第４版』
『日本目録規則 1987 年版　改訂３版』
『日本目録規則 2014 年版』
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。公共図書館の HP を活用すること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 情報資源組織論 （科目コード:TCLSC204） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格(必修) | | | | | | | |
| 担当者 | 山田 幸紀 s-fukuda@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 1 年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**多様な図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語の適用等を学び、情報資源組織業務について理解を深める。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**
1.図書館情報資源の組織化の意義を理解する。
2.記述目録法について理解する。
3.主題目録法について理解する。
4.身近な図書館の資料の組織化に関心を持つ。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 図書館資料の特徴を理解し、その組織化について、技術の現状と必要性を理解する。 | 身近な図書館の資料の特徴や組織化について調べてみる。（60 分） |
| 2 | 情報資源組織の意義 | 資料組織の意義、検索の種類、組織化の業務の種類や流れについて理解する。 | 図書館の資料の種類やその検索の方法について整理する。（60 分） |
| 3 | 目録法の基礎 1 | 目録法の意義、目録の機能や構成要素、利用者とのかかわりについて理解する。 | 目録の目的や種類について整理する。利用者の目線になって目録について整理する。（60 分） |
| 4 | 記述目録法 | 目録の種類やその歴史、目録規則の意義について理解する。 | 目録規則の歴史や種類について整理する。（60 分） |
| 5 | 日本目録規則 1 | 書誌階層、記述ユニット等について理解する。 | 『日本目録規則』を手に取り、その特徴を整理する。（60 分） |
| 6 | 日本目録規則 2 | 書誌的事項、標目、排列について理解する。 | 図書資料で書誌的事項について整理する。（30 分） |
| 7 | 主題目録法 | 主題分析、統制語について理解する。 | 主題分析のポイント、自然語と統制語について整理する。（30 分） |
| 8 | 分類法 1 | 分類や分類法について理解する。 | 分類と区分の違いや分類法について整理する。（30 分） |
| 9 | 分類法 2 | 分類法の種類やその歴史について理解する。 | 世界の主要な分類法を整理する。（30 分） |
| 10 | 日本十進分類法 1 | 日本十進分類法の特徴について理解する。 | 『日本十進分類法』を手に取り、その特徴を整理する。（60 分） |
| 11 | 日本十進分類法 2 | 日本十進分類法を適用、所在記号の付与や図書記号について理解する。 | 図書館に行き、その図書館の所在記号や図書記号についてレポートにまとめる。（60 分） |
| 12 | 件名法 | 件名法の基本とツールである『基本件名標目表』について理解する。 | シソーラスや『基本件名標目表』の特徴を整理する。（30 分） |
| 13 | 書誌コントロール | 書誌コントロールの目的や機能について理解する。 | 国立国会図書館の NDL-OPAC を使い、国レベルの書誌コントロールに触れ、特徴をまとめる。（60 分） |
| 14 | 書誌情報の作成・流通・提供 | 書誌ユーティリティの機能、OPAC や MARC について理解する。 | 書誌情報の作成・流通・管理について整理し図書館で OPAC に触れ、特徴をまとめる。（60 分） |
| 15 | まとめ | 情報資源組織全般について復習し、理論及び技術について理解を深める。 | 目録法、分類法、件名法について特徴をまとめる。（60 分） |

**単位の認定について** 試験 50% レポートの評価 50%
**教科書** 『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会
**参考書** 柴田 正美 著『情報資源組織論』日本図書館協会 2012
『情報資源組織論』 樹村房 2011 『情報資源組織論』 学文社 2012
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。公共図書館の HP を活用すること。

| | |
|---|---|
| **課題に対するフィードバックの方法** | 提出された課題は、チェック後に解説する。 |

| 授業科目名 | 情報処理演習Ｉａ(科目コード:TCITC102) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 実践キャリア実務士(選択科目) ビジネス実務士(必修科目) 情報処理士(必修科目)<br>上級ビジネス実務士(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀 彩子　　河野 美香子 (実務家教員) | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要:** 本講義では、企業で使用されている代表的なソフトである、ワープロソフトを使用し、知識や技術能力を身につけることを目的としている。学生のレベルに合わせて検定試験対策を行い、日本語ワープロ検定等の取得を目指す。また実践的なPCの機能の学修も行う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標:** ・文書作成の基本を理解している。
・ワープロソフトを用いて、効果的な図表作成やワードアートなどを活かした文書を作成することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について理解する。情報処理(ワープロ)に関するスキルについてチェックを行う。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 2 | タイピング練習の方法とワープロソフトの基本操作 | タッチメソッド修得のための練習方法について学ぶ。またワープロソフトの基本操作について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 3 | 速度問題の基本と練習 | 日本語ワープロ検定試験の1科目である速度の練習方法について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 4 | 文書作成の基本(1) | 文書の体裁やページ設定など文書作成の基本操作を学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 5 | 文書作成の基本(2) | 頭語と結語、「記」など、文書作成の基本的な体裁について理解する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 6 | 文書作成の基本(3) | 網掛けや均等割り付けなど、文書を作成するための基本機能について学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 7 | 文書作成の基本(4) | 表作成のための方法について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 8 | 文書作成練習 | 文書作成の基本操作をもとに、文書を作成する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 9 | 文書作成演習(1) | 文書作成に関する演習問題を解く(検定試験対策を含む)。 | 演習問題を解く。(30 分) |
| 10 | 文書作成演習(2) | 文書作成に関する演習問題を解く(検定試験対策を含む)。 | 演習問題を解く。(30 分) |
| 11 | 文書作成総合演習(1) | 文書作成に関する総合演習問題を解く(検定試験問題に対応)。 | 総合演習問題を解く。(30 分) |
| 12 | 文書作成総合演習(2) | 文書作成に関する総合演習問題を解く(検定試験問題に対応)。 | 総合演習問題を解く。(30 分) |
| 13 | 文書作成の応用(1) | 日本語ワープロソフトに関する応用問題を解く(検定試験対策を含む)。 | 授業で学んだことを復習し、理解を深める。(30 分) |
| 14 | 文書作成の応用(2) | 日本語ワープロソフトに関する応用問題を解く(検定試験対策を含む)。 | 授業で学んだことを復習し、理解を深める。(30 分) |
| 15 | まとめ | 情報処理演習Ｉａについての振り返り。 | まとめの課題に取り組む。(30 分) |

**単位の認定について**　　取り組み状況、課題（30%）、テスト（70%）
**教科書**　　日本情報処理検定協会『日本語ワープロ検定試験模擬問題集』日本情報処理検定協会
**参考書**　　授業内で指定
**授業外学習について**　　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説を行う。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

| 授業科目名 | 情報処理演習Ⅰb(科目コード:TCITC102) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 実践キャリア実務士(選択科目) ビジネス実務士(必修科目) 情報処理士(必修科目)<br>上級ビジネス実務士(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀 彩子　　河野 美香子 (実務家教員) | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**本講義では、企業で使用されている代表的なソフトである、表計算ソフトを使用し、知識や技術能力を身につけることを目的としている。学生のレベルに合わせて検定試験対策を行い、情報処理技能検定等の取得を目指す。また実践的なPCの機能の学修も行う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・表計算の基本を理解している。
・表計算ソフトを用いて、関数を活用した表作成やグラフの作成などを行うことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について理解する。情報処理(表計算)に関するスキルについてチェックを行う。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 2 | 表計算の基本操作 | 表計算ソフトの基本操作について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 3 | 関数の基礎(1) | 基礎的な関数について学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 4 | 関数の基礎(2) | IF、VLOOKUP関数について学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 5 | 関数の基礎(3) | ROUND・ROUNDDOWN・ROUNDUP関数について学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 6 | 関数の応用 | LEFT、RIGHT、関数の入れ子を学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 7 | データベース関数 | データベース関数(DSUM、DAVERAGE、DMAX、DMIN)について学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 8 | 確認問題 | 関数の理解度を確認し、実践問題に取り組む。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 9 | 表作成と編集 | 罫線や関数を用いた表の作成方法やオートフィル機能や並び替え機能について学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 10 | グラフの作成と編集、印刷の設定 | グラフの作成方法を学習し、印刷の設定などを学習する。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 11 | 表集計の応用操作 | フィルター機能や集計機能について学ぶ。 | 毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 12 | 表計算総合演習 | 表計算ソフトに関する演習問題を解く(検定試験対策を含む)。 | 総合演習問題を解く。(30 分) |
| 13 | 表計算の応用(1) | 表計算ソフトに関する応用問題を解く(検定試験対策を含む)。 | 授業で学んだことを復習し、理解を深める。(30 分) |
| 14 | 表計算の応用(2) | 表計算ソフトに関する応用問題を解く(検定試験対策を含む)。 | 授業で学んだことを復習し、理解を深める。(30 分) |
| 15 | まとめ | 情報処理演習Ⅰbについての振り返り。 | まとめの課題に取り組む。(30 分) |

**教科書**　日本情報処理検定協会『情報処理技能検定試験表計算模擬問題集』日本情報処理検定協会

**参考書**　授業内で指定

**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説を行う。

ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

| 授業科目名 | 情報処理演習Ⅱa(科目コード:TCITC203) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 情報処理士(選択科目) 上級ビジネス実務士(選択科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 河野 美香子（実務家教員） 兒玉 京子 k-kodama@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**本講義では、情報処理の応用科目として、プログラム技術の修得を目指す。本学科では、プログラミングを学修する機会が殆どなく初めて学ぶ学生が多いことから、アルゴリズムを視覚的に説明するためのフローチャートの書き方を学びＶＢＡを基に知識、技術、技能を修得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・プログラムアルゴリズムをフローチャートとして作成できる。
・VBAの技術を用いて、基本的なマクロの作成ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について理解する。<br>ＶＢＡの概要やマクロの機能について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 2 | フローチャートの作成（1） | 一般的なフローチャート記号について学ぶ。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 3 | フローチャートの作成（2） | コンピューターアルゴリズムを示すフローチャートについて理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 4 | 記録の準備と実行 | マクロ機能を有効にするために必要な記録の準備設定を行い、マクロ機能の使い方を学修する。マクロの保存方法についても理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 5 | マクロの作成(1) | 練習問題を基に、マクロの組み合わせの方法について学習する。 | マクロの演習問題を解く。(30 分) |
| 6 | マクロの作成(2) | 練習問題を基に、マクロの記録機能を使ってマクロを作成し、実行する。 | マクロの演習問題を解く。(30 分) |
| 7 | 相対参照と絶対参照 | マクロ機能の相対参照と絶対参照の仕組みについて理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 8 | ＶＢＥの起動とマクロの構成 | ＶＢＥの意味と起動方法について学ぶ。ＶＢＡで記述されたマクロの構成について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 9 | モジュールの概要 | モジュールの意味と仕組みについて学ぶ。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 10 | プロシージャの概要 | プロシージャの概要と構成要素について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 11 | プロシージャの作成(1) | オブジェクト、プロパティ、メソッドで用いられる構文を学ぶ。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 12 | プロシージャの作成(2) | プロシージャについての練習問題を用いて演習を行う。 | プロシージャについての演習問題を解く。(30 分) |
| 13 | 変数と制御構造(1) | 変数の概要と使用方法について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 14 | 変数と制御構造(2) | 条件分岐などの制御構造を用いて、プロシージャを作成する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 15 | まとめ | 情報処理演習Ⅱa についての振り返り。 | まとめの課題に取り組む。(30 分) |

**単位の認定について** 取り組み状況、課題(60%)、最終課題(40%)

**参考書** 授業内で指定

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説を行う。

ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

| 授業科目名 | 情報処理演習Ⅱb(科目コード:TCITC203) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 情報処理士(選択科目) 上級ビジネス実務士(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 河野 美香子（実務家教員） 兒玉 京子 k-kodama@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**本講義では、情報処理演習Ⅱa を踏まえ、情報処理の応用科目として、プログラム技術の修得を目指す。ＶＢＡを活用し、実践的なプログラムを作成し知識、技術、技能を修得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**・プログラムアルゴリズムをフローチャートとして設計できる。
・VBAの技術を用いて、実用的なアプリケーションが作成できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について理解する。<br>ＶＢＡの基礎やマクロの機能について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 2 | アプリケーション作成の概要（１） | アプリケーション作成の概要を理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 3 | アプリケーション作成の概要（２） | 「販売管理」アプリケーション作成を段階的に考える。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 4 | プロシージャの作成 | 請求書を作成するプロシージャを理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 5 | オブジェクトの理解 | ワークシートやオートシェイプ、グラフなどのオブジェクトについて理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 6 | コレクションの概要 | 同じ種類のオブジェクトの集合体について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 7 | コレクションの活用 | コレクションに対してさまざまな操作を習得する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 8 | 応用的なＶＢＡの機能 | 応用的なＶＢＡの機能について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 9 | 変数の活用 | 目的に応じた変数の活用について理解する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 10 | 数式の入力 | ＶＢＡのコードを用いた数式の入力を学ぶ。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 11 | アプリケーション作成の応用(1) | プロシージャを複数のデータに対応する方法を学ぶ。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 12 | アプリケーション作成の応用(2) | プロシージャを複数のデータに対応する方法を学び、実行する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 13 | アプリケーション作成の応用(3) | 作成したアプリケーションに編集を加え、新しい機能を追加する。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 14 | アプリケーション作成の応用(4) | 作成したアプリケーションに編集を加え、新しい機能を追加し完成させる。 | 授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分) |
| 15 | まとめ | 情報処理演習Ⅱb についての振り返り。 | まとめの課題に取り組む。(30 分) |

**単位の認定について** 取り組み状況、課題(60%)、最終課題(40%)

**参考書** 授業内で指定

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説を行う。

ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

| 授業科目名 | スタディ・スキルⅠa(科目コード:TCBSC105) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**就職試験のSPI-3試験に充分な対応出来る力をつける。就職試験本番にて、落ち着いて、確実に合格ラインの得点が取れるようにする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：** ・積極的に授業に取り組み、自律的に学ぶために必要な技術を身につける。
・学生同士で話し合い、問題の解決を行うことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎力リサーチ | 計算力テスト、学修意欲等アンケート調査 | 計算力テストの復習〈30 分〉 |
| 2 | 割合・比 | 割合・比(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 3 | 損益算 | 小テスト「割合・比」、損益算(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 4 | 濃度算 | 小テスト「損益算」、濃度算(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 5 | 集合 | 小テスト「濃度算」、集合(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 6 | 速さ(1) | 小テスト「集合」、速さ「みはじ」「時刻表」(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 7 | 速さ(2) | 小テスト「速さ(1)」、速さ「旅人算」(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 中間テストに向けて復習 |
| 8 | 中間まとめ | 割合・比～速さ(2) | 学修範囲の復習〈30 分〉 |
| 9 | 場合の数 | 場合の数(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 10 | 確率 | 小テスト「場合の数」、確率(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 11 | 表の読み取り | 小テスト「確率」、表の読み取り(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 12 | 推論(1) | 小テスト「表の読み取り」、推論「順序、位置」(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 13 | 推論(2) | 小テスト「推論(1)」、推論「平均」(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時間を設ける) | 次回の小テストに向けて復習〈30 分〉 |
| 14 | 命題 | 小テスト「推論(2)」、命題(理解度の早い学生と遅い学生を同一グループにして、学生同士教えあう時 | 期末テストに向けて復習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 間を設ける) | |
| 15 | まとめ | 場合の数～命題 | 学修範囲の復習<30 分> |

**単位の認定について**　小テスト(20%)　中間・期末テスト(40%)、グループワーク(10%)　ノート(10%)

**教科書**　『文系学生のための SPI3 完全攻略問題集』高橋書店

**授業外学習**　1 時間程度の予習復習を行い、知識を確実なものとする。

**課題(小テスト)に対するフィードバックの方法**　小テスト後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | スタディ・スキルⅠb(科目コード:TCBSC103) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 川越 勇二 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**学生として学ぶ姿勢をもって、自ら積極的に授業や課題に取り組むための技術を身につける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ |

**到達目標：** 積極的に授業に取り組み、公務員試験、大学編入に必要な一般教養知識を身につける。
社会や将来に目を向け、広い視野で物事を考える姿勢をもつ。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 一般常識基礎力テスト | 基礎力把握、苦手分野の分析、習熟度編成 | 解答を見て復習、苦手分野認知<30分> |
| 2 | 政治に関する一般教養 | 憲法条文と基本的人権、政治と選挙、法形式、三権分立等に関する分野の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 3 | 経済に関する一般教養 | 需要・供給と景気変動、財政の役割、通貨と金融、株式会社、日本の税制等に関する分野の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 4 | 社会に関する一般教養 | 日本の社会保険税度、地球環境問題、少子高齢化と労働者問題、子どもを巡る社会情勢等の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 5 | 歴史に関する一般教養 | 室町・江戸時代、明治の日本、戦後の日本、宗教改革・ルネサンス、第二次世界大戦と世界等の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 6 | 地理に関する一般教養 | 地理分野の一般教養 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 7 | 文学・文芸に関する一般教養 | 日本の古典文学、明治時代の文学・芸術、西洋の絵画・音楽、江戸時代の美術作品等の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 8 | 国語に関する一般教養 | 漢字、四字熟語、助詞の用法、敬語の用法などの学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 9 | 中間まとめ | これまでの学修成果を模擬試験で確認し、不得意分野を克服する | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 10 | 判断推理に関する問題を解く力 | 対応関係、位置関係、操作手順、軌跡、立体構成等に関する問題の解き方の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 11 | 文章理解に関する問題を解く力 | 英文、現代文、古文に関する問題の解き方の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 12 | 数的推理に関する問題を解く力① | 整数関係、速さ・時間・距離、濃度計算、仕事算等の問題の解き方の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 13 | 数的推理に関する問題を解く力② | 順列・組合せ、集合、データ分析等の問題に関する解き方の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 14 | 資料解釈に関する問題を解く力 | 数表、グラフ、輸出量・輸入量の推移、数値比較等の問題の解き方の学修 | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |
| 15 | 総合問題により到達度を見る | 総合問題を解き、復習する | 学修範囲の復習<30分><br>ユニパでの課題試験を解く |

**単位の認定について** 授業内課題(50%) グループワーク(15%) ノート(20%) 最終レポート(15%)

**教科書** プリント配布

**授業外学習** 指示された授業時間外学習の他に、予習・復習に1時間程度をあて、知識を確実なものとする。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | スタディ・スキルⅡa(科目コード:TCBSC103) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 川越勇二 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**大学編入に必要となる日本語による思考力、判断力、表現力を身につけさせる。アクティブラーニングにより、自分の考えを適切に表現するための文章表現の基礎的な知識や技術を習得させ、それぞれの進路に応じて志望理由書や小論文の書き方、面接・ディスカッションのスキルを身につけさせる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**大学編入に必要な日本語表現の力を身につける。
社会や将来に目を向け、広い視野で物事を考える姿勢を養う。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業のねらいと日本語を学ぶ意義について知る | ワークシートの作成・提出 |
| 2 | 文章表現の基本 | 伝わる文章を書くためのポイントを理解する | ワークシートの作成・提出 |
| 3 | 語彙を増やす① | 小論文に必要となる語彙力を高める | 新書を読み、レポートにまとめる |
| 4 | 進路研究② | 大学・学部等について調べ、自分の進路について理解を深める | 自分の進路(大学・学部等)について調べる |
| 5 | 語彙を増やす②<br>自己分析 | 小論文に必要となる語彙力を高める<br>自己分析し、進路に生かす | レポートの発表準備<br>ワークシートの作成・提出 |
| 6 | 志望理由書① | 受験する大学の志望理由書を作成する | 志望理由書の作成 |
| 7 | 志望理由書② | 受験する大学の志望理由書を完成させ、相互評価を行う | 志望理由書の完成・提出 |
| 8 | 小論文の基礎① | 小論文の基本的な知識について理解し、構想メモを作成する | 構想メモの作成 |
| 9 | 小論文の基礎② | 構想メモの相互評価を行い、小論文の作成に生かす | 小論文の作成 |
| 10 | 小論文の基礎③ | 小論文の相互評価を行い、推敲の後、小論文を完成させる | 小論文の完成・提出 |
| 11 | 小論文の実践① | 編入試験で出題された小論文の構想メモを作成し、相互評価を行う | 構想メモの作成 |
| 12 | 小論文の実践② | 小論文を作成する | 小論文の作成 |
| 13 | 小論文の実践③ | 小論文の相互評価を行い、推敲の後、小論文を完成させる | 小論文の完成・提出 |
| 14 | 面接・ディスカッション | 面接やディスカッションの基本的なスキルを身につける | 編入試験における面接等の内容について調べる |
| 15 | 授業のまとめ・試験 | 授業の要点を理解し、試験問題を解く | これまでの授業の内容を復習し、試験に臨む |

**単位の認定について**　出席状況・ワークシート(30%)　提出物(30%)　試験(40%)

**教科書**　授業時に適宜教材・資料を配布する。

**授業外学習**　課題・発表資料については、必ず指定された日までに提出すること。発表等の準備を周到に行うこと。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題を評価し、助言を行う。

| 授業科目名 | 大学編入実践演習（科目コード:TCTRA201） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 富髙 啓順 htomitaka@edu.miyazaki-mic.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**①大学編入学に必要な資料や情報の具体的な収集方法などを知り、実際に活用することができる。
②さまざまな体験活動をとおして収集した資料や情報を整理し、発表することができる。
③また、それらの資料や情報を志願理由書や編入学試験における面接や小論文に活用できる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**①自らの進路に必要な知識や情報などの獲得方法を知り、体験活動などをとおして確実に身に付け、活用できる。
②自らの進路実現に向けて必要な知識や情報をスクラップし、活用できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 学習の進め方について理解する。<br>評価について理解する。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 2 | 資料・情報の収集方法 | 大学編入学に必要な資料や情報の収集方法を知る。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 3 | 受験報告書に学ぶ | 先輩の編入学試験の体験記録から今後の対策を考える。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 4 | 合格体験記に学ぶ | 先輩の合格体験記を読み、合格に繋がった具体的な取り組みや心構えを学ぶ。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 5 | 先輩の体験談に学ぶ | 先輩の体験談に触れ、質疑応答をとおして自らの学生生活の在り方を考える。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 6 | 大学編入学と資格 | 編入学の出願要件にある資格を確認する。<br>また編入大学で得られる資格について調べる。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 7 | 体験活動① | 大学等説明会などへの参加の機会を確認する。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 8 | 体験活動①の発表と意見交換 | 各自の体験を発表し、情報の共有を図る。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 9 | 体験活動② | 職場訪問と職業インタビューの実施方法を知る。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 10 | 体験活動②の発表と意見交換 | 各自の体験を発表し、情報の共有を図る。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 11 | 体験活動③ | インターンシップの在り方を理解する。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 12 | 体験活動③の発表と意見交換 | 各自の体験を発表し、情報の共有を図る。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 13 | 体験活動④ | ボランティア活動、アルバイトについて、その目的及び意義について考える。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 14 | 体験活動④の発表と意見交換 | 各自の体験を発表し、情報の共有を図る。 | 新聞を読み、必要な知識や情報をスクラップする。(60 分) |
| 15 | まとめ（最終課題） | まとめ（最終課題）として、進路実現に向けて必要な内容をまとめる。 | まとめ（最終課題）に備える。(60 分) |

**単位の認定について**　授業態度、課題の提出状況、まとめ（最終課題）の成果などを総合して評価する。（合計 100%）

**教科書　参考書**　必要に応じプリントを配布する。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、書籍に触れ、幅広い知識や情報を獲得すること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業はアクティブラーニングを取り入れて実施します。

| 授業科目名 | 調剤報酬請求演習(科目コード:) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目) 上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目) | | | | | | |
| 担当者 | 犬塚 三鈴 (実務家教員) (メールアドレス:m-inuzuka@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要:** 調剤報酬のしくみを理解するとともに、調剤レセプトを作成するまでの一連の事務処理を、実務演習を通して修得する。また、請求事務に係る帳票についても理解し医療機関、介護関連施設での事務業務に役立つようにする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標:** 処方箋から正確な調剤レセプトを作成できる。
グループ内の他者と協力し、より正確なレセプトを作成できる。
レセプト作成に必要な知識を他者に説明できる。
条例改正に伴う作業の変更を正しく実行することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 調剤報酬の成り立ちと歴史、調剤レセプト様式を理解する。 | 調剤レセプトの各項目について復習する(60 分) |
| 2 | 院外調剤のしくみ | 院外調剤のしくみを学ぶ。 | 院外調剤のしくみを図示して理解を深める(60 分) |
| 3 | 処方箋の読み方 | 処方箋の読み方を学び、上書きを作成する。 | 上書きの作成練習を行う(60 分) |
| 4 | 薬剤計算の基礎 | 薬価計算の方法を学ぶ。 | 薬価計算を復習する(60 分) |
| 5 | 調剤報酬のしくみ | 調剤報酬の各項目、各種加算について学ぶ。 | 調剤報酬の各項目、各種加算をノートにまとめて復習する(60 分) |
| 6 | 調剤レセプト作成 | 内服薬の算定とレセプト作成の方法について学ぶ。 | 練習問題を解きながら、調剤報酬算定のルールを理解する(60 分) |
| 7 | 調剤レセプト作成 | 内服薬、屯服薬の算定とレセプト作成の方法について学ぶ。 | 練習問題を解きながら、調剤報酬算定のルールを理解する(60 分) |
| 8 | 調剤レセプト作成 | 内服薬、屯服薬、外用薬の算定とレセプト作成の方法について学ぶ。 | 練習問題を解きながら、調剤報酬算定のルールを理解する(60 分) |
| 9 | 調剤レセプト作成 | 時間外、休日、深夜の処方箋の算定とレセプト作成の方法について学ぶ。 | 練習問題を解きながら、調剤報酬算定のルールを理解する(60 分) |
| 10 | 調剤レセプト作成 | 複数日に交付された処方箋の算定とレセプト作成の方法について学ぶ。 | 練習問題を解きながら、調剤報酬算定のルールを理解する(60 分) |
| 11 | 調剤レセプト作成 | 複数日に交付された処方箋の算定とレセプト作成の方法について学ぶ。 | 練習問題を解きながら、調剤報酬算定のルールを理解する(60 分) |
| 12 | 調剤レセプト作成 | 複数の医師が発行した処方箋の算定とレセプト作成の方法について学ぶ。 | 練習問題を解きながら、調剤報酬算定のルールを理解する(60 分) |
| 13 | 調剤レセプト作成 | 総合演習1 | 総合問題を解き、正しい算定ができるか、確認する(60 分) |
| 14 | 調剤レセプト作成 | 総合演習2 | 総合問題を解き、正しい算定ができるか、確認する(60 分) |
| 15 | まとめ | 科目のまとめ | 学修内容を復習する(60 分) |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について** 授業内での確認テスト 50% グループワークへの参加状況 20% レポート課題の提出と内容 20% 授業への取り組み 10%

**教科書** 授業の都度配布する

**参考書**

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | デジタルマーケティング(科目コード:) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要:** 本講義では、デジタルマーケティングの概念や基礎理論について学習し、実践的な知識を身につけることを目標とする。特に、企業経営の視点から、デジタルマーケティングがどのような役割を果たし、どのように実践され、企業成長にどのように貢献しているのかを学習する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標:** ・デジタルマーケティング考え方、基礎理論を理解している。
・デジタルマーケティングの考え方をもとにして、様々な問題解決に繋げられる思考力、問題解決力を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | デジタルマーケティングとは | リーチとリッチネスについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 2 | デジタルマーケティングの基本概念 | デジタルマーケティングの基本概念となる顧客との協働とマーケティング・ミックスについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 3 | デジタル社会の消費者行動 | カスタマー・ジャーニーとデジタル・リテラシーについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 4 | デジタル社会のビジネスモデル | プラットフォームの概念とネットワークの効果ついて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 5 | デジタルマーケティング戦略(1) | 製品戦略からデジタル財、IoT について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 6 | デジタルマーケティング戦略(2) | 製品戦略からクラウドソーシング、イノベーション・コニュニティについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 7 | デジタルマーケティング戦略(3) | 価格戦略から時期・顧客に対応したダイナミック・プライシングについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 8 | デジタルマーケティング戦略(4) | 価格戦略から消費者間取引のダイナミック・プライシング、電子決済について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 9 | デジタルマーケティング戦略(5) | チャネル戦略からダイレクトモデルとオムニチャネルについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 10 | デジタルマーケティング戦略(6) | チャネル戦略から、ウーバー、消費者間取引、シェアリング・エコノミーについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 11 | デジタルマーケティング戦略(7) | プロモーション戦略からトリプルメディア、コンテンツマーケティングついて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 12 | デジタルマーケティング戦略(8) | プロモーション戦略からクチコミ、共同格付けについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 13 | デジタルマーケティングのマネジメント(1) | デジタル社会のロジスティックについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 14 | デジタルマーケティングのマネジメント(2) | 探求的・検証的リサーチ、クラウド、アジャイル開発について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 15 | まとめ | 授業で学んだ内容の振り返り。 | 振り返りをする。(30 分) |

**単位の認定について** 学習時の取り組み態度 (30%) 学期末テスト (70%)

**教科書** 毎時のプリント

**参考書** 授業毎に紹介する。

**授業外学習について** 指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 図書・図書館史(科目コード:TCLSC206) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 佐藤 由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**記録媒体の歴史及び、図書の館として誕生した図書館の源流、発達の歴史を紐解くとともに、それぞれの時代・社会の中で図書及び図書館がどのように変化してきたのかを時代背景とともに理解する。また、それらを踏まえて高度情報社会における現在の図書館、そしてこれからの図書館のあり方について考察できる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標**：図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産（印刷等を含む）、普及、流通等の歴史、並びに図書館の歴史的発展について解説できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに<br>古代 | 古代知識の集積と図書館の始まりについて概要を学び、ギリシャ・アレクサンドリア図書館・ローマまでの流れを学習する。 | 古代における図書･図書館の意義について考える。（30 分） |
| 2 | 中世 | 印刷技術の発明や、中世前期の西ヨーロッパ、東ローマ帝国、イスラム世界の図書館、ルネサンス期までの流れを学習する。 | 印刷技術がもたらした変化について考え、まとめる。（30 分） |
| 3 | 近代・現代① | 近代･現代ヨーロッパの各国の状況について学習する。 | 各国の図書館の歴史的な背景を調べまとめる。（30 分） |
| 4 | 近代・現代② | アメリカにおける図書館の誕生と、世界大戦前後の図書館について学び、現在へ至る流れを学習する。 | アメリカで誕生した図書館が諸外国へ与えた影響について考える。（60 分） |
| 5 | 東洋の図書館<br>（古代・中世） | 古代中国での紙の発明や、印刷技術の始まり及び、古代から中世にかけての日本における図書の歴史の流れを学習する。 | 東洋世界と西洋の図書･図書館の違いについて考える。（30 分） |
| 6 | 日本の図書館<br>（近世・近代） | 活字版と出版業のはじまり、江戸時代の文庫、出版の取り締まりなどについて学び、幕末から明治までの流れを学習する。 | 西洋と日本の出版事業の違いについてまとめる。（30 分） |
| 7 | 日本の図書館<br>（現代）① | 図書館令、大正デモクラシー下での図書館、戦前・戦時下の図書館について学習する。 | 戦時下における検閲について調べ、現在の図書館の自由に関する宣言などへの流れをまとめる。（60 分） |
| 8 | 日本の図書館<br>（現代）② | 戦後のＧＨＱ政策下での図書館、敗戦後の再生から現在の図書館までの流れを学習し、これからの姿を考察する。 | 中小レポートの概要を理解する。歴史を振り返り、図書館の未来を考察する。（60 分） |

**単位の認定について**　授業への取り組み（30%）、レポート（70%）

**教科書**　授業内容についてはプリントを配布する。

**参考書**　『図書・図書館史』樹村房（2012）　『図書・図書館史』学芸図書株式会社（2013）
『図書・図書館史』学文社（2014）など。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書として勤務経験のある教員が、図書館の歴史や今後の図書館のあり方について指導する。

| 授業科目名 | 図書館概論(科目コード:TCLSC101) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書に関する科目(必修) | | | | | | | |
| 担当者 | 巻 庄次郎 (実務家教員) s-maki@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 1 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**図書館及び図書館員の使命について解説し、図書館の基本的機能や関係法規、図書館員の役割などを理解する。また、現代社会における図書館の意義や多種にわたる図書館サービスへの理解を深める。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**1.図書館の意義や基本的機能について説明ができる。
2.図書館の種類とその種別により図書館の役割と機能の違いを説明できる。
3.身近な図書館について調査を行い、その概要をレポートにまとめる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 図書館学・図書館概論とは！！ | 図書館学及び図書館概論の授業内容について学ぶ。 | 「図書館」と「図書館員」の役割について、これまで持っていたイメージを整理する。(60 分) |
| 2 | 図書館の定義と役割 | 図書館の定義と、生涯学習・高度情報化社会における図書館の役割について考える。 | 図書館の定義と役割について考えまとめる。(60 分) |
| 3 | 図書館法と関係法規 | 図書館法及び関係法規について学ぶ。 | 図書館法の全文を読む。(60 分) |
| 4 | ランガナタンの五法則と図書館 | ランガナタンの五法則と図書館について考える。 | ランガナタン五法則とその考え方を整理しまとめる。(60 分) |
| 5 | 公立図書館の役割と機能 | 公立図書館を訪問した結果をレポートにまとめるとともに、図書館の役割と機能について考える。 | 身近な図書館を訪問し、その図書館の概要について調査しまとめる。(120 分) |
| 6 | 大学図書館の役割と機能 | 大学図書館での実務体験を通して、その役割と図書館業務について学ぶ。 | 大学図書館等の役割や業務についてまとめる。(60 分) |
| 7 | 図書館の設置目的と無料の原則 | 図書館は何のためにあるのか。公立図書館は何故無料なのかをグループワークを行い考える。 | 図書館の設置目的と役割について考えまとめる。(60 分) |
| 8 | 知的自由と図書館１ | 図書館の自由とは何かを学ぶ。 | 図書館の自由に関する資料を調べ整理する。(60 分) |
| 9 | 知的自由と図書館２ | 図書館の自由が図書館サービスとどのように関わるのか、グループワークを行い考える。 | 図書館の自由に関する事例について自分の考えをまとめる。(60 分) |
| 10 | 公立図書館の運営方法と図書館サービス | 図書館の多様化した運営方法と図書館サービスのあり方について理解する。 | 図書館の運営に関する資料を調べまとめる。(60 分) |
| 11 | 図書館員の倫理とコンプライアンス | 図書館員の倫理とコンプライアンスについて考える。 | 図書館員の倫理について考え、まとめる。(60 分) |
| 12 | 図書館協力とネットワーク | 公共図書館、大学図書館等の協力・連携とそのネットワークについて理解する。 | 図書館協力・ネットワークについて調べまとめる。(60 分) |
| 13 | 地域社会と図書館１<br>～まちづくりと図書館～ | 地域の課題を踏まえ、まちづくりに役立つ図書館について、グループワークを行い考える。 | 自分の住んでいる地域社会の特色や課題を調べまとめる。(60 分) |
| 14 | 地域社会と図書館２<br>～まちづくりと図書館～ | まちづくりに役立つ図書館と新たな利用者サービスについてグループワークを行い、まとめ、発表する。 | 新たな利用者サービスのあり方について考えまとめる。(60 分) |
| 15 | まとめ | 講義の内容を踏まえ、何故、図書館が設置されているのか、無料なのかについて調べたことをレポートとしてまとめる。 | 図書館の現状と課題を踏まえ、これからの図書館サービスについて考えまとめる。(60 分) |

**単位の認定について** 授業内でのグループワークへの参加 30%, レポート等 20%、期末試験 50%を総合して評価する。

**教科書・参考書** 『図書館概論』 塩見昇編著 日本図書館協会 2018 その他適宜紹介する。

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間あて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※図書館長としての勤務経験を持つ教員が、図書館の基本的な機能や関係法規、図書館員の役割などを教授する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 図書館サービス概論(科目コード:TCLSC102) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書に関する科目(必修) | | | | | | | |
| 担当者 | 巻 庄次郎 (実務家教員) s-maki@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 図書館の基本的なサービスについて、その考え方や具体的なサービス内容、その実際などを学び、時代の変化や住民のニーズに応じたこれからの図書館サービスについて理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
1.図書館で行われる基本的なサービスについて説明することができる。
2.身近な図書館を訪問・調査し、図書館サービスの実際を理解し、レポートにまとめる。
3.これからの図書館サービスについての企画を立案し、レポートにまとめ提案する。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 図書館サービスとは！！ | 図書館サービス概論の授業内容について学ぶ。 | 自分と「図書館」のこれまでの関わりについてまとめる。(60分) |
| 2 | 図書館サービスの種類 | 図書館におけるテクニカルサービスとパブリックサービスの関係について考える。 | 図書館サービスについて調べまとめる。(60分) |
| 3 | フロアー・ワーク | フロアー・ワークとはなにか、図書館におけるフロアー・ワークの実際について学ぶ。 | 身近な図書館を訪問し、図書館サービスの実際について調査し、レポートにまとめる。(60分) |
| 4 | コミュニュケーション(接遇・サイン) | 図書館における利用者とのコミュニケーションについて考える。 | 接遇・サインのあり方について考えをまとめる。(60分) |
| 5 | 多様な利用者サービス | 障害者サービスや多文化サービス等、対象別の図書館サービスについて考える。 | 対象別の図書館サービスについて整理しまとめる。(60分) |
| 6 | 日本十進分類法と図書館サービス | 日本十進分類法とは何か、それによる資料配架と図書館サービスとの関連について理解する。 | 日本十進分類法を調べまとめる。(60分) |
| 7 | 児童サービスとヤングアダルトサービス | 児童サービスとヤングアダルトサービスの意義について理解する。 | ヤングアダルトへのサービス企画を考えまとめる。(60分) |
| 8 | 図書館協力・全域サービス | 図書館間の協力体制とそのネットワークについて理解する。 | 図書館間の協力体制について調べる。(60分) |
| 9 | 利用者サービスと図書館の自由 | 利用者サービスでの資料の提供など、どのように図書館の自由が関わるかについて考える。 | 図書館サービスと図書館の自由を考えまとめる。(60分) |
| 10 | レファレンス・サービス1 | 図書館におけるレファレンス・サービスについてその機能と役割を学ぶ。 | レファレンス・サービスの機能について調べる。(60分) |
| 11 | レファレンス・サービス2 | 図書館におけるレファレンス・サービスについて利用者との実際の対応について理解する。 | 身近な図書館を訪問し、図書館サービスの実際について調査しまとめる。(120分) |
| 12 | 課題解決型図書館サービス | 個人や地域の課題解決のために図書館がどのような支援ができるのか、現在の図書館サービスについて考える。 | 課題解決型図書館サービスに関する資料を調べる。(60分) |
| 13 | これからの図書館サービス1 | 社会の変化や地域のニーズに応じた新たな図書館サービスについて、グループワークを行い考える。 | 社会問題の背景と新たな図書館サービスについて考える。(60分) |
| 14 | これからの図書館サービス2 | 高齢者支援サービスについて、支援が必要な理由やそのあり方についてグループワークを行い考える。 | 図書館として高齢者支援サービスを行う必要性について、自分の考えをまとめる。(60分) |
| 15 | まとめ | これからの図書館サービスの可能性についてグループワークを行い、レポートにまとめる。 | これからの図書館サービスの可能性について考える。(60分) |

**単位の認定について** 授業内でのグループワークへの参加30%、レポート等20%、期末試験50%を総合して評価する。
**教科書 参考書** 『事例で学ぶ図書館サービス概論』 吉井潤著 青弓社 2022 その他適宜紹介する。
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間あて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。
※図書館長としての勤務経験のある教員が、図書館の基本的なサービスとこれからのサービスについて教授する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 図書館実習(科目コード:TCBSC) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 1 |

**実習の目的：**宮崎県立図書館で司書業務を体験することにより、これまでの学びの内容を深めるとともに、司書業務の実際を確認する。

**授業概要：**図書館実習を通して、司書業務に必要な知識・能力の育成を図りながら、学内での学びとは異なる気づきや新たな学びを促進する。また、今後の能動的な学びのための動機づけや専門知識の実用性を理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

到達目標

1．司書業務における実際的な知識・技術を学ぶことができる。
2．大学での学びと司書業務を結びつけて考えることができる。
3．様々な世代の人たちとのコミュニケーション能力を高め、職業人としてのマナーを身につけることができる。

**授業計画表**

**概要**

実習前指導(希望者の募集)

1. 12月(1年次)に、図書館実習の概要の説明及び希望者の募集を行う。

実習期間

1. 宮崎県立図書館での就業体験
　夏休み期間中に7日間の就業体験を実施する。
2. 実習先の訪問により、受け入れ先の担当者よりコメントを頂戴する。

実習後指導

1. 実習についての振り返り

**単位の認定について**

受け入れ先からの評価等(合計100%)

**参考書**

必要に応じて配布する。

**授業外学習について**

業務上必要な知識の修得、受け入れ先の担当者からの指導に伴う学修等。

**課題に対するフィードバックの方法**

面談等を行い、実習内容についての振り返りを行う。

| 授業科目名 | 図書館情報技術論(科目コード:TCLSC201) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格(必修) | | | | | | | |
| 担当者 | 石神 聖徳 m-ishigami@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② ◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得する。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、電子資料等の仕組みを熟知している。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | コンピュータとネットワークの基礎 | 図書館業務に必要な情報技術の前提になるコンピュータとネットワークに関する基礎的なことを学ぶ。 | 実際にパソコンやネットワークがどのように繋がっているかを調べる。(60 分) |
| 2 | 館内 LAN の構成、サブネットワーク、プロトコル | 館内 LAN を構成・管理するためにネットワークに関する事柄について学ぶ。 | 校内 LAN がどのように接続しているかネットワーク図を作る。(60 分) |
| 3 | コンピュータシステムの管理 | コンピュータやネットワークの管理に必要な事柄について学ぶ。 | 自分の周りにあるコンピュータ機器の構成管理台帳を作る。(60 分) |
| 4 | データベースの仕組み | 図書館で主に扱われる文献データベースを中心に、データベースの基礎について学ぶ。 | 商用データベースの料金体系について調べる。(60 分) |
| 5 | 図書館業務システムの仕組み | 業務システムとして図書館情報資源はどのように構成されているのか。 | 図書館の OPAC をみてどのような項目で検索できるか調べる。(60 分) |
| 6 | 館内ネットワークの仕様、仕様書 | 館内ネットワークを構築するための実務的な事柄を学ぶ。 | 自分のよく使う図書館の機器の配置が適切か考える。(60 分) |
| 7 | 図書館における情報技術活用の現状 | 図書館における情報技術活用の現状について。 | IC タグの利点と問題点を考察する。(60 分) |
| 8 | 電子資料の管理技術 | 図書館で電子資料を取り扱うための基本技術について学ぶ。 | メディアの変遷について今後の見通しを考える。(60 分) |
| 9 | 電子図書館とデジタルアーカイブ | 電子図書館とデジタルアーカイブについての基本的な概念を理解し、資料の電子化の技術も学ぶ。 | 電子図書館サービスを使い資料を閲覧する。(60 分) |
| 10 | 最新の情報技術と図書館 | 図書館業務と利用者サービスにおける最新の技術を学ぶ。 | IC タグ、自動貸出、自動書庫を備えた図書館はどの程度あるか調べる。(60 分) |
| 11 | 情報技術と社会 | 図書館の ICT だけではなく情報化社会とはなにか。その発展と未来について考える。 | パソコンの出現はコンピュータの世界をどのように変革したか考察する。(60 分) |
| 12 | インターネットと図書館 | 図書館とインターネットはそれぞれ知の再生産のためのインフラとも言える。そのインターネットの図書館の関わりや技術を学ぶ。 | 普段よく使っている URL をみて、その意味を記述する。(60 分) |
| 13 | サーチエンジンの仕組み | インターネットの情報探索になくてはならないツールであるサーチエンジンについての基本的な概念の理解と仕組みを学ぶ。 | 複数のサーチエンジンを用いて検索し、結果がどのように異なるか考察する。(60 分) |
| 14 | Web2.0 と Library2.0 | 1990 年代のインターネット普及と、さらに身近になったインターネットの技術と図書館技術の未来について考える。 | Library2.0 とみなすことのできるアイデアを考察する。(60 分) |
| 15 | 展望 | 図書館情報の未来について考える。 | どのようなことができると図書館は便利になるか考察する。(60 分) |

**単位の認定について**　取り組み状況、プリント課題(20%)、最終レポート(80%)
**教科書**
**参考書**
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。

| 授業科目名 | 図書館情報資源概論(科目コード:TCLSC103) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格（必修） | | | | | | | |
| 担当者 | 佐藤 由紀枝(実務家教員)y-sato@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**印刷資料・非印刷資料・電子資料・パッケージ系電子出版物、ネットワーク情報源などからなる図書館情報資源について、その類型と特質等を学ぶと共に、地域資料や行政資料などについても学習する。また図書館での収集業務に必要な図書の生産、流通について基本的な事項を学び、選書、収集、保存や、装備、排架、点検などの管理業務についても理解し、実践できる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**印刷資料や電子資料などの図書館情報源について類型と特質を理解している。
図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得している。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに | 授業の方針と内容の概要について説明し、情報資源について学習する。 | 情報資源とは何か考える。（30 分） |
| 2 | 印刷資料と非印刷資料の類型と特質 | 印刷資料と非印刷資料の類型と特質を学び、図書、雑誌、新聞等の特徴について学習する。 | 図書の歴史を調べる。（30 分） |
| 3 | 情報資源の生産① | 出版、出版業界の基本的知識と新刊市場などについて学習する。 | 出版社の意義について調べる。（30 分） |
| 4 | 情報資源の生産② | 再販制度・委託販売制度などについて学習する。 | 今後の取次可能性（方向性）について調べる。（30 分） |
| 5 | 電子図書・ネットワーク情報源の類型と特質 | 電子資料、ネットワーク資料について学習する。 | 電子資料のメリット･デメリットを考える。（30 分） |
| 6 | 図書館資料の種類とその特徴 | 政府刊行物、行政資料などの灰色文献や地域資料について学習する。 | 図書館が灰色文献を収集する意義を考える。（30 分） |
| 7 | 図書館資料の種類とその特徴 | その他の資料（地図、障がい者用資料など）について学習する。 | 近隣の公共図書館での障害者向け資料（サービス）を調べ、利用居てみる（60 分） |
| 8 | 図書館と著作権① | 図書館と著作権、図書館に関わる各種法令について学習する。 | 関わりのある法令を探し読んでみる（60 分） |
| 9 | 図書館と著作権② | 図書館と著作権、図書館に関わる各種法令について学習する。 | 日本の著作権について調べる。（60 分） |
| 10 | 図書館業務と情報資源に関する知識① | 図書館の自由と検閲について学習する。 | 図書館の自由に関する宣言の意義を考える。（60 分） |
| 11 | 図書館業務と情報資源に関する知識② | 蔵書論･収集、書庫管理などについて学習する。 | 図書館の収集方針を読み比べ蔵書の意義を考える。（30 分） |
| 12 | 図書館業務と情報資源に関する知識③ | 選書の為に必要な知識などについて学習する。 | 書評などが載っている媒体を探し、読んでみる（60 分） |
| 13 | 図書館業務と情報資源に関する知識④ | 資料の受入・除籍・保存・管理などについて学習する。 | 間接サービスの内容を調べる。（30 分） |
| 14 | 図書館業務と情報資源に関する知識⑤ | 装備・補修・排架・展示・点検等等について学習し、図書館での本の修理の技法を学ぶ。 | 間接サービスの内容を調べる。（30 分） |
| 15 | まとめ | 要点の整理。 | 図書館にとっての資料､情報とは何か考える。（30 分） |

**単位の認定について**　授業への取り組み（20%）、試験（80%）

**教科書**　授業内容についてはプリントを配布する

**参考書**　『図書館情報資源概論』日本図書館協会（2018）『図書館情報資源概論』学文社（2016）など

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書としての勤務経験のある教員が、図書館情報資源について基本的な事項を教授する。

| 授業科目名 | 図書館情報資源特論(科目コード:TCLSC207) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 司書資格に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 佐藤 由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：**人文科学、社会科学、自然科学の概念、特性を学ぶと共にそれぞれの分野における主な資料・検索ツールなどを学ぶ。また、資料収集プロセス（選書・発注・受入）、資料組織化プロセス（分類・目録・装備・整理）、資料管理プロセス（保管・評価・再編）の３つのテクニカルサービスの理論と実際を習得し実践できる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**人文科学、社会科学、自然科学の分野の概念、特性、領域及びテクニカルサービスにおける３つのプロセスについて、それぞれの概念を明確に理解し、３つのプロセスが実践できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに | 専門資料とは。 | 概論で学んだ内容をまとめ、復習する。（30 分） |
| 2 | 各領域について | 人文科学の概念、特性、領域。 | 各領域を分類する。（30 分） |
| 3 | 各領域について | 社会科学の概念、特性、領域。 | 過去の事件の第一報、そこからの推移を新聞で読み比べる。（30 分） |
| 4 | 各領域について | 自然科学の概念、特性、領域。 | 科学者の倫理観について考える。（30 分） |
| 5 | 資料収集プロセス | 資料収集プロセス：演習、解説。 | 選書の演習に向けて情報収集をする。（30 分） |
| 6 | 資料組織化プロセス | 資料組織化プロセス：演習、解説。 | 選書の演習に向けて情報収集をする。（30 分） |
| 7 | 資料管理プロセス | 資料管理プロセス：演習、解説。 | 選書の演習に向けて情報収集をする。（30 分） |
| 8 | まとめ | テクニカルサービスについてまとめ。 | テクニカルサービスの重要性をまとめる（30 分） |

**単位の認定について**　授業（授業内での演習含む）への取り組み（100%）

**教科書**　授業内容についてはプリントを配布する。

**参考書**　『図書館情報資源概論』日本図書館協会（2018）『図書館情報資源概論』学文社（2016）など。

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※図書館司書としての勤務経験のある教員が、資料収集プロセス・資料組織化プロセス・資料管理プロセスのテクニカルサービスの理論を教授する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 図書館制度・経営論(科目コード:TCLSC202) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得の関連 | 司書資格(必修) | | | | | | | |
| 担当者 | 巻 庄次郎 (実務家教員) s-maki@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 図書館に関する法体系を理解するとともに、図書館経営という視点から、図書館活動を見つめ、経営の意義や組織の在り方、サービス計画立案等の手法について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ ◎ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② ◎ | Ⅲ | |

**到達目標：**
1. 図書館に関する法規等について説明することができる。
2. 図書館政策と図書館の組織のあり方について理解し、説明することができる。
3. 図書館におけるマーケティングと評価について考え、サービス計画等の立案について理解することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 図書館経営とは！！ | 図書館経営の意義について考える。 | 「図書館経営」とは何か,自分の考えをまとめる。(60 分) |
| 2 | 図書館の法体系と図書館法 | 図書館に関する法体系と図書館法について学ぶ。 | 図書館と法体系について調べ整理する。(60 分) |
| 3 | 図書館法１ | 図書館法の設置目的と図書館の役割を考える。 | 図書館法について調べまとめる。(60 分) |
| 4 | 図書館法２ | 図書館法における公立図書館の無料の原則について考える。 | 何故、公立図書館は無料なのか、自分の考えをまとめる (60 分) |
| 5 | 望ましい基準と図書館サービス | 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」における図書館の運営について考える。 | 望ましい基準についてまとめ整理する。(60 分) |
| 6 | 図書館関係法規等 | ユネスコ公共図書館宣言など図書館に関する法規等について理解する。 | 図書館と関係法規について調べまとめる。(60 分) |
| 7 | 自治体行政と図書館 | 自治体行政と図書館の関係、及び図書館政策について考える。 | 自治体行政と図書館について調べまとめる。(60 分) |
| 8 | 図書館経営の基本思考１ | 図書館経営の基本的な考え方について学ぶ。 | 図書館経営の基本思考について調べる。(60 分) |
| 9 | 図書館経営の基本思考2 | 図書館の持つ資源とその活用について理解し、運営体制・経営について考える。 | 図書館の持つ資源と運営体制について調べる。(60 分) |
| 10 | 図書館運営と図書館の自由１ | 図書館の自由が図書館サービスと、どのように関わるのか、その実際について学ぶ。 | 図書館の自由とは何か、これらに関する資料を整理する。(60 分) |
| 11 | 図書館運営と図書館の自由２ | 具体的な図書館の自由の事例に対して、図書館員として、どのようにこれらに臨むのかをグループワークを行い考える。 | 図書館の自由に関する事例を調べまとめる。(60 分) |
| 12 | 図書館サービス計画１ | 図書館におけるサービス計画とマーケティング、評価の必要性について考える。 | 自分の住む地域の実情と図書館サービスについて調べる。(90 分) |
| 13 | 図書館サービス計画２(多文化サービス) | 図書館における多文化サービス計画についてグループワークを行い考える。 | 多文化サービスの計画について考える。(60 分) |
| 14 | 図書館サービス計画３(多文化サービス) | 図書館における多文化サービス計画についてグループワークの考えをまとめ、発表する。 | 多文化サービスについて、自分の考えをまとめる。(60 分) |
| 15 | まとめ | 図書館制度・経営論の全般についてまとめる。 | 「図書館経営」の課題と新たなサービスについてまとめる。(60 分) |

**単位の認定について** 授業内でのグループワークへの参加 30%、レポート等 20%、期末試験 50%を総合して評価する。

**教科書 参考書** 『図書館制度・経営論』永田治樹編著 日本図書館協会 2016 その他適宜紹介する。

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間あて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※図書館長としての勤務経験のある教員が図書館経営という視点から経営の意義や組織、サービス計画について教授する。

※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 日本語表現Ⅰ（科目コード:TCCMM101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | プレゼンテーション実務士(選択科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 川越 勇二 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業目標：** この講義では、日本語を用いて自らの考えをまとめるとともに適切な表現を選んで正確に伝える力をつけることを目指す。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ | ① | ②◎ | ③○ | | (1) | (2) | (3) |

**到達目標：**社会の問題について考え、意見を述べることができる。Ⅲ-c
自分の考えを、反論に対する答えも含めて正確に相手に伝える800字程度の文章が書ける。Ⅲ-c　Ⅳ-ad
相手に合わせて、わかりやすく話すことができる。 Ⅲ-d　Ⅳ-d

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自分の意見を見つけよう | 問題に対する自分の意見を決める。 | 意見を文章にする(30分) |
| 2 | 結論と根拠 | 意見と根拠を整理する。 | 新聞を読む(30分) |
| 3 | 段落 | 全体の構成を考え、段落にまとめる。 | 文章に書く(30分) |
| 4 | 社会に目を向けよう | グループワークで、社会問題を挙げてみる。 | 問題について調べる(60分) |
| 5 | 問題整理 | グループワークで問題点を整理する。 | 資料を探す(60 分) |
| 6 | 資料の探し方 | 資料の探し方を知る。 | 根拠資料を探す(50分) |
| 7 | 参考資料 | 引用と自分の意見を区別する。 | 参考文献リスト作成(50分) |
| 8 | 意見発表 | 発表と質疑応答を行う。 | 質疑をまとめる(50分) |
| 9 | 文章にまとめる | 構成を考えて、文章化する | ニュースを聞く(60分) |
| 10 | 意見発表 | 社会の動きで、関心のあることについて発表する。 | 関心事項をまとめる(30分) |
| 11 | 疑問点を見つける | 社会に対する疑問を挙げ、問題点をまとめる。 | 自分の意見を考える(50分) |
| 12 | 構成を考える | 疑問と答え、その根拠を整理し、構成する。 | 主題文を書く(30分) |
| 13 | 根拠の明示 | 根拠を探し、示し方を工夫する。 | 資料を探す(50分) |
| 14 | 文章のポイント | 推敲のポイントを理解する。 | 発表準備(60分) |
| 15 | 発表 | 意見発表と質疑応答 | レポートを完成させる(60分) |

**単位の認定について**

授業における課題と授業外学習　60%
発表　20%
最終レポート　20%

**教科書**　プリントを配付する。

**参考書**

**授業外学習**　幅広く本を読み、他者の立場や考えを知る。

**課題に対するフィードバック**　提出された課題はチェック後に解説する。

| 授業科目名 | 販売学総論Ⅰ（科目コード:TCBSC212） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**近年、流通業界を取り巻く環境は、顧客ニーズの多様化・細分化・ＩＣＴ化の著しい進展により大きく変化している。そこで、小売業の類型、マーチャンダイジング、ストアオペレーションに関する知識や技術を修得し、将来、流通業界の環境変化に対応できる基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：**
・即戦力として、ビジネス活動に直結した知識・能力を身につけることができる。
・小売店舗運営の基本的な仕組みを理解し、販売員としての基本的な知識・技術を身につけ、それらを場面に応じて応用できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 流通における小売業の基本 | 小売業とは何か、中小小売業の現状と役割について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 2 | 組織形態別小売業の基本 | 組織小売業の種類と特徴、チェーンストアの基本的役割、販売形態の種類と特徴、インターネット社会と小売業について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 3 | 店舗形態別小売業の基本的役割 | 小売業態、店舗形態別小売業の基本知識について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 4 | 商業集積の基本 | 商店街、ショッピングセンター(SC)の現状と特徴について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 5 | 商品の基本 | 商品とは何か、商品の分類、商品の本体要素について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 6 | マーチャンダイジングの基本 | マーチャンダイジングの基本的考え方、コンビニエンスストア・チェーンに見るマーチャンダイジングの主な機能について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 7 | 商品計画の基本 | 商品計画の基本知識について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 8 | 販売計画及び仕入計画などの基本 | 販売計画策定、仕入計画策定、仕入業務、棚割とディスプレイ、物流の基本知識について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 9 | 価格設定の基本(1) | 価格の設定要因と価格政策、売価設定の基本、利益の構造について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 10 | 価格設定の基本(2) | 在庫管理、販売管理の基本について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 11 | ストアオペレーションの基本(1) | ストアオペレーション・サイクル、開店準備の業務、日常の運営業務について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 12 | ストアオペレーションの基本(2) | メンテナンス業務、チェックアウト業務、ミーティングについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 13 | 包装技術の基本 | 包装の意義と目的、包装の種類と方法、ひものかけ方・リボンのつくり方、和式進物包装について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 14 | ディスプレイの基本 | ディスプレイの目的と基本的役割、基本的パターン、ファッション衣料品業界のディスプレイ技術について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 15 | まとめ | 授業で学んだ内容の振り返り。 | 振り返りをする。(30 分) |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度（30%）　学期末テスト（70%）

**教科書**　授業にてレジュメを配付。

**参考書**　授業内で指定する。

**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 販売学総論Ⅱ（科目コード:TCBSC213） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**近年、流通業界を取り巻く環境は、顧客ニーズの多様化・細分化・ＩＣＴ化の著しい進展により大きく変化している。「販売学総論Ⅰ」に続いて、マーケティング、販売・経営管理に関する知識や技術を修得し、流通業界の環境変化に柔軟に対応できる資質や能力を身につける。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標：** ・即戦力として、ビジネス活動に直結した知識・能力を身につけることができる。
・小売店舗運営の基本的な仕組みを理解し、販売員としての基本的な知識・技術を身につけ、それらを場面に応じた活用ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | マーケティング | 小売業のマーケティングの基本知識、4P 理論の小売業への適用について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 2 | 顧客満足経営の基本 | 顧客満足経営、顧客維持政策、フリークエント・ショッパーズ・プログラムの基本知識について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 3 | 商圏の設定と出店の基本 | 商圏、立地条件、出店の基本知識について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 4 | リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本 | リージョナルプロモーションの体系・概要、インバウンド（訪日外国人に対するプロモーション）について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 5 | 顧客志向型売場づくりの基本 | 売場の改善と改革、店舗照明の基本知識、光源の種類と特徴、ディスプレイ効果を高める色彩の活用について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 6 | 販売員の役割の基本 | 接客マナー、クレームや返品への対応について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 7 | 販売員の法令知識 | 小売業に関する主な法規、環境問題と消費生活について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 8 | 小売業の計数管理 | 販売員に求められる計数管理、売上高・売上原価・売上総利益（粗利益高）の関係について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 9 | 店舗管理の基本 | 金券類の扱いと金銭管理、万引防止対策、衛生管理の基本知識について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 10 | 模擬問題練習(1) | リテールマーケティング（販売士）検定 3 級の過去問題を解き、内容について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 11 | 模擬問題練習(2) | リテールマーケティング（販売士）検定 3 級の過去問題を解き、内容について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 12 | 模擬問題練習(3) | リテールマーケティング（販売士）検定 3 級の過去問題を解き、内容について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 13 | 模擬問題練習(4) | リテールマーケティング（販売士）検定 3 級の過去問題を解き、内容について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 14 | 模擬問題練習(5) | リテールマーケティング（販売士）検定 3 級の過去問題を解き、内容について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 15 | まとめ | 授業で学んだ内容の振り返り。 | 振り返りをする。(30 分) |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度（30%）　学期末テスト（70%）

**教科書**　授業内でレジュメを配付する。

**参考書**　授業内で指定する。

**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | Business English(科目コード:TCCMM202) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 植田美穂(m-ueda@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**

This being a communication skill course which is specifically oriented towards practical English used in workplace, both spoken and written, students are required to have some basic interest in communication, negotiation and presentation which are all fundamental and prerequisite skills in business.

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**

Test result, some written assignments, in-class public speeches, presentations, and interviews will all be taken into account in determining the grade and overall evaluation for this course.

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | Introduction | Self introduction: to figure out how to make the most effective & impressive self PR in business | Assignment; curriculum vitae (CV) (for 5 minutes' presentation) |
| 2 | Unit 1 | Asking/ Giving information: to learn some useful phrases in exchanging information in business | |
| 3 | Unit 2 | Abilities: how to present some proficiency or skills | |
| 4 | Unit 3 | Job Routines: names of each department in office, roles & titles in business | Assignment; want ad translation (task required: 30minutes) |
| 5 | Unit 4 | Reservation: to learn how to manage the schedule and make appointment | Assignment; diary of a week(task required: 30minutes) |
| 6 | Unit 5 | Stating Locations: to guide the guest with precise description | Assignment; map of the community (task required: 30minutes) |
| 7 | Review | Review of Units 1 through 5 | Review Test (app. For 30 minutes) |
| 8 | Unit 6 | Using the Telephone: practice telephone conversation that commonly may happen in business | |
| 9 | Unit 6 continued | Telephone Routine: to learn some set phrases in telephone conversation | |
| 10 | Unit 7 | Sending e-mail: to learn how to send business e-mails | Assignment; letter translation (task required: 30 minutes) |
| 11 | Unit 7 continued | Letters: to learn how to compose the effective letters in business | |
| 12 | Unit 8 | Letters of Complaint: to learn some style of letters of complaint that may commonly be seen in some situations in business | |
| 13 | Unit 9 | Explaining/ Understanding culture: to see cultural differences in the world | Presentation on different cultures (minimum time length: 5 minutes ) |
| 14 | Unit 10 | Future Plans: to learn how to give a speech on the future plans | Public speech; future plans (presentation for at least 5 minutes) |
| 15 | Review | Review of Units 6 through 10 and the test | Review Test(30min) |

**単位の認定について** Review test 40% Reports(Assignment) 30% Oral Participation 30%
**教科書** Handouts presented in each lesson
**参考書**
**授業外学習について** テストやレポート作成のために毎時 30 分以上、また、予習・復習のために 1 時間程度をあてること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | ビジネス実務演習Ⅰa(科目コード:TCBSC201) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級秘書士(メディカル)に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 兒玉 京子 （ k-kodama@mgjc.ac.jp ） | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、スキルを身につける。実社会で即戦力となりうる人材の育成のため、社会人に求められる基本的なスキルを習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
・働くことの意義と重要性を理解し、社会人となるための心構え、知識、 マナーを身につける。
・社会人として必要な、チームビルディング、PDCA サイクル、アサーション、労働法について理解する。
・情報を整理し、課題を可視化するための手法マインドマップを習得する。
・グループワークを通し、コミュニケーション力、協調性、主体性を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 働くとは？ | 働くとはどういうことか～職業意識を身に付ける<br>働くことの意義・重要性について考える。<br>グループワークを行う。 | 働くことについてまとめる。(30 分) |
| 2 | コミュニケーション<br>聴き方について | コミュニケーションの基本となる聴き方について理解する。 | コミュニケーションについてまとめる。(30 分) |
| 3 | コミュニケーション<br>インタビューに挑戦 | 聴き方を意識したインタビューを実践する。 | 聴き方のワークについて振り返る。(30 分) |
| 4 | 顧客満足度と従業員満足度 | 顧客満足度と従業員満足度について理解する。<br>グループワークを行い、話し合いの結果をプレゼンテーションする。 | 顧客満足度と従業員満足度についてタブレット端末で調べ学習し、まとめる。(30 分) |
| 5 | 報告連絡相談 | 報告連絡相談の基本を理解し、実践力を身につける。 | 報連相の実践課題に取り組む。(30 分) |
| 6 | 社会人に必要とされるマナー | 社会人に求められる実践的なマナーを理解し、実践する。 | 社会人に求められるマナーについてまとめる。 |
| 7 | チームとは | チームとは何か？チームビルディングの必要性を理解する。 | チームビルディングが必要とされる背景についてタブレット端末で調べ学習し、まとめる。(30 分) |
| 8 | チームビルディング | ワークを通して、チームビルディングを理解する。 | チームビルディングに関して調べ、まとめる。(30 分) |
| 9 | マインドマップとは | マインドマップの基本を理解する。 | マインドマップで自己 PR を作成する。(30 分) |
| 10 | マインドマップ作成 | 課題を通じて、チーム、個人でマインドマップを作成する。 | 課題のマインドマップを作成する。(30 分) |
| 11 | マインドマップ発表 | 作成したマインドマップをプレゼンテーションする。 | プレゼンテーションの振り返りをまとめる。(30 分) |
| 12 | PDCA サイクル | PDCA の基本を理解する。<br>ワークを通じて、PDCA を実践する。<br>グループワークを行い、話し合いの結果をプレゼンテーションする。 | KPT 法で振返る。(30 分) |
| 13 | アサーション | アサーションについて学び、自分のアサーション度を理解し、今後の社会生活に活かす。 | アサーションの必要性についてタブレット端末で調べ学習し、まとめる。(30 分) |
| 14 | 知って得する労働法 | 労働基準法の基本を理解する。 | 労働基準法について復習する。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだことの振り返りを行う。 | 本授業で学んだことをまとめる。(30 分) |

**単位の認定について** 授業態度 30% 提出物 20% 課題作成 30% 発表 20% 60 点以上が合格
**教科書 参考書**
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | ビジネス実務演習Ｉb(科目コード:TCBSC201) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級秘書士(メディカル)に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 兒玉 京子 （ k-kodama@mgjc.ac.jp ） | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** ビジネスシーンで活用できるコミュニケーション力の向上を図るとともに、社会人として必要な論理的な思考ができるスキルを習得する。社会人として必要なマネーリテラシーを身につける。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**・社会人として必要な心構え、知識、 マナーを身につける。
・論理的に物事が考えられるスキルを身につけ、ピラミッドストラクチャの作成ができるようになる。
・社会人としてのマネーリテラシーを身につける。
・グループワークを通し、コミュニケーション力、協調性、主体性を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | コミュニケーション<br>他己紹介 | コミュニケーションの基本となる聴き方を理解し、他者にインタビューし、プレゼンテーションする。 | 聴き方のワークについて振り返る。(30分) |
| 2 | 1対1のコミュニケーション | 相手を尊重し、聴くことポイントを理解し、効果的な話し方を学ぶ。 | 1対1のコミュニケーションに対して、注意するべきことをまとめる。(30 分) |
| 3 | 1対1のコミュニケーション | コミュニケーションの実践的な場での対応について、課題を通して学ぶ。 | 1対1のコミュニケーションの課題を行う。(30 分) |
| 4 | ロジカルシンキング<br>定義 | ロジカルシンキングの基本を学ぶ。<br>事実と意見を分けることを学ぶ。 | ロジカルシンキングについてまとめる。(30 分) |
| 5 | 自分の考えを言葉にする | 自分の考えを言葉にすることを、実践を通して学ぶ。 | 自分の考えを言葉にする課題を行う。 |
| 6 | 言葉の使い方 | いかに相手にわかりやすく伝えるか実践を通して学ぶ。 | 言葉の使い方の課題を行う。(30 分) |
| 7 | ピラミッドストラクチャの基本 | ピラミッドストラクチャを使用し、論理的に考えることを学ぶ。 | ピラミッドストラクチャのテーマから、メインとサブの問いについて考える。(30分) |
| 8 | ピラミッドストラクチャ作成<br>(グループ) | ピラミッドストラクチャの課題をグループで作成する。タブレット端末を利用し、情報収集を行う。 | ピラミッドストラクチャを構成する事象について調べる。(30 分) |
| 9 | ピラミッドストラクチャプレゼンテーション<br>(グループ) | グループで作成したピラミッドストラクチャをプレゼンテーションする。 | 発表についての振り返りをする。(30分) |
| 10 | ピラミッドストラクチャ作成<br>(個人) | ピラミッドストラクチャの課題を個人で作成する。<br>タブレット端末を利用し、情報収集を行う。 | ピラミッドストラクチャを構成する事象について調べる。(30 分) |
| 11 | ピラミッドストラクチャプレゼンテーション(個人) | 個人で作成したピラミッドストラクチャをプレゼンテーションする。 | 発表についての振り返りをする。(30分) |
| 12 | マネーリテラシー | 成年年齢引き下げ、マネープランについて学ぶ。 | 社会人となったときの、マネープランを考える。(30 分) |
| 13 | マネープラン | 生涯の収入、支出、貯蓄、クレジット、悪徳業者への対策について学ぶ。 | ライフデザインについて考える。(30分) |
| 14 | 社会保険 | 社会保険について学ぶ。 | 社会保険についてまとめる。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだことの振り返りを行う。 | 本授業で学んだことをまとめる。(30分) |

**単位の認定について** 授業態度 30% 提出物 20% 課題作成 30% 発表 20% 60 点以上が合格
**教科書 参考書**
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | ビジネス実務演習Ⅱa(科目コード:TCBSC202) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 節政 沙弥香(s-setsumasa@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要:**ビジネスの現場で、仕事を効率よくこなし、周囲の人たちと良い人間関係を構築できるための知識や技能を修得する。アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標:** ①ビジネス社会の常識を理解し、社員としての役割を説明できる。
②効率よく確実に仕事を実行できる。
③周囲の人と良い人間関係を即座に構築できる接遇力を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オフィスワークシミュレーション演習① | 教室をオフィスに見立て、会社概要、仕事内容、人間関係を理解しながら、仕事を進める | １年時のテキスト等を参考に、仕事の進め方や社会人としての振る舞いを確認しておく（40 分） |
| 2 | オフィスワークシミュレーション演習② | パソコンを活用しながら、効率的に仕事を進める | 来客名簿、文書受発信簿をパソコンで作成しておく（40 分） |
| 3 | シミュレーション環境を整える | 資料管理について学び、バーチカルファイリング法でファイリングを演習する | 教科書ｐ.10～ｐ.17 応対用語をノートに書いておく（40 分） |
| 4 | シミュレーション環境を整える | 教科書ｐ.10～ｐ.17 部屋のレイアウト、等 | 教科書ｐ.18～ｐ.22 応対用語をノートに書いておく（30 分） |
| 5 | 10 月 1 日（金） | 教科書ｐ.18～ｐ.22 応接室の環境整備、等 | 教科書ｐ.23～ｐ.27 応対用語をノートに書いておく（30 分） |
| 6 | 10 月 4 日（月） | 教科書ｐ.23～ｐ.27 会議の準備、等 | 教科書ｐ.28～ｐ.33 応対用語をノートに書いておく（30 分） |
| 7 | 10 月 5 日（火） | 教科書ｐ.28～ｐ.33 来客応対、等 | 教科書ｐ.34～ｐ.38 応対用語をノートに書いておく（40 分） |
| 8 | 10 月 6 日（水） | 教科書ｐ.34～ｐ.38 報告の仕方、等 | 教科書ｐ.39～ｐ.47 応対用語をノートに書いておく（40 分） |
| 9 | 10 月 7 日（木） | 教科書ｐ.39～ｐ.47 議事録作成、等 | 教科書ｐ.48～ｐ.53 祝い状は、参考資料を元に調べて書いておく（40 分） |
| 10 | 10 月 8 日（金） | 教科書ｐ.48～ｐ.53 贈答業務、等 | 教科書ｐ.54～ｐ.59 応対用語をノートに書いておく（30 分） |
| 11 | 10 月 11 日（月） | 教科書ｐ.54～ｐ.59 発信業務、等 | 教科書ｐ.60～ｐ.64 応対用語をノートに書いておく（30 分） |
| 12 | 10 月 12 日（火） | 教科書ｐ.60～ｐ.64 案内状作成、等 | 教科書ｐ.65～ｐ.71 応対用語をノートに書いておく（30 分） |
| 13 | 10 月 13 日（水） | 教科書ｐ.65～ｐ.71 旅程表の作成、等 | 教科書ｐ.72～ｐ.74 応対用語をノートに書いておく（30 分） |
| 14 | 10 月 14 日（木） | 教科書ｐ.72～ｐ.74 情報収集の仕方、等 | 演習に備えて、これまでの仕事の振り返りをしておく（50 分） |
| 15 | 振り返り演習 | 10 日間の仕事を振り返り、実践演習を行う | 自分が苦手とするビジネスの場面を想定し、対処法を考察、まとめる（40 分） |

**単位の認定について** 課題提出３０％、研究課題発表３０％、ロールプレイ評価３０％、ノート評価１０％の６割点で単位が認められる。

**教科書** 『セクレタリー・シミュレーション』（早稲田教育出版）

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | ビジネス実務演習Ⅱb(科目コード:TCBSC202) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士 | | | | | | |
| 担当者 | 節政 沙弥香(s-setsumasa@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**ビジネスの現場で、仕事を効率よくこなし、周囲の人たちと良い人間関係を構築できるための知識や技能を習得する。好感と信頼を持たれるような言動を身につける。この授業は、アクティブトレーニングを取り入れて実施する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ○ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ①ビジネス社会の常識を理解し、社員としての役割を説明できる。
②効率よく確実に仕事を実行できる。
③周囲の人と良い人間関係を即座に構築できる接遇力を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オフィスワークシミュレーション確認演習 | ビジネス実務演習Ⅰaの内容を応用し、実践確認をする | 教科書ｐ.75～ｐ.77 応対用語をノートに書いておく（30分） |
| 2 | 10月15日（金） | 教科書ｐ.75～ｐ.77 日程管理、等 | 教科書ｐ.78～ｐ.83 応対用語をノートに書いておく（30分） |
| 3 | 10月18日（月） | 教科書ｐ.78～ｐ.83 電話応対、等 | 教科書ｐ.84～ｐ.89 応対用語をノートに書いておく（30分） |
| 4 | 10月19日（火） | 教科書ｐ.84～ｐ.89 グラフ作成、等 | 教科書ｐ.90～ｐ.97 応対用語をノートに書いておく（40分） |
| 5 | 10月20日（水） | 教科書ｐ.90～ｐ.97 受信業務、等 | 教科書ｐ.98～ｐ.103 応対用語をノートに書いておく（30分） |
| 6 | 10月21日（木） | 教科書ｐ.98～ｐ.103 知人の慶事、等 | 教科書ｐ.104～ｐ.109 応対用語をノートに書いておく（30分） |
| 7 | 10月22日（金） | 教科書ｐ.104～ｐ.109 訃報、等 | 教科書ｐ.110～ｐ.112 応対用語をノートに書いておく（30分） |
| 8 | 10月25日（月） | 教科書ｐ.110～ｐ.112 上司不在対応、等 | 教科書ｐ.113～ｐ.120　応対用語をノートに書いておく（40分） |
| 9 | 10月26日（火） | 教科書ｐ.113～ｐ.120 アポイント、等 | 教科書ｐ.121～ｐ.127　応対用語をノートに書いておく（40分） |
| 10 | 10月27日（水） | 教科書ｐ.121～ｐ.127 災害対応、等 | 教科書ｐ.128～ｐ.133　応対用語をノートに書いておく（30分） |
| 11 | 10月28日（木） | 教科書ｐ.128～ｐ.133 出張後の対応、等 | 受付応対の進め方をノートに書いておく（30分） |
| 12 | 10月29日（金） | 教科書ｐ.134～ｐ.135 セミナー受付 | 教科書ｐ.135　1か月の仕事の進め方の感想をノートに書く（30分） |
| 13 | 振り返り演習① | 学習の振り返りとして、応対用語を書かずに、実践できるかを演習する | 上司のニーズに応じた品物を探し、提案できるようにする（60分） |
| 14 | 振り返り演習② | 上司に品物を提案し、注文、電話問い合せ、事務処理など一連の流れを行う | これまでの仕事の振り返りを行っておく（60分） |
| 15 | オフィスワークシミュレーション　応用まとめ | 贈答やメッセージカードの書き方など、心を込めた応対の仕方を実践で確認する | ビジネス現場での自分の強みと課題を把握する（30分） |

**単位の認定について**　課題提出３０％、研究課題発表３０％、ロールプレイ評価３０％、ノート評価１０％の６割点で単位が認められる。
**教科書**　『セクレタリー・シミュレーション』（早稲田教育出版）
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | ビジネス実務総論Ⅰ（科目コード:TCBSC101） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 実践キャリア実務士、ビジネス実務士(必修)、上級ビジネス実務士に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**ビジネスについての基本を理解し、ビジネス環境において、ビジネス活動を有効に展開するための基礎となる能力を習得する。また、ビジネス組織の一員としての資質、実践的能力は何かを考察する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**・ビジネス現場で求められる基本的能力について、説明することができる。
・多様化するビジネス環境について、情報を収集できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | ビジネス環境とビジネス実務のねらいについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 2 | ビジネスがめざすもの（1） | 会議の目的とリーダーシップについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 3 | ビジネスがめざすもの（2） | 現在の日本社会の変貌について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 4 | 2 つの事業活動 | 営利組織と非営利組織、新しい 2 つの動きについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 5 | ビジネス（事業）の定義 | 広い意味での「ビジネス（事業）」の定義について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 6 | ビジネスの 6 要素 | ビジネスの 6 要素について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 7 | 経済グローバル化 | グローバリゼーションと企業、グローバリゼーションとオフィスで働く人々について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 8 | 高度情報化 | 高度情報化とその実態、ビジネス現場と情報化について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 9 | 地球環境問題 | 身近な環境問題、地球環境問題、環境問題とビジネスについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 10 | 少子・高齢化 | 日本の人口構成と将来予測、ビジネス現場と少子・高齢化問題について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 11 | 日本的雇用システムの転換 | 自由・選択制の導入、様々な就業形態について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 12 | オフィスからワークプレイスへ | オフィスの成り立ちと機能、オフィスの構成とポイントについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 13 | ワークスタイルの変化 | ワークスタイルの変化（過去・現在・未来）、様々なワークスタイルについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 14 | 社会のデジタル化 | 企業の DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分) |
| 15 | まとめ | 授業で学んだ内容の振り返り。 | 振り返りをする。(30 分) |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度(30%)　学期末テスト(70%)
**教科書**　授業内で指定する。
**参考書**　授業内で指定する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | ビジネス実務総論Ⅱ（科目コード:TCBSC102） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | ビジネス実務士、上級ビジネス実務士（必修）に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**「ビジネス実務総論Ⅰ」で学習した基礎知識・基本技能をベースにして、さらに発展した内容を取り上げ、ビジネスワーカーとして、自分の仕事に主体的・自立的に取り組むことができるビジネススキルを身につける。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ・仕事に対する目標を立て、自ら進んで努力し、工夫・改善をすることができる。
・仕事に取り組む心構えと基本姿勢を身につけ、さらに場に応じて柔軟に対応することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | ビジネス実務学習のねらいについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 2 | ビジネス実務を学ぶ | 基本的心構え（自由と自己責任）、ビジネス実務のメガ・トレンド、ビジネス実務の実際について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 3 | 仕事の進め方 | 組織で仕事をすることの意味、仕事の基本動作・基本サイクル、仕事の特徴・ステップアップについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 4 | ビジネスとサービス活動 | ビジネス活動とサービスのかかわりについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 5 | ビジネスと表現活動 | ビジネスにおける表現の基本と実際について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 6 | ビジネスと情報活用 | ビジネス情報活用の基本、現代的な情報伝達活動、企業の情報処理システムについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 7 | ビジネスと組織活動 | グループ・ダイナミクス、チームワークと個人、グループとリーダーシップについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 8 | オペレーション活動 | 開発のオペレーション、生産のオペレーション、流通のオペレーションについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 9 | マーケティング活動 | マーケティング活動の担い手、製品とサービスの開発について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 10 | キャリア形成（人的資源） | 企業が進める能力開発システム、グローバル時代に求められる資質、キャリア発達について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 11 | コストパフォーマンス（経理財務） | コスト感覚、ビジネスと資金の流れ、簿記の手続き、株式と株式市場について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 12 | 選択と共生の時代 | 多様化する選択肢、ワークプレイス・生活する場における共生、ルールの創出について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 13 | セルフマネジメントの基本 | 自己管理・自己責任、自己管理能力、時間管理・活用について理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 14 | 自己啓発・キャリア形成 | キャリアデザインの多面性、キャリアプランについて理解する。 | 毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分） |
| 15 | まとめ | 授業で学んだ内容の振り返り。 | 振り返りをする。（30 分） |

**単位の認定について**　学習時の取り組み態度（30%）　学期末テスト（70%）
**教科書**　授業内で指定する。
**参考書**　授業内で指定する。
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 秘書学概論(科目コード:TCBSC123) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 秘書検定 | | | | | | | |
| 担当者 | 黒野 伸子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス１年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**秘書学を通して秘書の職務として必要とされる能力・資質・知識を学ぶとともに、他者の考えから多様な価値観を学ぶことができるなど、対人業務に対応するスキルを身に付けることができる。また、秘書検定程度のケースワークから、場面を具体的に想定し、秘書としてのビジネス実務能力を自ら開発する基礎力を養成する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：**
・秘書職について説明ができる。
・秘書としての専門知識や実務能力について、情報収集することができる。
・実務能力や対応力を身に付けている。
・グループワークにおいて、他者の多様な価値観を受入れ円滑な人間関係を築く努力ができる。
・秘書検定３級程度の問題を理解し解答できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業ガイダンス及び秘書学概論の学習の目的について学習する。秘書の歴史やビジネスにおける秘書学の位置付けについて学ぶ。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 2 | 秘書の資質１ | 秘書という職業や役割について学ぶ。グループワークを行い、秘書に求められる能力を討議し考察する。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 3 | 秘書の資質２ | グループワークを行い、社会人として求められる良識とみだしなみについて討議し考察する。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 4 | 秘書の機能１ | グループワークを行い、会社組織の中での秘書の機能と役割について討議し考察する。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 5 | 秘書の機能２ | 上司と秘書の関係、秘書の業務について学習する。 | 出された課題につい、情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 6 | マナーと接遇１ | 人間関係、接遇マナーについて学ぶ。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 7 | マナーと接遇２ | 話し方と人間関係についてグループワークを行い討議し考察する。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 8 | 敬語と接遇用語 | 敬語の使い方について習得する。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 9 | 組織の中の意思の疎通１ | 秘書とコミュニケーション、報告と説明について学習する。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 10 | 組織の中の意思の疎通２ | 命令、指示の受け方、忠告の受け方について演習し、身につける。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 11 | 秘書に必要な経営知識 | 経営に関する一般的知識について理解を深める。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 12 | 秘書に必要な会計知識 | 会計に関する一般的知識について理解を深める。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 13 | 秘書に必要な法律知識 | 法律に関する一般的知識について理解を深める。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 14 | 秘書の情報知識 | 情報処理と秘書、情報の収集、整理、活用について考え理解を深める。 | 出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40 分) |
| 15 | まとめ | 秘書実務検定対応問題を解き、フィードバックを行う。 | 自分の知識の定着確認を行う。(40 分) |

**単位の認定について**　提出物(20%) 取り組み態度(20%) 記述試験(60%) 60点以上単位認定とする。

**教科書**　①『秘書検定３級、２級、準１級クイックマスター』早稲田教育出版のうち、取得する級

**参考書**　①『秘書検定３級、２級、準１級新クリアテスト』早稲田教育出版

**授業外学習について**　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　　提出された課題は、チェック後に解説する。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 秘書実務演習Ⅰ（科目コード:TCMCL102） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士、上級秘書士(メディカル)、医療秘書受験資格(必修)に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 節政 沙弥香(s-setsumasa@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**秘書の基本的な役割と職務を理解し、秘書業務遂行に必要な基礎知識・技能を修得することを目標とする。
この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ○ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**①秘書業務には、どのようなものがあるのか、具体的に述べることができる。
②普通の言葉を敬語で話すことができる。
③秘書実務に関してのケース問題で、正しい対応を説明できる。
④接遇業務（来客応対・電話応対、など）に関しては、態度・動作で表現できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 秘書ビジネス実務の基本 | 秘書の役割と仕事について、秘書の全体像を理解し、秘書の必要性を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 2 | 秘書ビジネス実務の基本 | 秘書に求められる能力について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 3 | 秘書とスケジューリング | スケジュールの種類と効率の良いスケジューリングについて学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 4 | 秘書とスケジューリング | アポイントの受け方、取り方を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 5 | 秘書のコミュニケーション | 秘書と周りの様々な人間関係を理解し、秘書がどうあるべきか、学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 6 | 秘書のコミュニケーション | 感じの良い秘書になるための印象形成について、学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 7 | 秘書とコミュニケーション | コミュニケーションにおける敬語の役割、敬語表現について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 8 | 秘書とコミュニケーション | 秘書に必要な基本的なコミュニケーション力について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 9 | 秘書とコミュニケーション | 仕事を効率的に進めるコミュニケーションについて学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 10 | 秘書とコミュニケーション | まとめとして、感じの良い秘書をめざすためのコミュニケーションについて演習する。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 11 | 秘書の応対業務 | 来客応対の基本を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 12 | 秘書の応対業務 | 応対業務の流れと内容について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 13 | 秘書の応対業務 | 電話応対の流れと基本について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 14 | 秘書の応対業務 | 電話応対の基本のまとめとして、演習を行う | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 15 | 秘書の応対業務 | 電話応対の応用を考え、演習する。 | 授業内で課題を指示（30 分） |

**単位の認定について**　実践テスト評価 40%、課題提出評価 10%、発表・ロールプレイング評価 50%の 6 割で単位が認められる。なお、実践テストは合格することを必須とする。

**教科書　参考書**　1.『新しい時代の秘書ビジネス実務』(紀伊國屋書店)

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 秘書実務演習Ⅱ　(科目コード:TCMCL103) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 上級ビジネス実務士、上級秘書士(メディカル)、医療秘書受験資格(必修)に関する科目 | | | | | | |
| 担当者 | 節政 沙弥香(s-setsumasa@mgjc.ac.jp) | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科 2 年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：**秘書の基本的な役割と職務を理解し、秘書業務遂行に必要な基礎知識・技能を修得する。
この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ○ | Ⅴ○ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**①秘書業務には、どのようなものがあるのか、具体的に述べることができる。
②普通の言葉を敬語で話すことができる。
③秘書実務に関してのケース問題で、正しい対応を説明できる。
④接遇業務(来客応対・電話応対、など)に関しては、態度・動作で表現できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 出帳業務 | 出張コーディネートの基本を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 2 | 出帳業務 | 出張に伴う業務について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 3 | 出張業務 | 出張業務全般について、演習する。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 4 | 会議・会合 | 会議の準備、会議中の仕事について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 5 | 会議・会合 | 会議後の処理業務、会議に関する用語について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 6 | 会議・会合 | 会議の知識について、演習する。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 7 | 慶弔業務 | 慶事における秘書業務を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 8 | 慶弔業務 | 弔事における秘書業務を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 9 | 慶弔業務 | 贈答業務について学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 10 | 慶弔業務 | まとめとして、慶弔業務全般を演習する。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 11 | 文書業務 | 文書の受発信業務、通信手段を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 12 | 文書業務 | 社内文書の種類や作成を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 13 | 文書業務 | 社外文書の種類や作成を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 14 | 文書業務 | ファイリングについて学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |
| 15 | これからの秘書実務 | プロとして、ビジネス変化に対応できるよう、これから必要とされる実務を学ぶ。 | 授業内で課題を指示（30 分） |

**単位の認定について**　課題提出評価 40%、発表・ロールプレイ評価 30%、実践テスト評価 20%、ファイリング評価 10%の6割で単位が認められる。提出物は提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたものは評価できない。

**教科書　参考書**　1.『新しい時代の秘書ビジネス実務』(紀伊國屋書店)

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

| 授業科目名 | ファイナンシャルプランナー総論Ⅰ（科目コード:TCBSC205） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 兒玉 京子 （ k-kodama@mgjc.ac.jp ） | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：**ライフプラン上のさまざまな目的を達成するために、包括的な生活プランを企画立案し、その実行を手助けするための知識と技能を習得し、合理的な企画立案並びに助言を行う態度を育成する。課題に対して、グループワークを行い、その成果のプレゼンテーションを行う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：** ファイナンシャルプランニングの基礎知識を習得することができる。
国家資格「3 級ファイナンシャル・プランニング技能士検定」の学科試験の問題を解くことができる。
積極的に世の中の情報収集を行い、お金に関する基礎的な知識を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ファイナンシャルプランナーとは<br>FP技能士とは<br>タブレット端末を利用し、調べ学習を行う | テキストを読む。(30 分) |
| 2 | パーソナルファイナンスについて | お金に関する知識について<br>個人とお金、社会とお金のかかわりについて<br>タブレット端末を利用し、調べ学習を行う。 | お金に関する知識についての課題を行う。(30 分) |
| 3 | ライフプランニングと資金計画 | FPの基礎と関連法規 ライフプランと資金計画 社会保険制度 公的年金制度 | ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分) |
| 4 | ライフプランニングと資金計画 | 国民年金と厚生年金の老齢給付 障害年金と遺族年金 年金の請求手続きと税金企業年金等 | ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分) |
| 5 | リスク管理 | 保険の基礎知識 生命保険の基礎 生命保険の種類 生命保険と税金 | リスク管理の課題を行う。<br>(30 分) |
| 6 | リスク管理 | 損害保険 損害保険と税金 第三分野の保険 保険証券の見方 | リスク管理の課題を行う。<br>(30 分) |
| 7 | 金融資産運用 | 経済・金融の基礎 銀行等の貯蓄型金融商品 債券 株式 | 金融資産運用の課題を行う。(30 分) |
| 8 | 金融資産運用 | 投資信託 外貨建て金融商品 有価証券の税金 ポートフォリオ運用とディリバティブ 金融商品等に関する法律等 | 金融資産運用の課題を行う。(30 分) |
| 9 | タックスプランニング | 所得税の基礎 所得の種類と内容 損益通算及び繰越控除 | タックスプランニングの課題を行う。<br>(30 分) |
| 10 | タックスプランニング | 所得控除と税額控除 所得税の申告と納付 個人住民税 | タックスプランニングの課題を行う。<br>(30 分) |
| 11 | 不動産 | 不動産の基礎と登記 不動産の取引 不動産に関する法律 | 不動産の課題を行う。<br>(30 分) |
| 12 | 不動産 | 不動産の税金 不動産の有効活用と投資判断指標 | 不動産の課題を行う。<br>(30 分) |
| 13 | 相続・事業承継 | 贈与税 相続の基礎 | 相続・事業承継の課題を行う。(30 分) |
| 14 | 相続・事業承継 | 相続税の仕組み<br>相続財産の評価 | 相続・事業承継の課題を行う。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだことをまとめ、理解度を確認する。 | 総合問題の課題を行う。<br>(30 分) |

**単位の認定について** 試験 50% 小テスト・提出物 30% 授業態度 20% 60 点以上で合格
**教科書 参考書** 対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | ファイナンシャルプランナー総論Ⅱ（科目コード:TCBSC206） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 兒玉 京子 （ k-kodama@mgjc.ac.jp ） | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科２年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要：** ファイナンシャルプランナー総論Ⅰの知識を基に、ライフプラン上のさまざまな目的を達成するために、包括的な生活プランを実技面から、その実行を手助けするための技能を習得し、合理的な企画立案と実技の両面から助言を行う技能を育成する。課題に対して、グループワークを行い、その成果のプレゼンテーションを行う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ | |

**到達目標：** ファイナンシャルプランニングの基礎知識を習得することができる。
国家資格「3級ファイナンシャル・プランニング技能士検定」の試験合格をめざすことができる。
積極的に世の中の情報収集を行い、お金に関する基礎的な知識を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ファイナンシャルプランナーとは FP試験について タブレット端末を利用し、調べ学習を行う。 | お金に関する知識についての課題を行う。(30 分) |
| 2 | ライフプランニングと資金計画 | FPの基礎と関連法規 ライフプランと資金計画 社会保険制度 公的年金制度 国民年金と厚生年金の老齢給付 障害年金と遺族年金 年金の請求手続きと税金企業年金等 | ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分) |
| 3 | リスク管理 | 保険の基礎知識 生命保険の基礎 生命保険の種類 生命保険と税金 損害保険 損害保険と税金 第三分野の保険 保険証券の見方 | リスク管理の課題を行う。(30 分) |
| 4 | 金融資産運用 | 経済・金融の基礎 銀行等の貯蓄型金融商品 債券 株式 投資信託 外貨建て金融商品 有価証券の税金 ポートフォリオ運用とディリバティブ 金融商品等に関する法律等 | 金融資産運用の課題を行う。(30 分) |
| 5 | タックスプランニング | 所得税の基礎 所得の種類と内容 損益通算及び繰越控除 所得控除と税額控除 所得税の申告と納付 個人住民税 | タックスプランニングの課題を行う。(30 分) |
| 6 | 不動産 | 不動産の基礎と登記 不動産の取引 不動産に関する法律 不動産の税金 不動産の有効活用と投資判断指標 | 不動産の課題を行う。(30 分) |
| 7 | 相続・事業承継 | 贈与税 相続の基礎 相続税の仕組み 相続財産の評価 | 相続・事業承継の課題を行う。(30 分) |
| 8 | ライフプランニングと資金計画 | 実技問題の対策を行う。 | ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分) |
| 9 | リスク管理 | 実技問題の対策を行う。 | リスク管理の課題を行う。(30 分) |
| 10 | 金融資産運用 | 実技問題の対策を行う。 | 金融資産運用の課題を行う。(30 分) |
| 11 | タックスプランニング | 実技問題の対策を行う。 | タックスプランニングの課題を行う。(30 分) |
| 12 | 不動産 | 実技問題の対策を行う。 | 不動産の課題を行う。(30 分) |
| 13 | 相続・事業承継 | 実技問題の対策を行う。 | 相続・事業承継の課題を行う。(30 分) |
| 14 | 振り返り | 総合学習。タブレット端末を利用し、調べ学習を行う。<br>調べたことをグループワークを行い、プレゼンテーションする。 | 総合問題の課題を行う。(30 分) |
| 15 | まとめ | 学んだことをまとめ、理解度を確認する。 | 総合問題の課題を行う。(30 分) |

**単位の認定について**　試験 50%　小テスト・提出物 30%　授業態度 20%　　60 点以上で合格
**教科書　参考書**　対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | プレゼンテーション演習(科目コード:TCCMM206) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 情報処理士(選択科目) 上級ビジネス実務士(選択科目) プレゼンテーション実務士(選択科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 河野 美香子 (実務家教員) | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要：** 効果的なプレゼンテーションの基礎知識と技術を習得することをめざす。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：** ・人前で表現力豊かに発表する。
・相手の立場になって考え、自分の考えを表現できるようになる。
・グループで協力して、パワーポイントを使い、他者に効果的に伝えるプレゼンテーションを行う。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自己紹介からコミュニケーションへ | 初対面の会話で自分をアピールする。初対面の会話からコミュニケーションを深める。 | 自己紹介スライドと原稿の作成と提出。(30分) |
| 2 | コミュニケーション・スキル | 自分のいいたいことを明確に伝える。相手の関心を引き、納得させる。 | 情報を効果的に伝える方法、相手の関心に応じた話の流れに関するレポートの作成と提出。(30分) |
| 3 | 非言語コミュニケーション | 言葉以外の方法で自分の伝えたいことを相手に訴える。コミュニケーション時における自分の印象をかえる。 | 人間観察と非言語コミュニケーションに関するレポートの作成と提出。(30分) |
| 4 | アイデアを生み出す技術 | 自由な発想でアイデアを生み出す。状況に応じてさまざまな発想方法を使いこなす。 | ブレインストーミング、マインドマップ、列挙法に関するレポートの作成と提出。(30分) |
| 5 | プレゼンテーションの構造 | プレゼンテーションの骨組みを理解し、構成する。説得力のあるプレゼンテーションを学ぶ。 | プレゼンテーション原稿の作成と提出。(30分) |
| 6 | 主張の裏づけかた | 自分の主張の正当性を裏づける。主張の根拠を強化し、説得力のあるプレゼンテーションができる。 | 反対意見を論駁する方法について、レポートを作成し、提出。(30分) |
| 7 | 文章とプレゼンテーションの相似性 | 文章をプレゼンテーションの発展形としてとらえる。説得力のある文章を書く。 | 本論、根拠、補助の展開の文章を作成し、提出。(30分) |
| 8 | レジュメの書き方 | 自分の主張に必要な情報を見極める。最小限のスペースで自分の主張をまとめる資料を作成する。 | 解りやすいレジュメに関するレポートを作成し、提出。(30分) |
| 9 | 意見の形成と主張 | 賛否が分かれる問題について自分の意見をまとめる。自分の意見を効果的に主張する。 | PREP法を用いた主張を作成し、提出。(30分) |
| 10 | 時系列の叙述 | 話のあらすじを面白く展開することを学ぶ、また話のあらすじに臨場感を持たせる工夫について学ぶ。 | 時系列と5W1H に沿った原稿を作成し、提出。(30分) |
| 11 | ものごとの説明 | 抽象的な事物を具体的に説明する。論理的にものごとを説明する。 | 前景化した主張、根拠、証明、普遍性による確認の入った、レポートを作成し、提出。(30分) |
| 12 | ビジネストークにおける説得の論理 | ビジネストークの基盤を築く、購買意欲を高めるための説得論理を学ぶ。 | 効果的な商品説明とビジネストークに関するレポートを作成し、提出。(30分) |
| 13 | ディスカッションの基礎知識と実践 | 特定の問題について、集団の中でそれぞれの立場から意見を交換して解決策を導きだしたり、新たな提案を行ったりする。 | 自由討論型、賛否決定方、問題解決型の3つに関するレポートを作成し、提出。(30分) |
| 14 | プレゼンテーション発表 | 個人でプレゼンテーション発表を行い、相互評価を行う。 | 相互評価用紙から、プレゼンテーションの改善をレポートにまとめる。(30分) |
| 15 | まとめ | プレゼンテーションの学修に関する振り返り。 | 振り返りをする。(30分) |

**単位の認定について** 提出物(40%) 態度(聞き手)(20%) 発表(30%) 受講態度(10%) 60点以上が合格。

**教科書 参考書** 学生のためのプレゼンテーショントレーニング

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェックし、点数化し返却と解説を行う。

ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | プレゼンテーション概論(科目コード:TCCMM105) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 情報処理士(必修科目) プレゼンテーション実務士(必修科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 伊賀 彩子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科１年 | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**言葉を通して情報や考え方を他者に伝達する基礎を身に付けることができる。また、他者紹介やインタビューの技法についての実践演習を行い、第三者に発表することにより、プレゼンテーションの理解を深めることができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：** ・コミュニケーション力を向上できる。
・人前でスピーチができるようになる。
・「聞き手」に誤解されず、分かりやすく伝えるために適切な資料が作成できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | プレゼンテーションとは何か、行うことの目的や効果について学ぶ。 | プレゼンテーションとは何かをノートにまとめる。(30 分) |
| 2 | 自己紹介 | 効果的なポイントについて学び、起承転結と惹きつけるストーリー性について理解する。 | バラエティ等の MC を観察し気付いた点をノートにまとめる。(30 分) |
| 3 | 発表時の技術 | 立ち居振る舞い、声、姿勢、視線について学ぶ。<br>非言語表現、言語表現について学ぶ。 | 動画についての感想をレポート。<br>(30 分) |
| 4 | プレゼンテーション準備 | プレゼンテーションにおける準備について学び、重要なポイントを押さえた情報収集について理解する。 | テレビ等の MC を観察し気付いた点をノートにまとめる。(30 分) |
| 5 | 質問力 | 情報収集のための「質問力」について学び、実践しながらグループセッション。 | 質問力の必要性についてのレポート。<br>(30 分) |
| 6 | 他者紹介 | 紹介文を作成し、表現する。 | 他者紹介の準備。(60 分) |
| 7 | 他者紹介 | 1 分間で他者紹介をする。 | 感想をノートにまとめる。(30 分) |
| 8 | プレゼンテーションのビジネス効果 | ビジネスにおけるプレゼンテーションの効果について学ぶ。 | 企業紹介動画についてチームで分析し、まとめる。(30 分) |
| 9 | 集客・広告・信頼 | プレゼンテーションツールの活用とビジネス効果について学び、目的を明確にした構成について考える。 | 身近な地域課題を見つける。(60 分) |
| 10 | テーマを決める | 発表に向け、テーマを決める。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 11 | 視覚資料作成 | 伝えたい内容を整理し、発表資料の作成手順を学ぶ。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 12 | 視覚資料作成 | 伝えたい内容を整理し、発表資料の作成手順を学ぶ。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 13 | 発表 | 作品を発表し、意見の交換を行う。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 14 | 発表 | 作品を発表し、意見の交換を行う。 | 指示された課題を行う。(60 分) |
| 15 | まとめ | 学んだことについての確認を行う。 | 指示された課題を行う。(30 分) |

**単位の認定について** 提出物(30%) 発表(30%) 授業態度(20%) 資料作成(20%) 60点以上が合格。

**教科書・参考書** 授業内で指示する。

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、チームの連絡相談を綿密に行い、授業に備える。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

| 授業科目名 | 文章表現方法論(科目コード:TCTRA202) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 有嶋 誠<marishima@edu.miyazaki-mic.ac.jp> | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** ①文章作成の基本的な技能や小論文作成の基礎・基本を身に付ける。
②小論文の作成方法や考え方を理解し、課題に沿った小論文を書くことができる。
③様々な文章の特質を理解し、それぞれの約束事に沿った文章を書くことができる。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ① | Ⅱ② | Ⅲ◎ |

**到達目標：**①文章の多様性を知り、小論文等の書き方についての基礎・基本を身に付ける。
②小論文の課題を協議し、自分の考えを小論文として纏めることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>授業に期待すること | シラバスを基に、本講義の受講内容や目標を理解する。授業で学びたい内容を出し合う。 | 文章表現に関する自分の作品等をもとに、本授業で学びたい内容を考えてくる。(60分) |
| 2 | わかりやすい文章の書き方を理解する。 | 話し言葉と書き言葉、簡潔明瞭な文章の書き方、原稿用紙の使い方など、分かりやすい文章表現の書き方の基礎・基本を学ぶ。 | わかりやすい表現で、自己紹介文を作成する。(60分) |
| 3 | 正しい文章を書くための言葉の知識を理解する。 | 間違いやすい漢字、同音異義語、慣用句やことわざなど言葉の知識を学ぶ。 | 正しい文章を書くための言葉の知識について事前に調べて臨む。(60分) |
| 4 | レポート作成の基本的構成を理解する。 | レポート作成の手順や構成など、レポート作成の基礎・基本を学ぶ。 | テーマに関する「レポート」を作成する。(60分) |
| 5 | 電子メールの書き方の基礎・基本を理解する。 | 電子メールの書き方やデジタル機器を使用した文章の表現方法の基礎・基本を学ぶ | テーマに関する「電子メール」を作成する。(60分) |
| 6 | 手紙や葉書の書き方の基礎・基本を理解する。 | 手紙と葉書の形式等につい理解し、実際に葉書を書いてみる。 | テーマに関する「葉書」を作成する。(60分) |
| 7 | 手紙の書き方と形式を理解する。 | 時候の挨拶など、手紙の書き方について学び、実際に手紙を書いてみる。 | テーマに関する「手紙」を作成する。(60分) |
| 8 | 敬語表現に気をつけて効果的な手紙を書いてみる。 | 添削された手紙をもとに清書する。特に、敬語表現に気を付けて手紙を書く。 | 敬語表現に気を付けて、添削された手紙を清書する。(60分) |
| 9 | 冠婚葬祭など日本の伝統的な表現方法について理解する。 | 祝儀・不祝儀袋の書き方や水引の意味など、日本の伝統的な文化に関する表現方法について学ぶ。 | 祝儀・不祝儀袋を作成する。(60分) |
| 10 | 小論文の書き方の基礎・基本を理解する。 | 標準的な小論文の作成方法や考え方を理解し、小論文の作成に意欲をもたせる。 | 課題小論文を作成する。(60)分 |
| 11 | 小論文対策① | 「テーマ型小論文」の書き方を理解し、実際に小論文を書く。学生相互に批評を行う。 | テーマに関して小論文を作成し授業に臨む。(60 分) |
| 12 | 小論文対策② | 「課題文型小論文」の書き方を理解し、実際に小論文を書く。学生相互に批評を行う。 | テーマに関して小論文を作成し授業に臨む。(60 分) |
| 13 | 小論文対策③ | 「資料型小論文」の書き方を理解し、実際に小論文を書く。学生相互に批評を行う。 | テーマに関して小論文を作成し授業に臨む。(60 分) |
| 14 | 小論文対策④ | 「大学入試小論文」の書き方を理解し、実際に小論文を書く。学生相互に批評を行う。 | テーマに関して小論文を作成し授業に臨む。(60 分) |
| 15 | 小論文対策⑤<br>授業のまとめ | 「大学入試小論文(最終課題)」を書き、学生相互に批評を行う。 本授業のまとめを行う。 | テーマに関して小論文を作成し授業に臨む。(60 分) |

**単位の認定について** 授業態度、課題文の作成・訂正文の提出状況、合評会の参加状況、最終課題などを総合して評価する。(合計 100%)

**教科書 参考書** 教科書は使わず、授業ごとにワークシートやパワポの資料を配布する。

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、各課題に関する文章表現等の訂正文を提出する。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業はアクティブラーニングを取り入れて実施しています。

| 授業科目名 | マーケティング（科目コード:TCBSC219） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 長尾 清美 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：**マーケティングとは、市場・消費者について、商品やサービスを販売・提供する者にとって参考となるような知見を追及することを理論化された学問である。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ | |

**到達目標：** ・マーケティングの考え方、基礎理論を理解している。
・マーケティングの考え方をもとにして、様々な問題解決に繋げられるマーケティング的な思考力、問題解決力を身につける。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | マーケティング論のなりたち | マーケティングの誕生、進化するマーケティング論について理解する。 | ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 2 | マーケティング発想の経営 | 価値と性能について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 3 | 戦略的マーケティング | マーケティングにおける戦略の進化、製品ポートフォリオ・マトリックス、競争地位別の市場目標と競争対応戦略について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 4 | マーケティングの基本概念 | STP、統合されたマーケティング活動（4P）、4Cについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 5 | 製品戦略 | 商品コンセプトとネーミング、ブランドと商標、商品のパッケージ・デザイン、ニーズ志向とシーズ志向の製品開発、リバイタリゼーションについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 6 | 価格戦略 | 小売業における価格類型、価格設定法、価格差別化価格のマネジメントについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 7 | チャネル戦略 | 流通政策、卸売業の組織、フランチャイズチェーンチャネルのマネジメントについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 8 | プロモーション戦略 | インストア・マーチャンダイジング、ダイレクトメールとダイレクトハンド、広告マネジメントについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 9 | 製品開発演習 | 4P による製品開発を報告 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 10 | 消費者行動 | 消費者の購買意思決定プロセス、ハイテク製品のプロセス、マズローの欲求 5 段階説、ライフスタイル分析、ネットワーク外部性、ブランド・ロイヤルティについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 11 | 関係のマネジメント（1） | 顧客関係のマネジメント、顧客理解のマネジメントについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 12 | 関係のマネジメント（2） | パブリック・リレーションズ、リレーションシップ・マーケティング、ブランド構築のマネジメントについて理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 13 | 企業の社会的責任 | 企業の公共性、社会的責任活動の意義について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 14 | マーケティング 3.0 | マーケティングの歩み、マーケティングの構図・発展、マーケティング 3.0 について理解する。 | 授業前に配付した資料で予習し、ノートまとめにより復習すること。（毎時 30 分） |
| 15 | まとめ | 授業で学んだ内容の振り返り | 振り返りをする。（30 分） |

**単位の認定について**　試験（60%）小テスト（10%）レポート・報告書（15%）学習時の取り組み態度（15%）を総合して評価する

**教科書**　毎時のプリント

**参考書**　石井 淳蔵 、廣田 章光、清水 信年 他（2023）『1 からのマーケティング〈第 4 版〉』碩学舎

**授業外学習について**　指定された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います

| 授業科目名 | メディカル・コミュニケーション論(科目コード:TCBMS212) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目) プレゼンテーション実務士(選択科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 小澤 拓大 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 | |

**授業概要:** この授業では、コミュニケーションに関する知識を身につけるとともに、協働作業を通してコミュニケーション力を高めることを目標とする。その一環として、情報伝達のためのポスターを作成するとともに、ポスター発表を行う。また、医療機関においてどのようなコミュニケーションが有用であるかを考える機会とする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標:** ・コミュニケーションについての知識が身につける。
・どのようなコミュニケーションが適切であるかを自分で考えることができる。
・他の履修者とコミュニケーションをとり、協働して結論を導き、それを発表できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | コミュニケーションの基礎① | コミュニケーションの重要性について考える。 | なぜ、コミュニケーションが重要であるのかを考えてくる(30分)。 |
| 2 | コミュニケーションの基礎② | コミュニケーションにおける、自己覚知・傾聴・自己開示・共感の役割について学修する。 | コミュニケーションにおける自己覚知・傾聴・自己開示・共感の重要性を考えてくる(30分)。 |
| 3 | コミュニケーションの基礎③ | コミュニケーションにおける、尊厳・価値観・対話の役割について学修する。 | コミュニケーションにおける尊厳・価値観・対話の重要性を考えてくる(30分)。 |
| 4 | 職場でのコミュニケーション① | 職場でのコミュニケーションにおける技術や留意点について学ぶ。 | 職場でのコミュニケーションにおいて注意すべき点について考えてくる(30分)。 |
| 5 | 職場でのコミュニケーション② | 職場における様々な相手とのコミュニケーションについて学修する。 | 立場・状況が異なる相手とのコミュニケーションにおいて何が重要であるかを考えてくる(30分)。 |
| 6 | 職場でのコミュニケーション③ | 職場における様々な相手とのコミュニケーションについて学修する。 | 立場・状況が異なる相手とのコミュニケーションにおいて何が重要であるかを考えてくる(30分)。 |
| 7 | ポスター発表会に向けて① | 協働の理解と企画の説明、グループ編成 | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 8 | ポスター発表会に向けて② | 発表テーマ、作業工程、役割分担の話し合い | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 9 | ポスター発表会に向けて③ | 情報収集時の留意点と情報収集作業 | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 10 | ポスター発表会に向けて④ | 情報整理時の留意点と情報収集作業 | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 11 | ポスター発表会に向けて⑤ | パソコンを用いたポスター作成作業 | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 12 | ポスター発表会に向けて⑥ | パソコンを用いたポスター作成作業と印刷作業 | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 13 | ポスター発表会に向けて⑦ | ポスター発表の練習 | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 14 | ポスター発表会と振り返り | ポスター発表会とその振り返りを行う。 | ポスター発表会に向けた準備(30分)。 |
| 15 | まとめ | 本授業の内容のまとめ | 本授業で学修したことをまとめる(30分)。 |

**単位の認定について:** 試験 60% 授業態度・協働作業 30% 授業外学習 10%

**教科書 参考書:** 医療秘書講座3 医療にかかわる用語 コミュニケーション論 メジカルフレンド社

**授業外学習について:** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法:** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | メディカルヒューマンリソース(科目コード:TCMCL214) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 武村 順子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 医療組織における人的資源管理を、組織学習、リーダーシップ、医療の質と経営効率の観点から理解する。具体的には、人材育成や職場内学習、職務へのモチベーションアップを導く仕組みを理解した上で、それらの知識を身近な状況に応用する力を養う。さらに、受講生が「医療機関で働くこと」に対する興味を持ち、生涯にわたる継続教育やキャリア開発に意欲を持って実践できるための基礎力を身に付ける。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ◎ | Ⅱ○ | Ⅲ○ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ○ | |

**到達目標：**
・人的資源管理の基本事項について、専門用語を理解している。
・根拠を明らかにして、自分の意見を述べることができる。
・テーマに沿った検索や調べたことについて、レポートにまとめられる。
・人材マネジメントについて興味を持ち、活用へのイメージを持つことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 科目ガイダンスを行う。 | 教科書を読んでおく。(30 分) |
| 2 | 医療組織とは | 企業と医療組織の仕組みの比較から、医療組織の特徴を学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 3 | 組織デザイン | 組織形態について学び、その種類や特徴、組織文化について知る。また、組織の成長について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 4 | 病院組織の事例検討 1 | 組織形態、病床数、標榜診療科、経営理念などの検索から、事例となる医療機関について調べる。 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 5 | 病院組織の事例検討 2 | 検索した医療機関について、事例として紹介し、どのような運営がなされているのかディスカッションを通して、検討していく。 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 6 | 病院組織の事例検討 3 | 検索した医療機関について、事例として紹介し、どのような運営がなされているのかディスカッションを通して、検討していく。 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 7 | 医療の質と経営効率 | 医療サービスの向上と経営効率向上の好循環モデルについて学ぶ。 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 8 | 動機付け<br>(モチベーション) | 職務に対してのやる気を出し、行動につなぐプロセスを学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 9 | リーダーシップ理論 | 医療機関経営において必要な医療専門資格や人材育成に関わるスケジュールについて学び、その目標達成のための行動ついて考える。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 10 | 雇用管理 1<br>採用・配置・異動 | 病院組織におけるスペシャリストとジェネラリストの職務特性について整理し、人的資源の観点でのマネジメントの在り方を学ぶ | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 11 | 雇用管理 2<br>雇用調整・退職 | 不況や災害、新興感染拡大問題などの、社会問題による業務減少に伴う余剰労働削減について学ぶ。また、労働人口減少問題に伴う、退職管理問題について学ぶ。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 12 | 人事評価制度 | 人事評価制度の体系から、職能資格制度と人事評価の繋がり、労務管理の時代的変化について学ぶ。 | 話し合った結果について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 13 | 医療経営の展望 1 | コンピテンシー能力などの新しい評価事項、エンゲージメントなどの新しい価値を考慮し、自己のキャリアビジョンと照らし合わせて考えていく。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 14 | 医療経営の展望 2 | これからの医療経営における人材活用をモデルとしてまとめる。(ディスカッション) | 話し合った結果について、レポートにまとめる。(30 分) |
| 15 | 医療経営の展望 3 まとめ | 学んだことについての確認を行う。 | 指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分) |

**単位の認定について** 討議課題発表 30%、研究課題レポート 50%、確認小テスト 10%、授業への取組 10%の 6 割点で単位が認められる。

**教科書** 授業内で資料を配布する

**参考書** 「医療経営概論」日本医療企画出版 「人的資源管理論」日本医療企画出版

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバック**　　提出された課題は、チェック後に解説する。
※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

| 授業科目名 | 面接実践演習(科目コード:TCTRA203) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 富髙 啓順 htomitaka@edu.miyazaki-mic.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年 | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 1 |

**授業概要：** 面接試験のねらいは、学科試験では見ることのできない受験生の良さを、質問や観察をとおして知ろうとするものである。 高倍率の中で他の受験生より如何に輝くか。そこで、授業をとおして面接の形式や質問内容などを理解し、実際の面接を想定し、具体的に対応できるようになる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ◎ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ◎ | Ⅱ①◎ | Ⅱ②◎ | Ⅲ◎ |

**到達目標：**面接のあり方について学び、質問に対して自らの言葉で表現することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 学習の進め方、評価の在り方について理解する。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 2 | 個人面接 | 個人面接の種類・内容・形式について理解する。(圧迫面接、逆質問、専門口述試験など) | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 3 | 集団面接 | 集団面接の種類・内容・形式について理解する。(グループディスカッション、ディベートなど) | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 4 | 面接における質問内容① | 一般的な質問について、受験報告書などを参考に対策を講じる。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 5 | 面接における質問内容② | 志願理由書に基づく質問について、受験報告書などで確認し対策を講じる。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 6 | 面接における質問内容③ | 専門科目に関する質問について、受験報告書などで確認し対策を講じる。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 7 | 面接の準備① | 事前に提出した課題や志望理由書がある場合には展開した論理を再確認する。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 8 | 面接の準備② | 筆記試験がある場合は受験報告書などを参考に対策を講じる。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 9 | 口述試験①圧迫面接 | 圧迫面接のねらいや実施方法を理解し、その対処法について学ぶ。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 10 | 口述試験②逆質問 | 逆質問のねらいや実施方法を理解し、その対処法について学ぶ。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 11 | 口述試験③想定外の質問 | 受験生を困らせる想定外の質問があることを想定し、それに対する受け答えのあり方を学ぶ。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 12 | 口述試験④専門口述試験 | 受験報告書などを参考に、分からない箇所や自信のない箇所を確認し対策を講じる。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 13 | グループディスカッション | 集団面接の一つ。この型のねらいを理解する。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 14 | ディベート | 集団面接の一つ。この型のねらいを理解する。 | 必要な情報(新聞記事など)をスクラップすること。(60 分) |
| 15 | まとめ(最終課題) | まとめ(最終課題)として面接を実施し、理解度を確認する。 | まとめ(最終課題)に備えること。(60 分) |

**単位の認定について** 学習態度、課題の提出状況、まとめ（最終課題）などを総合して評価する。(合計 100%)

**教科書　参考書** プリントを配布する。

**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、書籍に触れ、幅広い知識や情報を獲得すること。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業はアクティブラーニングを取り入れて実施します。

| 授業科目名 | 臨床検査学(科目コード:TCBMS103) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目) | | | | | | |
| 担当者 | 鳥居 慎吾(実務家教員) メールアドレス: s-torii@mgjc.ac.jp | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科1年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 |

**授業概要:** チーム医療の一員として多職種との連携が図れるよう、医療秘書試験にも対応した基本的な臨床検査の知識を修得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標:** 臨床検査の各項目について理解し、患者等への簡単な説明ができる。
分からない箇所を互いに教え合うなど助け合いができる。
医療秘書検定試験レベルの問題を解くことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>医療系の SDGs | これから学習する内容と方法および医療系の SDGs について | これまでの学習方法についてもう一度見直してみる(30～60分) |
| 2 | 臨床検査を学ぶにあたって・臨床検査の位置づけ | 臨床検査とは何か、臨床検査の位置づけについて | 臨床検査の概要について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 3 | 臨床検査の目的<br>臨床検査の種類 | 臨床検査の目的、種類について | 目的と種類について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 4 | 臨床検査の実施時に考慮するポイント | 検査前後に考慮すべきポイントについて | 注意点について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 5 | 臨床検査の進め方・評価の基準・有用性の評価 | 結果の表し方、カットオフ値、有用性等について | 各閾値や結果の表現方法について教科書等に頼らずにアウトプット(30～60分) |
| 6 | 検査に影響する因子・検査の体制と保険診療 | 検査に影響する因子、加算等について | 影響因子について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 7 | 病理検査 | 細胞診、組織診の区別等について | 細胞診、組織診について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 8 | 画像検査 | X 線や MRI 等の有用性と危険性等について | 画像検査について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 9 | 生体検査 | 生体検査全般について | 生体検査について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 10 | まとめ、これまでの復習 | 検体検査に入る前の復習(年末を予定しているため、前後する可能性があります) | GE 医薬品についての課題に取り組む(60～90分) |
| 11 | 検体検査<br>尿糞便、血液学的検査1 | 尿糞便、血液や骨髄液から得られる情報について | 検体検査の概要について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 12 | 検体検査<br>血液学的検査2 | 遺伝情報や腫瘍マーカー等について | 遺伝に関する検査について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 13 | 検体検査<br>血液学的検査3 | 免疫・微生物学的な検査等について | 微生物学的検査について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 14 | 全体補足<br>過去問、過去問解説 | 全体の補足説明、過去問から学べる臨床検査について | これまでの内容を総体的に復習する(90分) |
| 15 | まとめ<br>現場からの最新情報 | 全体の総復習、現場から知らせておきたい最新情報について | 気になる最新情報を自分用にまとめる(90分) |

**単位の認定について** 単位テスト 60% 授業態度 20% レポート・ノート等評価20%

**教科書・参考書** 医療秘書講座 2 体の構造と機能 臨床検査と薬の知識 メジカルフレンド社

**授業外学習について** 予習より復習に力を入れ、指示された授業外学習の他に 1 時間をあてる。

**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説し返却する。

※薬剤師として勤務する教員が、医療事務・医療秘書に必要とされる基本的な臨床検査についての知識を教授する。

※この授業では SDGs に関する内容を取り入れる。

| 授業科目名 | 臨床薬理学(科目コード:TCBMS104) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療秘書受験資格(必修科目) | | | | | | | |
| 担当者 | 鳥居 慎吾(実務家教員) メールアドレス: s-torii@mgjc.ac.jp | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 現代ビジネス科2年<br>メディカル秘書コース | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2 | |

**授業概要:** チーム医療の一員として多職種との連携が図れるよう、医療秘書試験にも対応した基本的な薬の知識を修得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ◎ | Ⅴ◎ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ②◎ | Ⅲ |

**到達目標:** 様々な病気に用いられる薬の名前、簡単な作用や副作用を理解することができる。
分からない箇所を互いに教え合うなど助け合いができる。
医療秘書検定試験レベルの問題を解くことができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 第1章 医薬品<br>医薬品とSDGs | 医薬品とSDGsについて<br>医薬品の分類、GE医薬品について | 医薬品の分類について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 2 | 第1章、第2章<br>医薬品 | 西洋薬と漢方薬、薬の剤形について | 東西の違い、剤形について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 3 | 第2章<br>薬の特徴 | 薬物動態(吸収、分布)について | 吸収、分布について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 4 | 第2章<br>薬の特徴 | 服薬のタイミングと薬物動態(代謝、排泄)について | 代謝、排泄について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 5 | 第3章<br>薬の作用 | 薬物動態の観点から相互作用、副作用について | 代表的な相互作用について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 6 | 第4章 投与する際に注意が必要な患者 | 世代による注意点の違いについて | 各世代の特徴について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 7 | まとめ、振り返り | 具体的な薬の名称や薬理作用に入る前に基礎についてもう一度復習する | これまで学習してきた内容について教科書等に頼らずにアウトプットする(90分) |
| 8 | 第5章<br>よく用いられている薬 | 循環器に作用する薬について | 循環器用薬について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 9 | 第5章<br>よく用いられている薬 | 消化器、呼吸器系に作用する薬について | 消化器用薬または呼吸器用薬について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 10 | 第5章<br>よく用いられている薬 | 代謝系に作用する薬について | 代謝系の薬について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 11 | 第5章<br>よく用いられている薬 | 感染系治療薬、風邪薬について | 抗生剤、風邪薬について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 12 | 第5章<br>よく用いられている薬 | 精神、神経に作用する薬、癌に作用する薬について | 授業内で触れた薬剤について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 13 | 第5章<br>よく用いられている薬 | その他の病気に用いる薬(前半) | 授業内で触れた薬剤について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 14 | 第5章<br>よく用いられている薬 | その他の病気に用いる薬(後半)、過去問から学べる薬の知識について | 授業内で触れた薬剤について教科書等に頼らずにアウトプットする(30～60分) |
| 15 | まとめ<br>現場からの最新情報 | 全体の総復習<br>臨床検査や医薬品の最新情報について | 気になる最新情報を自分用にまとめる(90分) |

**単位の認定について** 単位テスト60% 授業態度20% レポート・ノート等評価20%
**教科書・参考書** 医療秘書講座2 体の構造と機能 臨床検査と薬の知識 メジカルフレンド社
**授業外学習について** 予習より復習に力を入れ、授業外学習に1時間をあてる。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説・返却する。
※薬剤師として勤務する教員が、医療事務・医療秘書に必要とされる基本的な臨床検査についての知識を教授する。
※この授業ではSDGsに関する内容を取り入れる。

| 授業科目名 | 医療的ケア | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担　当　者 | 壹岐　絹子　　桑迫　信子 | | | | | | |
| オフイスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 講義･演習 | 単位数 | ４単位 |

**[授業概要]**

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識と技術を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」などについての基礎知識を理解できる。
・喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できる。
・安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| １・２ | 医療的ケア実施の基礎 | 授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・人間と社会<br>個人の尊厳と自立、医療の倫理、<br>医療的ケアを受ける利用者、家族の理解<br>・保険医療制度とチーム医療<br>保険医療制度<br>医行為に関する法律<br>チーム医療と介護職員との連携<br>（Zoom 対応可） | 「医療的ケア」を行う際の人間の尊厳の保持、倫理観の確立と医療行為における法制度や多職種連携の方法についてノートにまとめる。　（30 分） |
| ３・４ | 医療的ケア実施の基礎 | ・安全な療養生活<br>たんの吸引や経管栄養の安全な実施<br>リスクマネージメントについて<br>ヒアリハットとアクシデント<br>（Zoom 対応可） | 医療用語の正しい理解ができるように、関係する用語を整理し、ノートにまとめる。　（各 30 分）<br>教科書やノートの記載内容を見直し、復習する。<br>（各 30 分） |
| ５・６ | 医療的ケア実施の基礎 | ・清潔保持と感染予防<br>標準予防策<br>職員の感染予防<br>生活環境の清潔、消毒法<br>滅菌と消毒<br>医療廃棄物の処理<br>（Zoom 対応可） | |
| ７・８ | 医療的ケア実施の基礎 | ・健康状態の把握<br>平常状態<br>健康状態の観察法<br>バイタルサイン<br>（Zoom 対応可） | |
| ９・10 | 高齢者及び障害児（者）の喀痰吸引概論 | ・いつもと違う呼吸・喀痰吸引とは<br>・人工呼吸器と吸引・子どもの吸引について<br>・吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応<br>・説明と同意<br>（Zoom 対応可） | 心身医学概論Ⅰの呼吸器系のしくみを復習し、ノートにまとめる。　（各 30 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11・12 | 高齢者及び障害児（者）の喀痰吸引概論 | ・呼吸器系の感染と予防<br>・喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認<br>・急変、事故発生時の対応と事前対策<br>（Zoom 対応可） | 確実な知識の定着を図るため、教科書やノートの記載内容を見直し、復習する。（各 30 分） |
| 13～25 | 喀痰吸引（演習） | ・演習の進め方および評価説明<br>・実施手順と留意点<br>・デモンストレーション<br>（①～③を各 5 回実施）<br>①口腔内の喀痰吸引、②鼻腔内の喀痰吸引<br>③気管カニューレ内部の喀痰吸引<br>（アクティブラーニング） | 利用者の生命に直接かかわる手技となるため、実技試験合格が目的となる。学習した内容を復習し、喀痰吸引実施手順の根拠をノートにまとめる。（各 30 分）<br>知識の定着のため国家試験問題集を解く。（各 30 分） |
| 26・27 | 実技試験 | | |
| 28・29 | 高齢者及び障害児（者）の経管栄養概論 | ・消化器系のしくみとはたらき<br>・経管栄養とは<br>・注入する内容に関する知識<br>・こどもの経管栄養<br>（Zoom 対応可） | 心身医学概論Ⅰ・Ⅱの消化器系や食事に関連した仕組み、及び日常生活支援技術Ⅰの食事に関する学習内容を復習し、ノートにまとめる。（各 30 分） |
| 30・31 | 高齢者及び障害児（者）の経管栄養概論 | ・経管栄養に関する感染と予防<br>・経管栄養により生じる危険、注入前後の安全確認<br>・急変、事故発生時の対応<br>・経管栄養を受ける利用者と家族への説明と同意<br>（Zoom 対応可） | 教科書やノートの記載内容を見直し、復習する。（各 30 分） |
| 32 ～ 39 | 経管栄養（演習） | ・演習の進め方および評価説明<br>・実施手順と留意点<br>・デモンストレーション<br>（①②を各 5 回実施）<br>①胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養<br>②経鼻経管栄養<br>（アクティブラーニング） | 利用者の生命に直接かかわる手技となるため、実技試験合格が目的となる。学習した内容を復習し、経管栄養実施手順の根拠をノートにまとめる。（各 30 分）<br>知識の定着のため国家試験問題集を解く。（各 30 分） |
| 40・41 | 実技試験 | | |
| 42・43 | 救急蘇生法 | ・意識状態の確認　・救急体制の確保<br>・呼吸の確認　・基本的な気道の確保<br>・人工呼吸　・AEDの基本操作<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>（アクティブラーニング） | 実施手順の根拠をノートにまとめる。（各 30 分）<br>知識の定着のため国家試験問題集を解く。（各 30 分） |
| 44・45 | 喀痰吸引、経管栄養、感染予防に関する基礎知識のまとめ | 喀痰吸引、経管栄養、感染予防に関する基礎知識についての確認 | |

単位の認定について　１．単元テスト５０％、実技試験５０％（６０％以上取得で単位認定）
２．実技試験は手順どおりに実施できれば合格。合格できるまで補講となる。

教科書　最新 介護福祉士養成校座 15「医療的ケア」　中央法規

参考書　最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規　※随時、参考資料を配布する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 医療的ケア児と保育 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 医療的ケア児支援士 | | | | | | | |
| 担当者 | 桑迫信子、髙妻瑠弥乃、新名澄佳、ゲストティーチャー①、ゲストティーチャー②、ゲストティーチャー③ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | | 開講時期 | | 授業の種類 | | 単位数 | 2 | |

**授業概要：** 医療的ケアの必要な子どもの日常的な観察の視点とチームでの安全な保育支援を学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**
- 医療的ケア児の特徴と日常生活が理解できる。
- 医療的ケア児のライフステージとその家族の状況に応じた支援の必要性を理解することができる。
- 医療的ケア児の発育発達を理解しICFに基づく保育支援を工夫することができる。
- 医療的ケア児へのチーム支援の必要性と自分の役割を理解することができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 医療的ケア児をとりまく社会のしくみ<br>(ゲストティーチャー①) | 障がい児と福祉<br>医療的ケア児の概要 | 授業内容の振り返りをする。<br>(60 分) |
| 2 | 医療的ケア児をとりまく社会のしくみ<br>(ゲストティーチャー①) | 障がい児とその家族の特徴<br>障がい児のライフステージと社会資源 | 授業内容を振り返りレポートを書く。<br>(60 分) |
| 3 | 医療的ケア児の理解<br>(桑迫) | 医療的ケア児の疾患の特徴と基本的支援 | 授業内容と小テストの振り返りをする。(60 分) |
| 4 | 医療的ケア児の理解<br>(桑迫) | 医療的ケア児の疾患の特徴と基本的支援 | 動画を視聴し、感想を書く。(60 分) |
| 5 | 医療的ケア児と栄養<br>(髙妻) | 障がい児の食事の特徴 | 授業内容の振り返りをする。<br>(60 分) |
| 6 | 医療的ケア児と栄養<br>(髙妻) | 障がい児の食事支援(演習) | 授業内容を振り返りレポートを書く。<br>(60 分) |
| 7 | 医療的ケア児の支援 | 事例①からみる保育の必要性 | 課題に取り組む。<br>(60 分) |
| 8 | 医療的ケア児の支援 | 事例②からみる保育の必要性 | 課題に取り組む。<br>(60 分) |
| 9 | 医療的ケア児の支援 | 事例③からもる保育の必要性 | 課題に取り組む。<br>(60 分) |
| 10 | 医療的ケア児と家族への支援<br>(ゲストティーチャー②) | 保育を必要とする医療的ケア児とその家族の暮らし<br>相談援助に必要な視点 | 授業内容の振り返りをする。<br>(60 分) |
| 11 | 医療的ケア児への社会支援<br>(ゲストティーチャー②) | 保育を必要とする医療的ケア児の成長に伴う社会資源と家族支援<br>多職種連携と協働の必要性 | 授業内容を振り返りレポートを書く。<br>(60 分) |
| 12 | 医療的ケア児の遊びと生活(ゲストティーチャー③、新名) | ICF に基づく支援過程の展開と保育の工夫<br>(グループワーク) | グループ課題に取り組む。(60 分) |
| 13 | 医療的ケア児の遊びと安全(ゲストティーチャー③、新名) | ICF に基づく支援過程の展開と保育の工夫<br>(グループワーク) | グループ課題に取り組む。(60 分) |
| 14 | 医療的ケア児の遊びと療育(ゲストティーチャー③、新名) | ICF に基づく支援過程の展開と保育の工夫<br>(グループワーク) | グループ課題に取り組む。(60 分) |
| 15 | 医療的ケア児の保育事例の展開・まとめ(ゲストティーチャー③、新名) | 保育支援過程の展開と保育の工夫<br>(発表会) | 医療的ケア児の保育についてレポートに整理する。(60 分) |

**単位の認定について** 授業および授業外学習への取り組みの姿勢 20%、課題 30%、レポート評価 40%、小テスト評価 10%

**教科書**　「子どもの健康と安全　改訂第２版」（中山書店）その他（オムニバス授業により、各担当者が随時準備）
**参考書**
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　小テストは、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 介護過程演習 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 新名 澄佳　　桑迫 信子 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期・後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 3単位 | |

**授業概要：**

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習することができる。

個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、こころとからだのしくみ、生活支援技術等の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

・対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる。

・個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 介護過程の展開 | 介護過程の展開方法<br>情報収集の進め方、記録の方法 | アセスメント記録用紙を整理してファイルに綴じ、記入内容・記入方法について基本事項を確認する。　(30分) |
| 2 | | 情報収集　1:記録用紙の内容確認 | |
| 3 | | 情報収集　2 | |
| 4 | | 情報収集　3 | |
| 5 | | 情報の分析　1 | |
| 6 | | 情報の分析　2 | |
| 7 | | 情報の整理　1 | 実習Ⅱ－1でとった担当利用者のアセスメントの内容(情報の整理・情報分析)をアセスメント記録用紙に整理して記入する。　**(60分)** |
| 8 | | 情報の整理　2 | |
| 9 | | 情報の整理　3 | |
| 10 | | 情報の整理　4 | |
| 11 | | 情報の確認　1 | 情報収集した内容から、既往歴・現病歴等、日常生活への影響について、文献等を参考にして調べる。(**90**分) |
| 12 | | 情報の確認　2 | |
| 13 | | 情報の確認　3 | |
| 14 | | 情報の分析・課題(ニーズ)の抽出　1 | 課題(ニーズ)の抽出について、不明な点を確認し、ノートに書き出す。　(60分) |
| 15 | | 情報の分析・課題(ニーズ)の抽出　2 | |
| 16 | | 情報の分析・課題(ニーズ)の抽出　3 | |
| 17 | | 実習Ⅱ－1事例アセスメントのまとめ　1 | 担当利用者のアセスメント内容を整理して、アセスメント記録用紙に記入する。　(60分) |
| 18 | | 実習Ⅱ－1事例アセスメントのまとめ　2 | |
| 19 | | 生活上のニーズリスト作成　1 | 生活上のニーズリスト作成方法について、不明な点を確認して、ノートに書き出す。　(60分) |
| 20 | | 生活上のニーズリスト作成　2 | |
| 21 | | 介護計画の立案　1 | 介護計画用紙を活用して、介護計画を立案する。(120分) |
| 22 | | 介護計画の立案　2 | |
| 23 | 事例研究 | 事例研究の方法 | パワーポイントで発表用スライドを作成する。(120分) |
| 24 | | 事例発表資料作成(パワーポイント)　1 | |
| 25 | | 事例発表資料作成(パワーポイント)　2 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 26 | | 事例発表 1 | 他者の発表から気づきを得て、アセスメント、介護計画の立案について不明な点を質問し、確認する。(180分) |
| 27 | | 事例発表 2 | |
| 28 | | 事例発表 3 | |
| 29 | | 事例発表 4 | |
| 31 | | 事例研究の方法・文献検索・事例研究のまとめ方 (パソコンを使っての原稿作成) | 事例研究をまとめるにあたっての基本事項を確認し、事例研究原稿をまとめる。(120分) |
| 32 | | 事例研究まとめ(考察)<br>(パソコンを使っての原稿作成) | |
| 33 | | 事例研究まとめ(考察)<br>(パソコンを使っての原稿作成) | 事例研究原稿作成に当たって、文献等を参考にした考察のまとめ・原稿作成・発表用スライド資料を作成する。<br>(180分) |
| 34 | | 事例研究まとめ<br>(パソコンを使っての原稿作成) | |
| 35 | | 事例研究まとめ<br>(パソコンを使っての原稿作成) | |
| 36 | | 事例研究発表資料作成(パワーポイント) 1<br>(パソコンを使っての原稿作成) | |
| 37 | | 事例研究発表資料作成(パワーポイント) 2<br>(パソコンを使っての原稿作成) | |
| 38 | 事例研究発表 | 事例研究発表 1 | 他者の発表原稿に目を通し、質問事項や気づき等をメモまとめて、事例研究発表会に備える。 (120分) |
| 39 | | 事例研究発表 2 | |
| 40 | | 事例研究発表 3 | |
| 41 | | 事例研究発表 4 | |
| 42 | | 事例研究発表 5 | |
| 43 | | 事例研究発表 6 | |
| 44 | | 事例研究発表 7 | |
| 45 | | 事例研究発表 8 | |

**単位の認定について**

事例研究の内容・提出状況８０%、授業取り組み状況２０%の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。

**教科書**　最新 介護福祉士養成講座９「介護過程」中央法規

**参考書**　「【改訂第２版】楽しく学ぶ介護過程」　久美株式会社

「介護過程」細心介護福祉全書　メヂカルフレンド社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 介護過程総論 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 新名　澄佳 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 前期・後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 4単位 | |

**授業概要：**

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を行うための介護過程展開の基礎を習得する。

介護過程の意義・目的および介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチの必要性について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

介護サービス計画や協働する多の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ICF | ICF の基本概念<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | ＩＣＦの構成要素の意味について教科書やプリント等を活用してノートにまとめる。（60 分） |
| 2 | | ICF に基づくアセスメント　1<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 3 | | ICF に基づくアセスメント　2<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 4 | 介護過程の意義 | 介護過程の意義・目的<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護過程とは何かを自身の日常生活に置き換えて考え、ワークシートにまとめる。（60 分） |
| 5 | 介護過程の理解 | 課題（ニーズ）を捉える視点　1<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護過程とは何か、介護過程の展開方法について、ノートや教科書等に目を通し線を引きながら確認する。（240 分） |
| 6 | | 課題（ニーズ）を捉える視点　2<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 7 | 介護過程の展開１ | 情報収集1(Zoom での遠隔授業変更可能) | |
| 8 | | 情報収集2(Zoom での遠隔授業変更可能) | |
| 9 | | 情報収集3(Zoom での遠隔授業変更可能) | |
| 10 | | 情報収集4(Zoom での遠隔授業変更可能) | |
| 11 | 介護過程の展開２ | アセスメント１：心身機能・身体構造<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 事例を基に、実際にアセスメント用紙を使用して介護過程を展開する。（240 分） |
| 12 | | アセスメント２：活動<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 13 | | アセスメント３：活動<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 14 | | アセスメント４：活動<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 15 | | アセスメント５：参加<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 16 | | アセスメント６：環境<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 17 | | アセスメント７：個人因子<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 18 | 介護過程の展開３ | 課題（ニーズ）の整理・ニーズリスト作成（Zoom での遠隔授業変更可能） | ニーズの整理・介護計画の立案（目標の立て方・援助の方法）・評価と修正について教科書やプリントで確認する。（180 分） |
| 19 | 介護過程の展開4 | 介護計画の立案・目標の立て方（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 20 | | 介護計画の立案・援助の方法（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 21 | 介護過程の展開5 | 介護の実際・介護記録（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 22 | 介護過程の展開6 | 評価と修正（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 23 | 介護過程とチームアプローチ | 介護過程とケアマネジメントの関連性（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護過程とチームアプローチについて教科書で確認し、内容を理解し説明できるようにする。（90 分） |
| 24 | | チームアプローチにおける介護福祉士の役割１（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 25 | | チームアプローチにおける介護福祉士の役割２（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 27 | 介護過程の展開7 | 事例検討１（ディスカッション） | 介護過程に関する基礎知識や事例から自身の介護過程に関する知識の理解度を確認するために、介護福祉士国家試験過去問題集の問題を解く。（180 分） |
| 28 | | 事例検討２（ディスカッション） | |
| 29 | | 事例検討３（ディスカッション） | |
| 30 | | 事例検討４（ディスカッション） | |
| 31 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　単元テスト５０％、提出物４０％、授業への取り組み状況１０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。

**教科書**　最新　介護福祉士養成講座９　「介護過程」　中央法規

**参考書**　「【改訂第２版】楽しく学ぶ介護過程」　久美株式会社

「介護過程」細心介護福祉全書　メヂカルフレンド社

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 介護実習 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 新名 澄佳　　桑迫 信子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 登学日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期･後期 | 授業の種類 | 実習 | 単位数 | 5単位 |

**授業概要：**

1．地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。

2．本人の望む生活の実現に向けて、他職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

3．各領域で学ぶ知識と技術の統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い介護実習での学びを進化させるとともに、介護過程の展開を通して介護の専門職としての思考や態度の形成、自己教育力等を養い介護過程の実践的展開を学ぶ。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

・介護実習の効果を上げるため、事前に学習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に繋げることができる。
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、進化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養うことができる。
・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法について理解できる。
・サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解することができる。
・対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・期間の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶことができる。

**授業計画表**

| トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|
| 実習Ⅰ | ○コミュニケーションを図り、利用者や施設職員と良い人間関係を作る。<br>○利用者の日常生活の状況を知り、施設概及び生活ニーズ、介護の役割を考える。 | ・教科書やホームページ、リーフレット等を活用し、実習先の概要について調べて、事前学習レポートにまとめる。（180分）<br>・予め実習開始までに実習計画表と実習期間中の目標を立てる。（60分）<br>・教科等を活用し日々の目標に沿った事前学習を行い、事前学習レポートにまとめる。（60分）<br>・事前学習を基に、不明な点を積極的に質問できるようメモにまとめる。（30分）<br>・日々の実習内容を振り返り、実習日誌に目標・実施・考察・評価の内容をまとめて、実習先に提出する。（毎日90分）<br>・実習記録（日誌、介護過程記録）の記入・整理を行い、記録の書き方、まとめ方等不明な点について質問し、確認する。(30分)<br>・実習中に実習反省会を実施するため、自己の実習取り組みを振り返るとともに、次への課題を自己評価表に記入し明確にする。（60分） |
| 実習Ⅱ―1 | ○障害のレベルに応じて求められる介護技術の適正な用い方について学ぶ。<br>○利用者を全人的に把握し、その人らしい生活に近づく介護過程の展開の方法を学ぶ。<br>○福祉・保健・医療・地域の連携について理解する。 | |
| 実習Ⅱ―2 | ○利用者を一人受け持ち、全人的に把握し介護過程の方法を学ぶ。<br>○チームの一員としての介護のあり方を学ぶ。<br>○夜間における利用者の状況及び、遅出勤務について学ぶ。<br>○これまでの実習で得た知識や技術を振り返り、自己の介護観を養う。 | |
| 実習Ⅰ | ○学内で学んだ理論・技術をもとに、居宅介護で行われている家族形態・身体状況の異なる利用者の様々な生活援助方法を学ぶ。又、利用者とその家族に対する介護の方法などについて指導、助言を行うことができるための | |

| | | |
|---|---|---|
| | 基礎能力を習得する。 | |

**単位の認定について**　実習先からの評価表による総合評価８０％、実習取り組み・実習記録の提出状況２０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。

**教科書**　なし
**参考書**　本学独自に作成した「実習指導要項」「実習記録様式」「介護過程記録様式」
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 介護総合演習 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 新名 澄佳 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期･後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2単位 | |

**授業概要：**

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。

各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを進化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習をする。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

・介護実習の効果を上げるため、事前に学習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に繋げることができる。
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、進化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養うことができる。
・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法について理解できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 介護福祉実習の基本理解 | 介護実習とは何か<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | ボランティア等を通じて高齢者施設等を訪問し、利用者の生活環境、介護福祉士の仕事などを見学・体験した内容をレポートにまとめ、提出する。（60 分） |
| 2 | 介護実習の意義と目的<br>介護実習の種類<br>介護実習と他科目との関連 | 介護実習の必要性と学習の内容<br>実習Ⅰ・Ⅱの目的とおもな実習内容<br>他科目での学びをどのように活かすか（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 3 | 実習Ⅰで想定される実習先の概要 | 1　小規模多機能<br>2　ケアハウス<br>3　グループホーム<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習Ⅰの実習施設･事業所について事前学習を行い､事前学習レポートを提出する。（90 分） |
| 4 | | 4　老人保健施設<br>5　特別養護老人ホーム<br>6　身体障害者療護施設<br>7　重症心身障害児施設<br>8　知的障害者更生施設<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 5 | 実習Ⅰの展開 | 実習Ⅰの内容と目的の確認<br>事前学習の内容と方法／実習生の心得（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習要項で実習Ⅰの目的・内容を確認し、必要箇所に線を引く。（60 分） |
| 6 | | 実習計画と記録（日誌）の書き方<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習日誌の書き方について不明な点を質問できるよう、メモを取る。（60 分） |
| 7 | | 実習（実習Ⅰ）前オリエンテーション（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習Ⅰの実習計画立てる。（60 分） |
| 8 | 実習体験の評価と整理 | 実習終了後の振り返りの重要性<br>実習の振り返り　①<br>（グループワーク） | 実習Ⅰの体験を実習自己評価表で振り返り、提出する。（90 分） |
| 9 | | 実習の振り返り　②　記録（日誌）<br>（グループワーク） | 実習日誌の書き直しを行い、提出する。（90 分） |
| 10 | | 実習報告会<br>（グループワーク） | 実習報告会に向けて、内容をまとめ発表の準備をする。（60 分） |
| 11 | 実習Ⅱで想定される実習先の概要 | 1　特別養護老人ホーム<br>2　老人保健施設<br>3　身体障害者更生施設<br>4　障害者支援施設<br>5　救護施設<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習Ⅱ－１の実習施設・事業所について事前学習を行い、事前学習レポートを提出する。（90 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 12 | 実習Ⅱの展開 | 実習Ⅱの内容と目的の確認<br>事前学習の内容と方法／実習生の心得（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習要項で実習Ⅱ－１の目的・内容を確認し、必要箇所に線を引く。（60 分） |
| 13 | | 実習計画と記録（日誌）の書き方<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習日誌の書き方について確認し不明な点を質問できるよう、メモを取る。（60 分） |
| 14 | | 実習前オリエンテーション<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習Ⅱ－１の実習計画を立てる。（30 分） |
| 15 | 実習体験の評価と整理 | 実習の振り返り　①<br>（グループワーク） | 実習Ⅱ－１の体験を実習自己評価表で振り返り、提出する。（90 分） |
| 16 | | 実習の振り返り　②　記録（日誌）<br>（グループワーク） | 実習日誌の書き直しを行い、提出する。（90 分） |
| 17 | | 実習報告会　①<br>（グループワーク） | 実習報告会に向けて、内容をまとめ発表の準備をする。（90 分） |
| 18 | | 実習報告会　②<br>（グループワーク） | |
| 19 | 実習Ⅱの展開 | 実習Ⅱの内容と目的の確認<br>事前学習の内容と方法／実習生の心得（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習要項で実習Ⅱ－２の目的・内容を確認し、必要箇所に線を引く。（60 分） |
| 20 | | 実習計画と記録（日誌）の書き方<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習日誌の書き方について確認し不明な点を質問できるよう、メモを取る。（60 分） |
| 21 | | 実習前（実習Ⅱ）オリエンテーション（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習Ⅱ－２の実習計画を立てる。（60 分） |
| 22 | 実習体験の評価と整理 | 実習の振り返り<br>（グループワーク） | 実習Ⅱ－２の体験を実習自己評価表で振り返り、提出する。（90 分） |
| 23 | 実習Ⅰで想定される実習先の概要 | １　訪問介護事業所<br>２　通所介護・通所リハビリテーション（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習Ⅰの実習施設・事業所について事前学習を行い、事前学習レポートを提出する。（90 分） |
| 24 | | ３　在宅支援事業所<br>４　地域包括支援センター<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 25 | 実習Ⅰの展開 | 実習Ⅰの内容と目的の確認<br>事前学習の内容と方法／実習生の心得（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習要項で実習Ⅰの目的・内容を確認し、必要箇所に線を引く。（60 分） |
| 26 | | 実習前（実習Ⅰ）オリエンテーション（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習Ⅰの実習計画を立てる。（60 分） |
| 27 | 実習体験の評価と整理 | 実習の振り返り　①<br>（グループワーク） | 実習Ⅰの体験を実習自己評価表で振り返り、提出する。（90 分） |
| 28 | | 実習の振り返り　②<br>（グループワーク） | |
| 29 | まとめ | 実習Ⅰ・Ⅱのまとめ　①<br>（グループワーク） | 実習Ⅰ・Ⅱを通しての学びをレポートにまとめて提出する。（90 分） |
| 30 | | 実習Ⅰ・Ⅱのまとめ　②<br>（グループワーク） | |

**単位の認定について**　実習自己評価票３０％、実習日誌の提出３０％、その他の提出物３０％、授業への取り組み状況１０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。

**教科書**　本学独自で作成した「実習指導要項」

**参考書**　最新　介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」中央法規

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 介護福祉概論Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担　当　者 | 花畑　明美、野津原　裕 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 6単位 |

**[授業概要]**

1．介護福祉の基本となる理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点を養う。
2．人間の理解を基礎とする尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力を養う。
3．介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できる。
・介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度が理解できる。
・ＩＣＦの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーションなどの意義や方法を理解できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 介護福祉の基礎 | ・授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・介護・介護福祉士に対するイメージ<br>・社会の変化と介護福祉の歴史<br>・介護福祉の基本理念<br>(Zoom 対応可) | レポート課題提出<br>「介護ってどんなこと?」　(60 分) |
| 2 | 介護の概念 | ・介護福祉士の定義<br>・社会福祉制度の中の介護の位置づけ<br>・「介護」から「介護福祉」へ<br>(Zoom 対応可) | 授業で用いられた用語をノートに整理する。　(30 分) |
| 3 | 介護福祉を取り巻く状況 | ・日本の介護の歴史<br>・社会福祉制度の中の介護の位置づけ<br>(Zoom 対応可) | レポート課題提出「身近な介護」<br>(60 分) |
| 4 | | ・統計からみる日本の家族形態および家族機能の変化<br>(Zoom 対応可) | レポート課題提出「介護に関する問題」　(60 分) |
| 5 | | ・老老介護　・高齢者虐待　・介護殺人<br>・心中など<br>(Zoom 対応可) | レポート課題提出「高齢者虐待」「介護殺人」など介護に関する新聞記事等を探し、感想を書く　(60 分) |
| 6 | | ・介護問題の背景と介護ニーズの変化<br>(Zoom 対応可) | レポート課題提出「社会が求める介護福祉士の役割」　(60 分) |
| 7 | 介護福祉の役割と機能を支えるしくみ | ・介護福祉士法及び社会福祉士法<br>・介護保険法の改正と「尊厳の保持」<br>(Zoom 対応可) | レポート課題提出「介護福祉士とホームヘルパーの違い」　(60 分) |
| 8 | 尊厳を支える介護 | ・人間の尊厳と権利擁護の考え方<br>・生命倫理の４原則の視点<br>(Zoom 対応可) | 日常生活の中での尊厳と介護行為の中での尊厳について、考えをまとめ述べられるようにする。　(60 分) |
| 9 | | ・尊厳と「自立」および「自律」<br>(Zoom 対応可) | |
| 10 | | ・ＱＯＬの考え方<br>(Zoom 対応可) | |
| 11・12 | 日常ケアと尊厳 | ・日常ケアの実践における尊厳<br>(Zoom 対応可) | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 自立の意味 | ・自立支援の考え方<br>・自己選択と自己決定<br>（Zoom対応可） | 日常生活の中での自立と介護行為の中での自立について、考えをまとめ、述べられるようにする。　（60 分） |
| 14 | 自立に向けた介護 | ・自立の根拠となるもの<br>（ノーマライゼーション、自立生活運動他）<br>（Zoom 対応可） | |
| 15・16 | 個別化の原理 | ・個別ケアの考え方<br>（Zoom 対応可 | |
| 17 | ICF | ・ＩＣＦ(国際生活機能分類)の考え方<br>（Zoom 対応可） | ICF の考え方を教科書で振り返り、ノートにまとめる。　（60 分） |
| 18 | | ・ＩＣＦの視点にもとづくアセスメント①<br>（Zoom 対応可 | |
| 19 | | ・ＩＣＦの視点にもとづくアセスメント②<br>（Zoom 対応可） | |
| 20 | 自立に向けた介護とリハビリテーション | ・自立支援の具体的展開<br>（Zoom 対応可） | |
| 21 | | ・リハビリテーションの理念および基本的な考え方<br>（Zoom 対応可） | リハビリテーションとは何か、基本的事項について予習し、ノートにまとめる。<br>（60 分） |
| 22 | | ・現代社会とリハビリテーション<br>（Zoom 対応可） | |
| 23 | | ・リハビリテーションのサービス体系<br>（Zoom 対応可） | |
| 24 | | ・リハビリテーションの実際①<br>移乗、移動、ボディメカニクス<br>（Zoom 対応可） | 目的や障害に応じたリハビリテーションについて、演習や実習の中で確かめるとともに、リハビリテーションをふまえた介護の実践を記録する。（60 分） |
| 25 | | ・リハビリテーションの実際②<br>高齢者の機能障害とリハビリテーション<br>（Zoom 対応可） | |
| 26 | | ・リハビリテーションの実際③<br>身体障害(脳血管障害・関節疾患・神経疾患・感覚機能障害・内部障害)<br>（Zoom 対応可） | |
| 27 | | ・リハビリテーションの実際④<br>精神障害・知的障害・脳性麻痺<br>（Zoom 対応可） | |
| 28 | | ・リハビリテーションの実際⑤<br>病院・施設におけるリハビリテーション<br>（Zoom 対応可） | リハビリテーションが活用される施設や機関、領域について、介護との関わりをふまえ調べ、説明できるようにする。　（60 分） |
| 29 | | ・リハビリテーションの実際⑥<br>在宅におけるリハビリテーション<br>（Zoom 対応可） | |
| 30 | | ・リハビリテーションのまとめ<br>介護予防、介護とリハビリテーション | 介護とリハビリテーションとの関わりについて学んだことをまとめる。（60 分） |
| 31 | 自立支援･尊厳の保持の実際 | 介護事例から学ぶ①（グループワーク） | 提示された事例に関する、社会福祉、介護用語等を調べて事例を読み込み、考えをまとめて演習に参加する。（60 分） |
| 32 | | 介護事例から学ぶ②（グループワーク） | |
| 33 | | 介護事例から学ぶ③（グループワーク） | |
| 34 | | 介護事例から学ぶ④（グループワーク） | |
| 35 | | 介護事例から学ぶ⑤（グループワーク） | |
| 36 | | 介護事例から学ぶ⑥（グループワーク） | |
| 37 | | 介護事例から学ぶ⑦（グループワーク） | |
| 38 | 介護を必要とする人と暮らしの理解 | 人間の多様性・複雑性の理解<br>（Zoom 対応可） | 高齢者・障害者の暮らしの実際を統計資料や公的報告書(国民生活白書・高 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 39 | | 高齢者の暮らしの実際①（グループワーク） | 齢者白書など)に基づいて調べ、生活を支えるサービスの現状とこれからの課題についてまとめ発表する。（60 分） |
| 40 | | 高齢者の暮らしの実際②（グループワーク） | |
| 41 | | 高齢者の生活を支えるサービスの現状と今後の暮らし③（グループワーク） | |
| 42 | | 障害のある人の暮らしの実際①（グループワーク） | |
| 43 | | 障害のある人の暮らしの実際②（グループワーク） | |
| 44 | | 障害のある人の生活を支えるサービスの現状と今後の暮らし③（グループワーク） | |
| 45 | 介護福祉とは何か | ・権利擁護の考え方や尊厳についての確認<br>・「私の介護観」として考えを整理する | 「私の介護観」としてこれまでの学びを通してまとめ、介護福祉への気づきを広げる（60 分） |

単位の認定について

単元テスト８０％、授業への取り組み・レポート課題・演習課題(「私の介護観」含む)提出状況２０％の割合で評価し、６０％以上で単位を認定する。

教科書　最新 介護福祉士養成講座１「人間の理解」「介護の基本Ⅰ」　中央法規

参考書　随時、資料を配布する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施る。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 介護福祉概論Ⅱ | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | 介護福祉士国家試験受験資格に関する科目 | | | | | | | |
| 担当者 | 樋口　成樹<br>星﨑　明里 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 通年 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ４単位 | |

[授業概要]

１．地域を基盤とした個や集団、社会の単位で人間を捉え、生活と社会の関係性や継続性を体系的に理解することができる。

２．福祉の理念を理解し、介護を必要とする人の生活を支えるしくみや介護実践の基礎となる知識と態度を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ○ | Ⅱ○ | Ⅲ◎ | Ⅳ○ | Ⅴ○ | ①　◎ | ②　○ | ③　○ | ④ | (1) | (2) | (3) |

[到達目標]

・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、介護福祉士に求められる専門職としての態度を理解できる。
・介護を必要とする人の個人・家族・地域・社会のしくみと地域における生活の多様な構造について学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。
・介護を必要とする人への社会的アプローチの仕組みを理解し、介護サービスや地域連携などフォーマル・インフォーマルな支援の必要性を理解できる。
・多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>社会での生活とは<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 2 | 介護サービス | ライフサイクルと家族の機能と役割<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | 介護保険制度と地域包括支援制度について事前学習する。また、実習の中で介護サービスの実際を確認し記録する。<br>（60 分） |
| 3 | | 社会・組織・地域の機能と役割<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 4 | | 地域福祉の発展と地域共生社会<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 5 | | 地域包括ケアシステム<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6 | | 社会保障制度の意義と役割<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 7 | | 社会保障制度の発達としくみ<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 8 | 介護実践における多職種連携 | 多職種連携・協働の必要性<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | 他の職種や地域との連携について、実習の中で意識して学んだことを記録する。<br>（60 分） |
| 9 | | 多職種連携・協働に求められる基本的な能力（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 10 | | 保健・医療・福祉職の役割と機能<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 11 | | 関連施設、機関との連携<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 12 | 介護実践における地域連携 | 生活を支えるフォーマルサービス<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う | |
| 13 | | 生活を支えるインフォーマルサービス<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う | |
| 14 | | 地域連携の意義と目的<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う | |
| 15 | 介護を支える社会のしくみ | 高齢者福祉、障害者福祉および権利擁護などの社会のしくみ、制度・施策の意義と目的（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | 介護を支える社会のしくみについて教科書に出てくる用語をノートに整理する。　（60 分） |
| 16 | 高齢者の音楽療法 | 高齢者にとっての音楽活動の意義について（Zoom での遠隔授業変更可能） | 生活の中で音楽が心身に与える影響をまとめる。　（30 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17 | 高齢者と歌唱活動 | 季節の歌の歌唱法と活動の進め方<br>（音楽レクリエーション） | 季節の歌と自分の思い出を整理し、高齢者の時代や社会背景を想像してみる。<br>季節の歌を練習してくる　（60 分） |
| 18 | | 季節の歌、なつかしのメロディーの歌唱法と活動の進め方<br>（音楽レクリエーション） | |
| 19 | | 季節の歌、なつかしのメロディー、民謡の歌唱法と活動の進め方<br>（音楽レクリエーション） | |
| 20 | 高齢者の特徴をいかした身体の動きの活動 | 動きを促す楽器や音楽の使い方<br>（音楽レクリエーション） | 楽器演奏で使う曲の歌唱練習をする。　（30 分） |
| 21 | 高齢者の特徴をいかした楽器の活動 | 楽器の奏法と効果的な使用法<br>（音楽レクリエーション） | 民話を語る練習をしてくる。(30 分) |
| 22 | 高齢者の特徴をいかした音語りの活動 | 語りの方法と音や音楽の付け方<br>（音楽レクリエーション） | 学習内容を復習し、試験の準備を行う。　（60 分） |
| 23 | 高齢者の音楽療法<br>（まとめ） | 歌唱及び高齢者の音楽活動<br>（音楽レクリエーション） | 学習内容を復習する。　（60 分） |
| 24 | 地域社会における介護を必要とする人の生活と支援活動(事例) | 介護を必要とする人の特性と理解<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | 介護に関連する制度について意味を調べノートにまとめる。<br>教科書や資料に出てくる用語を整理しノートにまとめる。<br>課題プリントに取り組む。<br>（60 分） |
| 25 | | 地域共生社会の実現に向けた支援活動<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>niversal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 26 | | 地域共生社会の実現に向けた支援活動<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 27 | | 高齢者福祉に関する制度や施策<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 28 | | 高齢者福祉に関する制度や施策<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 29 | | 介護実践に関する諸制度<br>（Zoom での遠隔授業変更可能）<br>小グループによるディスカッションを行う<br>Universal passport を使って小テストを行う。次回授業内で解説する | |
| 30 | | まとめ　試験を行い解説する | |

単位の認定について
　単元テスト８０％、授業への取組状況２０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。
教科書
　最新 介護福祉士養成講座４「社会の理解・介護の基本Ⅱ」　中央法規
　歌の宝石箱　呉竹英一編　ドレミ楽譜出版
参考書
　六法、福祉小六法、新聞各紙
　随時、参考資料を配布する。
　「音楽療法ハンドブックー看護と福祉領域のためのー」未来プロジェクト著　星雲社
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行ないます。
※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れています。

| 授業科目名 | 介護福祉概論Ⅲ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 新名　澄佳 | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2単位 |

**授業概要：**

１．各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護福祉士としての職業倫理を身につけ、リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を習得することができる。

２．介護従事者の心身の健康はじめ労働安全について基礎的な知識を習得することができる。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、あらゆる介護場面の安全確保のために、基礎的な知識や事故への対応が理解できる。

・よりよい介護実践のために、自己の健康管理や労働環境の管理について理解できる。

・職業倫理を基盤とし、知識・技術を統合させた総合的な判断力の必要性が理解できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 職業倫理 | 介護福祉士の倫理<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 社会福祉士及び介護福祉士法の定義等を教科書で確認し、線を引く。（30 分） |
| 2 | | 介護実践における倫理<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護福祉士の義務規定の内容を教科書で確認し、線を引く。（30 分） |
| 3 | | 日本介護福祉士会倫理綱領<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 日本介護福祉士会倫理綱領の内容を教科書で確認し、線を引く。（30 分） |
| 4 | 利用者の人権と介護 | 身体拘束禁止<br>（ディスカッション）<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 身体拘束廃止の経緯を調べてノートにまとめ、具体的な身体拘束の内容を教科書で確認し、線を引く。（60 分） |
| 5 | | 高齢者虐待、児童虐待、その他<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 新聞記事や書籍で高齢者虐待の実態について調べ、感想をノートにまとめる。（60 分） |
| 6 | プライバシーの保護 | 個人情報保護、その他<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護現場における個人情報の適切な取り扱いの必要性について考えノートに記す。（60 分） |
| 7 | 介護における安全の確保 | 介護における安全の確保の重要性<br>安全確保のためのリスクマネジメント<br>観察・正確な技術・予測、分析<br>（ディスカッション）<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護場面における安全確保の必要性について考えノートにまとめる。（60 分） |
| 8 | 事故防止、安全対策 | セーフティマネジメント<br>緊急連絡システム<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 要介護者の安心・安全な生活のための地域の安全対策について調べる。（60 分） |
| 9 | | 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ<br>（グループワーク）<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 要介護者の生活の場において安全な生活環境を整えるために、介護者に求められる支援について考えをノートに記す。（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 | 事故防止、安全対策 | 転倒・転落防止、骨折予防<br>防火・防災対策<br>利用者の生活の安全<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 暮らしの場における、高齢者に多い事故につて調べる。　（60 分） |
| 11 | 感染対策 | 感染予防の意義と介護<br>生活の場の感染対策<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習体験をもとに介護現場で実践されている感染対策としてどのようなことがあるかをノートに記す。　（60 分） |
| 12 | | 高齢者介護施設と感染対策<br>感染対策とリスクマネジメント<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護現場に多い感染症と感染対策の基本を教科書で確認し、線を引く<br>（30 分） |
| 13 | | 感染予防の基礎知識と技術<br>感染管理／衛生管理／その他<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護者に求められる感染防止の姿勢について、考えをノートに記す。(60 分) |
| 14 | 介護従事者の心身の健康管理 | 健康管理の意義と目的<br>健康管理に必要な知識と技術<br>心の健康管理／身体の健康管理<br>（ディスカッション）<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護従事者にとってのストレスマネジメントの必要性について考えをノートに記す。(60 分) |
| 15 | | 労働安全<br>安心して働ける環境づくり<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 安心して働ける職場環境に必要なことについて考えをノートに記す。<br>（60 分） |
| 16 | 定期試験 | | |

**単位の認定について**　単元テスト 80%、題及びレポート提出 10%、授業への取り組み状況 10%で評価し、60 点以上で単位を認定する。

**教科書**　最新　介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規
**参考書**　社会保障の手引き 2024
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | コミュニケーション技術Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 桑迫　信子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ２単位 |

**[授業概要]**

対人援助に必要な人間の関係性を理解し、人間関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。
・他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけることができる。
・円滑なコミュニケーション技法の基本を身につけることができる。
・介護を必要とする人とのコミュニケーション能力について理解することができる。
・介護を必要とする人のコミュニケーション能力に応じた対応を習得することができる。

授業計画表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | コミュニケーションの基礎 | ・授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・人間関係と心理<br>(Zoom 対応可) | 自己のコミュニケーションを振り返りノートにまとめる。　(60 分) |
| 2 | 介護におけるコミュニケーションの基本 | ・対人関係とコミュニケーション<br>・対人援助とは<br>(Zoom 対応可) | 敬語(課題提出)　(60 分) |
| 3 | | ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割<br>(Zoom 対応可) | 利用者の満足(喜ばれる言葉・嫌われる言葉)の共通すること(課題提出)(60 分) |
| 4 | | ・コミュニケーションの効果<br>(Zoom 対応可) | 授業で出てきた用語をノートにまとめ・整理する。　(60 分) |
| 5 | | ・コミュニケーションの基本言語、準言語、非言語（Zoom 対応可） | |
| 6 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション技法 | ・話を聞く技法<br>（うなずき、くりかえし、明確化、要約、共感、開かれた質問）<br>(グループワーク) | 同感と共感の違い(課題提出)　(60 分) |
| 7 | | ・納得と同意を得る技法（受容、共感）<br>(グループワーク) | |
| 8 | | ・介護を必要とする利用者のコミュニケーションの特徴の理解①<br>(Zoom 対応可) | コミュニケーション障害原因となる病気や症状を整理し、それぞれに応じた基本的な対応についてノートにまとめる。　(60 分) |
| 9 | | ・介護を必要とする利用者のコミュニケーション能力に応じた基礎的対応①<br>(グループワーク) | |
| 10 | | ・介護を必要とする利用者のコミュニケーションの特徴の理解②<br>(Zoom 対応可) | |
| 11 | | ・介護を必要とする利用者のコミュニケーション能力に応じた基礎的対応②<br>(グループワーク) | |
| 12 | | 状態に応じたコミュニケーション技術の応用①　(Zoom 対応可) | 実習で出会った利用者とのコミュニケーション場面を想起し、利用者の |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | | 状態に応じたコミュニケーション技術の応用②　(Zoom 対応可) | コミュニケーション能力に応じた対応であったかを振り返って述べられるようにする。　(60 分) |
| 14 | | 状態に応じたコミュニケーション技術の応用③　(Zoom 対応可) | |
| 15 | コミュニケーション基礎　まとめ | 介護場面でのコミュニケーション基礎 | まとめの振り返りを行う。国家試験問題に取り組む。(60 分) |

単位の認定について
　単元テスト８０％、課題レポート・演習レポート等１０％、授業への取組状況１０％の割合で評価し、６０％以上で単位を認定する。
教科書　　最新 介護福祉士養成講座５「コミュケーション技術」　中央法規
参考書　　随時、参考資料を配布する。
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８、９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | コミュニケーション技術Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 桑迫　信子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | １単位 |

**［授業概要］**

１．介護実践に必要な多職種の役割を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識と技術を習得する。

２．円滑な業務運営及び業務管理に必要なチームマネジメント・チームコミュニケーションの知識と技術を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

［到達目標］

・介護におけるチームコミュニケーションの意義と目的について理解できる。
・記録の意義や目的、種類、方法、留意点が理解できる。
・会議の意義や目的、方法、留意点について理解できる。
・組織運営に必要な「報告、連絡、相談」の意義や目的、方法、留意点について理解できる。
・介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理及び、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基礎を理解できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | チームコミュニケーションの基礎 | ・授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・組織におけるコミュニケーション<br>（Zoom 対応可） | （60 分） |
| 2 | 介護におけるチームコミュニケーション① | ・組織におけるコミュニケーションの必要性<br>（Zoom 対応可） | 実習の中でのチームコミュニケーションの必要性を感じた場面と理由を書き出す。（60 分） |
| 3 | | ・介護における記録の意義と目的<br>（Zoom 対応可） | 実習施設・事業所などで見かけた記録類を書き出す。（60 分） |
| 4 | | ・介護に関する記録の種類<br>（Zoom 対応可） | |
| 5 | | ・記録の方法と留意点<br>（Zoom 対応可） | 共通言語として記録の活用ができるために、授業ごとに出てきた用語をノートにまとめ、整理する。（60 分） |
| 6 | | ・好ましい記録と好ましくない記録<br>（Zoom 対応可） | |
| 7 | | ・介護記録に関する法令・条例・基準など（Zoom 対応可） | 法律用語などをノートにまとめ、整理する。（60 分） |
| 8 | | ・介護記録と個人情報保護（職業倫理を含む）について<br>（Zoom 対応可） | |
| 9 | 介護におけるチームコミュニケーション② | ・報告、連絡、相談の意義と目的<br>・報告、連絡、相談の方法と留意点<br>（Zoom 対応可） | 「報、連、相」について重要箇所をノートにまとめ、整理する。（60 分） |
| 10 | | ・会議の意義と目的、方法、留意点<br>・会議の準備の基本<br>（Zoom 対応可） | 基本的な会議のあり方についてノートにまとめる（60 分） |
| 11 | | ・介護サービスの特性とマネジメント<br>（Zoom 対応可） | 介護サービスと会議の関係性についてノートにまとめる。（60 分） |
| 12 | 情報の活用と管理コミュニケーション技術の応用 | ・事例検討に関する技術<br>（Zoom 対応可） | ＩＣＴ活用における留意点、説明技術の基礎を整理し、プレゼンテーションの準備をする。（60 分） |
| 13 | | ・組織運営のためのリーダーシップおよびフォロワーシップ<br>（Zoom 対応可） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | | ・チームコミュニケーションの応用①<br>(ディベート) | |
| 15 | | ・チームコミュニケーションの応用②<br>(プレゼンテーション) | |

単位の認定について
　単元テスト５０％、課題・演習レポートの提出状況４０％、授業への取組状況１０％の割合で評価し、６０％以上で単位を認定する。
教科書　　最新 介護福祉士養成講座５「コミュケーション技術」　中央法規
参考書　　随時、参考資料を配布する。
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 社会制度論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 花畑 明美 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ２単位 |

**[授業概要]**

１．日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。
２．高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。
３．対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解できる。
・社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題が理解できる。
・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解できる。
・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉と課題が理解できる。
・人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護法等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみが理解できる。

授業計画表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会のしくみ | 授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>個人と家庭の基本概念<br>（Zoom 対応可） | |
| 2 | 生活と福祉 | 家族・地域・社会の概念とライフサイクルの変化（Zoom での遠隔授業変更可能） | 自分の暮らしと社会福祉の関わりについてノートにまとめる。（各 30 分） |
| 3 | | 社会構造の変容及び生活支援と福祉<br>（Zoom 対応可） | |
| 4 | | 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方（Zoom対応可） | |
| 5 | 社会保障制度 | 社会保障の基本的な考え方<br>（Zoom対応可） | 生活や労働を支える社会保障制度について、身の回りの事象をふまえて調べる。（各 30 分） |
| 6 | | 日本の社会保障制度の発達<br>（Zoom 対応可） | |
| 7 | | 社会制度の基礎的理解<br>（Zoom 対応可） | |
| 8 | | 現代社会における社会保障制度<br>（Zoom 対応可） | |
| 9 | 介護保険制度 | 介護保険制度創設の背景及び目的<br>（Zoom 対応可） | 介護の専門職として介護保険制度について説明できるようにする。（各 30 分） |
| 10 | | 介護保険制度の動向<br>（Zoom 対応可） | |
| 11 | | 制度のしくみと基礎的理解<br>（Zoom 対応可） | |
| 12 | | 組織、団体及び専門職の役割について<br>（Zoom 対応可） | |
| 13 | 障害者自立支援制度 | 障害者自立支援制度創設の背景及び目的<br>（Zoom 対応可） | 介護の専門職として障害者自立支援制度について説明できるようにする。（各 30 分） |
| 14 | | 制度の基礎的理解及び組織、団体の機能と役割<br>（Zoom 対応可） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15 | 介護に関連する諸制度 | 個人の権利を守る制度及び生活保護制度の概要 | |

単位の認定について
　　単元テスト８０％、授業への取組状況２０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。
教科書　　最新　介護福祉士養成講座２　「社会の理解」　中央法規
参考書　　随時、参考資料を配布する。
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 障害総論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担　当　者 | 壹岐　絹子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ２単位 |

**[授業概要]**

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得するとととともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。

| DPとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。
・障害による心身への影響や心理的変化を、医学的・心理的側面から理解できる。
・障害のある人の機能の変化が生活に及ぼす影響を学び、QOLを高める支援の必要性が理解できる。
・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携協働による支援について理解できる。
・障害のある人を支える家族の課題について学び、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことの必要性が理解できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 障害の基礎的理解 | 授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>健康と障害<br>（Zoom 対応可） | 心身医学概論Ⅰでの人体の名称や働きを復習し、ノートにまとめる。　（60 分） |
| 2 | 障害者福祉の基礎的理解 | 障害者福祉の基本理念<br>障害のモデル<br>国際障害分類から国際生活機能分類への変遷<br>（Zoom 対応可） | ノーマライゼーション、リハビリテーション、国際障害者年の理念、その他の用語をノートに整理する。　（30 分）<br>国際障害分類と国際生活機能分類の相違点を整理し、どのような視点が改良のきっかけとなったのかをまとめる。　（30 分） |
| 3 | 障害者支援と多職種による連携と協働 | 障害者の就労（支援）と障害者福祉の現状と施策<br>地域におけるサポート体制<br>（Zoom 対応可） | 障害児・者の学習や就労・生活を支援するサービスの情報収集をして、地域におけるサポート体制や連携・協働の実態をまとめ、説明できるようにする。　（60 分） |
| 4 | 障害のある人を取り巻く環境 | 障害による心理的影響、障害受容<br>適応と適応機制<br>（Zoom 対応可） | 適応、適応機制、その他の用語をノートにまとめる。　（30 分） |
| 5 | 身体障害の医学的側面の基礎的知識 | 視覚障害の種類および原因と特性<br>聴覚障害の種類および原因と特性<br>（Zoom 対応可） | 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・内部環境障害の心身への影響を理解し、日常生活と関連付けた、介護福祉士の支援の視点で、説明できるようにする。　（30 分） |
| 6 | | 肢体不自由の種類と原因と特性①<br>（Zoom 対応可） | |
| 7 | | 肢体不自由の種類と原因と特性②<br>（Zoom 対応可） | |
| 8 | | 内部環境障害の種類と原因と特性①<br>（Zoom 対応可） | |
| 9 | | 内部環境障害の種類と原因と特性②<br>（Zoom 対応可） | |
| 10 | | 高次脳機能障害の原因と特性<br>（Zoom対応可） | 知的障害、発達障害、精神障害の基礎知識をもとに、介護福祉士としての対応を考え説明できるようにする。　（30 分） |
| 11 | | 難病の種類、原因と特性<br>発達障害・知的障害について<br>（Zoom 対応可） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 12 | | 精神障害・発達障害・知的障害の種類および原因と特性<br>（Zoom対応可） | |
| 13 | 障害と生活 | ライフステージと障害に伴う生活への影響（Zoom対応可） | 障害児・者の学習や就労・生活を支援するサービスの情報収集をして、地域におけるサポート体制や連携・協働の実態を発表できるようにする。（60 分） |
| 14 | 連携と協働<br>家族への支援 | 家族のレスパイトケア<br>自立支援法と地域におけるサポート体制他（Zoom 対応可） | |
| 15 | まとめ | 「障害の理解について」まとめと確認 | 国家試験問題に取り組む。（60 分） |

単位の認定について
　単元テスト９０％、レポート・課題の提出・授業への取り組み等１０％で評価し、６０％以上で単位を認定する。
教科書　最新　介護福祉士養成講座１４　「障害の理解」　中央法規
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間あて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

※この授業では、SDG s に関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 心身医学概論Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担　当　者 | 桑迫　信子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ２単位 |

**[授業概要]**

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能の基礎を理解する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎を理解できる。
・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できる。
・人生の最終段階にある人と家族を支援するために必要な知識を理解できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康の概念 | ・授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・人間の基礎的な構造と機能を学ぶ意義<br>・人間のからだとこころの健康の定義<br>(Zoom 対応可) | 介護福祉士が人体の構造や機能とこころのはたらきについて学ぶ意義をノートにまとめる。　(30 分) |
| 2 | からだのしくみの基礎理解 | ・骨格、筋肉の名称、内臓の名称<br>・脳と神経の機能<br>(Zoom 対応可) | ※毎回の授業内容の知識定着が、次回以降の知識理解に必要である。毎回の復習継続を必須とする。<br><br>からだの部位の名称・働きを覚え、それぞれが日常生活行動とどう関わっているかを説明できるようにする。　(30 分)<br><br>人間の体は全てが調和し、機能している。これらのはたらきが低下したら日常生活のどこに影響があるかを、自分の生活にあてはめて説明できるようにする。(30 分) |
| 3 | | ・運動とボディメカニクス<br>(Zoom 対応可) | |
| 4 | | ・生命兆候と恒常性の機能<br>・血液循環と体温調節の機能<br>(Zoom 対応可) | |
| 5 | | ・脈拍、血圧の機能<br>(Zoom 対応可) | |
| 6 | | ・呼吸器系の機能<br>(Zoom 対応可) | |
| 7 | | ・泌尿器系と排尿の機能<br>(Zoom 対応可) | |
| 8 | | ・消化器系と排便の機能<br>・咀嚼、嚥下の機能<br>(Zoom 対応可) | |
| 9 | | ・感覚器系の機能<br>(Zoom 対応可) | |
| 10 | | ・免疫の機能<br>・内分泌系の機能<br>(Zoom 対応可) | |
| 11 | こころのしくみの基礎理解 | ・人間に備わっている基本的欲求や社会的欲求の基礎<br>・自己概念と尊厳<br>(Zoom 対応可) | (※同じ)<br>自分のもつ欲求をマズローの欲求の階層にあてはめて理解する。<br>(60 分) |
| 12 | | ・こころのしくみの基礎知識<br>(学習、記憶、思考)<br>(Zoom 対応可) | (※同じ)<br>身体のしくみ(脳・神経)を復習する。　(30 分) |
| 13 | | ・こころのしくみの基礎知識<br>(感情、認知、意欲、動機づけ、適応など)<br>(Zoom 対応可) | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 加齢による<br>こころとからだ<br>の変化 | ・終末期のとらえ方<br>・利用者、家族の意向に沿ったターミナルケア<br>・看取りでの尊厳<br>（Zoom 対応可） | （※同じ）<br>ライフサイクルと心身への影響を整理する。　（30 分） |
| 15 | 機能別こころと<br>からだのしくみ<br>（まとめ） | ・こころとからだの機能について確認 | （※同じ） |

単位の認定について

単元テスト 80%、課題提出・授業への取り組み 20%で評価し、60%以上で単位を認定する。

教科書

最新　介護福祉士養成講座１１「こころとからだのしくみ」中央法規

授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８、９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 心身医学概論Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 桑迫 信子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2単位数 |

**[授業概要]**

1．介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を基盤とし、個別性のある生活支援技術への統合を習得する。

2． 介護技術の根本となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎を理解できる。
・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できる。
・人生の最終段階にある人と家族を支援するために必要な知識を理解できる。

授業計画表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 移動に関連した機能の基礎 | ・授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・移動の意味<br>・姿勢および体位保持のしくみ<br>・安楽な姿勢と良肢位<br>・重心の移動とバランス<br>・ボディメカニクス<br>(グループワーク) | ※毎回、心身医学概論Ⅰの授業内容を復習する。<br>※内容の復習は、日常生活支援技術の関連した項目の授業プリントや教科書も活用して行う。 (60分)<br>※国家試験問題に取り組む。 |
| 2 | 移動に関連した機能低下および障害がこころとからだに及ぼす影響と対応 | ・生活不活発病(廃用症候群)<br>・骨折 ・褥瘡など<br>・移動機能の低下および障害がこころとからだに及ぼす影響への観察の視点<br>・多職種連携と緊急対応方法<br>(Zoom対応可) | |
| 3 | 食事に関連した機能の基礎 | ・栄養素 ・水分量 ・空腹と満腹<br>・食欲のしくみ ・食べるしくみ<br>・嚥下運動、消化器・栄養摂取のしくみ<br>(Zoom対応可) | |
| 4 | 食事に関連した機能低下および障害がこころとからだに及ぼす影響と対応 | ・誤嚥防止 ・嚥下障害<br>・脱水など<br>・食欲低下や障害がこころとからだに及ぼす影響と観察の視点<br>・多職種連携と緊急対応方法<br>(Zoom対応可) | |
| 5 | 排泄に関連した機能の基礎 | ・排泄（排尿）の生理的および心理的意味<br>・排泄のしくみ(排尿)と機能の低下<br>(Zoom対応可) | |
| 6 | | ・排泄（排便）の生理的および心理的意味<br>・排泄のしくみ(排便)と機能の低下<br>(Zoom対応可) | |
| 7 | 消化器および排泄機能低下や障害がこころとからだに及ぼす影響と対応 | ・消化および排泄機能の低下や障害がこころとからだに及ぼす影響への観察の視点<br>・多職種連携と緊急対応方法<br>(Zoom対応可) | |
| 8 | 身じたくに関連した機能の基礎 | ・身じたくの意味<br>・整容行動(特に口腔の清潔)のしくみ<br>・機能の低下および障害が整容行動へ及ぼす影響 | |

| | | |
|---|---|---|
| | | （Zoom対応可） |
| 9 | 身じたくに関連した機能低下および障害がこころとからだに及ぼす影響と対応 | ・身じたくに関連した機能低下および障害がこころとからだへ及ぼす影響への観察の視点<br>・多職種連携と緊急対応方法<br>（Zoom対応可） |
| 10 | 入浴と清潔保持に関連した機能の基礎 | ・入浴や清潔保持の意味<br>・皮膚の汚れのしくみ<br>・発汗のしくみなど<br>（Zoon対応可） |
| 11 | 入浴と清潔保持に関連した機能低下および障害がこころとからだに及ぼす影響と対応 | ・入浴と清潔保持に関連した機能低下および障害がこころとからだへ及ぼす影響への観察の視点<br>・多職種連携と緊急対応方法<br>（Zoom対応可） |
| 12 | 休息と睡眠に関連した機能の基礎 | ・休息と睡眠の機能低下への観察の視点<br>・サーカディアンリズムと健康生活<br>・加齢に伴う睡眠への影響<br>・多職種連携と緊急対応方法<br>（Zoom対応可） |
| 13 | 休息と睡眠に関連したこころとからだのしくみの基礎および機能低下時の影響 | ・休息と睡眠に関連した機能低下および障害がこころとからだへ及ぼす影響への観察の視点<br>・多職種連携と緊急対応方法<br>（Zoom 対応可） |
| 14 | 終末期から危篤状態及び死後のからだの理解 | ・終末期から「死」までの身体機能の特徴<br>・臨終期から死後のからだの変化と対応方法<br>・医療職との連携<br>（Zoom 対応可） |
| 15 | 機能低下をきたしたこころとからだへの対応　（まとめ） | ・こころとからだの機能低下時の視点と対応について確認 |

単位の認定について

単元テスト 80%、課題提出・授業への取り組み 20%で評価し、60%以上で単位を認定する。

教科書　最新 介護福祉士養成講座１１「こころとからだのしくみ」中央法規

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 生活支援技術 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 白石知子（メールアドレス: tshiraishi@edu.miyazaki-miu.ac.jp ）新名澄佳 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演　習 | 単位数 | 1単位 |

**授業概要：** ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、家事、福祉用具の意義と活用について基礎的な技術を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**
- 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得できる。
- 介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | | | |
| 1 | 居住環境整備の意義と目的 | 授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・安全で心地よい生活（目的）と能率的な環境整備<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 自宅の居住環境を調べ、改善点をまとめる。<br>（60 分） |
| 2 | 生活空間と介護<br>居住環境のアセスメント | ・居場所とアイデンティティー、生活の場、住まい、住み慣れた地域での生活の保障等<br>・ICF の視点にもとづく利用者の全体像や ICF の視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 高齢者にとっての快適な住まいについてまとめる。また、ＩＣＦにもとづく居住環境の整備について、身近な例を挙げ考える。<br>（60 分） |
| 3 | 安全で心地よい生活の場づくり | ・安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫（快適な室内環境の確保、浴室・トイレ・台所等の空間構成）<br>（グループワーク） | 高齢者の家庭内事故にはどのようなものがあるか調べる。居住環境を整える際に大事な視点は何かを考える。地域の中でバリアフリーになっている場所やユニバーサルデザインがあるかを調べる。<br>（各 60 分） |
| 4 | | ・プライバシーの確保と交流の促進、安全への配慮、住宅改修や住宅のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 5 | 施設での生活の場作り | ・施設での集住の場合の工夫・留意点（ユニットケア、居室の個室化、なじみの生活空間づくり）<br>・他の職種の役割、協働<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 施設における住まいづくりを考える。また、安全で住み心地の良い住環境を整えるために関わっている職種や役割を調べる。<br>（60 分） |
| 6 | 家事支援の意義 | ・安心できる快適な生活、能率的な生活（目的）と意義<br>・ICF にもとづく家事に関する利用者の状況分析<br>・ICF にもとづく家事に関する利用者のアセスメント<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 快適な生活をするための方法をノートにまとめる。また、ＩＣＦにもとづく家事とはどのようなことかを、利用者の立場にたって、身近な例をあげ考える。<br>（60 分） |
| 7 | 家事に参加することを支える介護 | 家事に参加する意義と介護の工夫（意欲を出す働きかけ）<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 高齢者の意欲を引き出す家事の介護方法の例を挙げる。<br>（60 分） |
| 8 | 家事の介助の技法 | ①　調　理 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・調理の基本および食品衛生や介護食に関する基礎知識と技術<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 高齢者の食生活の現状と問題に関する、新聞記事・資料等を集める。<br>介護食の種類と作り方について料理本を参考にして調べる。<br>（各 60 分） |
| 9 | | ・高齢者向けの調理および形態別調理の技術<br>・症例別調理（調理実習） | |
| 10 | | | |
| 11 | | ・加工食品の活用と保存<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 12 | | ② 洗 濯 ・洗剤や柔軟剤等の使用<br>③ 掃 除 ・場所にあった掃除とごみの分別<br>④ 衣 類 ・寝具の衛生管理<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 自宅の洗濯方法やごみ捨ての方法を調べる。また、自宅の衣類や寝具の収納の仕方を調べる。<br>（60 分） |
| 13 | | ④ 裁 縫 ・裁縫の基礎と被服製作の実習<br>・寝巻きや日常着の補正（障害者別）<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 簡単な裁縫の基礎（ボタンつけ、繕い）を復習し、小作品を製作する。<br>（60 分） |
| 14 | | ⑥ 買い物 ・選択の仕方<br>⑦ 家庭経営・家計の管理<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 賢い家庭経営についてまとめる。 （60 分） |
| 15 | 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点<br>生活支援技術のまとめ | ・感覚機能が低下している人の介助の留意点<br>・運動機能が低下している人の介助の留意点<br>・認知・知覚機能が低下している人への介助<br>・生活支援技術のまとめと確認 | 事例に合った家事支援の方法とその根拠･留意点について、ワークシートにまとめる。<br>（60 分） |

**単位の認定について**
※単元テスト４０点、ノート整理(授業外学習)・レポート・作品提出６０点で評価し、６０点以上で単位を認定する。
**教科書・参考書** ※最新 介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ⅰ」 中央法規
**授業外学習について** 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法** 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。
※この授業では、SDG s に関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れています。

| 授業科目名 | 生活支援総論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 白石知子（メールアドレス: tshiraishi@edu.miyazaki-miu.ac.jp ） | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | 2単位 |

**授業概要：**ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、家事、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

・生活の豊かさや心身の活性化、自立支援の為の居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。
・生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識を習得できる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生活支援総論とは | 授業内容、目標、評価等の説明および導入<br>生活支援を学ぶことの意義を知るる<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | Ａ４ノートを準備し、生活支援総論をなぜ、学ぶのかまとめておく。<br>（60 分） |
| 2 | 生活の理解 | 生活の定義および生活形成のプロセスを考え、利用に合った支援を考える。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 自分の生活の１日を振り返る。<br>家庭での仕事を調べ、ノートにまとめる。（60 分） |
| 3 | | 家事労働の種類と内容から、より良い生活経営を考える。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 家庭での家事労働とより良い生活の工夫の関係をまとめる。<br>（60 分） |
| 4 | 生活支援とは | 生活支援とは何か、障害者を側面的に支援する意味を実習場面から考える。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 障がいのある人を調べて特徴や特性をノートにまとめる。<br>（60 分） |
| 5 | | 生活支援の考え方を理解し、配慮事項を話し合う。受容・自己決定等を理解する。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 高齢者問題について新聞記事や情報を収集する。<br>（60 分） |
| 6 | | 世界保健機構が示しているＩＣＦに基づいて、残存機能の生かし方を考える。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習から、残存機能の生かし方や配慮事項をまとめる。<br>（60 分） |
| 7 | 家事支援の機能と基本 | 意欲を引き出すはたらきかけ（尊厳を支えるケア）を考える。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 尊厳について、ノートにまとめる。<br>（60 分） |
| 8 | | 家事援助と介護について、実習内容から検証する。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 実習先での学びから、家事援助と介助・介護の問題点をまとめる。<br>（60 分） |
| 9 | 食生活の支援 | 高齢者、障害者の食生活のあり方について、レポートの発表を行い、問題点を協議する。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 高齢者の食生活の現状と問題に関する、新聞記事・資料等を集めレポートする。<br>（60 分） |
| 10 | | 食品選択や食品衛生の基礎的理解を図る。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 介護食の種類と作り方について料理本を参考にして調べる。また、高齢者や障害者の食事について、調べる。（60 分） |
| 11 | 被服生活の支援 | 高齢者等と被服の役割について考え、その特徴を理解する。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 市販されている高齢者の衣服の特徴について、調べる。<br>（60 分） |
| 12 | | 衣服の管理および洗濯等の手入れに関する基本的な事項を理解する。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 自宅の洗濯方法や衣類や寝具の管理・収納の仕方を調べる。<br>（60 分） |
| 13 | | 高齢者の住居の役割と機能を考え、配慮点を検討する。 | 高齢者に適した住居について、図や絵を加え、自分の考えをまとめる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 住生活の支援 | （Zoom での遠隔授業変更可能） | （60 分） |
| 14 | | 実習先の室内整備と安全管理についてまとめ、自宅への応用点をまとめる。<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 自宅と施設の住居面での違いをまとめ、改善計画をたてる。<br>（60 分） |
| 15 | まとめ | 生活支援のまとめと確認をする。 | 利用者に応じた支援と支援者として身に付けたい知識・技能について、発表原稿をまとめる。<br>（60 分） |

**単位の認定について**
※単元テスト４０点、ノート整理(授業外学習)・レポート・作品提出６０点で評価し、６０点以上で単位を認定する。
**教科書・参考書**　※最新 介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ⅰ」　中央法規
**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。
※この授業では、SDG s に関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れています。

| 授業科目名 | 日常生活支援技術Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 新名　澄佳　　桑迫　信子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 2単位 |

**授業概要：**

1．尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することができる。

2．ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、食事、移動、身支度における介護場面に応じ、自立支援の観点から基礎的で個別的な介護実践の能力を習得する。

| DPとの関わり | 全学DP | | | | | 学科DP | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基礎を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。

**授　業　計　画　表**

| 回 | トピック名 | 概　　要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 食事の意義と目的 | 食事の意義・目的<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 食事の介護におけるアセスメントの視点について、事例をもとに考える。（60 分） |
| 2 | 食事に関する利用者のアセスメント | 食事の生活支援におけるアセスメント<br>ICF の視点にもとづくアセスメント<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 3 | 「おいしく食べる」ことを支える介護 | 「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 普段おいしく食事をするために工夫していることについて考える。（60 分） |
| 4 | | 「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 5 | 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 | 安全で的確な食事介助の技法<br>誤嚥、窒息の防止のための日常生活の留意点<br>脱水の予防のための日常生活の留意点<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 的確な食事介助の技法、誤嚥時の対応について復習する。　（30 分） |
| 6 | | 誤嚥時の対応<br>他職種の役割と協働・連携<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 7 | 食事における介助 | 食事の介助 | 食事介助の演習で、気づいたことをレポートにまとめる。　（60 分） |
| 8 | | 食事の介助 | |
| 9 | 移動の意義と目的 | 移動の意義・目的<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 移動の介護におけるアセスメントの視点について、事例をもとに考える。（60 分） |
| 10 | 移動に関する利用者のアセスメント | 移動の生活支援におけるアセスメント<br>ICF の視点にもとづくアセスメント<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 11 | 安全で気兼ねなく動けることを支える介護 | 安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫、他職種の役割と協働・連携<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 安全に移動できるための居住環境について考える。　（30 分） |
| 12 | 移動・移乗における介護技術 | ボディメカニクスの確認 | ボディメカニクスの基本を復習し、ノートにまとめる。　（60 分） |
| 13 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 移動･移乗における介護技術 | 水平移動 | 演習内容を振り返り、基本技術をグループメンバー同士で確認（練習）する。<br>内容：移動の介助（水平移動・体位変換・移乗）、安楽な体位<br>（60 分） |
| 15 | | 体位変換 | |
| 16 | | 仰臥位から端座位 | |
| 17 | | ベッドから車椅子への移乗 | |
| 18 | | ベッドから車椅子への移乗 | |
| 19 | | 安楽な体位 | |
| 20 | | 歩行介助 | |
| 21 | 身じたくの意義と目的 | 身じたくの意義・目的<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 22 | 身じたくに関する利用者のアセスメント | 身じたくの生活支援におけるアセスメント<br>ICF の視点にもとづくアセスメント<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 23 | 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 | 生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫<br>他職種の役割と協働・連携<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 装いに楽しみをもつために工夫できることを考える。　（60 分） |
| 24 | 身じたくにおける介護の技術 | 整　容　① | 自分以外の人の整容介助を行う。<br>（30 分） |
| 25 | | 整　容　② | |
| 26 | | 口腔の清潔 | 自分以外の人の口腔ケア介助を行う。　（30 分） |
| 27 | | 衣服の着脱　① | 自分以外の人の衣服の着脱介助を行う。　（30 分） |
| 28 | | 衣服の着脱　② | |
| 29 | 定期試験 | 介護技術の確認 | 演習テストに向けて技術の確認（練習）をする。 |
| 30 | | 介護技術の確認 | |

**単位の認定について**　単元テスト６０％、演習テスト２０％、提出物及び受講態度２０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。

**教科書**　最新 介護福祉士養成講座７「生活支援技術Ⅱ」中央法規

**参考書**

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 日常生活支援技術Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担　当　者 | 桑迫　信子　　新名　澄佳 | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期・後期 | 授業の種類 | 演　習 | 単位数 | ３単位 |

**[授業概要]**

入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階における介護場面において、尊厳の保持や自立支援および生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行なうための知識・技術を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基礎を理解できる。また、実践の根拠について、身体的・心理的・社会的側面から説明することができる。
・健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解できる。
・人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 清潔保持のための介護 | ・授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>・入浴の意義と目的　・介護職の役割<br>(Zoom 対応可) | 清潔保持の介護におけるアセスメントの視点を、体験をもとに考える。<br>(60 分) |
| 2 | | ・入浴の生活支援におけるアセスメント<br>・ICF の視点にもとづくアセスメント<br>(Zoom 対応可) | |
| 3 | 入浴、シャワー浴、機械浴による清潔保持 | ・自立に向けた清潔保持のための介護と留意点<br>・入浴で清潔を保持し爽快感を得るための介護手順<br>(Zoom 対応可) | 入浴、シャワー浴、機械浴による清潔保持の介護における基本事項を手順表に沿って確認する。(60 分) |
| 4 | | | |
| 5 | 部分浴（手浴、足浴）による清潔保持 | ・自立に向けた清潔保持のための介護と留意点<br>・部分浴で清潔を保持し爽快感を得るための介護手順<br>(Zoom 対応可) | 部分浴による清潔保持の介護における基本事項を手順表に沿って確認する。<br>(60 分) |
| 6 | | | |
| 7 | 入浴等と部分浴による清潔保持 | ・安全で安楽な入浴の介護で、清潔を保持するための技術<br>(演習) | 入浴等と部分浴の介護で気づいたことをレポートにまとめる。<br>(30 分) |
| 8 | | | |
| 9 | 全身清拭による清潔保持 | ・自立に向けた清潔保持のための介護と留意点<br>・全身清拭で清潔を保持し爽快感を得るための介護手順<br>(Zoom 対応可) | 全身清拭による清潔保持の介護における基本事項を手順表に沿って確認する。<br>(60 分) |
| 10 | | | |
| 11 | | ・安全で安楽な全身清拭の介護で、清潔を保持するための技術<br>(演習) | 全身清拭の介護で気づいたことをレポートにまとめる。　(30 分) |
| 12 | | | |
| 13 | 洗髪による清潔保持 | ・自立に向けた清潔保持のための介護と留意点<br>・洗髪で清潔を保持し爽快感を得るための介護手順<br>(Zoom 対応可) | 洗髪による清潔保持の介護における基本事項を手順表に沿って確認する。<br>(60 分) |
| 14 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15<br>16 | | ・安全で安楽な洗髪の介護で、清潔を保持するための技術<br>（演習） | 洗髪の介護で気づいたことをレポートにまとめる。（30 分） |
| 17 | 清潔保持の介護<br>まとめ | ・清潔保持の意義や効果、援助の留意点についての確認 | 清潔保持の介護における基本事項について整理する。（60 分） |
| 18 | 尿器、便器を使用した排泄の介護 | ・排泄の意義と目的　・介護職の役割<br>・排泄の生活支援におけるアセスメント<br>・ICFの視点に基づく排泄のアセスメント<br>・自立に向けた排泄の介護と留意点<br>・尿器、便器を使用した満足いく排泄の介護のための手順<br>（Zoom 対応可） | 排泄の介護におけるアセスメントの視点について、体験をもとに考える。（60 分） |
| 19 | | | 尿器、便器を使用した排泄介護における基本事項を手順表に沿って確認する。（60 分） |
| 20<br>21 | | ・尿器、便器を使用した排泄の介護で、安全と満足感を得るための技術<br>（演習） | 尿器、便器を使用した排泄の介護で気づいたことをレポートにまとめる。（30 分） |
| 22 | おむつを使用した排泄の介護（陰部洗浄） | ・自立に向けた排泄の介護と留意点<br>・おむつを使用した満足いく排泄の介護のための手順<br>・陰部の清潔を保持し感染を防ぐための手順<br>（Zoom 対応可） | おむつ着用を体験し、レポートにまとめる。おむつを装着することの長所・短所を考える。（60 分） |
| 23 | | | おむつを使用した排泄介護（陰部洗浄を含む）における基本事項を手順表に沿って確認する。（60 分） |
| 24<br>25 | | ・おむつを使用した排泄の介護で、安全と満足感を得るための技術<br>（演習） | おむつを使用した排泄の介護で気づいたことをレポートにまとめる。（30 分） |
| 26<br>27 | トイレ、ポータブルトイレを使用した排泄の介護 | ・自立に向けた排泄の介護と留意点<br>・トイレ、ポータブルトイレを使用した満足いく排泄の介護のための手順<br>（Zoom 対応可） | トイレ、ポータブルトイレを使用した排泄介護における基本事項を手順表に沿って確認する。（60 分） |
| 28<br>29 | | ・トイレ、ポータブルトイレを使用した安全で安楽な排泄の介護技術<br>（演習） | トイレ、ポータブルトイレを使用した排泄の介護で気づいたことをレポートにまとめる。（30 分） |
| 30 | 排泄の介護<br>まとめ | ・排泄の意義や援助の留意点についての確認 | 清潔保持の介護における基本事項について整理する。（60 分） |
| 31<br>32 | 休息と睡眠の介護 | ・休息と睡眠の意義、目的<br>・介護職の役割<br>・自立に向けた休息と睡眠の介護と留意点<br>・ICF の視点に基づく休息と睡眠のアセスメント<br>（Zoom 対応可） | 睡眠の介護におけるアセスメントの視点について、体験をもとに考える。（60 分） |
| 33<br>34 | | ・安眠のための介護技術<br>（演習） | 睡眠時の安楽な体位についての体験をレポートにまとめる。（30 分） |
| 35 | 休息と睡眠の介護<br>まとめ | ・休息と睡眠の意義や援助の留意点についての確認 | 休息と睡眠の介護における基本事項について整理する。（60 分） |
| 36 | 演習テスト<br>（介護技術の確認） | ・事例に基づいた安全で安楽な介護 | 事例に基づいた介護の基本事項を手順表に沿って確認する。（60 分） |
| 37 | | | 演習テストの結果を踏まえ、介護技術の再確認を行う。（30 分） |
| 38 | 終末期の介護 | ・終末期における介護の意義、目的<br>・介護職の役割<br>・ICFの視点に基づく終末期のアセスメント（Zoom対応可） | 生命や命について自分の考えをまとめる。（30 分） |
| 39 | | ・医療との連携<br>・終末期における尊厳の保持<br>・尊厳と事前意思確認<br>（Zoom 対応可） | 終末期の介護の必要性について考える。（30 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 40 | | ・臨終時の介護<br>（Zoom 対応可） | 看取りの場面における人体の機能低下の特徴について調べる。<br>（60 分） |
| 41 | | ・看取りのための支度と制度<br>（Zoom 対応可） | |
| 42 | | ・グリーフケア<br>（Zoom 対応可） | 終末期における医療職との連携と介護福祉士が行なう生活支援の在り方を整理する。（60 分） |
| 43 | | ・事例に基づいた終末期の介護<br>（Zoom 対応可） | ＤＶＤや､新聞記事､書籍等を読み､死生観についてレポートにまとめる。（120 分） |
| 44 | | | |
| 45 | 終末期の介護<br>まとめ | ･終末期介護の意義や援助の留意点についての確認 | 終末期介護に関する基本事項について整理する。（60 分） |

単位認定について

単元テスト６０％、演習テスト２０％、レポート提出及び受講態度２０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。

教科書　　最新 介護福祉士養成校座７、11「生活支援技術Ⅱ、こころとからだのしくみ」　中央法規

授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８、９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 日常生活支援技術Ⅲ | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | | |
| 担当者 | 新名 澄佳 | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日放課後 | | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 後期 | 授業の種類 | 演習 | 単位数 | 3単位 | |

**授業概要：**

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することができる。

各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護の対象となる人の状態や状況に応じた介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | カリキュラムマップ参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅰ | Ⅱ① | Ⅱ② | ③ | |

**到達目標：**

・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基礎を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。

**授業計画表**

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 利用者の状態・状況に応じた介護の留意点（内部障害） | 身体各部のはたらきと高齢者の特徴（録画での遠隔授業対応可） | 身体各部の機能をノートに整理する。（60 分） |
| 2 | | 心機能障害の理解と介護の視点（録画での遠隔授業対応可） | 心臓に問題のある人の食事制限について調べる。（30 分） |
| 3 | | 呼吸器機能障害の理解と介護の視点（録画での遠隔授業対応可） | 呼吸器に問題のある人の運動制限について調べる。（30 分） |
| 4 | | 排泄系機能障害の理解と介護の視点（録画での遠隔授業対応可） | 腎・消化器に問題のある人の症状や、医療関係者との連携のあり方について教科書で確認し、ノートに整理しまとめる。（60 分） |
| 5 | | 消化器系機能障害の理解と介護の視点（録画での遠隔授業対応可） | |
| 6 | | 脳血管機能障害の理解と介護の視点（録画での遠隔授業対応可） | 脳血管、視覚、聴覚、言語機能、神経・骨・関節などに問題のある人の症状や、医療関係者との連携のあり方について教科書で確認し、ノートに整理しまとめる。（60 分） |
| 7 | | 視覚・聴覚機能障害の理解と介護の視点（録画での遠隔授業対応可） | |
| 8 | | 神経・骨・関節障害の理解と介護の視点 | |
| 9 | | 免疫機能障害、難病の理解と介護の視点（Zoom での遠隔授業変更可能） | 免疫機能障害、難病などのある人の生活上の困りごとを調べまとめる。（60 分） |
| 10 | | 内部障害がある人の介護（まとめ）（Zoom での遠隔授業変更可能） | 内部障害の生活支援についてノートに整理しまとめる。（60 分） |
| 11 | 利用者の状態・状況に応じた介護技術（運動機能障害） | 脳血管障害をもつ人に応じた介護（事例）（Zoom での遠隔授業変更可能） | 演習内容を振り返り確認（練習）し、基本技術を身につける。（60 分）<br>内容：衣服の着脱・移動・食事・口腔ケア・排せつ・入浴・清潔保持など |
| 12 | | 脳血管障害をもつ人に応じた介護（演習） | |
| 13 | | 脳血管障害をもつ人に応じた介護（まとめ） | |
| 14 | | 関節リウマチをもつ人に応じた介護（事例）（Zoom での遠隔授業変更可能） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15 | 利用者の状態・状況に応じた介護技術（運動機能障害） | 関節リウマチをもつ人に応じた介護（演習） | 演習内容を振り返り確認（練習）し、基本技術を身につける。（60 分）<br>内容：衣服の着脱・移動・食事・口腔ケア・排せつ・入浴・清潔保持など |
| 16 | | 関節リウマチをもつ人に応じた介護（まとめ） | |
| 17 | | 脊髄損傷をもつ人に応じた介護（事例）<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 18 | | 脊髄損傷をもつ人に応じた介護（演習） | |
| 19 | | 脊髄損傷をもつ人に応じた介護（まとめ） | |
| 20 | 総合演習① | グループワーク　（事例：運動機能障害） | 運動機能障害のある人の事例から、生活支援の内容と方法を考える。（30 分） |
| 21 | | グループワーク　（事例：運動機能障害） | |
| 22 | | 介護過程に基づいた演習発表 | |
| 23 | | 介護過程に基づいた演習発表 | |
| 24 | | 介護過程に基づいた介護技術 | 演習内容・技術確認（練習）をする。（90 分） |
| 25 | | 介護過程に基づいた介護技術 | |
| 26 | 総合演習②<br>（ペーパーシミュレーション） | 事例①（内部障害） | 内部障害のある人の事例から、生活支援の方法について考える。<br>関連する身体のしくみや言葉の意味を調べノートに整理する。（60 分）<br>※国家試験問題の関連事例に取り組む |
| 27 | | 事例②（内部障害） | |
| 28 | | 事例③（内部障害） | |
| 29 | | 事例④（内部障害） | |
| 30 | 利用者の状態・状況に応じた介護技術（重症心身障害者／発達障害／精神障害／認知症／高次脳機能障害） | 高次脳機能障害のある人に応じた介護<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 高次脳機能障害および認知症等のある人の生活において、どのような場面で介助が必要かを考え、ワークシートにまとめる。（60 分）<br>※国家試験問題の関連事例に取り組む |
| 31 | | 認知症のある人に応じた介護<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 32 | | 重症心身障害者／発達障害／精神障害のある人に応じた介護①<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 33 | | 重症心身障害者／発達障害／精神障害のある人に応じた介護②<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 34 | 総合演習③<br>（ペーパーシミュレーション） | 事例演習①（認知症など） | 認知症などの事例から、生活支援の方法について考える。<br>関連する身体のしくみや言葉の意味を調べノートに整理する。（60 分）<br>※国家試験問題の関連事例に取り組む |
| 35 | | 事例演習②（認知症など） | |
| 36 | | 事例演習③（認知症など） | |
| 37 | | 事例演習④（認知症など） | |
| 38 | | 事例演習⑤（認知症など） | |
| 39 | | 事例演習⑥（認知症など） | |
| 40 | 利用者の状態・状況に応じた介護技術（視覚障害） | 視覚障害のある人に応じた介護技術①<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 安心・安全な社会の仕組みと支援上の工夫についてまとめる（30 分）<br>※国家試験問題の関連事例に取り組む |
| 41 | | 視覚障害のある人に応じた介護技術②<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 42 | 利用者の状態・状況に応じた介護技術（聴覚障害） | 聴覚障害のある人に応じた介護技術①<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 聴覚障害者に関係する標識等を町の中で探す。（90 分）<br>※国家試験問題の関連事例に取り組む |
| 43 | | 聴覚障害のある人に応じた介護技術②<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |
| 44 | | 聴覚障害のある人に応じた介護技術③<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 45 | | 聴覚障害のある人に応じた介護技術④<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | |

**単位の認定について**　単元テスト７０％、レポート提出及び受講・演習態度３０％の割合で評価し、６０点以上で単位を認定する。

**教科書**　最新 介護福祉士養成講座８「生活支援技術Ⅲ」中央法規

**参考書**

**授業外学習について**　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

| 授業科目名 | 認知症総論Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担　当　者 | 濵砂　貴美子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ２単位 |

**［授業概要］**

１．認知症を取り巻く状況及び医学的側面からみた認知症の基礎知識を習得する。
２．認知症のある人の体験や意思表示が困難な人の特性を理解し、本人のみならず家族を含め周囲環境にも配慮した介護の視点を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**［到達目標］**

・認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境を理解できる
・医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を学び、生活支援を行うための根拠が理解できる。
・認知症がもたらす生活や家族への影響を学び、心理的・社会的側面の問題を理解できる。
・認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践に展開する知識を習得できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 認知症の理解 | 授業内容、目標、評価等の説明及び導入認知症の定義と診断基準および認知症の特徴<br>（Zoom 対応可） | 介護保険法やWHO等の各診断基準を比較しその特徴を整理する。　（30分） |
| 2<br>3 | 脳のしくみ | 脳の構造機能と症状の関係<br>老化に伴う脳の変化と認知症との関連（Zoom 対応可） | 「こころとからだのしくみ」「発達と老化」の教科書も参考にしながら脳の仕組みと働きについて整理する。<br>せん妄･うつについてノートにまとめる。<br>（60分） |
| 4 | 認知症の人の心理 | 認知症の人が不安や喪失感などを抱える理由<br>（Zoom 対応可） | 認知症の人が書いた本を読み、当事者が抱える困難や思いを知る。　（60 分） |
| 5<br>6 | 中核症状の理解 | 中核症状<br>代表的な中核症状と脳の病変部位との関係（Zoom 対応可） | 中核症状についてノートにまとめる。<br>（60分） |
| 7 | 生活障害の理解 | 認知機能障害に伴う生活障害が日常生活に及ぼす影響<br>（Zoom 対応可） | 生活障害をIADL、ADL、参加に分けてノートに整理する。　（60分） |
| 8<br>9 | ＢＰＳＤの理解 | ＢＰＳＤの定義とＢＰＳＤの背景要因<br>主なＢＰＳＤとその個別の背景因子<br>（Zoom 対応可） | BPSDの発生要因で介入可能な背景因子について調べる。<br>「ひもときシート」「不同意メッセージ」について調べる。　（60 分） |
| 10 | 認知症の診断と重症度 | 認知症の診断要件<br>認知機能の重症度の評価法<br>（Zoom 対応可） | 認知症の診断に用いられるスケールや画像診断についてまとめる。　（30 分） |
| 11<br>12<br>13 | 認知症の原因疾患と症状・生活障害 | 認知症の原因疾患の病態や症状<br>原因疾患による症状や経過の相違<br>（Zoom 対応可） | アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、血管性認知症についてその病態･症状･経過を表にしてまとめる。<br>若年性認知症の特徴について医療面、介護面、社会面からまとめる。<br>治療可能な認知症についてまとめる。<br>（120 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 認知症の治療薬<br>認知症の予防 | アルツハイマー型認知症治療薬についての作用機序と副作用<br>認知症予防の考え方<br>（Zoom 対応可） | BPSDに使用される抗精神病薬について副作用について調べる。<br>認知症の発生や進行を遅らせるのに役立つ要因について調べノートにまとめる。<br>（60 分） |
| 15 | まとめ | 認知症の特徴のまとめと確認 | まとめの振り返りを行なう。　（30 分） |

単位の認定について

単元テスト 80%、課題提出・授業への取り組み 20%で評価し、60%以上で単位を認定する。

教科書　　最新 介護福祉士養成講座１３「認知症の理解」中央法規

参考書　　最新 介護福祉全書「認知症の理解」メヂカルフレンド社

授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 認知症総論Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担　当　者 | 濵砂　貴美子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授　業　対　象 | 専攻科(福祉専攻) | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ２単位 |

**[授業概要]**

１．認知症を取り巻く状況及び医学的側面からみた認知症の基礎知識を習得する。
　認知症のある人の体験や意思表示が困難な人の特性を理解し、本人のみならず家族を含め周囲環境にも配慮した介護の視点を習得する。
２．介護倫理に基づいた、認知症ケアの実際や地域での生活支援について習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。
・認知症の人を支える家族の課題について学び、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことの必要性が理解できる。

授　業　計　画　表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 認知症をとりまく状況 | 授業内容、目標、評価等の説明及び導入<br>認知症ケアの歴史とこれからの取り組み<br>認知症ケアの理念と視点<br>（Zoom 対応可） | 認知症ケアの歴史にかかわる本を読む。治療優先、集団管理的ケアの問題点について考えノートにまとめる。（60 分） |
| 2 | | | |
| 3 | 認知症当事者の視点 | 認知症の人の体験が生活に及ぼす影響<br>認知症の人の思いを尊重した支援内容<br>（Zoom での遠隔授業変更可能） | 認知症の人が書いた本、雑誌等を読み認知症の人のこころや行動を理解し、支援のあり方についてまとめる。（60 分） |
| 4 | パーソン・センタード・<br>ケア | パーソンセンタードケアの考え方<br>パーソンセンタードケアを実践するためのステップ<br>（Zoom 対応可） | パーソンセンタードケア関連の書籍を読みノートにまとめる。　（60 分） |
| 5 | 認知症ケアのためのアセスメント | 認知症の人の個別性を尊重したケアを実践するために必要なアセスメント<br>（Zoom 対応可） | 現在使用されているアセスメントツールについてその特徴をまとめる。<br>（60 分） |
| 6 | 認知症の人とのコミュニケーション | 認知症の人の特性に配慮したコミュニケーション<br>（Zoom 対応可） | 身近な高齢者に昔の思い出などを聴くなどしてコミュニケーションを図る。<br>（60 分） |
| 7 | 認知症の人へのケア | 認知機能障害による生活への影響と生活障害へのケア<br>ＢＰＳＤが及ぼす生活への影響とそのケア<br>（Zoom 対応可） | 介護の専門職を志す者として自分自身の考え方の特徴や表現の仕方を客観的にみてノートにまとめる。　（30 分） |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | 認知症の人へのさまざまなアプローチ | 認知症の人との良好な関係を築くための具体的な援助技術や方法<br>（Zoom 対応可） | 現在提唱されているアプローチ技術についてノートにまとめる。　（30 分） |
| 11 | 認知症の人の終末期医療と介護 | 終末期における認知症の人の特徴と認知症の人が抱える課題<br>（Zoom 対応可） | 看取りケアやターミナルケア、緩和ケア等についてその意味と違いを調べる。<br>（60 分） |
| 12 | 環境づくり | 認知症の人にとっての生活環境の重要性（Zoom 対応可） | 認知症の人にとって物理的、社会的、人的環境を整えることの重要性について考えをノートに記す。　（60 分） |
| 13 | 家族への支援 | 家族の葛藤や心理的過程<br>レスパイトケア<br>介護者を支える介護職の役割 | 認知症の人の家族のことが掲載されている雑誌や新聞記事などを読み感じたことをまとめる。　（60 分） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | （Zoom 対応可） | |
| 14 | 認知症の人の地域生活支援 | 介護保険制度における認知症施策<br>多職種連携と協働の基本的な考え方<br>認知症のある人とその家族への地域支援体制（Zoom 対応可） | 地域の認知症高齢者の安全･安心を守る仕組を調べる。<br>認知症ケアパスについて調べる。（60 分） |
| 15 | まとめ | 認知症ケアのまとめと確認 | まとめの振り返りを行なう。（30 分） |

単位の認定について
単元テスト 80%、課題提出・授業への取り組み 20%で評価し、60%以上で単位を認定する。
教科書　最新 介護福祉士養成講座１３「認知症の理解」中央法規
参考書　最新 介護福祉全書「認知症の理解」メヂカルフレンド社
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、SDG s に関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。

| 授業科目名 | 発達老化総論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資格取得との関連 | | | | | | | |
| 担当者 | 壹岐　絹子 | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | | | | | |
| 授業対象 | 専攻科（福祉専攻） | 開講時期 | 前期 | 授業の種類 | 講義 | 単位数 | ２単位 |

**[授業概要]**

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化と、老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する。

| ＤＰとの関わり | 全学ＤＰ | | | | | 学科ＤＰ | | | | コース目標 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | ① | ② | ③ | ④ | (1) | (2) | (3) |

**[到達目標]**

・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。
・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できる。

授業計画表

| 回 | トピック名 | 概要 | 授業外学習の内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 人間の成長と発達の基礎的理解 | 授業内容、目標、評価等の説明および導入<br>人間の成長と発達の過程<br>（Zoom 対応可） | 授業のねらいを配付資料により理解し、まとめる。（30 分） |
| 2 | | 発達の定義、発達段階、発達課題（人格と尊厳、老いの価値、喪失体験）<br>（Zoom 対応可） | 人間は胎児、そして乳児から老人に至る各年代を経て一生を過ごすことの基本事項を確認し、説明できるようにする。（各 30 分）<br>※国家試験問題に取り組む。 |
| 3 | | 発達段階別に見た特徴的な疾患や障害<br>（Zoom 対応可） | |
| 4 | 老年期の発達と成熟 | 老年期の定義（ＷＨＯ、老人福祉法、老人保健法の老人医療制度）<br>（Zoom 対応可） | |
| 5 | | 老化に伴う身体的防衛反応の変化、抵抗力の変化、適応力の変化と日常生活への影響<br>（Zoom対応可） | |
| 6 | 老化に伴うこころとからだの変化と生活 | 老化に伴う知的認知機能の変化と日常生活への影響<br>（Zoom対応可） | 他の科目の関連した項目の授業プリントや教科書も活用して、毎回の授業内容の復習をする。<br>（各 30 分）<br>※国家試験問題に取り組む。 |
| 7 | | 老化に伴う心理機能の変化と日常生活への影響（Zoom 対応可） | |
| 8 | 高齢者の心理<br>高齢者と健康 | 老化を受け止める高齢者の気持ち<br>（Zoom 対応可） | |
| 9 | | 社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち。障害を受け止める高齢者の気持ち。友人との別れを受け止める高齢者の気持ち<br>（Zoom 対応可） | |
| 10 | | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点①（Zoom 対応可） | 介護実習現場の事例を意識しながら、高齢者の心理について述べられるようにする。（各 30 分）<br>※国家試験問題に取り組む。 |
| 11 | | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点②（Zoom 対応可） | |
| 12 | | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点③（Zoom 対応可） | |
| 13 | 人生の最終段階を迎える高齢者と家族のこころとからだ | 人生の最終段階における本人と家族への理解（Zoom対応可） | |
| 14 | | 終末期からの危篤状態へのこころとからだの変化、死後のからだの理解 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 保健医療職との連携<br>（Zoom 対応可） | |
| 15 | まとめ | 高齢者のこころとからだの特徴のまとめと確認 | ※国家試験問題に取り組む。 |

単位の認定について
単元テスト９０％、課題提出・授業への取り組み１０％で評価し、６０％以上で単位を認定する。
教科書　最新 介護福祉士養成講座１２　「発達と老化の理解」　中央法規
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、SDGｓに関する内容＜３、４、５、８，９、10、11、16、17＞を取り入れて実施する。